第4巻第12号1988年10月9日発行(毎月1回9日発行)1985年9月10日第三種郵便物認可

MONTHLY

おもしろ元気ヤング・ミュ〜ジック・マガジン パチ・パチ

PATI-PATI

"FAR AND NEAR"…FRONT 20 PAGES AND JAMBO POSTER

尾崎豊 YUTAKA OZAKI

OCT. 1988 580YEN 10

TM NETWORK
UNICORN
氷室京介
松岡英明
バ〜ビ〜ボ〜イズ
米米クラブ
THE CHECKERS
UP-BEAT
レッド・ウォ〜リア〜ズ
BUCK-TICK
ETC.

PATI-PATI

VOL.46

GO FUNK

NEW ALBUM 9/21 ON SALE

たんとお食べ!!

米米CLUB待望の4th.アルバムは、
ニューヨークてんこ盛りミックス!

K2C
KOME KOME CLUB

1.INTRODUCTION 2.美熱少年 3.KOME KOME WAR
4.SEXY POWER 5.BEE BE BEAT 6.あ! あぶない!
7.OH! 米 GOD! 8.TIME STOP 9.なんてすか これは
10.FRANKIE, GET AWAY! 11.僕らのスーパーヒーロー
12.いつのまにか 13.宴(MOONLIGHT MARCH)
14.I'M A SOUL MAN 15.MY SWEET SWEET SHOW TIME

CD:32DH5117 ¥3,200 LP:28AH5117 ¥2,800 CA:28KH5117 ¥2,800

●予約特典:NEW POSTER
●CD予約者特別特典:70ページ写真集封入・特別仕様ジャケット

NEW SINGLE NOW ON SALE
KOME KOME WAR フリース ウェルカム ウァーション
SIDE:B KICK US CD:10EH3097 ¥1,000 EP:07SH3097 ¥700 CA:10WH3097 ¥1,000

DAYS VIDEO JAM "米米CLUB"特集
最新ビデオ・クリップ他 好評レンタル中!

米米CLUBのビデオをレコード店で無料レンタル 詳しくは下記のDAYSインフォメーション・センターまで
●北海道地区☎011(231)7571 ●東北地区☎022(261)1491 ●関東・甲信越地区☎03(266)5979 ●中部・北陸地区☎052(221)6735
●近畿・四国地区☎06(532)2361 ●中国地区☎082(228)8138 ●九州地区☎092(712)6571

SONY CBS SONY RECORDS

1988年10月9日発行(GO FUNK＝10月21日発売)二枚舌表紙米米CLUB認可

MONTHLY

おもしろ元気ヤング・ミュージック・マガジン パチ・パチ

PATi-PATi

OCT. 1988
580YEN 10

SECOND COVER
KOME KOME CLUB

JAMES ONODA
CARL SMOKEY ISHII
BON
JOPLIN TOKUNOH
RYO-J
FLASH KANEKO

(SUE CREAM SUE)
MARI
MINAKO

(BIG HORNS BEE)
HIMARAYAN SHIMOGAMI
KAWAI WAKABA
G-I-GOY

VOL.K2C

Xグレードの音。

CDをもっとパワフルに受けとめたい。デジタルソースを艶やかな表現力でカバーしたい。
カセットに1ランク上のCD対応力を求めたXグレード、GT-XとPS-X。実力を聴き比べられる耳の、フルラインアップです。

音に筋力がある。 GT-X

●高エネルギー超微粒子磁性体「ベリドックスGT」は、より鮮明な音のために。●ダイナミックレンジはさらに向上。透明でエネルギッシュな音。●高MOL、低ノイズで、しかも周波数特性のうねりなどを抑えた、優れたノイズリダクション適性。●ハイエンドまで伸びた周波数特性がダビング後の音質劣化を確実に防止。ダブルデッキが生きるGT-Xです。●耐熱・耐寒に加え、振動減衰性、剛性、位相特性を追求したハイポリマーシグマハーフ。R²Fパッドなど耐振設計も充実。

GT-Ix TYPE I/NORMAL POSITION C-46¥530 C-54¥590 C-60¥650 C-90¥940
GT-IIx TYPE II/HIGH(CrO2)POSITION C-46¥560 C-54¥640 C-60¥710 C-90¥1,000

表現力が、熱い。 PS-X

●ヴォーカルや楽器の基音を最も多く含む中低域のMOLをアップさせ、デジタルソースに対応。●音色を左右する倍音成分が多い中高域で、高域MOLを高く設定し、音の美しさを存分に引き出します。●高MOL、低ノイズのまま、テープ感度を最適値に設定。ノイズリダクション適性はさらに充実。●高域感度が高く、テープtoテープのダビングで音質劣化を防ぎます。●ハーフが美しいから音も美しい。ツインクリスタル・ハイポリマーハーフは、もちろん耐熱・耐寒・耐振設計。

PS-Ix TYPE I/NORMAL POSITION C-46¥500 C-54¥550 C-60¥600 C-90¥890
PS-IIx TYPE II/HIGH(CrO2)POSITION C-46¥530 C-54¥600 C-60¥660 C-90¥950

●ラジオ放送やレコード、テープから録音したものは、あなたが個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。●カタログのご請求は、富士写真フイルム株式会社磁気材料事業本部営業部アクシア係 〒106 東京都港区西麻布二丁目26番30号 TEL.03(406)2804 ●総発売元 富士マグネテープ株式会社 〒150 東京都渋谷区宇田川町4番3号 神南ビル TEL.03(496)2421

FUJI FILM

AXIA

▶ART DIRECTION：染谷淳一＝HEAD BUTT
▶DESIGN：染谷淳一／福田和雄／鈴木勇一／前川正樹／清水良洋／伊藤睦美＝HEAD BUTT
▶EDITORIAL DIRECTION：吾郷輝樹
▶EDITORS：吾郷輝樹／渡辺英明／森田恭子／山崎恵理子／吉田好見／鈴木洋名
▶ALL WRITERS：藤沢映子／野中智美／森田恭子／佐野郷子／落合昇平／福岡久美子／宇都宮美穂／浜田次郎／根田美聡／渡辺有希／高山真由美
▶PHOTOGRAPHERS：山内順仁／加藤正憲／大川直人／加藤昌人／植田敦／塚越健治／大村克己／田口信治／中川文雄／おおくぼひさこ／井之上伸也／峯村隆三／豊浦正明／北岡一浩／ハービー・山口／大沢尚芳／外川不二／石川徹

COVER/ART DIRECTION●JUNICHI SOMEYA PHOTO●YORIHITO YAMAUCHI HAIR & MAKE●MASASHI KUROSU

NTS

MONTHLY

PATi-PATi 10 1988

第4巻第12号　1988年10月9日発行
編集人：吾郷輝樹　発行人：吾郷輝樹　発行所：株式会社CBS・ソニー出版
〒102 東京都千代田区五番町6－2　TEL03－234－7906（編集）
印刷：凸版印刷株式会社　C 1988　CBS／SONY PUBLISHING INC.　定価580円

CONTE

▶パチ▸パチ特製ポスター➲尾崎豊
➲BUCK-TICK
▶パチ▸パチスペシャルCOVER➲米米CLUB

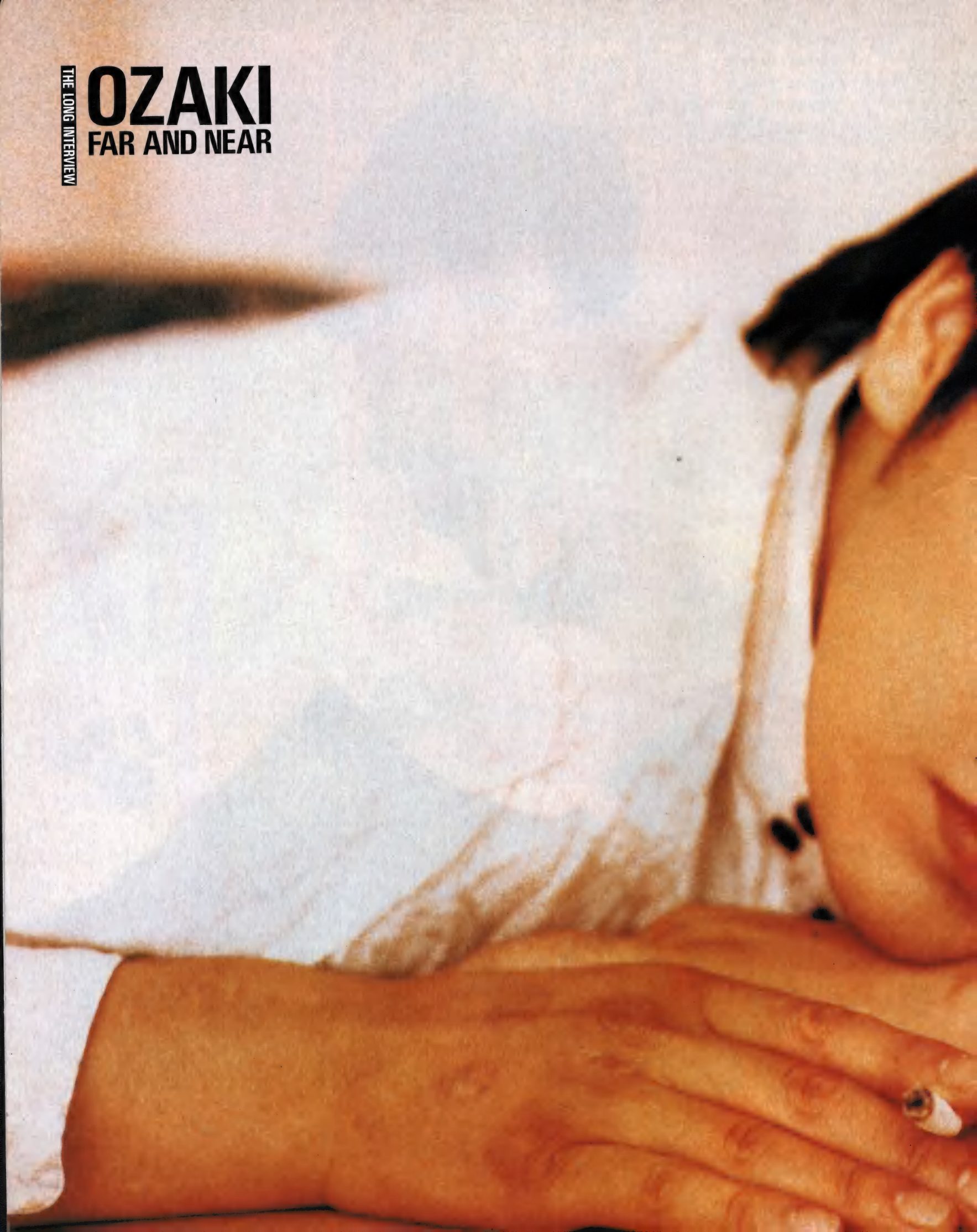
EAR OZAKI

THE LONG INTERVIEW

撮影●山内順仁　文●落合昇平

2つの遠近法。88年8月11日。今の尾崎豊へのアプローチは、こうだ。——ステージでの遠近法。歌——心の中の遠近法。ひとつは、言うまでもなく9月12日にBIG EGGで行われる"LIVE CORE"コンサートのこと。もうひとつは、9月1日に発売されたアルバム『街路樹』のこと。2つのパースペクティブの中に、OZAKIの今を見つめてみようとする。そこには、様々なベクトルを抱えこんだ彼の姿がある。

FAR AND NI

THE LONG INTERVIEW

OZAKI
FAR AND NEAR

OZAKI FAR AND NEAR

THE LONG INTERVIEW

○ステージでの遠近法

まるで一〇〇万個のバケツを蹴散らしたみたいに雨が降った。その後に、今が夏であったことを思い出したようにポッカリと青空が出て太陽が輝いていた。天の上で誰かが空をかきまわしているとすれば、それはとても気まぐれなかきまわし方だ。その輝く太陽のそばに再びぶ厚い黒い雲を湧き立たせて、街の立体図を光と影で濃く縁どっていた。

雨に洗われた通り沿いの緑は深々と青く、車の行き交う大通りは、空の光を白く映し遠ざかっている。ビル群は、その立方体の一面に光をその一面に影を映して、この平板な街にその不揃いの頭を並べている。見慣れた街の光景が、この気まぐれな空模様のせいで、妙にくっきりとして、その鮮明な遠近感が目の奥を痛くした。

そんな風景の中を僕は〝彼〟と話すために歩いて行き、〝彼〟は〝自分自身〟を話すために歩いてきた。

最近は、めっきり自宅に閉じこもりがちだという〝彼〟の消息を聞いていた。約束の時間に遅れてやってきた〝彼〟は、自分の部屋を散歩のつもりで出かけて気まぐれに街中までやってきたという風だった。物干しからパッととってはいたようなジーンズと、白いシャツもそうした印象だったが、深く考えこむことのない日常を送れているのか〝彼〟の顔はすっきりしていた。

この日の、彼の街での仕事は、9月12日にひかえたビッグ・エッグでのコンサートの構成打ち合わせと、このインタビューだった。「遅くなってすいません」と言う言葉から〝彼〟の仕事が始まった。コンサート・スタッフの待つテーブルに着くと〝彼〟の曲順表を確認しながらなめらかに打ち合わせをスタートさせた。

「オープニングの時間だと、まだ外の明かりが入ってきて明かるいんですよ」とスタッフ。

「ドームのテントって光を通すんですか」と〝彼〟。

明かるい場内。そのステージ上に流れ出す歌の時間の流れ方を〝彼〟は感じようとする。そして、1曲目に何が来たらいいのか〝彼〟はその候補曲のタイトルを何曲かあげる。

「このスタートのさせ方だと、そのブロックは3曲が限界かなと思います」と〝彼〟。スタッフがうなずく。

「とりあえず、その部分の曲順はリハーサルまでに考えておきます」そうテキパキと言ってから〝彼〟は額に手をあてて宙をにらんでいる。表情の真ン中に雲が湧いて出る。そしてひとりでこっくりとうなずくと再び元の顔に戻る。

「それから何か?」と〝彼〟はスタッフに次のテーマを求める。その〝彼〟の前にビッグ・エッグに築かれるステージの図面が広げられる。スタッフがその図面のステージ部分の真ン中にボールペンで黒く印をつける。

「ここが立位置になります」とスタッフ。

「うん」とうなずく〝彼〟

「ステージ本体はここからここまでですが、このPA前の両翼もステージになります。この部分でほぼ30メートルです」

「うん」

「トラスですが登りますか?」

「アハハ、登らないと思います。登らないし走らない! ハハハ」

それから、彼はステージでのバンド位置を確認する。

そして、ビッグ・エッグの内部の説明と意見交換が進んでいく。スタッフは、ステージに向かった客席の広さを腕をグイと伸ばして説明する。その腕に触れた〝彼〟の麦茶のコップが倒れそうになる。

※

この原稿を書いている今日は、この夏で一番暑い日になった。3年前の8月23日も暑い日だった。

その日〝彼〟は大阪球場に入った。昼食にステーキを食べたいと言った〝彼〟はその通りステーキをゆっくり食べた。ゆっくりしすぎてリハーサルの時間に遅れた。サウンド・チェックが終り、バンドの音出しが始まっても〝彼〟は球場にあらわれなかった。〝彼〟のいないステージ上で、バンドが「卒業」を演奏し、当時のマネージャーのソラチが〝彼〟の動きを真似をしてステージに登場しスタッフを笑わせていた。そのステージ、卒業の演奏中に〝彼〟があらわれて、歌いはじめた。その声が球場から外の街並みにあふれ出し、球場の外に集まり始めたファンの耳に届いた。やけたコンクリートの上のファン達が流れてきた〝彼〟の声に耳を澄ませていた風景があった。

その前の夏は、〝彼〟は松葉杖と仲良しだった。日比谷野外音楽堂のステージでぶち壊した足をそうやってひきずっていた。

「夏は、いつも西陽の当る狭い部屋でジッとうずくまっているという感じです。で、暗いんですけど、そういう夏が嫌いではないんです」

'85年の夏に〝彼〟はそんなことを言って笑っていた。

THE LONG INTERVIEW

OZAKI FAR AND NEAR

大阪球場のステージに立った〝彼〟の姿には肩のあたり、まだ少年の華奢な細さが残っていて、その肩に大きな夏の空を背負って〝彼〟はステージに立っていた。ラスト・ティーンエイジ・アピアランス――階段を三段跳びで駈け上がっていく19歳の〝彼〟がいた。

※

それから、代々木オリムピック プールでのステージがあり、あるいはファン達による署名が集まってスケジュールが組まれたコンサートがあった。ステージを終え、深夜にバス移動をするツアーの風景があった。

旅が〝彼〟の日常だった頃だ。その日常が終了した'86年1月1日、博多でのコンサートを終えた〝彼〟は、薄い皮膜の向こう側の非日常へと入っていく心もとない表情を浮かべていた。

それから1年半後にスタートした、トゥリーズ・ライニング・ア・ストリート・ツアーの初日、7月1日の水戸のリハーサルでステージに立った〝彼〟も、やはり心もとない顔をしていた。照明スタッフがライトの位置を直しているそのステージ中央に置かれたピアノに向かうと〝彼〟は「卒業」のイントロを弾いてかすかに笑った。

そのツアーでは〝彼〟の陽気な笑顔が多く見られた。客席でも陽気に笑う観客達がいた。そのステージの一方で〝彼〟自身がステージをどう築いていくべきかの迷いをどんどん深めていたことを、僕は気づかずにいた。〝彼〟が悩んでいるらしいというニュースを聞いたときには、ほとんど同時にツアー中止のニュースを聞いた時だった。

〝彼〟について原稿を書くとき、その年月を指折り数えることが多くなってきた。考えてみれば、この秋でデビューしてもう5年になる。新宿・ルイードのステージに立った〝彼〟を思い出すには指を4本折ることになる。その数え方はこうだ。「去年ガ、ツアーヲ中止シタ年」と指を一本折る。そして、「ソノ前ノ年ガニューヨークニイタ年」と再び指を折り、「ソノ前ノ年ガ日本青年館ト大阪球場ト代々木オリムピック・プールノ年」と指折りを重ね「ソノ前ノ年ガ骨折とルイードノ年」という風に記憶をなぞっていく。

それはいつもライブの風景だ。そこだけ静まった開演前の〝彼〟の楽屋の風景と、ギターの弦を切りながら歌う〝彼〟の姿と、両手を広げる〝彼〟のその右腕と左腕の作る広がりだ。

スタッフらとステージについて話を進めていく〝彼〟の中に、ビッグ・エッグに向かう時間が流れはじめている。9月12日夕方の光がドーム内をまだ明かるくしているステージに立つその一瞬に向かって流れはじめている。

○いくつかのインタビュー

インタビュアー：今、一番興味のあることって何ですか?

彼　：ウーン、難かしいことではありますが、精神的なものと曲作りとの結びつき。

インタビュアー：それは『街路樹』以降の曲作りがスタートしてるということ?

彼　：そう、歌が出てきている。

インタビュアー：順調!

彼　：いや、そんなにスラスラとできてる訳じゃないんですが、それと、それらの歌をどう発表していくかということも考えていることのひとつです。

インタビュアー：それは歌う人間の場ということですか?

彼　：そう……。

インタビュアー：ステージという場、ソフトというか、レコードなどという場のどこが自分にとって明解な場所かといったことですか?

彼　：うーん、場というのは大きく分けて2つある。曲を作るという場とそれを発表する場。曲を作る場というのは一般生活というか日常生活の場で、そこで奇をてらったりてらわなかったりと、生活の中でもがく。喜んだり、悲しんだりして作っていく。発表の場というのは作った曲を投げかける場なんだけど、ここには作った自分ともうひとつ投げかける自分がいる。

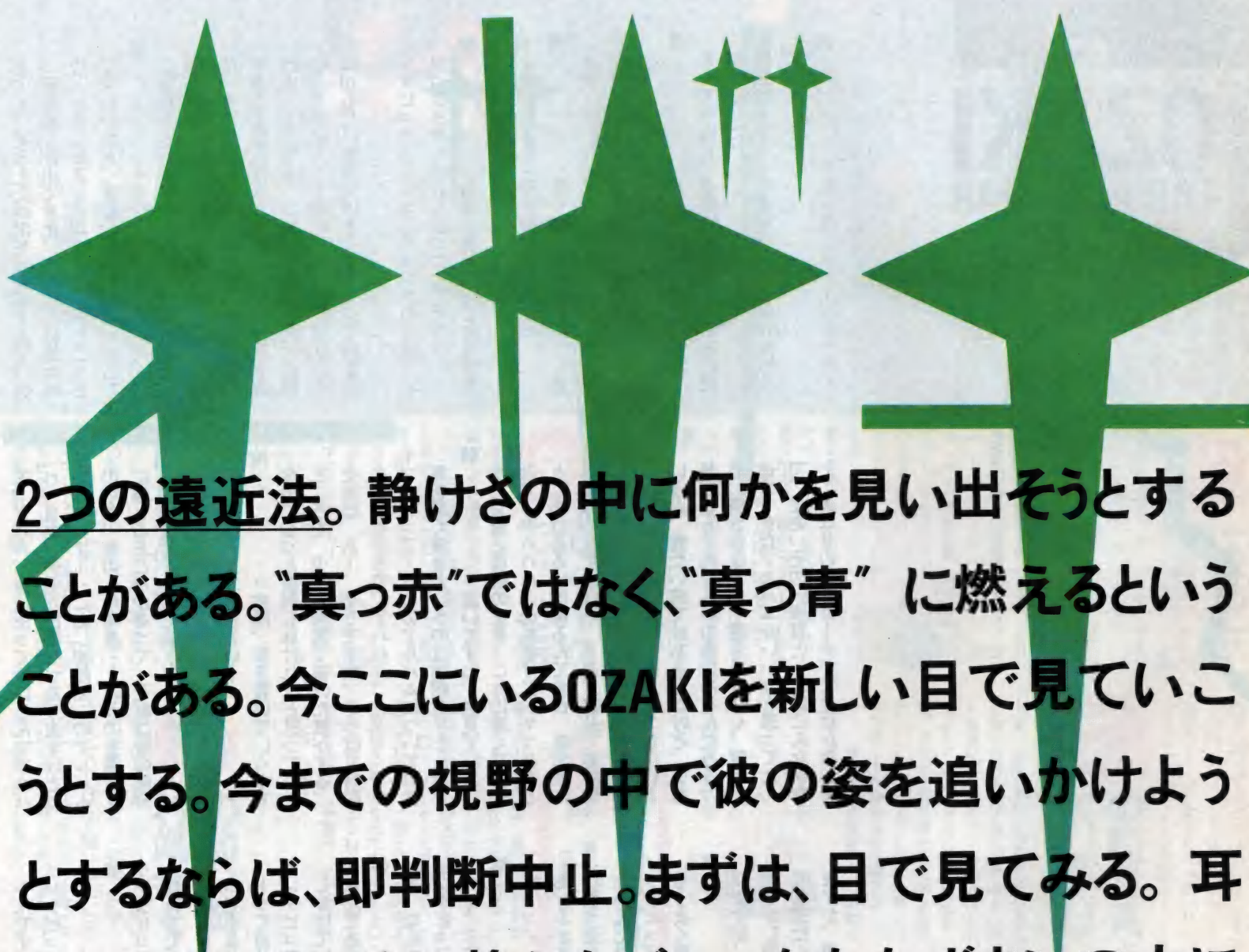
インタビュアー：その2つの場にクッキリと立てれば、それが一番明解ということですね。

彼　：そうなんです。まあ、今一番問題になっているのは、投げかけようとするモーション空間なんですが。

インタビュアー：それはビッグ・エッグを控えての、気持ちの空間?

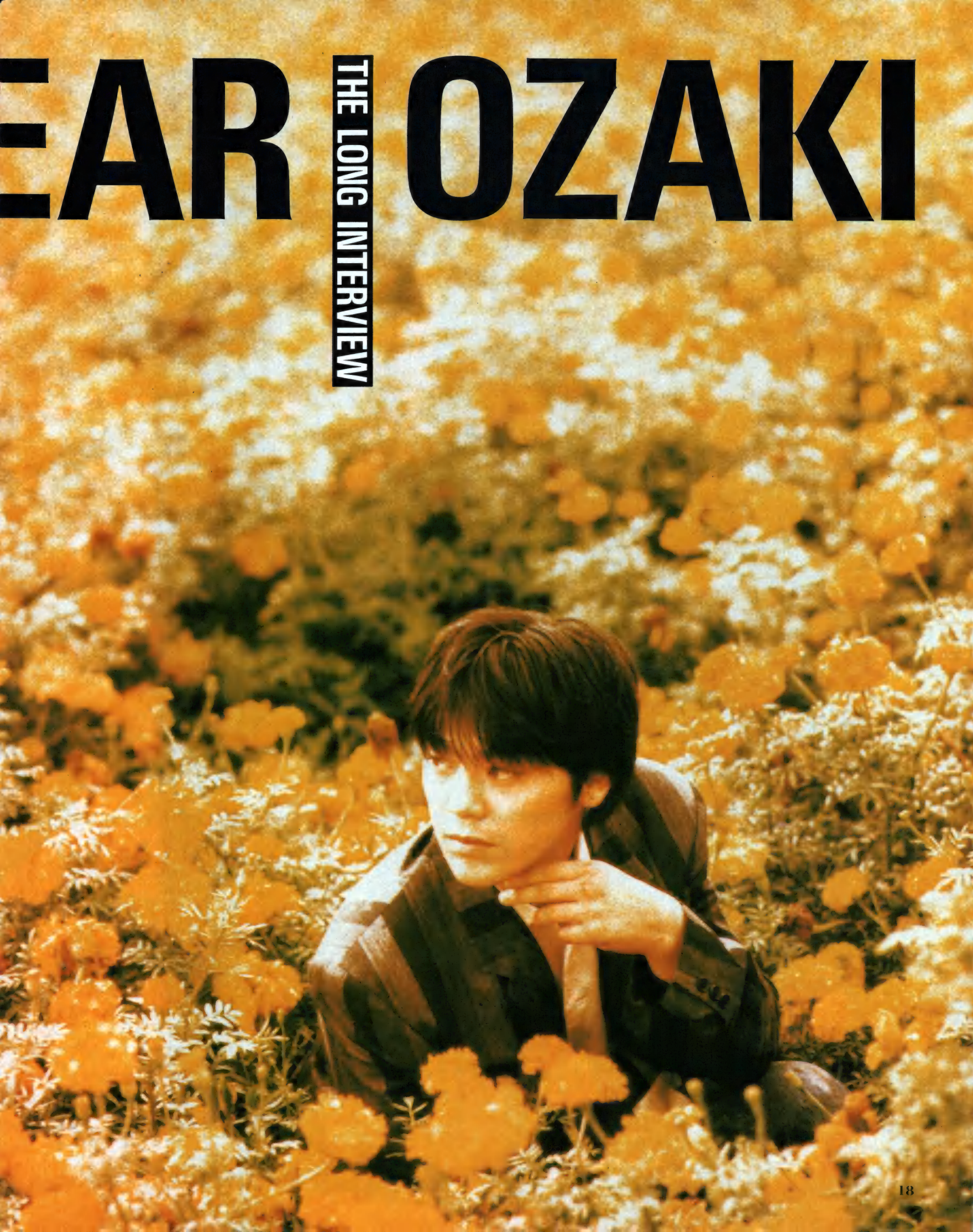
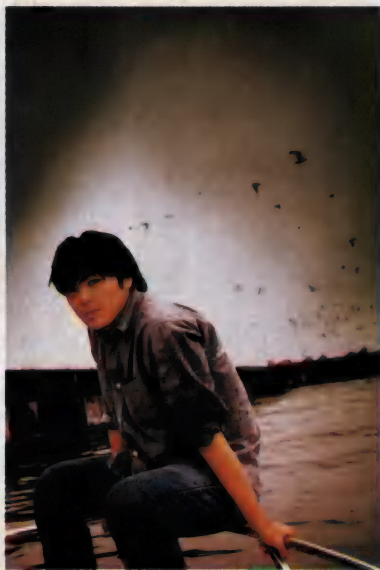
彼　：そうだなあー。(ほおづえをついて考えこむ)……本当は心配なことが多いんだけども……ただ、その心配があるから原点に立てるかなと。

インタビュアー：その原点て何だろう……。

彼　：………。(変らずほおづえをついている)

EAR OZAKI

THE LONG INTERVIEW

FAR AND NI

オザキ

2つの遠近法。静けさの中に何かを見い出そうとすることがある。"真っ赤"ではなく、"真っ青" に燃えるということがある。今ここにいるOZAKIを新しい目で見ていこうとする。今までの視野の中で彼の姿を追いかけようとするならば、即判断中止。まずは、目で見てみる。耳をかたむける。その静かなブルーなたたずまいの中に、彼が何を見ようとしているのか…。判断停止——今は何も言わない。君達の手の中で感じてほしい。

THE LONG INTERVIEW

OZAKI FAR AND NEAR

インタビュアー：〝原点いつも立ち返るというような何か決まった場所とは違う気がする。'84年のルイードのステージにあった原点と、代々木オリムピックのステージにあった原点は、明らかに異質に思える。その時々の尾崎豊がいてその数だけの原点がそれぞれにあると思うけれど。

彼：自分の出せる力を出すっていうことだと思う。

インタビュアー：今までのコンサートの中、失敗もあり成功もあり、自分でもどうしていいか分からないという――そういう混乱に落ちていって……自分の出せる力を出そうと。試行錯誤し、自分も含め余分なことをしたりした時もある。だからね、自分の出せる力、自分のしたいことをする。原点ってそういうことだな。

※

インタビュアー：『街路樹』が制作に入ってリリースされるまでの時間――というか年月という方が近い言い方かな――ずい分長かったですね。スタジオに入って、一般的にあるように、一定のスケジュール内にリズム録りをしてダビングして歌を入れてトラック・ダウンという風には進まなかったでしょう。その間にツアーがあって、ツアーの中断も制作の中断もあり、出来事もあって、そうした時間をはさみこんでこの『街路樹』が出てきた。そうした経緯の断片とかをこのアルバムは映し出すところまで来たかなと。破綻してるところも含めて。

彼：うむ、聞き手側にもそういう印象を持ってもらえればいいな。短い時間で作るとか年月かかって作るとかはこれは、今回は結果そうなったということで、やろうと思えばもっと早く出来た気もするけど……でも、これが結果。それとは別に、1年に1、2枚のアルバムが可能なら出したい気持だけど、作品本位で行きたい。

インタビュアー：レコーディングの最後、トラックダウンは立ち会ったんですか?

彼：最後の詰めのところは立ち会いました。

インタビュアー：その時の感想は?

彼：早く家に帰りたいな……違うか、アハハハ。

インタビュアー：少なからず、充実感はあったでしょう。

彼：あー、そうですねぇ……そうですねえ。全部出来あがったことには喜びました。

インタビュアー：それから、すぐ次の曲作りに?

彼：そんなにスムーズじゃなくて、アハハ、煮詰まってはいるんでアハハ、まあ、何曲か出来つつありますけどね。

インタビュアー：この『街路樹』のアルバムの中で、次の〝尾崎豊〟というのを僕なりに感じるところがあって、それは詩の部分でいうと、ドラマを追うより、そのシーンの中での心の置き方に分け入っていく詩の在り方が見えているという。

彼：実際、詩を書いていく中で今までもっと説明しなければと思っていたところを、少ない言葉で書けた気がする。それは、あー、そうですね、やっぱり時間をかけたからで、アハハハ。

インタビュアー：このアルバムについての意見を聞く機会というのは結構ありました?

彼：無いですね。意見ていえば主に父親と母親の意見。これに深く耳を傾けて、アハハハ。それなりにドキッとするところはあるにはあるんですが、基本的には演歌の人ですから。まあ、自分で客観的に聴いて思っているのは……なんて言ったらいいんだろう……バランスがいいというか、重たい曲ではあるんだけど、まあ外国ならこれぐらいの曲はあるんだろうけど、深さかな――重さではなく、深さが追求できたアルバムがいいなと思ってたんで、まあ、その一歩目としてはこんなかなと、僕なりのアプローチができたかなと思うんです。

インタビュアー：もう何回ぐらい聴きましたか?

彼：アハハハ、50回ぐらい。

インタビュアー：それって、多い方ですか少ない方ですか?

彼：だいたい、いつもこれぐらいですよ。まあ、他にこんなに聴くレコードって自分のしかないですけど、ハハッ。

インタビュアー：家の中で、それだけくり返しかけていると、家族が覚えて一緒に歌うなんてありません?

彼：ある！これはもう困ります。なんていうか、アハハハ、困ります。

インタビュアー：ところで、ビッグ・エッグって、5万人ぐらい入るんでしたっけ?

彼：エッ、そんなに人が入るんだーッ！でっかいところでやるもんだなあ。ふーん。つくづく……ふーん、朝霞に引っ込んでると、そういう人間には思えないんだけど。そうとも見られていないし。

インタビュアー：ステージに立つことも観客もうまく想像つかないという感じ?

彼：親戚、友達とかは思い浮かびますが、ポケットびんを口に運びながら冷やかし半分に見てるとか。……どうしても見たくて切符買って来てる人も浮かびますが、遠い感じが今はしてる。

OZAKI FAR AND NEAR

THE LONG INTERVIEW

インタビュアー：朝霞の町での日常はどんな風に過ごしてるんですか？

彼　：まあ、何にもせず、ピアノを弾いていると日が暮れて、工場のサイレンが一日の終りを告げて。

インタビュアー：雑音というか、まざりっけのない一日ですね。

彼　：そうですね。その分、なんかささいなことでも感動できる瞬間がある。

インタビュアー：窓の外の雲の流れ方とか？

彼　：あー、ありますね。ぼんやりと過ぎていく時間の中にいると、自然とかに感銘を覚えようとしますよね。

インタビュアー：そういうのって刹那？　それとも、もっと伸びやかな感情？

彼　：両方。もう、本当にボンヤリという感じなんだけど……。ピアノの音に一日を使っている。

○歌――心の中の遠近法。

〝彼〟のレコードを聴くのは、いつも深夜の時間にだ。仕事に疲れ果てて、あるいは酒を飲むのに疲れ果てて、（どっちが多いかというとどっちも多いのだが）部屋のソファーに倒れこむとき、〝彼〟のレコードをよく聴く。

仕事にしろ、酒にしろ、そこまで疲れずに帰った日には〝彼〟を聴かない。音を聴かないことも多いし、もっと気楽に聴ける音を探している。〝彼〟を聴くのは本当に疲れ切っていて、あとわずかに残っている余力をどうするかというときにだ。〝気絶するまでの数秒間をどう使おうか〟というのに似ている。

僕は君を守るのに
僕は君の理由を奪う

「理由」

こんなフレーズがソファーに転がっていると耳に入ってくる。ひとりの人間が自我の中に持ちこんでいるエゴをえぐり出してみせるこのフレーズが、嘆きのようにも聞こえ、肯定のようにも聞こえてくる。その感情の流れ方が、疲労の中、一日の最後に残っている気力をゆるゆると押し流してしまう。〝彼〟の歌は抗いの力を持つ一方で巨大なナルシズムを描いている。そのナルシズムが聴く人間を、混濁の中に押し流してしまう。

答など無くていい
その理由は
誰もみな　やすらぎの始まりに
生きること

「LIFE」

この歌にも、エゴに対しての嘆きと肯定が微妙に背を合わせている。愛や夢をからめとるものは、自分の外側、つまり現実の中にあり、もうひとつは自分の内側、つまりエゴに属するコンプレックスや逃避や理由づけやらにある。ファースト・アルバム『十七歳の地図』からサード・アルバム『壊れた扉から』までを追ってみると、外側から内側へと比重を移していく詩の風景が見えてくる。そしてこの4枚目のアルバム『街路樹』では、それがさらに増していて、しかもなお、短い言葉で描き出すスタイルに行き着いている。自分の心臓の取り出し方に習熟しはじめたのかもしれない。

このアルバムの中、もっともドラマの形を残しているのは12インチ・シングルとしてリリースされた「核」で、これは、抽象的なシステムに対置した街でさまよう愛をモチーフにしている。これは〝彼〟の18歳のときに作られた作品。その発表の場所は骨折した日比谷野外音楽堂でのステージだった。そしてこのアルバムの中、もっとも新しい作品は「遠い空」。ここには、'87年から'88年へとまたぐ冬の光景が描かれている。この全九曲を聴くと、僕自身、雑然とした部屋に入った気がしてしまう。

何かに向かって作られたアルバムというよりも何かに向かおうとして転々とした足跡が集められたアルバムというのがその印象だ。しかし、僕はたぶん、このアルバムを色々な形で好きになっていくだろうという気がする。形を整えない断片達が、その時々にあわせて様々な心模様をよく映しそうな気もするし、もうひとつは、〝彼〟の転換の敷石がいくつもの曲に見えるからだ。そしてこれからがある。

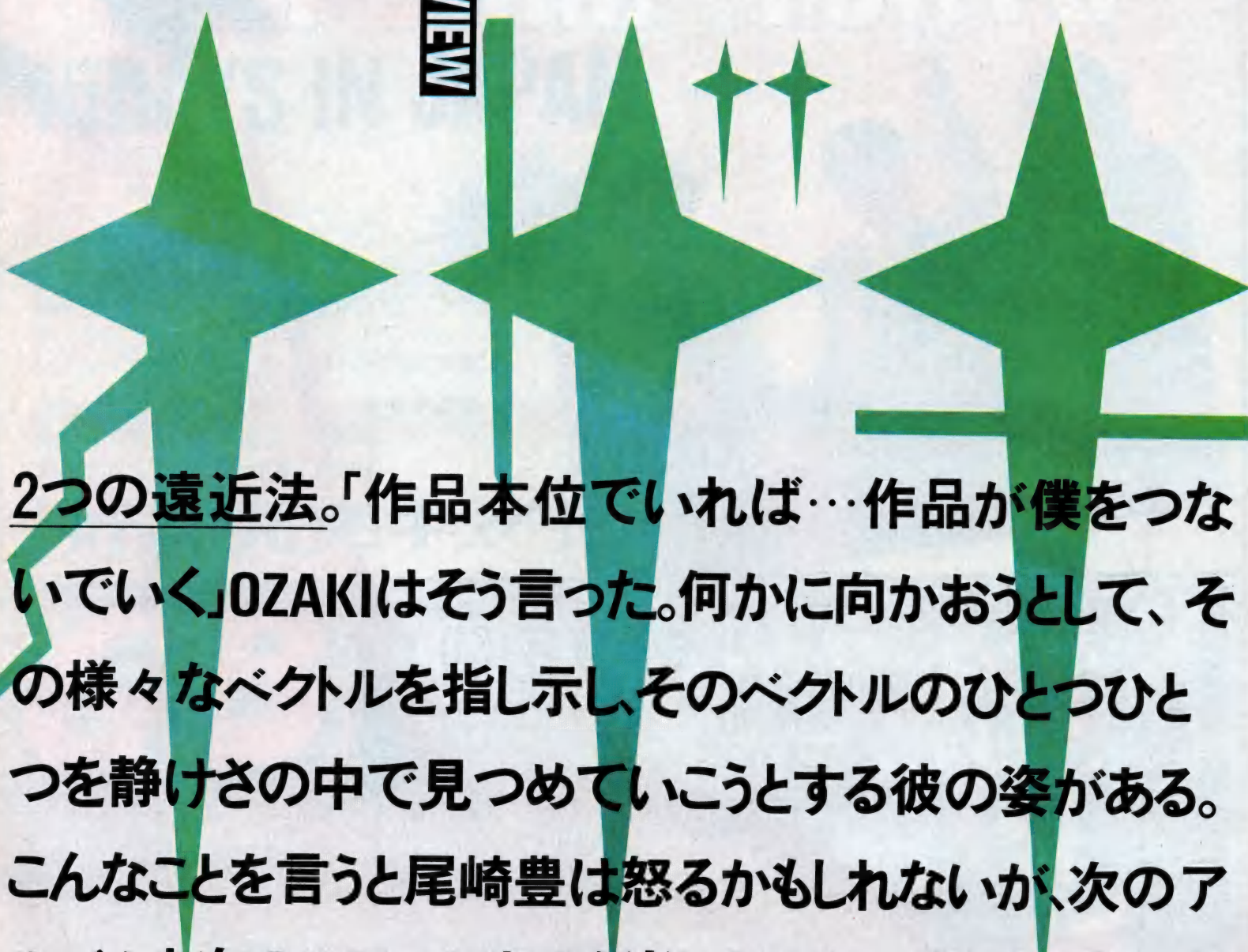
ついぞそんなことは思ってもみなかったのだけれど、ふと思いついたことを〝彼〟に質問してみた。

インタビュアー：あと20年間歌い続けたとき尾崎豊というのはどんな存在になってると思いますか？

彼　：批評家はそういうことを言うから嫌いです。

インタビュアー：アハハ。でもこれは本当に。17歳、18歳、19歳、20歳、21歳、22歳と歌ってきて、5年の歳月は、少しも尾崎豊を色あせたものにはしていない。僕自身は、その時々の形をよく映してここまで来てるからだと思っているから。だとすれば、42歳になったときの歌っている尾崎像というのには不思議さは感じないけど。

彼　：作品本位でいれば、それは可能だと思う。作品が僕をつないでいくと思います。

THE LONG INTERVIEW

OZAKI
FAR AND NEAR

EAR OZAKI

THE LONG INTERVIEW

2つの遠近法。「作品本位でいれば…作品が僕をつないでいく」OZAKIはそう言った。何かに向かおうとして、その様々なベクトルを指し示し、そのベクトルのひとつひとつを静けさの中で見つめていこうとする彼の姿がある。こんなことを言うと尾崎豊は怒るかもしれないが、次のアルバムと次のツアーがとても楽しみになってきた。それは、あまりに未知で、あまりに危うく、あまりに可能性を秘めている。早く会いたい。

FAR AND N

PATi▶PATi&YUTAKA OZAKI PRESENTS ▶写真集

YUTAKA OZAKI SPECIAL BOOK 12.1 ON SALE

今、新たな地図を描き始めた尾崎豊。その彼の向かおうとしている所はいったいどこなのか。そして、今を原点として彼の過去はいったい何だったのか、さらに、今、彼は何なのか。パチ▶パチでは、そんな尾崎豊に迫る写真集を作ることになりました。はたして、この写真集が、その"彼"をとらえることができるだろうか…不安と期待をスタッフ自身も持ちながら、スペシャルブックの制作を進めています。君達の手に届くまで、あと数十日。

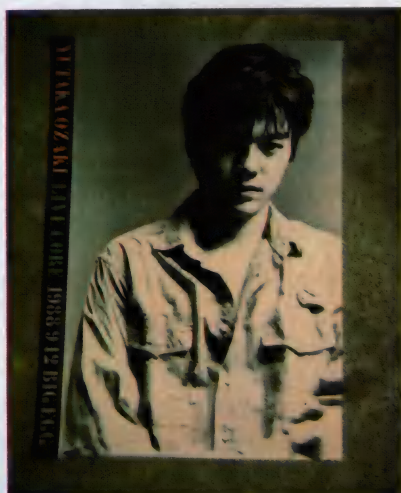
尾崎豊写真集発売決定!! 予約受付開始!!

内容、予約方法etc詳しくは236〜237ページをご覧下さい。

Live Core

YUTAKA OZAKI "LIVE CORE" CHARACTERS PRESENTATION

PAMPHLET (300×400MM, 44 PAGES) ¥2,000
POSTER (A-ZERO SIZE, 1188×841MM) ¥1,000
T-SHIRTS (FRONT & BACK PRINTED) ¥2,000
STICKERS (A5 SIZE×2 SHEETS) ¥500
BADGE SET (25MM×3 PIECES) ¥500
KEYHOLDER (BOTH SIDES PRINTED) ¥500

LIVE CORE CHARACTERS ASK
INFORMATION TO: POP ROCK COMPANY
PHONE CALL: 03-584-1610

9月12日限定発売

今回の"LIVE CORE"グッズはBIG EGGだけでしか買えません。
当日は大変混雑が予想されますので、係員の指示にしたがって下さい。
販売場所：❶BIG EGG前広場 ❷BIG EGG内/販売時間：3:00PM→9:00PM
●尚、会場周辺の路上にて販売されている商品は、認可を受けていない海賊品なので絶対に買わないようにして下さい。

TM NETWORK

Chapter 5

彼女 II

HOLD ME TIGHT

宇都宮隆の毎日はめまぐるしく行き過ぎようとしていた。その中で、彼は“彼女”と出会い、語り合い、心を近づけようとしたのだった。ニューヨークの刺激的な時間の経過が、彼に“そのこと”を気づかせたからだ。隆は東京に戻って来た。8月25日、巨大なドームと、5万人のオーディエンスが彼を待っている。そして“彼女”も——

——この物語はフィクションであり、実在の宇都宮隆とは、あまり関係ありません。

DRAMATION●CHIman-g-nén　PHOTO●NAOTO OHKAWA　STYLING●AKEMI IWASE　HAIR & MAKE●MIYUKI SANO

今日を終えれば、次の夜は東京の、自分の部屋へ帰る。ニューヨーク最後の日、隆は旅する人のために用意された感傷とつき合わなければならなかった。

セントラルパークを間近に見降ろす、メイフラワーホテルの801号室。ベッドの上に投げ出した、約2か月分のコスチュームと、生活雑貨と、自由な形にラッピングされた、親しい人たちへのプレゼント。隆は、それらを広げたまま、窓の外の、せつなそうな夕暮れの気配をぼんやりと見ていた。最後の夜を派手にディスコでしめくくろうという赤木からの誘いは断わった。その理由は、楽にスーツケース3個分はある荷物の整理と、そして、まだ不確かなまま、不確かな場所にたたずんでいる自分の気持ちのせいだった。

〝RRR……〟

電話が鳴った。織田志津佳からだった。

どんなときでも同じような混み方を見せるホテルのレストラン。志津佳の予約で、2人は窓際の席に案内された。

「織田さんもこのホテルに泊まってたなんて知らなかったな。言ってくれればよかったのに……」

志津佳はうつ向いたまま、冷静な様子で微笑んだ。

「男の人って残酷ね。そうやって、嬉しがらせるようなこと、言ってくれたりして。でも私、この間の晩、宇都宮さんにふられたわ」

視線を上げ、隆の瞳を強く見つめても、微笑みの悲しさは変わらなかった。

あの夜、彼女を1人テーブルに残して帰ってしまったことを、隆は気にしていないわけではなかった。しかし、志津佳の気持ちを察すれば察するほど、隆の行動は慎重にならざるを得なかった。

「織田さん、オレ……」

「いいんです、もう。さぁ乾杯しましょう。私、宇都宮さんのこと、すべて調べてここまで追いかけて来たから、明日には帰ることも知ってるの。だから、今夜だけ、食事くらいいいでしょう？ 私ね……」

ワイングラスを持つ細い指が、かすかに震えていた。志津佳は、既に何かをあきらめ、真剣に恋心を抱いた人との新しい関係に、今祝杯をあげようとしているのだった。

「私ね、宇都宮さんのこと、本当に好きでした。……そのことだけ、わかっていてくださいね」

今夜の志津佳は、シックなグレーのツーピースを着ていた。その、挑発しない様子から発せられた愛の告白は、隆の胸に痛いほどやさしい感触で響いた。

「織田さんは、魅力のある人だね」

「またそういうことを言う……」

少しだけ唇をとがらせ、志津佳は笑った。その強靱な愛情をまともに受け取り、隆は感動していた。

「いや、本当に。僕なんかよりずっと純粋で、強くて。ちゃんと恋ができる」

「そうね。私はちゃんと人を好きになるわ。でも実は、それだけなの、私が自信を持てるところは」

「恋をする才能？」

「そんな、他人事に言わないで。宇都宮さん、私はね……」

「あ、ごめん」

「いいの。……もうダイジョーブ」

穏やかで、それでいて華やかな夜は、志津佳によってもたらされた。彼女の恋心は、しだいに隆を解放し、その空気の中には幸福感さえあった。

「宇都宮さんの恋の話、聞いてもいい？」

美しい彩りで盛りつけられたオードブルを、銀のフォークですくい上げながら、志津佳は、いたずらな表情をして見せた。彼女はもう、まるで別の配役をこなす女優のようだと、隆はそのとき思った。

「え？」

「恋人のこと。ね、聞かせてほしいの」

「ウン……。それがね、何というか、今の僕には恋が何なのかわからなくて……。君のような人を前にすると、情けないな」

「恋はね、心が揺れたら、きっともう始まっているの。自分が自分らしくなくなったり、その人を理由もなく心配したり、いつのまにか巻き込まれちゃう」

「すごい。専門家だね」

「ねぇ、今夜のメイン・ディッシュは、いかが？」

「うん、おいしいね」

「そのオサカナ、本当は誰と食べたい？ 思い浮かばない？ 素直によ」

「……………うん。思い浮かんだよ」

「そう。その人が恋の相手よ。宇都宮さん、ちゃんと恋してるわ。素敵なことよ」

部屋に戻った隆は、ベッドの上の荷物を、無造作に3つのスーツケースに詰め込んだ。買い込んだCDやビデオ、もう必要としなくなった初心者向け英会話のテキスト、ロンドンでみつけたブーツ、写真集の撮影で着たスーツ、そして、数日前、アンティーク・ショップで買った天使のオブジェ。隆は、柔らかな布のような紙に包まれた天使を、ベッドサイドのテーブルに乗せてみた。

〝東京に帰ったら、あのレコード店に行ってみよう〟

沢口麻子に、この天使の微笑みを贈ることを、もう迷ったりはしない。ニューヨークでの最後の夜、隆は豊かな愛情に触れ、そして恋に気づいた。

ニューヨークから成田への直行便、KLM86便が滑走路にすべり降りた途端、当然のように周囲の空気やテンポが一変する。また忙しい日々がまわり始めるのだ。打ち合わせや取材を何本もこなしたあと、隆はまた、東京ドームでのライブのリハーサルのため、小室哲哉のいるロンドンに、木根尚登と共に飛ばなければならない。自分を、自分たちを待つ人々がいることを、薄くグレーに曇った空を見ながら、隆は実感していた。

追いたてられるように数日を過ごしてしま

った隆は、麻子に会うことができずに、かすかな苛立ちを隠せずにいた。それは不思議な、しかし素直な感情だった。ただ気になる　会いたい。気にしていたい。志津佳が言っていたように、恋は、気づいた瞬間から巻き込まれてしまうものなのか——。

隆の部屋で、ラッピングされたままの天使が、今にも空に飛び立とうとしていた。

しかし、隆のスケジュール・ノートには、ロンドン行きの日程が、既に書き込まれていたのだった。

古びた木の匂いが、心地良く鼻先をつく。

麻子は、そんな空間の中で、ロンドンから届いたばかりの荷をほどいていた。新旧雑多に詰められたレコードは、最初に針を乗せた人の言いようもないときめきや、それを手離すときのせつなさまでも感じさせ、麻子は、この店と、この仕事がとても好きだと思った。

偶然に取り出した1枚は、ビートルズだった。麻子は、遠く過ぎ去った日に、このレコードを買って行った人のことを思い出した。

〝ウツノミヤ・タカシさん……〟

あのときは、彼の名前や地位を何も知らなかった。それでも心魅かれた人、宇都宮隆を麻子は忘れられないでいた。恋人の佐久間俊には内緒で手に入れたTMネットワークのアルバム『humansystem』が、彼女の心の奥で、何度も何度も、やさしく繰り返されていた。

「こんにちは……」

心の中で秘やかに歌ってくれていた声と同じ声がして、麻子は振り向いた。

「あ……」

それ以上、声にならなかった。

「久しぶり。元気？　……ですか」

彼は、Tシャツにラフなジャケットを重ね、つばの広い帽子をかぶっていた。

「これ、ニューヨークで買って来たんだけど……。君に渡そうと思って」

家を出るとき、無精に照れ臭くなって、ラッピングをはがし取ってしまった天使は、美しくむき出しの状態で、麻子に手渡された。

「私に……？」

「そう。君に」

たった2回しか会ったことがなくても、また2回しか名前しか知らなくても、それは2人にとって、少しも不自然なシチュエーションではなかった。無邪気に笑う天使の顔につられて、麻子はやっと、驚いて見開かれたままの目を細めた。

「ありがとう。可愛い天使、男の子ね。やさしくて、いたずらな顔してる。あの……私なんかに、本当にどうもありがとう」

隆は救われる思いがした。渡せて良かったと、心から思った。

「あの……、今度、食事に誘ってもいいかな。もし良かったら」

信じられなかった。麻子は、頬を真っ赤にして、黙ってうなづいた。

「それじゃ。また来るよ」

隆は、再びロンドンに発つことを麻子に言わなかった。以前に見かけた、彼女の恋人らしき男が、ロンドンの話をしていたからかもしれない、と、漠然と理由を思いついた。

東京から成田へ向かう車の中で、隆はマネージャーの伊藤に言った。

「ねえ、ビッグエッグのチケット、1枚は必ず確保しといてくれよ」

運転しながら、伊藤は眉をひそめた。

「うーん……。いくらメンバーとはいえ、それはけっこう難かしいよ」

「もう。オレはあのステージで歌うんだよ。そのオレが、1枚のチケットも取れないなんて、なんかヘンじゃない？」

冗談と本当が入り混ざった会話をしながら、隆は、麻子のことを考えていた。まるで少年のように胸は高鳴った。

「ウツ、なんかイイコト、あったんじゃない？　さっきからニヤニヤして」

伊藤にひやかされても、今ならば堂々と、彼女に恋をしていると宣言できそうだ。しかし、隆は言葉を変えた。

「25日のビッグエッグ、オレ、すごくいい歌が歌えそうな気がしてるんだよ。気持ちよく素直に。それをそのままショーアップできれば、大成功だと思う」

既に用意されているプランは、すべて頭と体に叩き込んである。隆はそこにもう1つのエッセンス、人を愛する大切さを、静かに重ねてみるのだった。

隆と麻子の約束は、その10日後に実現された。

ロンドンから帰国し、4月以来、久しぶりに3人が顔を揃えたTMネットワークに、マスコミは湧き立っていた。毎日、TVやラジオ出演、取材、ミーティングに明け暮れ、ビッグエッグのリハーサルも、詰めの段階に入っている。

そのハード・スケジュールの合い間を縫って、隆は麻子に連絡を取った。彼女に会うことも、今の隆にとっては、重要な、ビッグエッグへの準備のひとつに思えた。

「とっても素敵なお店ですね。私、初めてです、こういうお店」

その日の麻子は、清楚な白いブラウスに、やはり白いスカートをコーディネートし、真っ赤なベルトが、彼女の細いウエストを包んでいた。

「いつもは、どんなところで食事するの？」

隆は初めてデートする少年のように、麻子の正面に座っている居心地の悪さを、ドキドキと感じていた。

「自分で作ることが多いんです。私、お料理うまいんですよ」

そう言い終わったあと、麻子は佐久間俊のことを思い出して、少し慌てた。さっきからのはしゃいだ様子は、実は俊に対する後ろめたさだということに気づいている自分が嫌いだった。自分らしくない、と麻子は思った。

俊は恋人で、今ここでやさしく笑いかけてくれる人は、まだ知り合ったばかりの人。比べようがない。その必要もないはずだ。俊は恋人で、この人はTMネットワークのボーカリ

スト。俊は恋人で、この人は……。こんなふうに心が揺れてしまうのは、俊があの日、この人にヤキモチをやいたから。この心の波風は、俊が教えてくれたようなものなんだから、と、麻子は悲しい気持ちになった。
「お酒は大丈夫？　少しは飲める？」
「ええ。私、けっこう強いんですよ」
六本木と渋谷のちょうど中間にある和食の店は、メニューとはミス・マッチのモダンなインテリアで、店内はカップルや女同士の客たちで、落ちつきながらの賑わいを見せている。誰も、有名アーティストの秘かなデートに関心を寄せる者はなかった。
間接照明のライトの下で、麻子は少し大人びて、とても美しかった。そして、何故自分を誘ったのか、何も質問してこない彼女の自然さは、更に大人っぽさを伝えた。
「宇都宮さん、ロンドンはどうでした？」
「どうして、知ってるの？」
「TVで、見ました」
「あ、そうか」
麻子は笑うと、途端に子供っぽい顔つきになる。1つ1つの小さな発見が、隆を陽気にさせた。
その夜は話がはずんだ。ずっと前からの知り合いのように、あるいは恋人同士の語らいのように。
隆は考えていた。目の前で今、おいしそうに食べ、気持ち良さそうに飲んでいるその人の心を、今夜なら読めそうな気がしていた。時間の波に後押しされるように、2人は出会い、言葉を交し、今、ここにいる。もっといい方向に考えてしまいたい、都合のいい方に解釈してしまいそうな夜だった。いつまでも一緒にいたい、そんな夜だった。
やがて店はオーダー・ストップを告げた。隆と麻子は、仕方なく深夜の街に迷い込もうとしていた。通り過ぎていくタクシー、無遠慮に明るい24時間スーパー、なかなか青にならない押しボタン式信号。遠い遠い星。人通りの少ない舗道。そのどれもが、今夜の2人には似合っていなかった。お互いをかばい合うように、どちらからともなく手をつないでいた。しかし、ずっと休まずに楽し気に話を続けている麻子の視線は、隆に向けられているわけではなく、彼女が何を見ているのか、隆にはわからなかった。
「麻子ちゃん……」
次の言葉を何も考えずに、ふと呼びかけてみたときだった。
「ねぇ、宇都宮さん。私の部屋に来て。パリのおみやげのお茶があるの。ピンク色でとってもきれいなのよ、そのお茶」
彼女の笑顔が、無邪気さに裏付けられた罪深さで、隆の胸に突き刺さった。
きちんと整頓された部屋は、足を踏み入れ

TM NETWORK
Chapter 5

彼女Ⅱ
HOLD ME TIGHT

TM NETWORK Chapter 5 彼女 II HOLD ME TIGHT

ると、板張りの感触がシンと冷たかった。

「おじゃまします」

「どうぞ」

麻子は2人掛けのソファに隆を案内すると、早速キッチンに入る。

「すぐですから」

また敬語に戻ってしまっていた。麻子の手順のいいお茶の入れ方とは逆に、その場の空気はやはりぎこちなかった。

しかし、意味のないような深夜TV番組に笑いこけたり、麻子の学生時代のアルバムを見たり、ニューヨークやロンドンの話をしたりするうちに、ローズ・ティーの甘さも手伝ってか、2人は急速にお互いを知っていくことができた。

窓の外は既に明るくなっている。

隆の指輪にはめこまれた時計は、7時50分を指していた。麻子は、小さなソファに埋まるようにして眠っていた。

次に会うのはいつになるか、隆には見当がつかなかった。これからビッグエッグのライブに向けて集中的にリハーサルが行なわれ、ライブが終わればすぐに、アルバムのレコーディングのために、またロンドンに行くことになっている。

揺れ動くまま素直に、募るまま自然に、隆は麻子を求め、彼女の部屋を訪れ、手を伸ばせば届くところで、彼女は眠っている。

この気持ちを、受け入れてほしい、と隆は思った。しかし夏の朝は残酷なまでにスピードを上げて、2人のもとにやって来てしまった。隆にはもう、時間がなかった。

「麻子……」

眠っている彼女の髪に、隆は触れてみた。麻子はゆっくりと目を開け、そして恥ずかしそうに、スカートのすそを直した。

「おはよう」

眠そうにうなずく麻子は、白い服のまま、初めて会ったときと同じ表情で、涼しげな表情で隆を見つめ返した。

いつのまにかソファで眠ってしまった自分が、麻子はおかしかった。憧れていた人との大切な一夜を台無しにしてしまった思い出は、これから先、どんなにくじけそうな日がやって来ても、自分を励ましてくれるような気がした。

麻子は、食器戸棚の中の、ブルーのマグカップを見た。俊専用のマグカップだった。彼女は気づき始めていた。憧れる気持ちは、それだけで自分を幸福にしてくれたことを。昨日と今日のたった一瞬の境い目で、喜びと悲しみは背中合わせにいたことを。

「暑いね」

カーテンを開けると、麻子はキッチンに行き、シンプルなグラスに氷と水を入れ、隆に差し出した。

冷たい流れは、隆の心を通り、恋の結末へと進んでいく。麻子は、黙って隆を見つめていた。隆は、麻子にキスをした。

「また会える?」

「忙しいくせに」

答える言葉を見つけられずに、隆は1つの氷を口に含んだ。

「私、宇都宮さんの歌を聞きに行きます」

そう言いながら、麻子は涙をこらえようとした。彼のキスはやさしすぎて、彼の目はきれいすぎて、彼の存在は大切すぎて、今の時間がはかなすぎて。

隆はもう一度、麻子にキスをした。口の中で溶けかけた小さな氷を、麻子の唇に移そうとした。

そして、2人は離れ、隆は麻子を見た。

麻子は、自分のアゴをつたう〝しずく〟を白いブラウスの袖でぬぐっていた。

そのとき、隆は自分の〝想い〟が彼女に受け入れられなかったことを知ったのだった。

隆が帰ったあと、麻子はテーブルの上に置かれた1枚のチケットに気づいた。8月25日、ビッグエッグへの招待状だった。

遠い人が、更に遠くへ行ってしまったことを、麻子はボウ然と考えていた。唇の先を濡らした冷たさは、彼女には重大すぎた。それをぬぐったレースの袖口は、それでも彼女な

TM NETWORK Chapter 5 彼女 II HOLD ME TIGHT

りのプライドと気品を保っていた。

ライティング・デスクの上に置かれた、飛び立てそうで飛べない純白の天使は、どこか麻子に似ていて、同時に、隆の顔にも似ているような気がしてならなかった。

タクシーも止めず、すれ違う人々が振り向くのも構わずに、隆は早足で歩いていた。麻子への想いは、行き場を失なっていた。怒りさえ感じていた。それは、自分を受け入れなかった麻子に対するものでは決してなく、半ば強引に愛情を確かめようとした自分に対するものだった。

しかし、自分には時間がない。

今、隆が確実にわかっていることは、そのことだけだった。

麻子を想う心は、少しも変わらないまま、隆は、ビッグエッグでのライブ前日を迎えていた。

メロディーと歌詞とリズム、ステップと立ち位置と全体の構成、そのすべてを体に覚えさせていた。あとは、ステージ・セットとなじませていく作業だけが残っている。

巨大なドームにセッティングされたステージは、今は光を放つこともなく、生命を吹き込まれる瞬間を、ただ待っている。

小室哲哉はいつにない緊張の面持ちで、サウンドとビジュアルの最終チェックに臨んでいる。木根尚登も、ファンタジックなパフォーマンスのクライマックスを決めようと、完璧な準備体制を整えている。

通常の倍もスタンバイしているスタッフ、ガードマン。駆け回るマネージャーやイベンター、詰めかける取材陣。

隆も、他のことを考えている暇も余裕も今は皆無で、翌日のステージングのことだけに没頭していた。それでも、ふとした瞬間に思い浮かぶ笑顔に、ホッとしたり、小さな痛みを呼び起こしたりしていた。

そして8月25日がやって来た。

この日のステージを成功させることだけを、隆は考えていた。楽屋に次々に運び込まれてくる花束をぼんやりと見つめながら、緊張感の真っ只中にいた。

「ウッ、立花さんから花束が届いているよ」

そう言いながら、木根が隆の肩をポンと叩いた。何本ものユリが、真っ赤なリボンで結ばれて、彼がかつて愛した人のイメージを、くっきりと浮かび上がらせていた。

"順子……"

今も、以前と少しも変わらないやさしい視線で自分を見守ってくれる順子。隆は、ライブ直前の、恐れにも似た緊張が、ゆっくりと解かれていくのを感じた。

「本番10分前です!」

スタッフの声が響く。隆は、大きな鏡の前で、深呼吸をした。

5万人のオーディエンスが、TMネットワークを待ち望んでいた。そのニュースは何日も前から知ってはいたものの、いざ目の前にしてみると、それだけで新たな感動が、隆の胸に押し寄せた。隆は、神聖な気持ちになった。すべての人を愛し、すべての人を許せそうな思いがしていた。「RAINBOW RAINBOW」、「八月の長い夜」、「PASSENGER」、「KISS YOU」……巨大な空間の中で、1人1人の心に響くように願いを込めて、隆は歌った。

ライブの中盤では、ミュージカルの一幕のようなシーンを展開して、今後のTMネットワークを予感させ、後半は一気にダンサブルなナンバーを続けて、歌い踊った。最後の曲「HUMAN SYSTEM」を歌い終えたとき、隆は、自分自身に、TMネットワークに、そのプロジェクトに、そしてこの場所にいるすべての人に、感動していた。

外はどしゃぶりの雨。今までの何もかもを洗い流すかのように、激しい音を立てて、雨は降り続いた。

TM NETWORK

TAKASHI UTSUNOMIYA

彼女

NY-LONDON-TOKYO

昨年の連載スタート時から大反響を巻き起こし、未だ少女達の注目を集め続ける、架空小説『彼女』。実在するロック・スター“宇都宮隆”を主人公に仕立て、ニューヨーク・ロンドン・東京で撮りおろした百数十枚の写真とともに、彼のラブ・ストーリーがこの本で完結することになった。今までどこにもなかった豪華な1冊を届けたい——all right？

本格派高級単行本●予価1800円●A 4変型ハードカバー●160ページ予定

10月25日発売 | 予約受付中

予約受付しめ切り迫る！ 10月5日消印まで有効!!

予約特典▶特製オリジナルポスト・カード・セット全員プレゼント!!

この本を予約した人全員に、パチ▶パチ特製“隆がいるNY−LONDON−TOKYOポストカード3枚組”セットを差しあげます。それでは、応募方法をゆっくり読んでね。

▶左ページの“注文伝票”を切り取って（コピーしてもOK！）いろいろ書き込み、本屋さんに持って行って、書店印をもらってください。（メモ用紙に押してもらってね）

▶封筒を2つ用意します。（封筒AとB）封筒A＝カードを入れてみんなに返送するためのもの。返信用の60円切手を貼って（㊟定形外の場合は金額が違います）自分の住所・氏名をはっきりと表に書いてください。（そのまま返送しますので名前のあとに“様”まで書いてください。返信用切手は同封じゃなく貼付）封筒B＝応募用です。封筒A（折り曲げ可）と、書店印の押してある紙を、封筒Bに入れて封をします。表に切手を貼って、

〒156-91 東京都世田谷区千歳郵便局私書箱25号 CBS・ソニー出版 パチ▶パチ編集部
宇都宮隆『彼女』係まで、送ってください。10月5日の消印まで有効です。

▶ご注意：応募してくれた人全員にお送りしますが、返信用封筒に自分の住所と名前がちゃんと書かれてなかったり、切手が貼ってなかったり、書店印が入ってなかったりするとお送りできない場合があります。また、封筒Aが小さいと、せっかくのカードが入りません。封筒Aは、官製ハガキサイズのカードが十分余裕をもって入るものを用意してください。では、気持ちを落ち着けて、もう一度最初から確かめて、応募してね、待ってます。

LOOK BACK $ AHEAD UNICORN

UNICORN

この夏は各地イベントを大いに盛り上げてくれた5人。ここに至るまで、（まだホンの1年とちょっとなんだが、）どんな町でどんなライブを演ってきたのだろうか……という UNI－CORNの旅日記。さぞかしいろんな町や、いろんなライブ会場でのエピソードがあることだろうと思っていたら、やはり彼ら。やってくれていた！

PHOTO●HISAYOSHI OHSAWA　COPY●MIHO UTSUNOMIYA
STYLING & HAIR & MAKE-UP●MIYUKI SANO

UNICORN

ライブのUNICORN、コレが凄い。普段の素行の悪さとゆーか、性格の悪さとゆーか、品性の悪さとゆーか、まぁ、そんなものがグシャグシャになって現われる。荒くれぶりが大評判。パンク・バンドをとっくにしのいだと言われる、傍若無人ぶりにリボンが揺れて揺れて──なんでだか知んないけどさ──会場はいつも興奮のるつぼなんである。

今回の取材テーマは、そのライブの輝かしい(?)軌跡をたどろうというもの。インタビューの前にとりあえず、UNICORNのライブにテーマはありますか? と聞いたら、タミオが「無責任さ、かな」だって。あのね。

'87年4月12日、日比谷野音→7月17日、横浜7thアベニュー→7月21日、国立リバプール→7月30日、広島ウッディストリート→8月11日、大宮フリークス→8月24日、東京渋谷エッグマン。

EBI：デビューしてからよりは、デビュー前のこういうライブハウスを廻ったツアーの方が思い出は残ってますよ。全部対バンがいてやるっちゅうのは、なかなかね。

手島：ステージは狭いんですけどね、当時のオレ達にとってはあのライブハウスは広かったんですよ。当時でいうと、やっぱり青年館とかっていったらとんでもない話だったから。

タミオ：広島なんか里帰りライブ。171名って記録が残ってるけど、半分以上が友人、知人、家族だね、これは。(笑)

川西：このへんはアレですね、移動とか車で行って。で、ライブも短いでしょ? だからライブというよりもね、その移動の行程だとかね、そういうのが楽しかったです。

タミオ：なんかさんざん時間かけて行ってちょっとやって帰るっていう。(笑)大宮フリークスに行ったときは、オレ達の乗ってる楽器車がタコ焼き屋の屋根をかすめて、兄ちゃんにタコ焼き投げられたりした。

──バカヤロウ、みたいな。(笑)

タミオ：そうそう。あーれは辛かったわ。

'87年9月1日、前橋ラタン→9月2日、国立リバプール→9月6日、茨城29BAR→9月9日、横浜7thアベニュー→9月11日、大宮フリークス→9月16日、名古屋E.L.L.→9月17日、豊橋かごやはうす。

手島：前橋ラタンはお客さんがゼロだった。

──ゼロー!?

川西：うん。それでスタッフ3人とですね、地元のFM局の人2人。んでお店の人が2人と、そういう中でやったライブです。

──それショックじゃないですか?

手島：いや、ほとんどショックはなかったですけどね。だってまだデビュー前で、知名度もなんにもなくて対バン目当てで来るわけだから、対バン来なかったらお客さんも来ないでしょ。

──対バンていうのは?

タミオ：地元の大学生のバンド。試験があるとかいって来なかったんですよ。(笑)

──でもやるにはやったんだ。

EBI：フルサイズやりましたよ。ちょうど次の日もライブがあったんで、そのリハーサルを兼ねて。(笑)

──その状況でやる気は出ましたか?

タミオ：とりあえず出た。無理矢理に出た。

'87年、9月24日東京芝浦インクスティック

タミオ：これは関係者とかを集めてタダでやったヤツね。

EBI：ああ、そうそう。これはなかなか辛いもんがあって、ほとんど関係者だけだからみんな椅子に座って見てるわけ。

──観察されてる感じ?

EBI：そう。だからノるわけでもないじゃないですか。んでノッてる人って前2列ぐらいで、やっぱりやりにくかったですよ。

手島：でも関係者はお金払ってないですからね。タダで来る人は気にする必要はない。

'87年10月5日、国立リバプール→10月8日、大宮フリークス→10月18日横浜7thアベニュー→10月23日、六本木インクスティック→10月31日、札幌ベニーレイン→11月1日→仙台CADホール→11月6日、広島並木バラスト→11月7日、福岡ビブレホール→11月14日、大阪アムホール→11月15日、名古屋ハートランド。

タミオ：六本木インクスティックからのはSONIC BOOMっていう、DAYSのイベントです。これもタダ。デビューアルバム出してからもタダでやってるっていうのが……。

UNICORN

'87年12月14日、大阪ミューズホール→12月15日、名古屋ハートランド→12月22日東京渋谷ライブ・イン。

——パチパチのイベントでしたね。

EBI：ライブ・インは酸欠状態になって凄かったんだよね、確か。

アベB：（やおら登場）アレは盛り上がったねっ。

タミオ：おったんかオマエ。（笑）これは苦しかった。なんか記録作ったんだよね、日本の記録。

川西：何を作ったの、タミオ何言ってんの、日本の記録って。

——動員数ですね（笑）

EBI：熱狂的でね。もう暑くて……早くやめたかったの覚えてますけど。テッシーの曲とかやったんだよ、このとき。

アベB：テッシーの曲聞きたーいっ、オレ。

EBI：聞きたい？

アベB：うん。

タミオ：テープあるかなぁ。

手島：ない、あの日は録ってない。

タミオ：いや、どっかにある。デモテープとかあるはずだ。

手島：ガチョーンッ。

'87年12月31日、日本青年館

手島：大みそかのイベントです。フェンス・オブ・ディフェンスとか一緒に出ました。

'88年1月13日、熊本イエロー　スタジオ→1月14日、福岡ビブレホール→1月15日、広島県民文化ホール→1月23日、仙台スタジオ141ホール→1月25日、札幌ペニーレイン→1月28日、名古屋ハートランド→1月29日、大阪ミューズホール→1月31日、芝浦インクスティック。

手島：これが初の有料による全国ツアー。

タミオ：熊本のはね。お笑いライブ。なんか吉本興業的なノリになってしまいましたね、トラブル続出で。

EBI：パニック状態になって、ドリフターズみたいなバンドになってしまった。（笑）

タミオ：これでね、ふっ切れたの。（笑）こう、グシャグシャになって、無茶苦茶になって、面白くなってきたんだよね。

——状況もにわかに活気づいてきた頃。

タミオ：そうそう。手薄な警備陣のスキを突いて騒ぐ騒ぐ。

——最初の頃に比べて気持ちの変化とかありますか？　この状況の変化に応じた…。

タミオ：応じてというか、逆らってというか、最初の頃はまだサービスしなきゃとかいう気持ちがあったんですけどね……最近ないみたいですね。なんか本人達が勝手に楽しんでる状態が多くなってきて。カワニシさんなんかタンバリン持って前に出てきたもんね、この頃。（笑）

EBI：この頃からだから、ステージで笑いが出てくるようになったのは。

タミオ：芝浦インクスティックでミドリが抜けたんですね、最終的に。

'88年3月27日、新宿パワーステーション→4月12日、福岡都久志会館→4月13日、熊本郵便貯金会館→4月14日、大分オーティス→4月17日、名古屋ハートランド→4月18日、大阪ミューズホール→4月19日、広島県民文化ホール→4月23日、仙台CADホール→4月24日、青森ライブスペース1/3→4月26日、札幌メッセホール。

タミオ：このときから笹路さんが入ったんだよね。（資料を見ながら）広島県民498名動員。売り切れません、あと2枚（笑）

'88年4月30日、東京P-I-T→5月2日、名古屋ハートランド→5月3日、大阪ミューズホール→5月5日、東京渋谷公会堂→5月25日、名古屋市民会館→5月29日、東京日比谷野音。

タミオ：こういうイベントとか追加公演でだんだん無茶をやるようになってきたんですね。で、この5月25日の名古屋からアベBが出てきたと。

アベB：やっと来たかな。（笑）

——最初のステージの感想は？

アベB：とりあえずもう、早く終ればいいと思って（笑）、うん、最初は…。

EBI：ほとんど本番一発だったんだよね。

'88年6月21日、東京青年館→6月30日、岡山市民文化ホール→7月3日、静岡すみやオレンジホール→7月4日、東京日本青年館→7月6日、宮崎ガーディニアホール→7月9日、秋田フォーラスモーニングムーン→7月12日、旭川スタジオ9→7月14日、金沢

UNICORN

教育会館→7月16日、東京よみうりランドEAST→7月20日、京都ビブレホール→7月21日、大阪近鉄小劇場→7月23日、名古屋芸創センター→7月24日、東京日比谷野音→7月28日、神戸フィッシュダンスホール→7月31日、福岡海の中道公園→8月7日、名古屋城深井丸。

——青年館でワンマンのコンサートを成功させつつも、またDAYSの無料ライブをやってたりするという……。

タミオ：タダは盛り上がりますよ。(笑) いつもMCで「タダだから」って言ってヒンシュクを買ってますけどね、〝タダ、タダって言わずちゃんとやって下さい〟ってファンレターに書かれたりして。だけどちゃんとやってるっつーの。言ってるだけだって。

アベB：言うだけで印象変わんのよ、多分。

タミオ：ナメとんのか。

——イベントだと他のバンドと知り合いになれたりってことがあるでしょ。

川西：レッド・ウォリアーズの木暮君の部屋に電話したんですよ。前から〝UNICORNのドラムがどーのこーの〟って言ってるっていうのを聞いてたから。んで、結構、同年代だしね。エアロがどうしたとか話して盛り上がりましたよ。でも波長が合う人と合わない奴がいるから、イベントで誰とでも仲良くなれるってことはない。

手島：大体、ホテルからステージに行って出番終ったらすぐ直帰だもんね。

川西：だからシャケ君とかとは波長が合う、ワタシは。

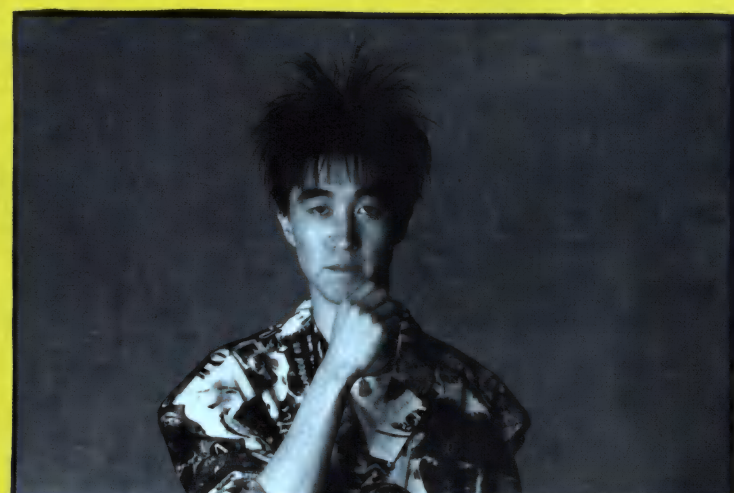
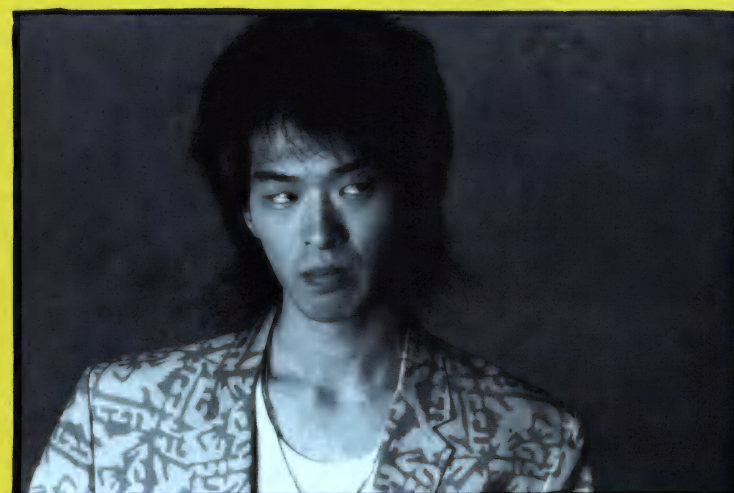
タミオ：やっぱり面白いよね、イベントは。普段会えない人と会えたり、福岡の味の名店街でラウドネスの人が昼飯食ってたり(笑)してるし。

アベB：バレるよね、ありゃ。

タミオ：ぜんっぜん似合わないもん。

——だけど見たっていうことはUNICORNも行ってたんでしょ！ 味の名店街に。

タミオ：オレらは似合うんですけどね、だって。(笑)

振り返ってみれば意外に(?)真面目にオン・ザ・ロードしてたUNICORN。「今ぐらいがいちばん気ラクでいいなぁ」などとふらちな発言をしながらも、早くも秋のツアーが決定。初日を10月14日、堂々の渋谷公会堂でキメるあたりはサスガというわけで、全国23ケ所のこのツアーにみんな目くじら立てて急げっっ。

観客ゼロから動員記録。でも今ぐらいが気ラク(?)

衣装協力●IDEES ☎03(478)0430

タミオのたわごと。

さぁーっ、みんなの大好きな夏休みが終ったぞーっ。これからは運動会に遠足と、嫌なことが目白押しだーっ。て、運動会や遠足は楽しいか。ま、いいや。とにかくみんなは重いカバン持って学校行きたまえ。授業中に居眠りしてセンセーに殴られたまえ。オレはなぁ、みんながそうやってセッセと苦しんでいる間にバカンスさっ。キャッホーッ。旅行行くんだ、旅行行くんだ、デデデデーイッッ♡

あ、最後の♡マークが気に障りましたか？ スイマセン、正直なもんでつい。

どこ行こーかなぁ。んーとね、今考えてるのはね、大阪。すごいだろー、いきなり浪花が出てくるとは思わなかっただろー。ふっふっふ。それにはちゃんと理由があるのさ。あのね。あのね。大阪のね、天王子動物園!! あそこの白クマに子供ができたのをみんなは知ってたーん!? ちなみにオレの場合は某マタニティ誌で知ったのだが、（なんでそんなの読んでるんだろー。オレにもわからん）カワイイのなんのって。記事によれば日本で白クマの子供が育ったのはたったの八頭だというじゃないか。こーれはチェックだなぁ。いずれ行くぜ、天王子動物園。そんときはヨロシクー。

疲れたなぁ。オレは疲れた。野球ゲームのしすぎで。ファミコンのヤツなんだけど、ウチには今、野球ゲームだけで4種類あって、それらのすべてを今、征服しつつあるところなわけ。面白いぜー。

とはいってもしょせんファミコン。本物の野球の面白さにはかなうもんじゃない。そうそう、ここで発表してしまおう。UNI-CORNはついに野球チームを結成してしまった。その名も〝広形東洋象ズ〟。カッコいいだろー、強そーだろー。ていねいにも名前の由来を説明しちゃったりなんかすると、広島と山形（アベBの出身地ね）を合体させて、ま、東洋と。そして強い名前がいいから象にしようという、そういう立派な由来があるんだね。そのうちどこか地方で試合やることがあったら、必ず応援に来ないよーに。ピヨピヨうるさくされたら試合に集中できないからメーワクなの。遊びといえど、真剣だからな。フンッ。

野球したいなぁ。今年の夏は結構イベントが多くて、神戸のフィッシュダンスホールでやった時は、空き時間に野球やろうって盛り上がったりしたんだけどねい。一応、ボールとバット持って外に出たのに、海の近くで風が強くてできなかったのよ。ほれでしょーがないから、花火しちゃったりして。そう、あんときは花火したんだわ。あれはあれで盛り上ったな、そーいえば。オレ達4人ぐらいしかいなかったのに、親切に警備員の人達がゾロゾロ8人ぐらいやってきて、ワーッつって花火やってるオレらを、ぐるりと警備員が囲んでるという。ヘンだなぁ、あの感じ。おしまいに警備員の人達と記念撮影までしちゃって。

ま、イベントはいろいろある。それにしても野球がしたい。

あ、もうひとつ思い出しちゃった、イベントの思い出、名古屋だっけかなぁ。常日頃、イベントにはスティングのよーに一人でギター持って出たいと豪語してはばからなかったオレだが、まさかあんなカタチでかなえられよーとは思いもしない。TOPS、爆風スランプ、なおかつバブルガムブラザーズと一緒に、スーパー・ファンク・メドレーをやらされた。あれは、あれは辛かったわ。みんなも出るんだと思ってたのに、あたかも人柱のごとくオレ一人で出されてファンク・メドレーだよ。まいったなぁー。オレと同じムジナの佐々木伸秀くんと二人で完全にステージの後ろに下がって、しょーがないからモニターをわざとハウらせたりして……オレは泣いていた。ステージ袖ではメンバーが泣き笑いしていた。悲しい思い出だった。

あー、夏が終る。それにつけても広島商業高校、優勝オメデトーッ。

おじゃまじゃなければ

ぢつは、実物のほーが数十倍かっこいい有名カメラマン、大川直人氏の登場。『PANIC ATTACK』のジャケット写真はじめ、パチ▼パチ、パチロクでもくっきりバッチリ、ノリノリ（タミオにヘンな顔させるのが異常にトクイなのだこれがまた）の写真を撮ってUNI-CORNに迫っているヒトだ。以下本人談。

「UNICORN？ ん──、曲？ 好きだよ──、売れるんじゃないかな──、……被写体としてはねー、エ──ト、いいんじゃないかなー。ジャケット？ あの、こーゆーヤツ？（と言ってクチをタミオ風に開けて）あ──、気に入ってるヨ。……これからはね──、ありのままのUNI-CORNを撮っていきたい、嬉しい時は嬉しい、悲しい時は悲しいUNI-CORN」

どーもありがとうございました、社長。

NAOTO・O

3rd Visitor NAOTO OHKAWA

世の中の会員気分。

●今月もまたしてもお待たせしている。バッヂってやつ。スマン。なおかつ今月はRADIO特集をやらなかった。スマン。これは来月、必ずやる。マコトに申しわけない。イヤイヤ、だがしかしこの欄はべつにへんしう部がおわびばかりするトコロではないのだ、スマン、本題に戻ろう。

世の中のUNI-CORNブームは相も変わらず続いているよーで、返信用封筒入り手紙はボロボロボロボロ来つづけている。

にもかかわらず、約束の数には達してないんだなこれがまだ。UNI-CORNのメンバーは早く、そのイベントっつーやつをやりたくてたまらないみたいなのだが…（一説には早く終わらせたくてたまらないらしいが、フン）

なわけなんで友だちもそそのかしてみんなでバッヂ光らそーぜい。

▲会員になる方法▼①何でもいい、UNI-CORNに関する文章②左下の応募券③表にあなたの住所を書いて60円切手を貼った返信用封筒④裏にあなたの住所、氏名、年齢、職業、電話番号を書いた封筒。①～④が用意できたら、①②③を④に入れ、④にも60円切手を貼って、〒156-91 東京都世田谷区千歳郵便局私書箱25号 CBSソニー出版 パチ▼パチ世の中UNI-CORN係へ送る。

構成●宇都宮美穂　イラスト●浅見カヨコ

世の中ユニコーン PATIPATI⑪ 応募券

NINETEEN

EASY NONFICTION Vol.3

彼にも〝19歳〟はあった。10年前。毎日絵を描きながら、自分をたしかめる作業に終始していた。「淋しい思い出しかありません」と語る彼は、今はその正反対にいるようでいて、実は未だに19歳かもしれないとフト思わせる。

19 NINETEEN

カールスモーキー石井、本名・石井竜也。米米CLUBのボーカリスト。JOのメイクや、アルバムジャケットの絵等でもわかる通り、ミュージシャンである前に絵描きである。ファンにはお馴染みのWドリブルまんじゅうは、彼のデザインしたマークを元に、実家である石井製菓で製造している。（一般発売はしていない）

GUEST OF OCTOBER

CARL-SMOKY ISHII

KOME KOME CLUB

PHOTO by KATSUMI OHMURA　COPY by MIHO UTSUNOMIYA

カールスモーキー石井。本名、石井竜也。この人を喰ったような、半分シニカルな視線を持った芸名は、彼が25歳のときにつけた。どういう思いでつけたのかは聞かなかったが、彼の19歳の話を聞いていると、あえて理由を聞く必要もないように思われた。話の内容は、単に19歳をどう過ごしていたか、というものであったが、あとから考えてみれば、石井竜也がカールスモーキー石井へと変わる裏付けを聞かせてもらったような気がする。

19歳について、と切り出すと、彼はしばらくの間、躊躇した。数秒間の沈黙の後に「10年前っていうと記憶の果てですからねぇ…」と前置きし、それから「19歳の思い出って淋しいような思い出しかないもんなぁ」と困った顔をした。

「淋しくて仕方がなかったですね、なんか知らないけど。友達が中野に住んでて、そこによく泊まりに行ったのを覚えてるけど、そのアパートっていうのがきったなくてね……汚ないっていうか、もうあばら屋の感じのところ。陽は射さなくて、冷蔵庫のジーッていう音だけ聞こえるような、そんな陰気臭いところで目を覚まして……友達はバイトで朝の5時くらいに出て行って、オレは昼の12時くらいに学校に行くわけ。で「汗臭い布団を上げて、そのまま風呂にも入らないでスーッと出て行くような、そんな思い出が多いです」

——かなり暗いイメージですか。

「暗い。暗いですよ。(笑)僕が油絵をやめてっちゃった理由っていうのも、そういうところにあるかなぁ」

画家を目指していた。高校は栃木にある進学校だったが、芸大の教授に師事し、週末は必らず東京の渋谷ゼミナールと、水道端美術予備校でふたつの研修を受けていた。もちろん、夏休みや冬休みの長期休暇も同様で、こうした時間の使い方は、芸大一本を目指している人間にとっての必然に思われた。それでもときどきは、常磐線に乗って約3時間、ゴトゴトと身体を揺らされながら、自分はどうしてこんなことを続けているんだろうと疑問に悩まされたが、高校に行けば次は大学と決まったルーティンの中にいる立場では、深く考えることは許されなかった。第一、画家になりたいという気持ち、それだけは確かだったし、当時の彼の頭では、画家になるためには芸大に行くことが必須条件であったのだ。

「若かったですからね。なんであんなに一生懸命オレはやったんだろうって、今思うと不思議ですけど。当時も思うには思ってたんですよ、なんでこんなに苦労しなきゃなんないのかなって。でもそのときは、こういう考え方は敗者が必死になって遠吠えしてるだけなんだって自分に言い聞かせてごまかしてました」

CARL-SMOKY ISHII

KOME KOME CLUB

NINETEEN

受験の絵、というのがある。絵はすべからく自分のためのものであるはずが、受験の絵ではその"自分"を一切、排除しなければならない。テキストにそった、(ある意味では)完全な絵に近づくために、どんどん"自分"を削り取る。そこには、ただ好きで絵を描くという原始的な衝動はみつけにくい。

「自分がね、小っちゃいときから『竜也ちゃんはヘンなことばっかりやってるよね』ってみんなに言われてた自分と一緒じゃなかったもんね、あのときは。いっつも違うこと、違うことって考えてて『面白い』って友達に言われたオレじゃなかった。ああいうことを一生懸命やってたオレは。でもああしなきゃ受かんないですからね」

受けた大学は芸大のみ。他の学校では意味がなかった。彼がそう思うように、芸大を受ける他の人間もそう思う。だから、5年や10年の浪人もザラにいる、特殊な学校だった。そういう事実も、そのことの意味も、十分にわかっていたつもりだったが、いざ受験というその日、自分の前に座った男の人の白髪を見たときに、思い返してはいけないはずの疑問が強烈な勢いで、また湧いた。

「受かんないんですよ、そういう(何年も浪人してる)人ってもう絵が固まっちゃってるから。……で、なんか馬鹿らしくなっちゃってね。10年も20年も浪人して、こんな小汚い学校行っても仕方ねぇやって。受験の際中に思いっきり冷めた」

そのせいかどうか、結果は不合格。浪人してもう一度受けようという気も当然なかった。

「親父にもね、『浪人までして絵は描くものじゃない。絵っていうのは自分が好きで描くもので、学校のレベルが問題なんじゃない』と言われてたのでやめました」

こうして、後に米々クラブのメンバーが集まる文化学院へと進むわけだが、実はその前に師事していた芸大の教授からフランス行きを推められている。

「その先生もフランスに行くときで、一緒に行くかって話になったんですよ。もしあのときに一緒に行ってたら人生変わってたかもしれないな、なんて思うけど。随分悩んで……でも行く勇気はなかったね」

上京して住んだアパートは新松戸にあった。家賃一万円。四畳半の狭い部屋にイーゼルを立て、絵の具を広げればそれだけですき間はなくなった。足を伸ばすときは、押し入れを開けてそこに足を突っ込んだ。

「彼女が部屋で待ってたりなんかして、そうすると部屋に行くまでに裸になって、ガーッと開けてバッと倒れるとセックスできちゃうっていう。(笑)それぐらいの小っちゃな部屋に1年半住んでて、そこで19歳を送りましたね」

極端に気が短かった頃だと言う。街を歩けばちょっとしたことでチンピラに喧嘩を売られたり、売ったりしていた。人に見られるだけで「ガンをつけられた」と思うような、そんな時期だった。ただし、学校ではいたって地味な存在。正体のわからない目立たない生徒をしていた。

「人から見たら何やってるんだろう、コイツっていう、そんな感じだったんじゃないかな。意識もされないような。ただ、やることないから、絵のモチーフで使ってたギターをダラダラ弾いてたりとかして、そういうのを見てフォーク・シンガーかと思われてたかもしれないですけどね」

「芸術やってるヤツらってあんまり喋べんないヤツが多いんですよ。それで結構、自分の世界に入っちゃうから、あんまり会話ってなかったんですよね。みんなこう……孤立してて『オレはこっち、アンタは向こう』みたいな連中が多かったな」

芸大への思いがプッツリと切れて、あてもなく毎日が過ぎていった。誰かと群れるわけでなし、ひとりの時間が圧倒的に多かった。

「その頃ですね、もう映画見たり、歌舞伎見たり、とにかくしたのは。学校行くよりそういうものを見に行く方が多かったですよ。デビット・ホックニーがまだそんなに大したことなくて、田町のビルの地下でやってる版画展なんつうのも観に行ったし、博物館でエジプト展やれば、エジプト展行ったしさ……とにかく展覧会っていう展覧会はほとんど行ってました。今も持ってるんだけど、その頃にたまった展覧会のチケット、山ほどありますよ」

意味も、理由も、何もなかった。何を見に行こうではなく、とにかく見に行こうだった。19歳のいちばん感性の鋭いときに、こうした物の見方をしたことは、今の自分の感覚を培うことに役立ったと思える。

「かたっぱしから観ることが興味を作って行くんです。だから僕は19から22くらいまでの間、ずうっと観ることを続けてましたけど、それが後の絵を左右しますからね。今やってる衣装のデザインだってそう。目茶苦茶でしょ? 目茶苦茶っていうのはいろんなものを見てなきゃできないんですよ。浅はかじゃできない。浅くても広いヤツじゃないとできないんです」

当時好きだった画家をたずねると、「ジャスパー・ジョーンズ、マルセル・デュシャン、エゴン・シーレ、ムンク、青の時代のピカソ、構成主義の頃のブラック」などという名前が返ってきた。寒い感じのものが多いですね、と言うと「寒いですね」と自分でもうなづく。気持ちがそういう時期だったのだろう。吸い込まれるように近づく絵は、その人の心境を反映するものだ。

また、見るだけでなく、自分の絵も描いた。何を描いていたかというと、自画像だった。自画像ばかり、何十枚と描き続けていたという。

「自分の顔が好きで好きでたまんなかったですからねぇ。それは……オレ、ホントにナルシストっていえばナルシストですよね、化粧とかして。整形しようって思ったこともありました、鼻をちょっと削ろうかな、とかね、そういうことばっかり考えて描いてたんですけど。気に入らないところをみつけると、あー嫌だって思って……異常でしたね、とにかく。小野田君みたいなメイクして描いたこともあったし。そういうときは、オレなんか笑い者だと思いながら描く。(笑)……屈折してたのかもしれないね、ちょっと」

――整形したいって思ったり、化粧をしたりっていうのは、やっぱり絵のために?

「そう。絵を良くしたいがために顔を変えたりして。……納得できないんだもん、だって。絵を描いているとき、なんでこんな影ができちゃうんだろって思っちゃうもん。だから……こんなこと言ったら頭がおかしいって思われそうだけど、鼻を高くしたくてね、鼻の奥に丸いつっかえ棒みたいのを作って入れた時期があるんですよ。(笑)なんか……そうしないと外を歩けなくなっちゃって。人が気が変になっていく過程ってああいうことなんだろうなって思いますよ。もう楽しくなっちゃってね……異常でした、完全に」

絵に対する情熱が形を変えて歪んでいくような。完璧な絵にするために自分の顔を変えるほどの行為を、彼は「情熱とは言いたくない。そんなきれいなものじゃなかった」と思う。あえて言えば自意識だった。ただの自意識過剰の産物だったと。

「オレはだから画家なんて信じませんよ。あんなものは絶対に……テメエのことしか考えてないんですよ、画家って。第一、人のことを考えてたら絵なんて描けないですしね。思いますよ。もし地獄っていうものがあったらね、人殺しと画家は絶対に行くだろうなって。そのくらいの気持ちで人を殺してますよ、画家っていうのは「胸の中で」」

物理的に人を殺すことよりも、胸の中で殺してしまうことの方が罪かもしれないと彼は考える。それは画家の資質を持った自分自身も含めて。

「ファンの子とかが思ってるような、ホントは優しいお兄さんじゃないかしら、みた

CARL-SMOKY ISHII

KOME KOME CLUB

いな、そんな人間じゃないと思いますけどね、オレは。だからオレを好きになった女の子はみんな苦労しちゃうんだろうし」

19歳の頃につき合っていた人は年上の人だった。映画の「愛の嵐」に出てくるシャーロット・ランプリングを思わせるような、そんな人だった。やせた身体や、いつも遠くを見ていた眼差しや、そんなことしかなぜか記憶にない。

「すごい魅力的な人でしたけど……いっつもなんか、自分の世界に入ってるような女でしたね」

自分が彼女に与えたものはと考えると答えに窮するが、彼女に与えられたものは言葉にしてあり余るものがある。なんといっても自分の感性の中で鋭いところは女の部分だと確信できる。それは男といくらつき合ったところで得られないものだ。

「男より女に影響受けるんですよ。微妙な部分というか、たとえば服でも生地の質とか、彩度とかまで気になっちゃう。それは女に教育されたような気がします。男はね、女に素直になった方がいいですよ。得しますから。オレなんか男だって思うとね、いつまでたっても男になれないもんなんです」

そういう意味では早熟だったのかもしれない。男という建前よりもむしろ、年下の人間としてそのまま彼女に溶け込んでいった。

彼女は絵本を描きながら、銀座の画廊でアルバイトをしていた。ときどきそこへ立ち寄っていたが、ある日、脇田和という有名な画家に出会う。そして、「君はどんな絵を描くの?」と聞かれた。

「オレはまだスタイルはないですって答えたのね。ただ描いているだけですって。そしたら『そう。絵はただ描いてるだけがいちばんいいんだよ』って言われて自信がついたんですよ。それはオレがずっと思ってたことだったから」

「あと、子供に随分と絵を教えたんですけど、子供に教えながら、それまでの自分の絵の描き方がやっぱり違ってたってわかりましたね。子供に逆に教えられたようなもんで、笑って描けるのが絵なんだってつくづく思った。絵を描くのは普通の生活で芸術でもなんでもない。生活っていうものがあるから絵が描けるんであって、そういう絵が初めて生きてけるんだってね。人間と同じで、絵なんて生きざまなんだなって思ったときにフッ切れたんです」

19歳を思い返すと、スエ臭い匂いのする自分の感情ばかりが脳裏をかすめる。暑かった四畳半の部屋と彼女。展覧会の数々。参加するだけだった学校。友達のアパート。銀座の画廊。油絵の中の奇妙な自分。それらはみんな、自分のそのときどきの感情によって色を持ち、表情を浮かべて思い出される。

気性の激しい19歳だった。展望も何もなく、ただ生きていた19歳だった。絵を真っ向から愛していた19歳だった。

「ただ必死だったような気がしますね」

――今の必死とは種類が違いますか?

「違うでしょ。今の必死とはもう全然違う。あの頃っていうのは、やることより前に理由が来てたって感じだもんね。(笑)意味とかさ、前にまず来てた。今なんかね、ほとんど衝動の人間になってしまいました」(笑)

絵との向かい合い方が変わり、今はミュージシャンとしての彼の方が露出が大きい。それでもレコード・ジャケットや衣装、ジェームス小野田のメイクなどで、彼の絵に遭遇することはできる。絵をやめたという意識はないですか? と聞くと「ないです。全然ないです」と重ねて言った。「腐れ縁の女みたいだね。切ることができないっていうか切る気もないっていうか」

逆に、今でも音楽をやっているとは思わないと言う。では、カールスモーキー石井の肩書きはと聞かれれば、「遊び人と言うでしょうね」と、真顔で言っていた。

意味や理由を大前提に、わかりすぎる生き方をしていた石井竜也は、いつの間にか意味も理由もない、わからない生き方をするカールスモーキー石井へと変わってしまった。今や自分でも自分がわからないが、わかろうとする気持ちは毛頭ない。

「自分……わかんないんですよ。自分のことわかっちゃったらさ、ステージやってけるのかな。絵なんか描けるのかな」

わからないからステージにも絵にも必死になれる。それは、わかっている。

聖書（バイブル）

聖書（バイブル）――オカムラの新しいシングル。タイトルを裏切ることなく、曲も詞も、強いインパクトと、神秘的な(?)魅力を妖しくも可愛らしくまき散らしている。その（聖書）上に手をのせて、おごそかに誓ってもいい。――主よ、私は岡村靖幸の聖書（バイブル）が、世の中のすべての常識をくつがえす、素晴らしい曲であると心から信じていることを誓います、と。なんと神はたいへんな才能をこの時代に遣わしたもうたか!

PHOTO●ATSUSHI UEDA　COPY●MIHO UTSUNOMIYA　HAIR&MAKE-UP●KAZUNORI YOSHIDA

岡村靖幸

いつかナンパできるような男の子になりたい

「だからさぁ、オレの理想っていうのはね、やっぱり自分が曲書いたのをこうやって説明するんじゃなくてさぁ、宇都宮さんだったら宇都宮さんなりに、アタシはこうこうこう思ってこう感じたとか言ってさぁ、さてみなさんはどう思ったかな、みたいなさ、勝手に書いてもらうのがオレの理想なのね。だって……オレ喋るの下手なんだもん」

あのさぁ、岡村君さぁ、気持ちはわかるけどさぁ、取材の途中にそうやって話の腰折るのやめてくんない!? みたいな。

というわけで、9月21日に発売される岡村靖幸のニュー・シングル「聖書（バイブル）」。35歳の中年とつき合う同級生の女の子と僕の三角関係を歌った内容に、すでに'88年の問題作品との呼び名が高い。結構、高い。(笑)しかしなんつータイトル。エグすぎる。

「中森明菜ちゃんみたいでいいじゃん、とか思って。あの子"十戒"とか、そういうの多いじゃない!?」

—不倫に反対してるわけですか、やはり。

「反対っていうか、なんつーか、ホント間違ったことでもなんでもないし、全然ヘンなことじゃなくて普通のことなんだけど……なんかねぇ、なんか、個人的レベルで言っちゃうと、例えばすーごいその娘がオレの好みの娘だったとすると悲しくなるってのはあるけど、それはなんで悲しいかっていうとまだよくわかんないのね。で、やっぱりあの歌は主人公がいちばん悪いと思う、"DOG DAYS"と一緒で」

—フラれたことを夏のせいにしちゃう？

「うん。それで心の中では自分をいちばん責めてるって歌だからね。それと似たような感じあって"聖書（バイブル）"もなんだかんだ言ってその女の子を引き止める力もないしさぁ、ただなんか自分の長所ばっかりグチグチ述べてその娘に好きだって言うことすらもできないっていうさ。だからそういう恋愛を非難してるんじゃなくて、そういう自分がいちばん良くないっていうようなね」

—自己批判がされてると。

「そうね。で、そういう男の子っていっぱいいるしさ、オレから下のジェネレーションには。オレはその情けないジェネレーションの代表だと思ってね、書いたわけ。男性化粧品があれだけ売れたりさ、Men's Non-noが売れたりさ、DCブランドが売れたりってオレがティーンエイジャーだった頃から始まったことなんだよね。その社会的現象を見てもわかるけど、オレ達の世代はものすごく受け身なの」

—本もHOW TOモノが流行るしね。

「流行る流行る。すーぐ人に頼っちゃう。なんちゅうの、小ぎれいな男の子が多いよね、オレから下の世代って。野性的なとかさ、危いニオイがするとか、そういう男の子っていないもん」

—恵まれ過ぎちゃったのかな、社会のバックボーンに。

「過保護だしねぇ。……だからっつってさぁ、社会のせいだっつってさぁ、オレは情けない男だ、情けない男だっていつまでも言ってるのはもっと情けないと思うんだよね。それじゃ上の世代にずっと勝てない」

—岡村君には才能があるじゃない、上の世代の人も持ってないような。

「だって、才能っていうのは突然変異的なものだからさ、それはまったく別のさぁ……オレ、異常だよ、女の子とのコミュニケーションとか…思うでしょ? だから身長179とかさ、ま、多分カッコいいんだよ、この男の子もさ。でもさ、女の子に自分から好きだなんて一度も言わないしさ」

—でも自分の情けなさをこうやって正直に歌にすることが現状打破につながると思わない？

「つながると思う。オレが詞書いたり、曲書いたり、コンサートやったりっていうのは打破だと思うし、オレはいつかナンパできるような男の子になりたいと思ってるし…」

「詞ってやっぱ大事だわ」と、真面目顔する岡村君。だってみんな詞を読むんだもん。で、そこからこの人ってどういうこと考えてるんだろうとか思うわけでしょ？ それで何が言いたいんだかわからないような詞だったら淋しいよね」

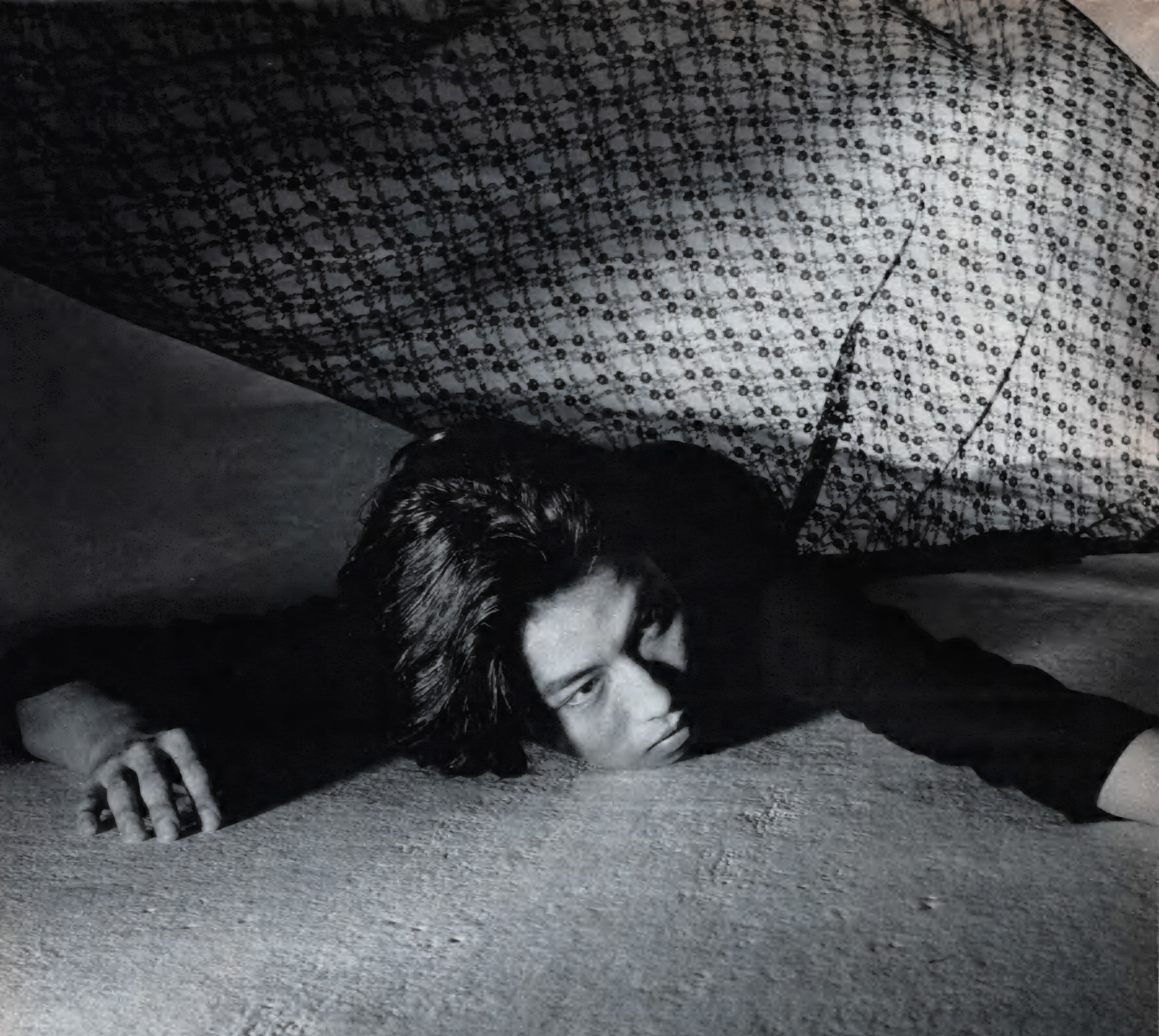
夜中に近所のコンビニで時間を潰す男の子。留守番電話のメッセージ。渋谷のLOFTでの待ち合わせ。エッチビデオの粒子の中の女の子。みたいな、とかいたり。

岡村君の歌には、彼の世代のありふれた日常がぷんぷん匂う。もしもそんな彼の歌を聞いて胸がツンと痛くなったり、気持ちがソワソワしてきたら、それはアナタが彼と同じ日常を共有しているということです。それから、彼の声をちゃんと聞いているということにもなります。

—"汚れてる"ってフレーズが凄いですが、こういう恋は汚れてると考える?

「……ホントは汚れてないんだろうけど。深く言うとね。でもオレの感情では汚れてるってふうに思う。女の子はともかく男の子は汚れてると思うんだよね」

—いつだか男の方を射殺するって言ってたもんね。(笑)

「射ち殺すよ、オレは……っていうかそのぐらいの気持ちってことなんだけど。オレこの詞作ったときさぁ、みんなスタッフが30歳ぐらいなの。こっれは怒られるだろ

主よ、あなたは私の灯火、我が神は私の闇を照らされる

サムエル記下第22章

うなぁと思ってさ、(笑)でホラ、ラジオ局の人とかディレクターの人とかみんなそういう年代でしょ? 出来上がったあとで不安になっちゃった」

――その人達の反応は?

「苦笑い」

――苦笑い。(笑)〝聖書〟に限らず岡村君の歌は聖なるものへの飢餓感みたいなものが一貫してあるように思えるんだけど。

「それは言えてると思う。やっぱり……なんつーの、オレ恋愛に関してはドキドキしないと嘘だと思ってるしさ。で、その若い女の子とつき合ってるオジさんに〝話し合う?〟って聞くと〝合わない〟って言うわけね。〝ドキドキもしない〟って。それでもつき合うってさ……ま、そういう人多いんだろうけど、あの、オレあんまし恋愛してないから悔しいってのもあるのかもしんないけど……でもなんか、ヤなんだよね」

――相手の女の子の気持ちは聞かないの?

「聞けないっていう。(笑)聞いたことがないっていう。(笑)」

――(笑)これはA面B面のバージョンが違うんですね。

「そう。B面は打ち込み以外はほとんど自分でやった一人ぼっちバージョンなの」

――夜っぽいというか、ライブっぽいというか、B面も趣きがあります。

「だね。あと〝聖書〟はね、今度のアルバムでまだ誰もやったことないようなことを企画してるんだけど、それは楽曲がそうだっていうんじゃなくて雰囲気なんだけど」

――予感が秘められてる?

「うん。K、E、Y。キーはあるよ」

そういえば一時期、撮影なんかでお祈りポーズに凝ってたっけなぁ。――「あのルックスが好きだったのよ」――あ、そ。

岡村君は神様を信じてるんだそうです。自分がデビューできたことも、ここまで来れたことも、「神様がいたから」と運命を肯定します。今やってることはだけど自分の努力でしょ? と聞くと「自分のための努力なんてそんなのっ」と言って殊勝にもカブリをふったりします。

「オレなんかそれまでワケわかんないただの兄ちゃんだったんだから。……神様はいるよ、絶対」

なんだが私はジンとしちゃったりなんかして。なのに「ねぇ、インドの宗教がエッチだって噂じゃない。それ興味あるよねぇ」だと。オカムラのバカヤロー!!

岡村靖幸

聖書(バイブル)

OKAMURA A GO GO WELCOME FUNKY NIGHT!

奔放かつ奇想天外。無邪気にして深くて。

さらに神様の話は続く。ライブの前、岡村君が必ずすることは神様へのお祈り。メンバーと全員で並んで、手を組んで……例えば8月1日、2日の新宿パワーステーションでのお祈りはこうだった。

「神様、私達はこれからコンサートをやります。今日は風邪をひいてますけども、でもやめるわけにはいきません。遠く北海道や九州から来てる人達もいます。その人達はアルバイトをして貯めた自分のお金を遣ってここまでやって来てくれている人達です。今日集まってくれた人達みんなの期待を裏切るわけにはいきません。神様、どうぞ我々に力をお与え下さい」

夜の7時30分。さっき起きたばかりのような顔をした歌舞伎町をくぐり抜けて、子供達がゾロゾロとやって来る。蛍光色のリボンをなびかせる少女のグループと、リュックをしょった男の子。いたって平凡な、どこにでもいそうなタイプの子供達が、パワーステーションのネオンの中に吸い込まれていく。ライブに集まる子供達は――それが誰のライブでも――電灯に群がる羽虫のようだと私は思う。目がくらむほどの何かを追い求める姿がそっくりだ。

チケットとコインを交換する。そのコインで水で薄まったジュースを買って、彼が出てくるのを待っている。フロアーは満杯の状態で、みんなの期待だとか、興奮だとか、そんなものが汗の酸っぱい臭いになって鼻の先をかすめた。

紫の布が重たげに吊るされたステージ。早く出てこないかなぁ。岡村君のライブはいつも始まるのが遅くてジレったい。と、打ち込みのイントロが始まって、メンバーが登場。きれいに一列に並んで、これから始まるライブへの誘導をすると、「DATE」の予感だ。目を閉じて、思い出す。あのワクワクするスリリングな時間――彼はもう、目の前にいた。

なんの紹介もなしに「聖書」。初めての歌を追いかけるうちに「DOGDAYS」に移ってしまう。みんなが大好きなナンバーのひとつで、大合唱。風邪でなかなか声が出ない岡村君は、たびたびマイクを観客に向けて助けてもらう。歌いやすそうで実は歌いづらくて、それでも歌いたくなるメロディーは、ちょっとマジックみたいで、ドラッグみたい。どっちにしても気持ちいいんだけど。

「最近さぁ、地震多いと思わない？　昨日はマンションにいて、このままツブれたらどうしようって思っちゃった。死ぬのなんかやだよね。まだまだ知りたいことがいっぱいあるし……（間があって）今の結構、いい話だった!?　みたいな」（場内爆笑）

ステージの上の彼は、転校生みたいだ。耳慣れない言葉とスタイルを持つ遠いところから来た新しい友達。彼の一挙手一投足にみんな興味があって仕方がない。そういえば、最初の頃の佐野元春がこうだった。

「Come On Jump!!」。人の頭が波のように動く「Water Bed」。フルートとアコースティック・ギターで奏でられた幻想的なイントロが、やがて激しいファンクに変わる。

ひとつの曲が、色を変え、表情を変え、すっかりと変容する。瑠璃色のサウンドに私達は万華鏡を覗き込む気持ちになる。そういう意味で、岡村君のライブはサイケデリックだ。おとなしく、曲がひとつの形に収まることを良しとしない。

深紅の薔薇の一本ずつに口づけをして観客に投げる。「イケナイコトカイ」は、優しくて、切なくて、強い心が歌われたバラード。「情けない男の子の歌」と彼は言うけれど、想い続ける心はやっぱり強い。情けなくなんかないのにな。

マーチのリズムで「不良少女」。岡村君の曲にしては明るくてサワヤカ。突き抜けるボーカルが、彼のボーカリストとしての資質を垣間見せる。ときどき音程ハズしたり、歌詞を忘れたりするけど、まぁいいか。

ジェームス・ブラウンのノリで大団円を迎えた「Young Oh! Oh!」で本編が終わった。が、一説によれば「オカムラのライブはアンコール」ということになっていて、観客はここで力をゆるめては絶対にいけない。ゼーッタイにっ。

で、出たーっっ、なんてね。ノー・フレームの眼鏡に白のブラウスにお召し替えをすれば「いじわる」だ。岡村君の集大成とも極致ともいえるパフォーマンスがここでは見れる。いきなり両手でベリッとブラウスをはだけたとたん、彼も解放されて……どういうパフォーマンスかというとエッチでここには書けない。よって自分の目で確認することをお推めしたい。

そのルックス。そのパフォーマンス。その音楽性。奔放で奇想天外で、無邪気で深くて。あらゆる尊敬を込めて私は岡村君をリトル・プリンスと呼んでしまおう。（星の王子様みたいで可愛いね）こんなふうにミラクルに楽しいライブがやれるのは岡村君だけだ。一回、一回、波もあるけど、そのぶん変化に富んで面白い。波の大きさは彼のミュージシャンとしての大きさだと思う。

二度目のアンコールはアコースティック・バージョンの「どうかしてるよ」と「Out Of Blue」。遠くを見ているような歌なのに、ふと胸のところまでやって来る。そんな歌にみんな、泣かされて、救われる。

電灯に群がる羽虫は何を追い求めるのか。イエス・キリストは言いました。「常に愛を追い求めなさい」。

リーン、リーン、ガチャッ。「ハイ、VAPです」「パチパチと申しますが、ジュンスカの取材をさせていただきたいんですが」「えっ!! 取材ですか？ ……。あのォ、今、アルバムとシングルのレコーディングしてまして、時間ないんですよ」「2時間でいいですから」「2時間…。じゃぁCBSソニー出版の会議室で2時間なら…」「よろしくお願いします」

PHOTO by SHINJI TAGUCHI COPY by KYOKO SANO

JUNSKYWALKER(S)

だけど一人じゃいられない

JUNSKYWALKER(S)

「全部このままで」でメジャー・デビューしたジュンスカ、とにかくとびきりイキがイイ。明快な彼らの音楽性は、ストリートの空気をタップリ吸い込んで息を弾ませている。その屈託のない姿勢は、実に男の子然としていて、ちょっとクヤシかったりするほどだ。彼らの音楽を聴いていると、そして彼らを見ていると、若いってイイなあと素直に思う。その中に、プレシャス＝掛け替えのないものがあるような気がするんだけど違うかな？

二枚目のアルバムのレコーディングを終えたばかりのジュンスカを朝の11時に呼び出して話をきいてみた。

ジュンタ「レコーディング、嫌いです。オマエも言っとけよ」

ヨヒト「デー嫌え！」

前作同様、ライブ・レコーディング形式で行われたという。リズム・トラックに始まり、段々に音を重ねていくレコーディングが当り前となったいまでは、彼らの一発録りの方がめずらしいというか原始的!?

ジュンタ「なもんで、1日4曲位レコーディングできる。早いっちゃあ早いかな」

シングル1曲に10日間はさらにかかる御時世ですから、異例の早さだ。ナゼゆえに〝せーの〟形式にこだわるのかといえば、

ジュンタ「だってそれ以外にイイ方法ってないと思うから。バラバラで録ったらジュンスカじゃなくなっちゃうから。ライブで鳴ってない音は入れたくない」

と、そこまでライブとレコードを同一線上にとらえているにも関わらず、

マサユキ「でも、ライブみたいな楽しさはないんだよな」

ジュンタ「何回も録り直してっと嫌んなってくるもんな。せいぜい4、5回か。1か月もスタジオに籠もってたらみんな白髪になってるって（笑）」

「作品としては20年後も色褪せないものを残したい」

作品としてのクオリティをトコトン追求するために時間を費し、あーだこーだと試行錯誤するという方法論とは全く逆。

ジュンタ「完成度より早く終わるもんだったら早く終わらしたいつーかね（笑）自分のアンプから出てる音圧は身体で感じることができるけど、ヘッドフォンだとなんか違うんだよな」

ライブでバンドを転がしてきただけに、密室の作業はどうも肌に合わないといった様子。そこら辺のアマチュアリズム精神を頑としてゆずらないところは興味深い。

ジュンタ「作品としては20年後にも色褪せないものを残したいっていうのはあるよ。キレイな音よりアツイモノを残したいね」

カズヤ「オーソドックスなモノだね」

詞の大半はボーカルのカズヤが書いている。ジュンスカの個性、魅力は彼の書く詞に寄るところも大きい。「いつもここにいるよ」「遠くへ行かないで」「だけど一人じゃいられない」。彼らの歌は真っすぐ胸に飛び込んでくる。

カズヤ「ラブ・ソング——男と女が一対一の——歌が出てきた」

ジュンタ「誰にでも当てはまるんだろうけど〝みんな〟っていうんじゃないよな」

今回もトラック・ダウンはニューヨークで。しかも待望の（笑）、4人揃ってのNY行きである。前回はジュンタ一人で行ったので、「解散説が流れた」（?）らしい。

ジュンタ「この前一人だったから、今度は二人じゃないかって言ってた（笑）」

ミキサーはU2、カルトを手掛けたロン・セイント・ジャーメイン。

ジュンタ「音のバランスをちょっと口出しするくらいかな。〝ボーカル・アップ！〟でバッチリ（笑）ラフィン（ノーズ）やってたヤツだから下品な日本語も伝じるし、コミュニケーションは問題ない（笑）」

カズヤ「アメリカに行くつーのも自慢になるかな、くらいで。そんな金あるんだったら日本で遊んでいた方がイイやみたいな（笑）まっ、一度は行ってみるかくらいですよ」

可愛くないなあ……。

カズヤ「でもラモーンズ観てえ」

その日、ジュンタはラモーンズのTシャツを着ていた。「ロケット・トゥ・ロシア」のヤツ。彼らも（ワタシも）敬愛してやまないNY・パンクのカルト・バンド、ラモ

KAZYA〈Vo〉 JUNTA〈G〉

YOHITO〈B〉 MASAYUKI〈Dr〉

ーンズを「CBGB」で観たい！（わかる）

ジュンタ「でもオッカナインでしょ？」

カズヤ「日本人危ないっつーしなー」

ジュンタ「まっ、俺は一回行ってっから」

ニューヨークでTDときいても、驚きはしなくなったけれど、その意味性をあえて問うてみたい。

ジュンタ「感性の全然違う人とやってみたいというのが大きいかな。ニュアンスの違いが音に出れば、結果的に他のレコードと差別化できるし。前回、それでうまくいったというのが最大の理由ですけど」

メジャー・デビューして3か月余り。この夏は「R&Rオリンピック」などイベントにも出演した。

マサユキ「いままで遠くでしか見れなかった人と会えたり、話せたりしていろいろ勉強になりましたね。池畑潤二さんのドラムが凄かったですね。デカかったわ、音が」

カズヤ「風呂の中でロック・バンドの仲野シゲルさんにも会っちゃったし（笑）」

ジュンタ「緊張したよな、あのときは。風呂の中で紹介されて逃げるようにして帰ってきたとゆー（笑）」

カズヤ「やっぱり、迫力あったよな」

ジュンタ「家にいた頃思い出したもん、俺。シャンプーの泡を飛ばしちゃイケナイ、とかさ（笑）思わず会話跡切れたもんな」

カズヤ「俺なんか身体拭かないで出てきたもん（笑）」

ベテラン勢に混じると、まだまだ幼々しいジュンスカ。素直というか純朴というか。

ジュンタ「音の出し方が違うんだよね。ジャーンと出した音に違いが出るつーかね。気合は負けないと思うんだけど」

キャリアの差は歴然と音に表れると認める。若さゆえの未熟さも十分承知している。

カズヤ「同世代のアンジーとはリハーサルにも参加するほど仲が良くなって（笑）」

ジュンタ「リハに遅れたメンバーの代わりに俺がギター弾いたりしてね。シェイディ・ドールズやスーパー・バッドとも話したりして、あんまりライバル意識するようなこってなかったよな」

この3か月で支持層も一段と拡がった。

カズヤ「若いコが増えてきたかな」

マサユキ「ライブ演ってるときは気にならないけどな」

ジュンタ「街に出るのがちょっとウットウシクなってきた。やっぱり、いきなり声かけられたりすると恥ずかしい……」

ルックスが災いして（!?）女のコ達の注目を集めることにとまどいを隠し切れない。全寮制の男子高育ち特有の硬派っぽさも少し手伝っているのかな、なんて。

ジュンタ「苦労しなくてもお客が集まってくるようになったから、手抜きしているところがあるのかもしれない。シビアに見るとね。でも甘んじちゃいられないですよ」

11月には渋谷公会堂が決まっている。初の単独ホールではあるが、気負いはない。

カズヤ「ライブハウスのあの客との近さが好きなんだよね。これからもホコ天でもやるし、客と近いのが気持ちイイんです」

「いつもここにいるよ」は、彼らの「R&R Here to stay」ではないだろうか？ そのココロは「昨日より若く」とボブ・ディランは歌っていたっけ。

THE HEART

Aコース〳 Bコース〳 4人が昼食をオーダーする。まるでそれぞれがそれぞれであることを確かめるように。

PHOTO●KENJI TSUKAGOSHI　COPY●YUUKI WATANABE

■プロローグ

あたしの目の前にTHE HEARTの4人が、お行儀よく並んでいる。

ホテルの中のレストラン。

けだるいクラシックのBGM。

カシャカシャと食器の触れ合う音が、フロアに響き渡っている。

午後から始まるイベント出演のための腹ごしらえとインタビューを兼ねてのお食事。

まだ眠そうな目をこすりながら集まって来たメンバーは、とたんに元気になった。

「俺ね、Aコース。パンとコーヒーで」

「あっ、俺も同じヤツ」

「えーと、俺はシーフードのBコース!」

「リツ、それとこれ、ちょっと交換してよ」

「すいませーん、コーヒーおかわり!」

「アスパラガス、ちょーだいっ」

食後のデザートは4か月ぶり、メンバー全員インタビュー。ガラにもなく緊張ムードで始まった。

■〝変った〟コトと〝変らない〟コト

2日前のことだった。長かった梅雨が明け、うかれ気分で地元の町を歩いていたあたしは、2人の中学の時のクラスメイトに会った。1人は駅で、もう1人は公園で。

「久しぶりー!」から始まった会話は、退屈で長くは続かなかった。

「なんだか変ったねー! 別人してるっていう感じがしちゃう」

駅で会った彼女はこう言い残して

「中学ん時と全然変んないじゃん。そのまんま大きくなったみたい!」

公園で会った彼女はそう言い残して、それぞれ手を振って別れた。

外以上にムシ暑い地下鉄の中。ハデな色の車内広告が、全開の窓から入ってくる風にバタバタと音を立ててる。一番端の座席に座っているあたしは、とっても不愉快な気持ちだった。

「あたしはあたしなのに。何で変ったとか、変ってないとか言われるのー? 一体彼女達、あたしの何を知ってるってわけ?」

彼女達の目に、どう映っているかなんて。あたしにはどーでもいいことだった。なのに、なんでこんなにイライラするんだろう。勝手に言わせとけばいいのに、なんでこんなに気になるんだろう。

人の変化を指摘する時には、必ず自分の中の願望や希望や推測が、とても作用しているように思う。その押しつけがましさに改めて気づいてあんな気分になったらしい。

実際、HEARTは会うたびに良くも悪くも変化し続けていた。あたしはそれを感じながら文字にしていったんだけど、彼らにとってもまた、そんなことどーでもいいことだったのかもしれない。

そんなことを考えてしまった。

〈結論〉もっとタフにならなければ!!

■EDGE OF TIME II

2本目のライブハウスツアーが終了した。今回は初の東北回りも含まれていた。東・名・阪では500人以上の動員を持つ彼らも、東北では20・30人の前でライブ。小屋も、狭すぎるステージだったり、天井が低すぎたり、楽屋がエレベーターほどの広さしかない、なんて所があった。

「全日本パーキング情報は任せてくれよ」と後藤くんが言うように、相変らずのワゴン車移動。〝だけど前回と違うのは〝ワゴンって楽しいよ〟とメンバー全員が言うようになったってこと。

■井口一彦による分析

バンドのフロントマン的役割を持つ彼は、他のメンバーより多くの人や言葉に合う。誰かに自分達のことをボロクソに言われても、彼は決して怒らない。

「そのかわり、目の前から失せろ! そう思ってる。怒りたくないからさ、今はね」

そう言ってニヤッと笑う。

「東京に戻った時、事務所でたまたまビートチャイルドのビデオ見たんだ。あの頃の俺ってステージの上しか見えなかったんだよね。それが1本目のツアーで、前から10列目あたりを見れるようになって、今回のツアーで一番うしろの客のもっとむこう側を見て歌うようになったって分かった」

■斉藤 律による分析

「俺、最近〝音〟にぜいたくになった。例えばアンプ。一彦のギターアンプの位置が会場によって違うのがすごくイヤだったり、モニターから返ってくる音がスカスカだとダメ。音の壁ができていたり、音が回ってるぐらいの方がいい。だからモニターを2発にしてもらいたいとか、そんなことが気になってしょうがないんだよ」

彼はいつだってマイペースな人だ。それだけに冷静で客観的に自分やものを見ることができる〝目〟を持っている。

「俺、自分が進化したいんだ」

■後藤 進による分析

インタビューの前日。ハーバーロックのグラスを手にした彼がこう言った。

「なんだかこの頃、俺のベースに対する考え方や見方が変ってきた。それはバンドの中の位置もそうだし、楽器としてのベースも、俺とベースの関係もそう。ベースに関すること、すべてなんだ」

HEARTのメンバーの中で一番変化したように見えるのは彼だ。デビュー当時からは考えられないほど自信にあふれてる。

「俺のベースやタケちゃんのドラムがヘタだとか言うヤツは音楽を見る目がないね」

■辻 岳春による分析

「ホルモンの分泌がよかったって感じ、今回のツアーは。1本目は曲構成みたいな具体的なことしか見えなかったんだけど、2本目は、抽象的なものが見えるようになったわけ。例えばライブ感やバンドらしさみたいな所がさぁ」

彼の感性って、とってもおもしろい。ひとひねりした不思議な感覚。

「ステージの立ち位置って、その日ごと違うんだよ。今日は一彦が近いな、とか、リツと並んでるな、とか、そんな所から気持ちが入っていくんだ」

■HEARTの分析

マネージャーのSが言う。

「悪い時は、悪いなりにできるようになったね。1曲くずれても次の曲で、ちゃんと盛り返せる。昔はさ、1人が頭痛いとか体調悪いとか言い出すと、メロメロ。1人コケるとみんなコケる。だけど最近じゃあー人こけても3人が持ち返してくるんだよ。何かあっても、その場で最大に工夫してやっていけるようになったし」

レッズのオープニングアクトで大きな会館をまわり、その合い間に小さなライブハウスでのツアーを組むという、とんでもない状況。それに加えてイベントは、ボンボン入るし、シングルのレコーディングもするというメチャクチャなスケジュール。

いろんなサイズのステージ。

いろんな観客。

いろんなスタッフ。

その1つ1つをHEARTはクリアしていく。ある時は余裕で、ある時は、ギリギリに。

そして1つ1つ、分かっていく。このゴチャゴチャのスケジュールは彼らに、対応する力を与えた。と同時に、必要、不必要のものの選択力、そして〝これが俺たちのせり方だ!〟ということを。

「このバンド」偉大な所をこの間、発見した。どんなにタコなライブが続いても「回りの状況が外しちゃいけない所は、絶対に外さないんだよ。俺達、チンピラだから、気持ちはさ。関係ねーよって全く意識してないのに。なぜか外さないんだよね」

井口がそう言うとメンバーがうなずく。

「火事場のクソ力(ちから)バンドだもんな」

マネージャーのその一言で、静かなはずのレストランは、バカ笑いでいっぱいになった。

若輩者。

JAKUHAIMONO THE HEART

尾崎豊|街路樹

収録曲❶核/CORE(Album Version)❷・ISM❸LIFE❹時❺COLD WIND❻紙切れとバイブル❼遠い空(Album Version)❽理由(わけ)❾街路樹

NEW ALBUM 好評発売中!! 先着30万名様に2大特典❶B2サイズポスター❷ポストカード(3枚セット)

CD: MCD-1004 ¥3,200•ALBUM: MCR-1004 ¥2,800•MUSIC TAPE: MCT-1004 ¥2,800

MOTHER & CHILDREN INC.

●LPは8ページのColor Bookletに、CDは24ページのColor Bookletになっています。●発売中:12インチシングル 太陽の破片 b/w 遠い空 ●12-inch Single: MCR-503 ¥1,000●CD Single: MCD-3 ¥1,000●Single Cassette: MCT-3 ¥1,000

MOTHER & CHILDREN INC. distributed by Nippon Columbia Co., Ltd.

OZAKI
IN BIG EGG
"LIVE CORE"
9/12,1988

TOKYO POP SHOCK!★TOKYO POP SHOCK!★

パチ▶パチでも紹介したあの田所豊主演の名作、"TOKYO POP"がなんと東京でしか上映されない！　という情報が…　全国のYUKAIファンはいったいどうすればいいんだっっ！　というわけで再度"TOKYO POP"スペシャル。来日中のフラン監督へのインタビュー、そしてナゾの映画評論家ATOMIC DICK氏と田所豊のスペシャル対談まで折り混ぜて、ロックンローラー＆俳優YUKAIの魅力(？)をさぐったぜ

PHOTO●RYŪZŌ MINEMURA COPY●EIKO FUJISAWA STYLING ●EIKO HOSHINA HAIR&MAKE-UP●HIROSHI KUNISAWA

RED WARRIORS
Featuring
YUTAKA"ACTOR"TADOKORO

DON'T YOU SEE TOKYO POP?

RRIORS
ring
R" TADOKORO

RED WARRIORS

ゲゲェー!! ゆゆしき事態が起こった。

ここ数か月に渡り、こんなにもみんなに紹介してきた、加えて、ユカイクン自らもスンでチャップリンに扮するなどして公開に力を注いできた、かの名作「TOKYO POP」が、東京以外で見れない!!

いったいぜんたい、どういうわけだ!

広島に住むK子さんは、そのことをキャッチするやいなや、配給元の松竹富士映画に、長距離電話をかけた。

「もしもし、あの、TOKYO POPはいつから上映されるんですか?」

「ハイ、11月5日から、東京のテアトル新宿で上映されます」

「あの、広島ではいつからですか?」

「さあ、今のところ分りません」

「上映されるのかされないのかどちらなんですか?」

「関西も決まってませんので」

「いつになったら分るんですか?」

「さあ、今のところは……またしばらくしたらお電話して下さい」

電話は一方的に切れた。

彼女は思った。

〝じょうだんじゃない! 私たち地方に住む人間は、サントラ盤だけでがまんしろっていうわけ? つまんないアイドル映画なんか見たかない。私たちは、TOKYO POPが見たいんだ! レッド・ウォーリアーズをなめんなよ!〟

というわけなのだ。

今や、ロックのレコード売り上げは、全シェアーの50パーセントを越している状況だというのに、あい変わらずTVに出ている、出ていないといった一般的知名度でモノを考えるなんて……。

ただ、ただ、ア然。

主演のタドコロ・ユタカもこう語る。

「この映画がヒットしたからってさ、俺にお金が入ってくるわけじゃないよ。巨匠の映画やアイドルものの否定はしないよ。でもさあ、それだけじゃないと思うんだよ。〝TOKYO POP〟みたいなアーティスティックで楽しい、インディペンデントの香りのするものもやんないとさ、ダメだと思うわけ。ロックってものが分んない親がこれ見てさ、ああ、今の子供達は、こんなふうに考えてるのかって分ると思うしさ、とにかく、がんばっていい映画作ろうとしてるこれからの人達の為にもさ、なんとかしたいわけ」

まったく、けなげな心意気ではないか!

つい先日、東京のライブ・ハウス、日清パワーステーションで、その試写会が行なわれた。そこに集まったマスコミの数、実に400人。フツー、インディペンデントでこんなにもマスコミが集まった例はない。なかでも、音楽関係者がさすがにススンでいて、大絶賛の雨、嵐。(決して大ゲサではない)

海の向こうでは、由緒あるハワイ映画祭やカンヌ映画祭の新人監督作品として出品され、やはり大絶賛。ユカイクンなどはハワイやカンヌのストリートでサインぜめにあったという事実もある。

また、今や、世界的なイラストレーターのキース・ヘリングも、本来なら彼の作品は1点数千万円もするところを、映画にホレ込んで、タダ同然のギャラで題字に参加してくれている。しかも、わざわざ来日して、レッド・ウォーリアーズの西武球場コンサートにまで足を運ぶ熱心さ。

加えて、ユカイクン、フラン、キースの3人がとりもつ縁で、キースは、HIROSHIMA1987〜97ピースコンサートの今年のシンボル・マークを、無料で描いてくれた。

これは、とてつもなくスゴイことなんだ。でも、映画界には、キース・ヘリング? それ、誰? なんていうやからもいるんだろーなぁ……。

ま、そりゃ、興行成績や利益ってことを考えれば、無名の新人ばかりで作ったこの映画、不安になるのも無理はないけど、東京だけってのは、あまりにもむごい、つれない、やるせない。

今や人気絶頂の三上博史クンや、霊界でも御活躍の丹波哲郎さんも出演してるし、マザーの名物社長、(最近ではAERAにも登場) 福田信氏もユカイクンのお父さん役で出演している。(あんましカンケーないか) 塩沢トキさんや、春川ますみさんも出演している。(これがいい味出してんだよネ)

なのに、なのに、どーして!

ここで、グダグダグチをこぼしたりしても始まんないことなんだけどさー、ユカイクンの○×△シーンもあるんだぜ。やっぱ観たいよなー。というよりも、これからの映画界の発展のためにも、なんとかならんものでしょうか。

そこでPAT-I▼PAT-Iは、みんなといっしょに、どうすればいいかを考えてみたいと思う。前向きな姿勢で、「TOKYO POP」を見たいと思わない?

▶『TOKYO POP』、私だって見たいっという人もそうでない人も、御意見のある方は〒156-91 東京都世田谷区千歳郵便局私書箱25号 CBSソニー出版 パチ▶パチ『TOKYO POP』係へ おハガキ下さい。

RED WARRIORS

CK!

INTERVIEW

Fran Rubel Kuzui

フラン監督、田所豊を語る

フラン・ルーベル・クズイ、いうまでもなく、映画「TOKYO POP」の監督、脚本、演出を手がけた人である。彼女との出会いを、タドコロ・ユタカはこう語る。

「恋愛という部分を抜きにした、ジョン・レノンに対するヨーコ・オノのような存在」

NY生まれ、NY大学映画科卒業。9年前に日本映画助監督だった現夫、葛井克亮氏（TOKYO POPプロデューサー）と出会い結婚。それを機に夫婦でKUZUIエンタープライズを設立し、TOKYOとNYを行き来。そんな中で今回の映画のプランが練られてきた。

というわけで、ここはやはり、監督サイドからも映画と、ユカイクンのことを語ってもらうことにした。時は、映画のマスコミ試写が行なわれた日、8月13日。

「アメリカ人自体がアメリカNo.1という意識が薄れ始めている今日、アメリカ人が日本というものに興味を持つようになっているんです。とくに、古いものとモダンなものが同居しているTOKYOに。いうなら、日本の文化が国際的影響力を持ち始めているんです。ところが、日本のロックンロール・ミュージックは、全くといっていい程海外に知られていない。でも、日本をよくよく知ると、R&Rは、若者の自己の存在価値や自己主張、個人のアイデンティティをうながす、大変な文化に成長しつつあるんです。

だから私は、この映画を作ろうと思い立ちました。映画のサウンド・トラック・アルバムを作って、日本のR&Rをアメリカに紹介したかったからです。そのために、当初は、日本の有名なロッカーを使うつもりでした。そこで、私は、日本に来ると毎日、TVKのミュージック・トマト・ジャパンで流されていたビデオ・クリップを見てました。と同時に、ライブ・ハウスやコンサート・ホールにも足を運びました。3、4年前のことです。

ある日、いつものようにTVのビデオ・クリップを見ていたら、水の中であがくひとりの青年の姿が画面いっぱいに写りました。それを見た瞬間、体中に電流が走りました。"これこそが私が求めていた人だ!"と思いました。彼の名を尾崎豊といいました。

さっそく私は、彼のオフィスにコンタクトをとり、本人と会いました。ところが、会ってみると、彼はあまりにも若く、そして息をのむ程ハンサムでした。(笑)そんな彼といろんな話をしました。そうしていくうちに、彼からもいくつかのサジェスチョンをもらい、結局、これは彼がやるものではないと思ったんです。彼自身もそう感じていました。

そこで再び振り出しに戻った時に、尾崎と同じオフィスからデビューする予定のバンドのボーカリストを紹介されたんです。それがレッド・ウォーリアーズであり、ユタカだったんです。初めて会ったのは、赤羽のスタジオでした。彼らはちょうどファーストLPのレコーディング中でした。

普通、外人の女性と対すると日本の若者は、緊張して個性を押しかくし、テレ笑いとYESしかいわない。なのに、初対面の時、ユタカは、私のことをタダのビデオ屋かなんかだと思ったらしく、私が夕食でもどう? といったら、

「デートがあるからさ、バイバイ」

といってそっけなく行ってしまった。(笑)ホントに礼儀知らずだった。(笑)でも、私は、そこが気に入ったんです。その時、シャケはさすがに。大人で。(笑)

「じゃ、俺がつきあってあげるよ」

「ロックンローラーはヤセてなきゃいけないからさ、食べるものは安いものでなきゃいけないんだ」

といって連れていってくれたのが、ホントに安いカレー・ショップ。(笑)

私は、この時、このバンドのとりこになったのかもしれません。そこでさっそくNYに戻ってスタッフにユタカの写真見せたんです。ところが、決してハンサムとはいえないルックス(笑)と無名の新人という部分で、全員が反対しました。そこで、ユタカを何度もNYに呼び、いろんな人に会わせたり、英語のレッスンしたりしました。

外人にとっての日本人のイメージのひとつに、厚いメガネをかけた無表情なものがあります。私は、そうではない、人間味のある人物を出したかった。そのへんを力説し、ユタカを会わせるうちに、全員が分ってくれて、去年の春、映画はクランクインしたんです。

ユタカは、アーティストとしての才能と共同作業ができる日本人にはめずらしい部分を持った人です。でも、日本のロックンローラーは忙しすぎですね。スケジュールの部分ではオフィスと随分ケンカしました。(笑)映画というのはステージでエナジーを爆発させるものとは違い、少しずつシーンごとにエナジーを出していかなければならない。そのコントロールが難しかった。

でも、彼の予想以上の演技で、映画は、私がこれまでに観たどんな映画よりも大好きな作品として仕上がりました。と同時にユタカも、先日、西武球場と名古屋でステージを観て、スケール・アップした、成長したと思います。

私は、この映画を、アメリカ人だけでなく、日本人が日本を見直す、知る意味でも見てもらいたいと思います。

それと、撮影中、シャケ、コンマ、キヨシの理解に感謝します。それにしても彼らはこの1年でホントにBIGになりました。私の目に狂いはなかったってことですよね。(笑)でも、彼らは、有名になっても、新鮮です。ちっともおごってない。ユタカは今だに無礼者だしネ。(笑……ホンマに!)

今回の来日中、フランは、友人のキース・ヘリングと広島の原爆ドームや資料館を見学。またピースコンサートに感激。インタビューの翌日、NYに戻った。

TO

RED WA

Featu

YUTAKA“ACTO

RED WARRIORS

〈シーン1　対談が始まるまで〉

吉田（編集でメンバーからは尻下がりの団地妻というミドルネームで呼ばれている。ま、エッチな雰囲気つう……本人は否定し続けてはや1年）　というわけで今回はトコロダ・フユカイ映画評論家と、タドコロ・ユタカさんとの対談によるTOKYO　POPについて……

ユカイ　またまたぁ、いったい誰が考えたんだよ、こんなくだらない企画。

藤沢　ワタシじゃないもんねー

吉田　私は賛成しただけです。（冷静！）

ユカイ　どーでもいいけどさ、トコロダ・フユカイはやめよーよ。

藤沢　じゃ、何がいいの？

ユカイ　例えばさぁ、ハヤブサ・タロウとかさぁ、（一同爆笑。いったいどこからこんな名が出てくるのやら）　そっか、ヘンか、なら外人の名前とかさぁ。

吉田　そーですかぁ、なら外人でも……

ユカイ　あっ、そーだ！（一同、注目！）ね、西武球場のビデオあるんだ（球場のバックスクリーンに写したビデオで、市販はされない）それ見ようよ！　こんな取材やめようよ！（一同、ガクッ!!）　いいじゃん、写真なんか、どっか外人の写真使ってさ、記事もテキトーに書いてよ。

藤沢　あのなぁ！

ユカイ　オレさぁ、疲れてんだよねぇ……

藤沢　ビデオ見る元気あるんなら、充分元気だって！（わたしゃ保母さんかっ！）

ユカイ　そうかぁ、オレ、ちゃんと考えるよ。そうだなぁ……危険な名前がいいなぁアトミック……いや、サック・マイ・ディックってのは？

藤沢　日本語に直すと、ほとんど放送禁止用語じゃん。

ユカイ　そうかぁ……マイク……は？

吉田　単純です（キッパリ！）

ユカイ　ウ……ン、名前考えて終わったりしてね。（笑）おい、内藤！（マネージャー）なんか考えろよぉ。

内藤　さっき自分で考えるっていったのに

一同　まったくだ、ブップッ

（と無意味にあーだこーだと30分経過）

〈シーン2　脱線〉

藤沢　そーいえばさ、名古屋深井丸のライブで、「今度、オレたちの武道館の発売日のビデオが出るんだよ！」ってMCしたの覚えてる？　きっときさ、武道館のビデオが発売になるっていいたかったんだろーけど。

ユカイ　んなこといったっけ、ハハハッ。まあ、その、つい英語的文法になっちゃうんだよ。日本語忘れちゃうんだよ。（笑）

内藤　おまけに2曲目の「ショック　ミー」抜かして3曲目にいっちゃうし。（笑）

ユカイ　ハハハッ、あん時はアセったよ。スッカリ忘れててさ、「フーリッシュ　ギャンブラー！」って叫んじゃった。それで、歌ってる途中で、ふと足元に貼っておいた曲順表見たら、2曲目が「ショック・ミー」になってる。オレさ、アレェと思ってシャケの方見たんだよ。そしたらシャケ嬉しそうに演ってるわけ。でもキヨシとコンマクンは怒ってるわけ。シャケだけ気付いてなかったんだよね。それ見てたらさ、笑えてきてさ、歌ってて思わず吹き出しそうになっちゃったよ。キヨシなんか、自分のとこだけ内藤がわざと抜かずに書いてあわてさせようとしたんだって思って、内藤のクソバカヤローって思ってたって、ハハハッ。

藤沢　しかしホントに毎回笑えるよね。

内藤　以前に、MCで、「オレはオヤジを食っちまった！」っていったこともあります。

（一同イスから転げおちて笑う）

ユカイ　ウソだぁー、そんなのあったっけ

内藤　ありましたよ。HEARTの井口も

衣装協●ヒョウ柄ハーフコート（¥38,000）ASTORE ROBOT原宿店　☎03(478)1859　P69のジャケット（¥46,000）パンツ（¥21,000）ベスト（¥15,000）シャツ（¥13,000）ネクタイ（¥5,800）以上、スパジアリ　☎03(770)6401　くつ（¥19,800）IDEES　03(478)0430

RED WARRIORS

SPECIAL対談

現在人気急上昇中の日本のロックバンドのボーカリストにして、アメリカ映画"TOKYO POP"の主演男優田所豊。そして、アメリカ在住、国籍不詳、ナゾの有名映画評論家、ATOMIC DICK氏。夢の組み合わせとも言えるこの2人(?)の対談がなぜか実現した!

証人になりますよ。ふたりで大爆笑したんだから。

ユカイ　オヤジが死んじまったを食っちまったってぇ、ガハハハッ　ヒデエー。

藤沢　まったく、MCだけでも一冊の本になるわ。というのはどーでもよくて、本題はいったいどこいったの?

〈シーン3　ようやく対談〉

アトミック　ディック（以下A）　先日ねえ、NYでねえ、まあ、あなたの映画を見たんですよ。（とふんぞり返って偉そう。声もフケ声）　ま、映画自体は、東京のイメージとかが凝縮されて入っていておもしろいけどねえ、ただ、今いち、アクがないっていうか……まあ、NYタイムズとかいうインテリの評論は、ほめたぎっているけど、まあ、私としては、ラストシーンがちょっと疑問にねえ……　かけ離れすぎているというか……

ユカイ（以下Y）　あんたね、いちいちうるせえんだよ。映画ってのは楽しかったか楽しくなかったかが問題で、あんたみたいにジジくさいカッコしてる奴は、ダメなんだよ。最近ね、ハッピーな映画って少ないだろ?　変にこねくり回した小難しい映画ばっかで。映画は単純でいいんだよ。オーソドックスでいいんだよ!

A　まあ、あなたはそういうけど、あなたの演技は、いまいちねえ……英語が幼いねぇ。ちょっとハズカシくなっちゃうねえ。まあ、その、演技はいいけど、歌が今いちねえ、青臭いよねえ。

——演技が幼く、歌が青臭い。つまりは単なるガキだってことですね。

A　そう、なんか、あんたは子供っぽい。そのわりには、その、アーティスティックな顔をのぞかせているというか……

——ありますかぁ〜〜!?

A　うん、なんか、「ハーツ&ダイアモンド」はすごいねえ、ほんとにあなたが作ったのかなぁというくらい。アコースティックで思わずクロード・チアリが作ったんじゃないかと思ったねえ。（笑）　まあ、とにかくあんたは、会うとねえ、わりとハンサムなんだよねえ。

——（どさくさにまぎれてよくいうよ……）

A　ところが、映画の中じゃ、そんなにハンサムに写ってないところがねえ……どうしてなんだろうと……

Y　それはさあ、まあ、監督が、ハンサムな人間というのは演技しても、そのルックスばかりがフューチャーされて、人間味が出ないからダメだというんだよ。だから、監督の意向に従って、顔をくずしてやったわけよ。まあ、この映画作るにあたって、いろんな有名人に会ったらしいけど、結局オレがいちばんワイルドだったわけだよ。

——ハア、そんなことフランはいってなかったよ。

Y　それはアナタの英語がダメだからだよ。

A　そんなことはさておいて、まあね、アメリカでは一応評価は得たみたいだけどね、私の嫌いな日本では評価されないんじゃないの?　日本人は映画に関しては20年遅れてるからねえ

Y　日本っていうのは、巨匠の作る大作かアイドルものしかウケないからさ、やっぱり映画界ってさ、あんたみたいなジイさんが多いから、新しい感覚が分らないんだよ。アメリカじゃ、アーティスティックな人たちゃ、オジさん、オバさんにもウケたんだよね。日本でも、ビートルズエイジの30代や団地妻にも見てもらいたいよねえ

　というわけで、なんかよく分んないけど対談は終了。しかし、たったこれだけに、どーして3時間もかかってしまったんだろ。

（映画評論家）

ATOMIC DICK
×
（SUPER ROCKER）

YUTAKA"ACTOR"TADOKORO

王家の書、

ORS "HAPPY"

完成間近

予約特典▶RED WARRIORS「HAPPY」ステッカーを全員に!!

RED WARRIORS初の単行本を記念して、予約者（9月末日まで）全員の方に、予約特典として、RED WARRIORS特製「HAPPY」ステッカーをプレゼントします。これさえあれば、いつでもどこでも「HAPPY」な気分でいれるのさ。（………♪♪）

応募方法▶左の注文伝票に記入して、お近くの書店でご予約ください。そして予約する時に、必ず、注文伝票の右側についている「応募カード」にも書店印を押してもらってください。▶封筒を2つ用意します。（返信用封筒Aとそれを入れて送る封筒B）▶返信用封筒Aは官製ハガキがゆったり入る大きさのもの。表に60円切手をしっかり貼り、あなたの住所、氏名を書いて下さい。（様まで付けること）▶封筒Bに、「応募カード」と返信用封筒Aを入れ、これにも表に60円切手をしっかり貼り、〒156-91 東京都世田谷区千歳郵便局私書箱25号CBSソニー出版「RED WARRIORS "HAPPY"」係 と書いて送って下さい。以上のことがきちんとされていないものは無効になります。確認してからポストにね。

締め切り：9月末日。問い合せ：03-234-7906

RED WARRIORS 初の単行本
「HAPPY」(仮) RED WARRIORS STORY BOOK

著、藤沢映子

何度あいた口がふさがらなかったことか、何度笑いでイスからころげ落ちたことか、何度"信じられない"と口走ったことか……それほどまでに4人の歴史の取材現場はすさまじかった。フランスパンとバターとカプチーノが飛びかいマリリンが走り、庄平は現れず映子は書きたくて腕がウズいた。ああっもう待てない!!

▶定価780YEN▶B6変型▶240ページ

10月15日発売予定

予約しめ切り迫る!!▶予約しめ切り、9月30日

RED WARRIO

CBS・ソニー出版

●書店(番線)印	●注文伝票(注文は本屋さんで)		
	RED WARRIORS 単行本　定価780円　10月15日発売予定		
	●住所		●TEL
	●お名前	●年齢	●職業
書籍扱い	〒102　東京都千代田区五番町6-2　TEL03-234-5811　CBS・ソニー出版		

※書店様へ：このカードがまいりましたら、台帳にお控えの上、お取引の販売会社へお早めにご注文ください。
▶この注文書は切り取らないで、コピーして使ってくれてもOKさっ。お友達にもあげちゃおう。

RED WARRIORS

RED WARRIORS応募カード

FIRST LIVE ALBUM 9.10(SAT) ON SALE

レッドウォーリアーズ超ド級の西武球場ライブ発売!!

CD: 32CA-2580　LP: AF-7498　CT: CAR-1573　予約特典：BRAND NEW POSTER

Red Warriors

1988 KING'S ROCK 'N' ROLL SHOW

-LIVE AT SEIBU STADIUM-

"RED WARRIORS LIVE AT BUDOKAN" VIDEO NOW ON SALE, LD 8.21 NOW ON SALE

"TOKYO POP" ORIGINAL SOUNDTRACK ALBUM 8.21 NOW ON SALE

KING'S ROCK'N'ROLL FAIR (8.21 -) フェア特典として、サントラ盤とライヴ盤両方を予約した人には R イヤリングプレゼント

すべての夢は、俺のもの。

BODY distributed by COLUMBIA RECORDS

関口誠人。ヒロコ。

MAKOTO SEKIGUCHI

［君の名前を呼びたい連載第2回▼HIROKO］

関口誠人。

MAKOTO SEKIGUCHI

ヒロコ。

［HIROKO――ニュータウン・チャイルド（前編）］

好評の新シリーズ第1回〝ヨーコ〟に続き、第2回は〝ヒロコ～ニュータウン・チャイルド〟。このサブタイトルは、11月2日発売の関口誠人の新曲になっている。もちろん、ストーリーも、彼の次なるテーマに深く根付いているものだ。9月からアルバムのレコーディングに入っているという彼の、胸の奥できっといつもひざを抱えている少女〝ヒロコ〟。新曲を聞く前に、彼女に出会ってください。今月は、その前編を――。

撮影●中川文雄　スタイリング●佐東慶明（＝コード）衣装協力●ロンドン・ドリーミング（Tel.03-499-6355）

お父さんは浮気してます。お母さんは昼間からお酒を飲んでいます。妹はよく泣いています。

そして私は最近仲良くなった友達と毎晩の様に夜、街に遊びに行くようになりました。

これが私と私の家族です。

ゆうべも夜中、BARのマッチがどうしたこうしたと、お父さんとお母さんは大声でケンカしてました。妹はベッドの中でシクシクと泣いていました。私は妹に何か言ってあげたかったのですが、なんと言っていいかわからず、それどころか、私自身とても不安な気持ちに押しつぶされてしまいそうなのです。

私は時々こんなふうに思うのです。

（今、自分が置かれている立場はとても退屈。クラスの友達の幸せそうな顔を思い出すと、私だけがすごく不幸な気がして、こんなのってとても不公平だ）

私の中にはもうひとりの私がいます。そのもうひとりの私はとても弱虫で、そしてひねくれています。私は　そのもうひとりの私が大嫌いなんだけど、ただ時々そのもうひとりの私を応援してあげたくなる時があるのです。それは決まって淋しい時です。

このままでいると、もうひとりの私の方が本当の私より大きくなってしまいそうです。

友達の理佐とは話をしていてとても落ち着くのです。

高2になって、初めて理佐と話した時は（何だかちょっと暗くて、ずるそうな嫌な感じのコだナー）と思っていました。だからそれ以来ずっと口をきかずにいたんです。理佐はちょっと影のあるコで、中学の頃から随分不良だったという噂もあります。それで理佐にはクラスに友達がいませんでした。理佐はみんなに仲間はずれにされている子だったんです。

でも1か月ぐらい前。たまたま学校の帰りの電車が同じになって、その時から理佐と話すようになったんです。

最初は理佐の方から声をかけてきました。電車の中で理佐は私に近づいてくると、こんなふうに言ってきました。

「最近元気ないみたいだけど、どうしたの」

私はちょっとムッとしました。だって、自分では精一杯元気を出してるつもりだったし、他の友達は誰ひとりとして私が悩んでるなんて事に気づかなかったんですから。それが、理佐にだけ見抜かれてしまったっていう事に、私は腹が立ちました。

私は心の中で（余計なお世話よ…）と思っていましたが、口には出さずに、ただ黙っていました。

そんなふうに感じている私にはおかまいなしに、理佐は話し続けました。

「広子最近、時々淋しそうな目するでしょ、私にはわかるんだ…」

（うるさいわね。あなたなんかにいったい私の何がわかるっていうのよ…）

そんな気持ちがもう少しで声になるところでした。それでも私は黙っていました。徹底的に無視しようと思ったのです。

すると理佐はこんな事を、話したのです。

「私、家に帰りたくないんだ。最近、お父さんとお母さん別れちゃってさー。今、お父さんと2人暮らしなんだ。この事って、クラスの子には初めて話すんだけどさー」

理佐は窓の外をボーッと眺めながらそんな事をポツリと言ったのです。

それ以上理佐は何もしゃべりませんでした。

さっきまであんなに嫌だった理佐なのに、なんだか私は、急に理佐とおしゃべりしてみたくなりました。でも何を言っていいかわからず、結局、それ以来2人とも一言もしゃべらずに、駅を出ると、たださよならだけを言って、別々の方向に歩き出しました。

その夜、お父さんはとうとう家に帰ってきませんでした。お母さんはすごくたくさんお酒を飲んでいます。妹は目をはらして眠りました。私の頭の中ではもうひとりの私の声がますます大きくなり始めました。

（つまらない、つまらない、つまらない…）

私はとても淋しくなって、仲良しの知子の家に電話しようと思い、こっそりと電話を玄関から自分の部屋に持って来ようとしました。そしたらお母さんと目が合ってしまいました。お母さんは私に何か言おうとしましたが、酔っ払っていて、うまくしゃべれず、そのまま又お酒を飲み始めました。

私は部屋に入るとひざの上に電話をのせて、知子の家にダイヤルしました。

〝トゥルルル、トゥルルル〟

「はい早川でございます」（知子のママの声）

「あの、新谷ですけど、知子さんいらっしゃいますか？」

「あ、広子さんね、ちょっと待ってくださいね」

（知子のお母さんはいつも優しい）

そして遠くで知子を呼ぶ声。

「知子、知子、広子さんから電話よ」

そして知子の声。

「もしもし」

「あ、あたし、広子…」

「広子？　どうしたの」

「ううん、別に用事じゃないんだけどさ…」

本当は何か相談したかった。でも、とても知子には話せそうになかった。

すると知子が、

「あ、そうそう、ちょうどよかったわ、来週の土曜日、暇？」

「え？　どうして？」

「いいニュースよ。実はさ、うちのパパの仕事の関係でさ…」

（そういえば知子のパパは芸能関係だったわ）

MAKOTO SEKIGUCHI

「少年源氏のコンサートのチケットが2枚手に入ったんだ。広子いっしょに行こうよ…」

私は少年源氏が嫌いじゃなかったけど、今はとてもコンサートに行く気分じゃなかった。なんて答えたらいいかわからないでいると私はどんどん重たい気分になってきました。そして知子に電話した事を、少し後悔しました。私がずっと黙っているので知子は心配したみたいでした。

「どうしたの広子?」

「ううん、なんでもないの、私、来週の土曜日だめなんだ」

「えーそうなの、残念だなー」

「だれかほかのコと行って…」

私は知子がどんどん遠くに行ってしまうような気がしていました。でもひょっとしたらそれは、自分が知子の事を遠くに押しやっていたのかもしれません。

知子が言いました。

「じゃ、また今度手に入ったら誘うからね、その時はいっしょに行こう」

「うん、ありがとう、じゃね」

「バイバイ」

(カツン……ツーツーツー)

電話を切ると、もう1人の私が、こんな事を言ってました。

(二度と誘ってなんか欲しくないわ、こんな時に少年源氏のコンサートの話するなんて、もう知子なんか友達じゃないわ…)

そんな事思う自分がいやでした。でも、もう知子の前で心から笑う自信はありませんでした。

知子の家族はまるで御伽噺のように思えました。優しいママ、コンサートのチケットをプレゼントしてくれるパパ。

それに比べて私の家族は、アル中のママ、そして浮気してるパパなのです。

私は電話をひざにおいたまま泣きました。私はこの涙をなぜだか、ママにも妹にも見せたくありませんでした。私はこっそり泣きました。悲しみを自分の心の奥の方にこっそりとしまいました。

目を閉じると、クラスメート達の幸福そうな顔がうかんできます。

(私ばっかりこんなに不幸……ずるいわよ、ずるいわよ、ずるいわよ…)

私はこんなふうに考える自分が恥ずかしい。でもこの気持ちはもうどうする事もできません。

そんな時、ひざの上の電話が鳴ったのです。

〝ドゥルルル、トゥルルル〟

私は少しドキッとして電話をとりました。

「はい、もしもし」(完全な鼻声…)

電話の向こうから聞き覚えのある声。

「あの…山本ですけど…」

「え? 理佐…」

私の声は少しはずんでいました。

「昼間はなんだか、勝手な事ばっかり言ってごめんね…」

私はそんな理佐の声をもっとはっきり聞きたいと思って、受話器をぎゅっと耳にあてました。

(さっき知子と話してたときは遠ざけたかったのに…)

「私こそさっきは無視してたみたいでごめんね…」

そう言いながら私は自分の気持ちがどんどんやわらかくなっていくのに気づきました。

それから私達は長い時間おしゃべりしました。家族の事、何から何まで打ち明け合いました。そして私は理佐の事を昔からの友達みたいに思うようになりました。

その夜を境に理佐と私はどんどん仲良くなっていきました。毎晩のように電話したし、学校の帰りはいつも待ち合わせをしていっしょに帰りました。

ただ学校の中では以前と同じように私は、今までつき合ってきた友達とおしゃべりしました。

どうしても理佐としゃべる事ができませんでした。私は何故か、まわりの友達に、理佐と仲良くなった事に気づかれたくなかったのです。

私は自分が悲しかった。理佐と仲良くして、仲間はずれにされるのが怖かったのです。

それでも私と理佐はますます仲良くなりました。

学校内での事はお互い触れないようにしていました。理佐は勇気のない私をせめるような事は一言も言いませんでした。私はそんな理佐がとてもいい子に思えて、ますます魅かれていきました。

理佐が中学の時から不良だったという噂はどうやら本当のようです。でも私が心から話ができるのはクラスの中で理佐だけなのです。

ある日、教室で数人の女の子が集まって話をしていました。私もその中になんとなくまじっていました。楽しくもないのに無理に笑ったりしている事に最近少し私は疲れてきていました。

そして誰からともなく家族の話が始まったのです。

「ママがエアロビ始めてさ……」

「あっ、うちのママもよ、それがさー、すっごい派手なレオタードなの」

「いやだ、うちなんかパパもたまにやってるよ」

「ワッハハハハハ」

そんなやりとりの中で、私は自分だけが、沈んでいくのを感じました。そしてもし話が私にふられたらどうしようかと、ヒヤヒヤしました。

(ああ、退屈……くだらない話だわ…)

そう思っていると、今度は知子のパパ自慢が始まりました。

「少年源氏のさ、コンサート、割といい席なんだ、ひょっとしたら楽屋にもいけるかもしれないんだって」

「キャーすごい」

「いいなー」

今やもうひとりの私はすごく大きく、私の中で育っています。そして次から次へとゆがんだ事を私の耳の後ろでささやくのです。

(知子の声ってなんて下品なのかしら。パパの自慢を教室中に響かせて、何が楽しいのかしら。最低……)

私はうわべだけひきつって笑いながらも、ふっと教室の隅にいる理佐の方に目をやりました。

理佐はこっちを見ていました。優しい目でした。私は池におぼれた子供のようにこの会話の洪水の中でもがいています。ただ、私の苦しみがわかっているのはこの教室の中でただ1人。

それは理佐だったんです。

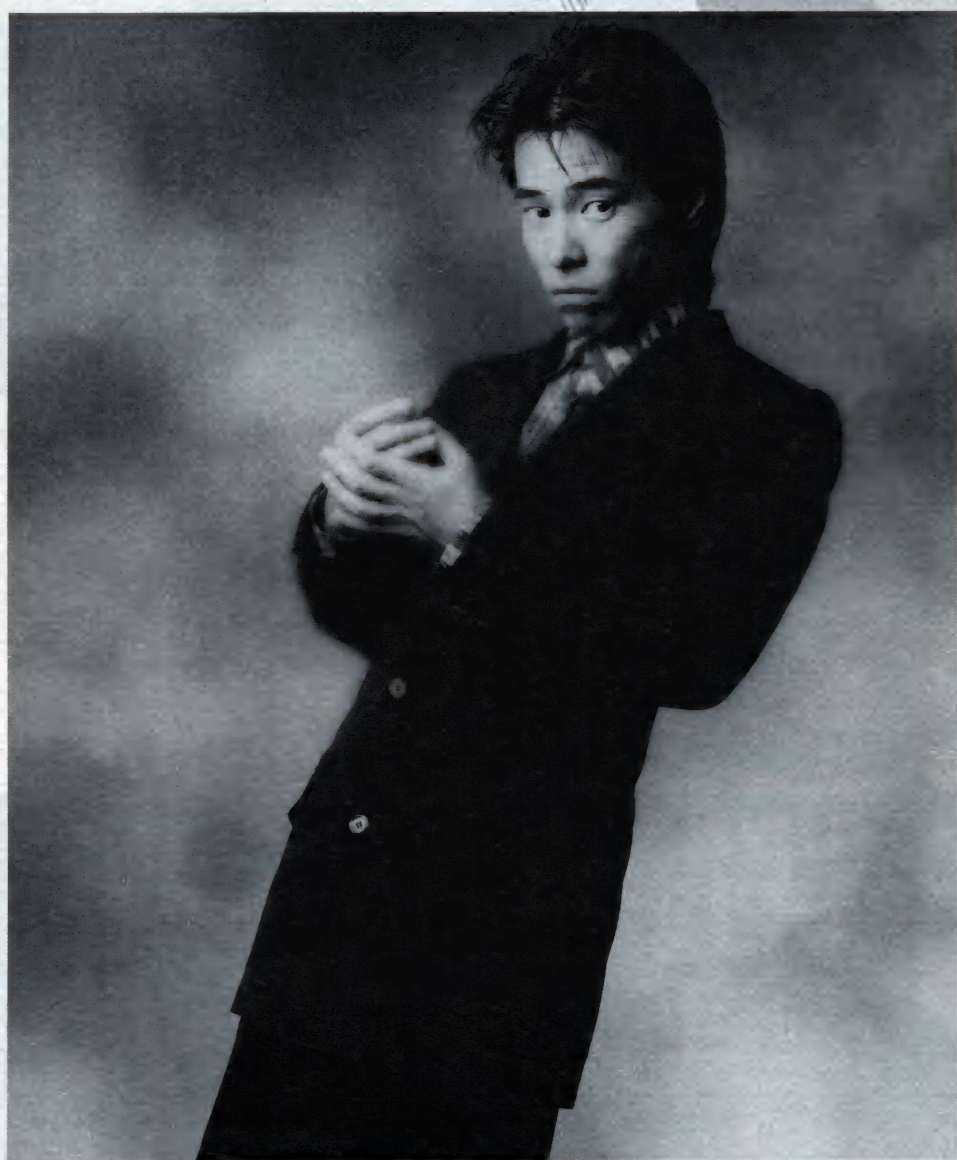
私はその輪の中で突然立ち上がりました。そして、理佐の方に歩いていくと、理佐の手をとって、教室の外に出ていきました。

みんなは何が起きたかわからずに、ただア然としていました。

チャイムが鳴り、次の授業の始まりです。理佐と2人で教室に戻ると、教室内のムードは完全に変わっていました。

私はこの日を境に堂々と理佐と仲良くするようになり、そして私と理佐はクラスの中で完璧に孤立しました。

私は学校の友達、そして家族、ひょっとしたら世の中すべてに背中を向けて、ただ理佐にだけ、本当の顔を見せるようになっていったのです。

この時、もうひとりの私が、遂に私の体をのっとったのです。

WONDER BOOK

9月21日、レピッシュの3rd.アルバム『WONDER BOOK』が遂に出る。そこでMAGUMIを呼び出し、インタビューなどしてみたりする。さらに『WONDER BOOK』を深く知る。あとはもう、聞くしかない。買うしかない。一緒に歌ってみるもよし。もちろん踊ってみるもよし。『WONDER BOOK』は面白く、危険で愉快でやがて悲しい。そして嬉しい。

PHOTO●FUMIO NAKAGAWA　COPY●MISATO KONDA

お久し振りのMAGUMIである。お久し振りすぎて30分以上も遅刻してくるなど、相変わらずのノリを見せているが、(笑) 9月21日にリリースされる2ndアルバム『WONDER BOOK』は、相変わらずだなあ、だけでは済まされないパワーを秘めていたりする。さすが、『現代時手帖』に天才集団として取り上げられた人達だ。いくらライブでは笑いを取る方に神経が集中していたって、やる時はやるんだなあ、などと感心なんかしたりして。

パコーンと抜けきったホーンが快適に響く「OUR LIFE」から始まり、とても繊細であったかいアコースティック・ナンバー「room」までの全11曲、どれもが彼らの気持ちであり、汗であり、知力であり、シャレであり、バカさであり、センスである。1stの時にはうまく表に出てこなかったメンバー全員の〈カラー〉が、今回はきれいに、スパッと出たように思う。

それゆえに、本来のパンク・スピリットにアーティスティックな要素がバランスよくブレンドされ、一層作品に幅が生まれたし、バンド・サウンドとして随分たくましくなった。ライブでガーッと騒ぎまくってハイ、おしまいっつー軽いリズムではなく、いつまでも身体が覚えているような深くて少々やっかいなリズムが、このアルバムをガシッと支えている。ホント、音だけを聞くと、例えばMAGUMIなどはえらくカッコイイ、とても頭のキレるボーカリストのような気がしてくるのだから、とんでもなく偉大なアルバムだということがわかってもらえるだろう。

——やっとできたね。

「そうですね。当然のように素晴らしいアルバムができました。カッカッカ」

——『WONDER BOOK』っていうタイトルは、幼稚園の頃読んだ音楽の絵本の名前から取ったらしいけど。

「ワンダー・ブックとかキンダー・ブックとかあったでしょ。童謡の入ったソノ・シートがついた絵本みたいなやつ。俺はあまり使った記憶がないんだけど、現ちゃんはよく覚えてるって、(笑) ここに年齢の差が出てしまったんだけど、(笑) 今回、子供の視点から見た話とか子供を題材にしたものが多かったから、ちょうど雰囲気的にいいんじゃないかってことで」

——でも、MAGUMIの書く詞って、直接的に子供を感じないなあ。

「俺はシブイんだよ。(笑)、俺は、今現在の自分の心境を書くタイプだからね」

——でも、子供ってことは言い変えると、素直に物事を捉えるってことかもしれない。

「うん、そうだろうね。そういった意味じゃ、どの曲も素直だと思う」

——あと、すごく純粋だったりとか。

「レピッシュは、音を作り出すすべての過程においてはものすごくマジメにやってる。他は全部ふざけてるけど。(笑) あ、でも俺は基本的にいつもふざけてる (笑)」

——それにしてもボーカルがうまくなった。

「俺は昔から歌がうまいんだ。ただ、昔は踊りの方に気合いが入りすぎて、歌に集中できなかったんだ (笑)」

——曲ごとに表情があるというか。

「まあ、〝爆裂レインコート〟は自分でも別人かと思いましたけど (笑) なんて、本当は現ちゃんが歌ってるんだけど (笑)」

——ボーカルの座を1曲にせよ奪われてしまった心境は。

「そろそろいいんじゃないかと思ってたから。それに、ライブの時でも人が1曲歌うとラクじゃん (笑)」

——すごく時間をかけて作ったアルバムだよね、これって。

「新人にしては、長かったような気がする (笑) でも作曲期間をもうけられても、そ

LÄ-PPISCH MAGUMI

のプレッシャーに負けて作れないんだよね、あの人達は。(笑) 俺は、曲ができて書いてくれって言われた時にすぐ書くけど」

——すごいじゃん。すぐ書けるなんて。

「うん、安易なんだよ(笑) ていうか、月末にも余裕で金を持っていたいタチだから」

——へ?

「だから、月末だからって金がなくて困るのがイヤなの。いつも心に余裕を持っていたいんだよ、俺は。(笑) で、そういう感じで詞も書くと。ギリギリになって詰め込むとダメなんだよ。手直しできる余裕がないと。俺、書く時は酒飲まない。飲むと、いろんな事が浮かびすぎちゃって深読みしちゃうんだよ。収集がつかなくて頭が混乱してくる」

——すごくナイーブな世界とノーテンキな世界との差がすごいよね。例えば、「Tears」と「BANANA TRIP」とか。

「俺の場合、ちょっと作詞が職人っぽくなってるから。(笑) その曲に合ったものを自分の中からストレートに出すっていう。曲のイメージで書くからね。1曲1曲に対して頭を切り換えるんだけど、その切り換え方が他人より激しいんだろうね。だから180度違うもんができるんじゃないかな」

——1stから2ndまでの間って、ライブの印象しかないわけでしょう。あの、MAGUMIがMCでトバしまくるブッちぎれた楽しいライブの(笑) それを考えると、このアルバムって、すごくオトナっぽい。

「ああ、なるほどねえ。レコーディングは精神的に落ち着いた状況の中でやってるし。動きが見えない分、すみずみまで神経を尖らせなきゃいけないし。ただ、これはエンジニアの人に言われたんだけど、1stの頃に比べると演奏がうまくなりすぎて、ハチャメチャな破壊力に今ひとつ欠けちゃうって。うますぎてつまらなくなったって言われてもなあ。(笑) でも、そこのバランスが難しいよね。だから、うちって絶対うまいだけじゃいけないんだと思う。やっぱり、どこかバカじゃないと(笑)」

——MAGUMIと現ちゃんがいれば大丈夫だよ、きっと。(笑) MAGUMI自身はアルバムのことをどう思ってる?

「もしかしたら、レピッシュの秀作なのかもしれない。レピッシュのオイシイ時期っていうか、旬の作品っていうか。とりあえず、今のレピッシュのベスト。でも、これからまた、どんどんうまくなっていくだろうしね。うちの場合、楽曲のグレイドは落ちないと思うし。だから、今は丁度油がのってきたところなんだろうね、きっと」

「最初、客観的に今回のアルバム聞けなかったんだけど、近頃聞いてみると全体的に力強い音だなと。バラエティに富んでるんだけど、ちゃんとまとまってるし。特にB面の流れは好きだね。A面は、1曲1曲のメロディが強烈すぎたかなって」

——1曲ごとに世界がありすぎて、逆に少しぎこちない感じがする。

「そう。洋楽のベスト盤に似たぎこちなさがあるんだよ。1曲1曲すごくいいのが入ってるんだけど、よすぎちゃって詰め込まされすぎたような感じがしちゃう。A面って、そういう我の強い曲ばっかりだからぎこちないんだよ。聞くのに時間かかるし。B面はあっという間に終わるのに」

「普通デビュー・アルバムって勢いがあるもんでしょ。で、2枚目3枚目っていくにしたがって、落ち着いていっちゃう。俺、そうなるのがすごくイヤだったんだけど、ちゃんとトゲを感じさせるものができたんでよかったなと。かといって、ひねくれて作ったんじゃなく、すごくリラックスした上で自然に作った結果だから」

——いいアルバムであると。

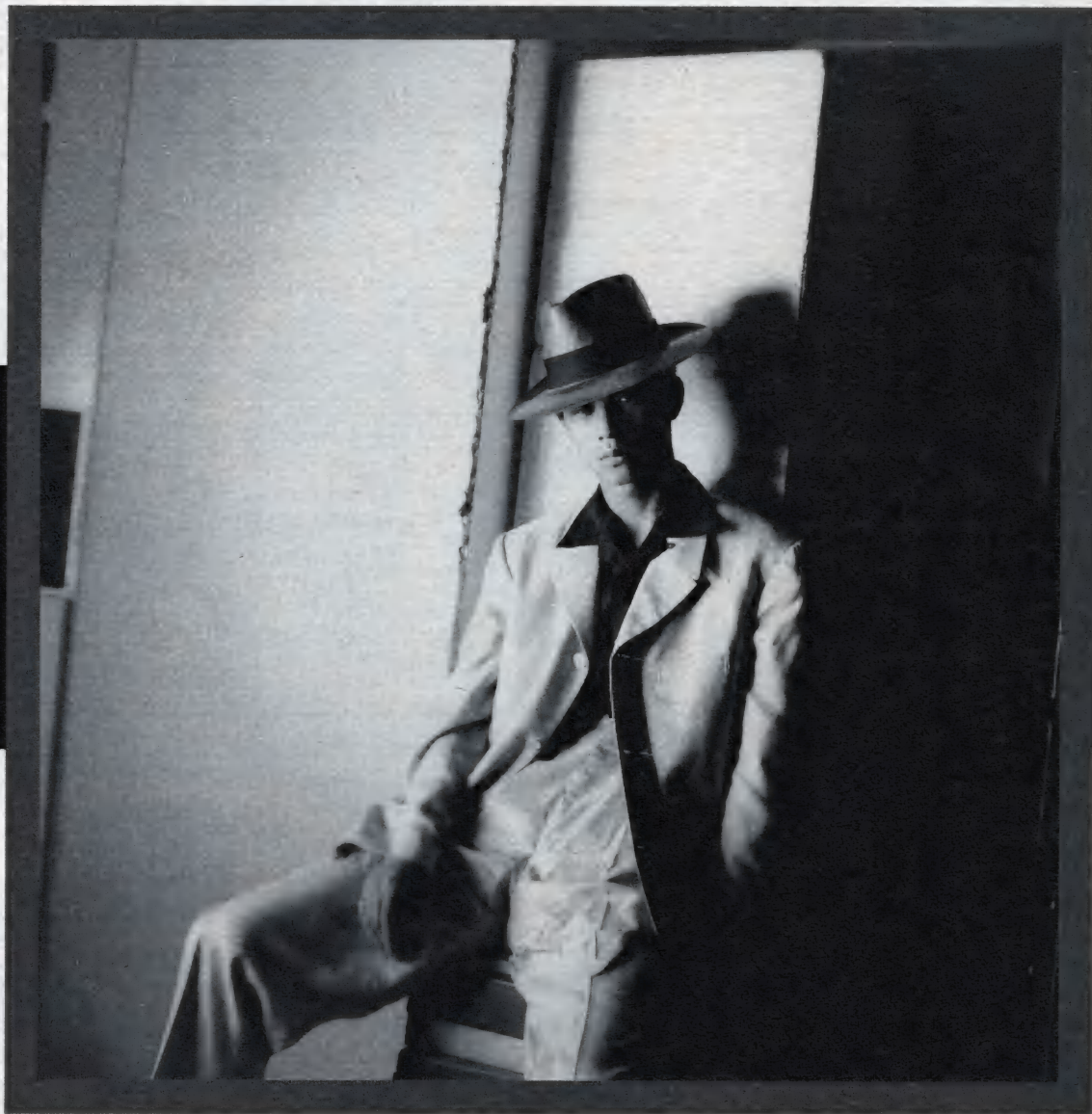
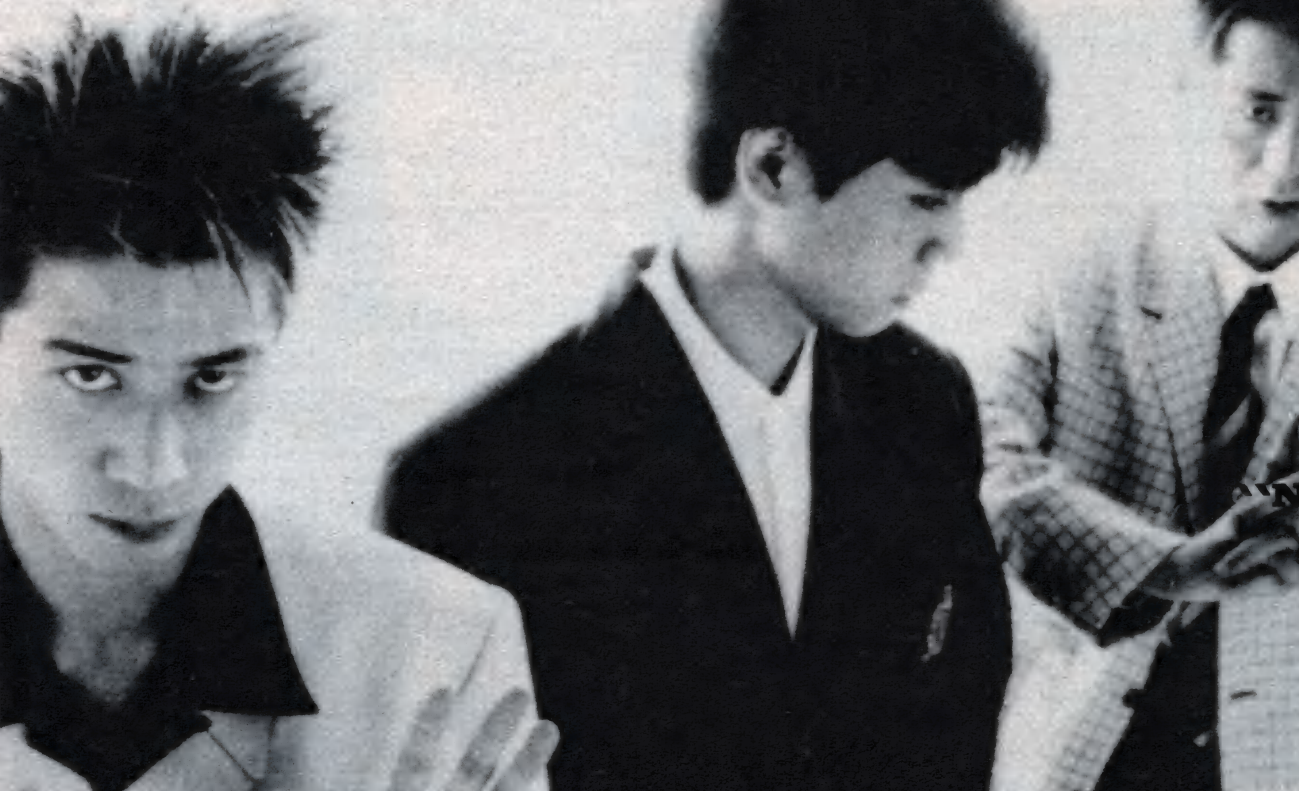
「そう。もちろん。カッカッカ(笑)」

LÄ-PPISCH

PISCH

く¥

い！NO NEY

キングオブポコチンロック！ レピッシュがまあて〜んと太っ腹でやってくれる！ レピッシュの2ndアルバム「WONDER BOOK」発表をお祝いして右記の場所でなんとタダでライブに招待してしまおうとゆーワケ。レピッシュのことを知ってる人はもちろん、レピッシュの提唱するポコチンロックとは何か？ レピッシュさえも知らない君にこそ体験してもらいたいライブだ！ 右記のレコード店で入場券が配布されるので、詳しくはお店で聞いて下さい。なおタダでレピッシュのあのライブが見られると思って甘えんなよ！ しかとアルバムを予約する位いの太っ腹なところもみせてもらいたいもんだ。とにかく入場券には限りがあるので急ぐのがポコチンロック!!

"NO MONEY GIG" お問い合せ店名

<札幌会場>

札幌市	キクヤ	011(271)5571
	玉光堂四丁目店	011(231)5501
	〃 オーロラタウン店	011(231)8865
	〃 ポールタウン店	011(231)8880
	〃 ススキノ店	011(231)8840
	〃 琴似店	011(643)4228
小樽市	〃 花園店	0134(23)6184
	〃 駅前店	0134(34)3388
苫小牧市	ウエスト	0144(34)9743

<仙台会場>

仙台市	大一楽器	022(266)2626
	サイトー楽器本店	022(222)8054
	音好堂	022(246)4766
	スーパーレコード	022(222)2021
	三立一番町店	022(265)6211
	ヤンレイ仙台店	022(267)4379
	ハマノ・フォーラス店	022(264)8056

<神戸会場>

神戸市	星電社本店	078(391)8171
	パレックス三ノ宮店	078(391)7911
	星電社サンチカ店	078(391)3904
大阪市	大月楽器阪急ファイブ	06 (312) 9169
	ダイガ	06 (315) 8421
	ミヤコ心斎橋店	06 (271) 3891
	ミヤコなんばシティ	06 (644) 2541
	プランタンなんば店	06 (633) 0077
	新星堂なんばシティ	06 (644) 2822
	ワルツ堂梅田店	06 (374) 0790
	三木楽器アポロ店	06 (649) 4167
京都市	十字屋四条店	075(221)2541
	十字屋河原町店	075(221)5466
	ピックアップ河原町店	075(211)1552
明石市	星電社明石店	078(917)5555
姫路市	星電社姫路店	0792(88)1717
	姫路レコード本店	0792(82)0568
枚方市	ワルツ堂くずは店	0720(56)5347

<広島会場>

広島市	河合楽器	082(243)9291
	ダイイチ本店	082(247)9111
	ヤマハショップ	082(248)4511
	楽器センター	082(248)1766
	紀ノ国屋レコード部	082(222)3250
	メロー	082(244)5030

LÄ-PE
O>

9・21 ON SALE
NEW ALBUM
"WONDER BOOK"

WONDER
BOOK

LÄ-PPISCH

CD:VDR-1548 ¥3200
LP:VIH-28345 ¥2800
CA:VCF-10372 ¥2800

レピッシュ ニューアルバム
「WONDER BOOK」
発売歴史的記念イベント
"NO MONEY GIG"

9・26 仙台フォーラスモーニングムーン
START 6:30 ☎AVC仙台(0222)67 5611
9・29 札幌メッセホール
START 6:30 ☎AVC札幌(011)261-6461
10・3 広島ウィズワンダーランド
START 6:30 ☎AVC広島(082)243-7131
10・4 神戸フィッシュダンスホール
START 7:00 ☎AVC大阪(06)315 7141

NEW SINGLE NOW ON SALE
「リック・サック」
CD:VDRS-1070 ¥1000
EP:VIHX-1748 ¥700

タダだから来い
MON
GIG

Victor
JVC

あの娘、朝からずっと作詞家志望

CBS/SONY PRESENTS

CBS/SONY RECORDS CBS SONY

DAYS VIDEO JAM

Special VIDEO Free Rental

いま話題のアーティストのスペシャル・ビデオを無料レンタル!

久保田利伸、ニューアルバムを語る。

9月30日、いよいよ久保田のサードアルバム"Such A Funky Thang!"がリリースされる。そこで、だ。DAYSではその前祝いとして、ニューアルバムについて久保田自身が語ってくれたトークビデオをレンタルすることにした。セカンドアルバム「GROOVIN'」が好評だっただけに、ニューアルバムへの期待は当然大きいのだが、ハッキシいって心配はない。"今度のはスゴイ"というのが、もっぱらのウ・ワ・サである。録音はロサンゼルスの小高い丘の上の木造スタジオ(んー、ニュアンスを感じる)。あのアース・ウインド&ファイアーやオリビア・ニュートン・ジョンもレコーディングしたことのあるという由緒正しいスタジオなのだ。というわけで話が長くなったが、とりあえずDAYS VIDEOで久保田のメッセージにふれておけば、ニューアルバムがいきなり深く理解できたり、"オレは事情通さ"などとフレンドに自慢できたりもする。よろしく。

【久保田利伸 (カラー ステレオ 40分) 9・17(SAT)RENTAL START】

NEW ALBUM Such A Funky Thang! 9.30 ON SALE ▶予約特典:ポスター&ステッカー封入

※DAYS VIDEOのこれまでのラインアップも好評レンタル中!

レンタル方法▶借り方はいともカンタン。自分を証明できるもの(学生証etc.)を下記レコード店へ提示し、「DAYS VIDEOを借りたい」と言うだけでOK。ただし、はやくレコード店へ行かないと少し待たなくてはならないので要注意。貸出し期間はひとり3日間。

地区	店名	電話
北海道ブロック		
札幌	玉光堂オーロラ・タウン	011(231)8866
札幌	玉光堂4丁目	011(231)5501
札幌	玉光堂ポールタウン	011(231)8880
札幌	キクヤ	011(271)5571
札幌	そうご電気YES	011(214)2840
札幌	山野楽器札幌パルコ店	011(214)2273
札幌	玉光堂琴似	011(643)4228
札幌	サウンドワールド新札幌店	011(892)6111
旭川	ディスクポート小路	0166(22)5706
旭川	MS国原二条店	0166(23)5266
苫小牧	レコードショップウエスト	0144(34)9743
小樽	玉光堂花園	0134(23)6184
小樽	玉光堂駅前	0134(34)3388
帯広	玉光堂帯広	0155(22)0888
釧路	ミサキレコード	0154(23)3371
函館	玉光堂松風	0138(27)0888
函館	MS国原函館長崎屋	0138(45)4100
滝川	サクラ商会	0125(24)8909
北見	棚田レコード	0157(23)1233
深川	北川音響	01642(2)7100
東北ブロック		
青森	新星堂青森	0177(34)3272
青森	ビーバップ(丸啓金正堂)	0177(23)2616
青森	音楽堂	0177(23)2828
弘前	JOY POPS	0172(32)3041
三沢	古田電気	0176(53)2181
八戸	新星堂八戸	0178(45)6504
盛岡	新星堂盛岡	0196(54)7862
盛岡	東山堂楽器店	0196(23)7128
北上	北上正時堂	0197(63)3408
仙台	三立一番町	022(265)6211
仙台	フリーウェイ仙台(スーパーレコード)	022(222)2021
仙台	新星堂仙台	022(261)1251
仙台	ヤンレイ仙台	022(267)4379
仙台	浜野フォーラス	022(264)8056
仙台	ジャスコスクラム	022(373)3887
古川	レコード・ショップセブン	0229(23)1635
秋田	フリーウェイ秋田	0188(32)1616
山形	新星堂山形	0236(42)2131
福島	フリーウェイ福島	0245(24)1166
福島	ざ・らんど	0245(22)9178
郡山	帝都無線郡山	0249(39)1591
郡山	新星堂郡山カルチェ5	0249(34)4818
会津若松	レコードのサトウ	0242(27)9291
会津若松	フレンズ	0242(26)9878
いわき	天地堂駅ビル	0246(23)1245
関東・甲信越ブロック		
渋谷	ディスクユニオン渋谷1号	03(476)2627
新宿	新星堂新宿	03(354)1831
新宿	山野楽器新宿小田急	03(342)1111
新宿	帝都新宿ミロード	03(349)5633
銀座	銀座山野楽器本店	03(562)5051
池袋	五番街TOB 10F	03(985)6824
蒲田	名豊ミュージック蒲田	03(735)9155
上荻	新星堂荻窪ルミネ	03(392)8770
品川	新星堂高輪ウィング	03(443)3287
高田馬場	ムトウ楽器本店	03(209)1515
錦糸町	ディスクポート錦糸町	03(846)0111
吉祥寺	山野楽器吉祥寺サンロード	0422(21)3610
多摩	ディスクハロー桜ヶ丘	0423(76)3583
府中	府中名曲堂北口	0423(63)5111
立川	キクイチ立川	0425(24)3943
八王子	新星堂八王子	0426(22)8325
町田	鈴木楽器町田中央	0427(28)6181
川崎	帝都無線川崎モアーズ	044(222)7356
川崎	新星堂川崎	044(211)2225
川崎	新星堂武蔵小杉	044(711)0227
向ヶ丘	すみや向ヶ丘	044(922)5391
溝の口	新星堂溝の口	044(811)0522
横浜	新星堂横浜ジョイナス	045(321)6830
横浜	シアル音楽館	045(311)1281
横浜	新星堂横浜ポルタ	045(453)6374
横浜	帝都MP横浜	045(453)6671
戸塚	ハマヤ戸塚本店	045(864)8282
上大岡	新星堂上大岡	045(844)1317
綱島	リッスン一番	045(542)1710
鶴見	オデオン堂カミン	045(511)9739
港南台	新星堂港南台	045(832)1361
厚木	レスポック	0462(30)3232
海老名	中村屋ギンセイ海老名	0462(33)7226
小田原	新星堂小田原	0465(23)0576
湘南	すみやMI湘南ライフタウン	0466(88)3703
茅ヶ崎	新星堂茅ヶ崎ルミネ	0467(87)3834
横須賀	ヤジマレコード本店	0468(22)0536
久里浜	ヤジマレコードWING久里浜	0468(36)1126
相模原	新星堂相模原	0427(58)5701
志木	新星堂志木	0484(74)0153
大宮	山野楽器大宮そごう	0486(46)2529
大宮	ヤマギワ大宮	0486(41)7325
大宮	ヤンレイ大宮	0486(45)5373
浦和	ラオックス浦和	0488(24)5311
春日部	新星堂春日部	0487(54)2111
熊谷	新星堂熊谷	0485(25)4508
深谷	新星堂深谷	0485(72)7155
川越	山野楽器川越丸広	0492(24)1111
所沢	ディスクポート所沢	0429(27)0111
柏	新星堂柏カルチェ5	0471(64)8760
千葉	すみや千葉	0472(27)1159
松戸	ヤンレイ松戸	0473(66)1294
市川	ヤンレイ市川	0473(26)5505
船橋	ヤンレイ船橋	0474(24)4481
船橋	イトウMC VIV	0474(25)0706
津田沼	新星堂津田沼	0474(79)3111
八千代台	イトウ八千代台エルム	0474(85)6680
市原	ラオックス市原	0436(21)5331
静岡	すみや本店	0542(51)1234
富士	すみや富士	0545(63)2233
御殿場	すみやMI 御殿場	0550(84)1412
沼津	すみや沼津	0559(63)6130
島田	すみや島田駅前	05473(5)3220
函南	すみやMI 函南	05597(8)7377
伊勢崎	N.Nナガシマ	0270(25)7291
前橋	新星堂前橋	0272(33)2111
高崎	新星堂高崎	0273(27)3963
富岡	エスエス楽器	02746(2)0683
水戸	フジディスク	0292(31)0805
土浦	三光社土浦	0298(21)2087
宇都宮	新星堂宇都宮	0291(33)2334
足利	ハマダ	0284(41)2301
小山	ヤンレイ小山	0285(24)0131
甲府	新星堂甲府駅ビル	0552(24)3930
長野	新星堂長野駅ビル	0262(24)2576
松本	新星堂松本	0263(36)2534
松本	ナガサワ本店	0263(34)1427
飯田	平安堂	0265(24)4545
諏訪	ヤマザキ	02665(2)5232
上田	琴光堂	02682(2)0470
新潟	ツモリ新潟	0252(28)2441
上越	多田金	0255(23)4360
長岡	島津レコード	0258(32)2017
大和	オダギリ楽器	0462(61)3007
青梅	マイナー堂楽器店	0428(22)3926
横浜	タチバナ楽器六角橋本店	045(432)0052
横浜	タチバナ楽器あざみの店	045(901)1611
浦安	レコードショップシブヤ	0473(52)1031
松戸	シブヤ楽器	0473(87)1566
上尾	マスヤ西口	0487(73)1751
北浦和	ぶれえめん	0488(22)1912
新潟	サウンドワールド(ダイエー内)	025(246)5381
渋川	サンコー	0279(22)0436
中部・北陸ブロック		
名古屋	名豊ミュージックショップ栄	052(251)6787
名古屋	新星堂セントラルパーク	052(971)0878
名古屋	ヤマギワメルサ	052(582)2022
名古屋	愛曲楽器近鉄	052(561)2047
名古屋	音楽堂今池地下店	052(731)4353
名古屋	新星堂栄	052(252)1786
名古屋	おんがく舎一社	052(703)0257
名古屋	玉音堂大名古屋	052(561)2966
名古屋	ビックオレンジ	052(732)0062
豊橋	名豊ミュージックショップ豊橋	0532(55)5754
西尾	長谷川レコード	0563(57)2389
岡崎	大衆堂本店	0564(22)0186
岡崎	大衆堂248	0564(21)7088
豊田	新星堂豊田	0565(27)6100
知立	大衆堂知立	0566(82)7733
春日井	新星堂高蔵寺	0568(92)1903
半田	マツイシ楽器	0569(23)3158
半田	新星堂乙川	0569(22)5386
一宮	アカツキ一宮	0586(72)2679
浜松	名豊ミュージックショップ浜松	0534(52)6888
浜松	イケヤ本店	0534(52)5151
浜松	イケヤ文楽館	0534(71)7550
浜松	すみや佐鳴台	0534(55)2442
浜松	キクイチ浜松	0534(57)4163
松阪	村林楽器松阪	0598(21)1030
四日市	白揚本店	0593(51)0711
四日市	北勢堂四日市	0593(53)0148
四日市	白揚笹川	0593(47)2839
鈴鹿	シェトワ白揚鈴鹿	0593(82)5221
大垣	新星堂大垣	0584(75)6193
大垣	電波堂本店	0584(78)6687
富山	ディスクランド フクロヤ	0764(24)3931
富山	フクロヤ楽器本店	0764(25)3513
高岡	開進堂	0766(21)1025
福井	松木屋本店	0776(24)1388
敦賀	オーディオ渡辺	0770(22)3456
金沢	山蓄香林坊109	0762(20)5010
金沢	新星堂金沢	0762(20)1111
金沢	VAN VAN樫町	0762(22)5125
石川郡	山蓄野々市店	0762(48)0117
近畿・四国ブロック		
大阪	新星堂難波	06(644)2822
大阪	三木楽器アポロ	06(649)4167
大阪	ミヤコナンバシティ	06(644)2541
大阪	ミヤコ本店	06(271)3891
大阪	大月楽器阪急ファイブ	06(312)9169
大阪	ワルツ堂京阪モール	06(353)3079
大阪	ミュージックスペースダイガ	06(315)8421
大阪	パレックスプランタンナンバ	06(633)0077
大阪	ワルツ堂梅田	06(374)0790
大阪	上新電機ディスクピア	06(634)1161
大阪	紀伊国屋書店レコード・コーナー	06(372)5821
大阪	ワルツ堂虹のまち	06(211)7805
大阪	ミヤコ虹のまち	06(213)6129
吹田	新星堂吹田	06(383)5770
豊中	新星堂千里中央	06(834)9113
豊中	前田楽器豊中	06(849)8480
門真	新星堂古川橋駅前	06(909)4312
東大阪	フミレコード鴻池	06(745)1332
堺	レスポック	0722(22)4737
堺	山吹電気堺東	0722(21)2888
枚方	ワルツ堂くずはモール	0720(56)5347
寝屋川	レコードショップ二光八坂	0720(25)0706
交野	イワキ交野	0720(93)4156
岸和田	ヤングレコード	0724(38)1285
藤井寺	新星堂藤井寺	0729(39)9386
八尾	ディスクポート西武八尾	0729(97)5537
茨木	フミレコード阪急茨木駅前	0726(26)3723
高槻	新星堂グリーンプラザ高槻	0726(83)1741
高槻	エリート	0726(82)0510
神戸	星電三宮本店5Fレコードコーナー	078(391)8171
神戸	パレックス	078(391)7911
神戸	大蓄名谷	078(792)5078
神戸	星電サンチカ	078(391)3904
明石	星電明石	078(917)5555
尼崎	新響楽器本店	06(413)0717
伊丹	星電伊丹	0727(73)0551
姫路	姫路レコードOS	0792(82)3245
姫路	星電姫路本店	0792(88)1717
加古川	POPs イン ミヤコ	0794(21)0510
相生	姫路レコード相生	0791(23)1763
芦屋	大蓄ラポルテ	0797(38)2510
西宮	星電西宮北口	0798(64)3232
京都	ピックアップ河原町	075(211)1552
京都	十字屋河原町	075(221)5466
京都	十字屋ポルタ	075(343)3225
京都	清水屋	075(221)0272
京都	ビーバーレコード四条京極	075(255)0734
京都	ディスクポート西武山科	075(592)9770
福知山	三幸商会福知山	0773(23)3380
守山	北田レコード本店	0775(82)3251
草津	十字屋草津	0775(63)0669
彦根	旭ミュージックセンター銀座	0749(22)2254
橿原	十字屋橿原近鉄	0744(25)1111
大和郡山	啓林堂郡山	07435(3)8001
和歌山	イワキ本店	0734(31)0236
和歌山	イワキステーション	0734(24)8271
田辺	クリヤマレコード	0739(24)5555
高松	タマル本店	0878(61)2400
丸亀	大阪屋丸亀	0877(22)5897
松山	デューク松山	0899(43)6660
松山	ハマオカ楽器	0899(41)3522
高知	デューク高知	0888(25)2505
徳島	元町レコード	0886(25)3600
中国ブロック		
広島	カワイショップ	082(243)9291
広島	帝都広島	082(225)3250
広島	音響堂フジ広島店	082(247)5260
福山	中国ヤンレイ	0849(25)0629
呉	音響堂本店	0823(21)4311
東広島	音響堂フジ東広島	08242(2)5244
三原	フクハラレコード	08486(4)6464
尾道	ディスク33杉原	0848(25)3344
岡山	大蓄岡山	0862(33)5191
岡山	帝都無線岡山	0862(31)6666
岡山	ミュージックショップイデイ	08694(3)0236
倉敷	インディスク	0864(22)1457
倉敷	コア富山	0864(22)1549
倉敷	新星堂倉敷	0864(21)1002
津山	ヤングスター	08682(3)5383
山口	OK無線AVセンター	0839(22)3455
徳山	スズヤ銀座店	0834(22)0623
下関	ホッタ楽器	0832(23)0688
下関	新星堂下関	0832(31)7010
宇部	アルファ	0836(21)7734
鳥取	セイコ	0857(27)6540
米子	大蓄米子	0859(33)8411
倉吉	三響楽器駅前店	08582(6)0305
松江	スイング駅通店	0859(24)3627
出雲	アツタリズム	0853(23)6617
九州ブロック		
福岡	クッキン	092(721)1852
福岡	ヨシダ楽器本店	092(681)6050
福岡	ベスト電器福岡店6F	092(781)7131
福岡	ヨシダ楽器ダイエー店	092(662)1121
福岡	サウンドヒロカネビブレ店	092(711)1021
福岡	サウンドワールド福岡店	092(721)5411
福岡	九州ヤンレイ	092(411)3851
春日	春日原レコードハウス	092(581)2843
筑紫野	二日市レコードハウス	092(924)5561
北九州	レコードショップ・ウィーン	093(642)4588
北九州	前田楽器	093(521)3629
久留米	シティワルツ	0942(32)2283
直方	レコードハウスぽぷら	0949(24)1191
熊本	マツモトレコード	096(352)5671
熊本	ムラヤマレコード	096(383)1780
熊本	ウッドストック	096(325)2503
熊本	メロディハウス下通り	096(325)1278
熊本	ウィンドシップ	096(356)7046
八代	成電社	0965(34)2759
佐賀	レコードショップ・トム	0952(26)3838
長崎	アトムレコード・ハーモニー	0958(27)2424
長崎	コタニ長崎	0958(27)4065
長崎	ダイイチ浜電気	0958(26)4151
大分	エトウ南海堂パルコ	0975(37)0735
大分	大分エトウ南海堂	0975(36)5273
大分	大分リズムレコード	0975(36)0387
大分	OBSサービス	0975(34)1700
別府	別府エトウ南海堂	0977(22)0827
宮崎	西村楽器本店	0985(24)4141
宮崎	西村楽器宮交シティ店	0985(51)1311
都城	西村楽器都城店	0986(24)2156
鹿児島	鹿児島十字屋	0992(25)3131
鹿児島	ミュージックギャラリー・フルカワ	0992(22)2321
国分	宮田カンパニー	09954(6)1200
沖縄	高良レコード	0988(63)3061

米米CLUB ニューアルバム "GO FUNK" 9.21 ON SALE

CD 32DH5117 ¥3,200 LP 28AH5117 CA 28KH5117 各¥2,800

DAYS OFFICE 03(260)2391

インフォメーションセンター (受付:土、日を除く毎日AM9:30〜PM6:00) DAYSに関するご質問は右記へどうぞ。

- 北海道地区 011(231)7571
- 東北地区 022(261)1491
- 関東・甲信越地区 03(266)5979
- 中部・北陸地区 052(221)8735
- 近畿・四国地区 06(532)2361
- 中国地区 082(228)8138
- 九州地区 092(712)6571

Welcome to The BEAT GARDEN DELUX

改名! なんつって、何を大ゲサな しかしなあ、な、な、な、なんだとぅお〜う、BEAT GARDEN DELUX ぅ〜 もうちょっと、マトモでオリジナリティあふ れるタイトルってありませんでしょうーか? 長い雨と群発地震と原発でアタマに来たかと思われるではないか それにデラックスて、前とどう違うってんだい もーこーなったら他人から言われる前に何でも言ったる! ケッ! ケッ! ケッ! だ!!(ナオト興奮過多反省する) トランキライザー後、落ちついて、唐突に、実はですね、このたびライターのMOMO先生が BEAT GARDEN CLUB をご卒業なされました パチパチシクシク…… これは事件です たもんで、ニュー・フェイスのライターさんもいらっしゃるし、タイトルも変えて心機一転……とはいえ、BEAT GARDENの名には愛着あるし、ごひいきも多いし、じゃ、CLUB をDELUXに変えたら? とゆーどっかにありそな安直なナオト案は誰もが見て見ぬふりして可決されたのです (編集長はエラかった) さて、今日は新しい出発にあたって、おニューのライターさんの他に、メインのスタッフをあらためて紹介しまする

Youya
「ユーヤと呼んでくれ」と言われたので、ウチダさんですか? と聞きかえしてしまったとゆーのはジョークで、MOMO に続いてライター先生は女の子です。まだ学生さんのようで、無事卒業してもらいたいもんです。

マッキー牧元
笑っても怒っても楽しそうなマッキー・スマイルで君もイチコロ! インビテーションのかけこみ寺でもあります。(どーゆー意味だよ) ああ、神様仏様マッキー様ァ。

丸木サン
このページを作成するのにかかわっている人の中で最もナオトが迷惑かけているお人なのです。ナオトの限りなく大ザッパなレイアウトをキレーイにデザインし直してくれます。おまけにヒゲも生えてます。

JB小せサン
なんで JB なのか忘れました。彼は画家です。マッキーとか、広告のイラスト描く人です。ただナオトを描いてもらったらえらいオヤジだったので没にしました。(ナオトのイラストは元インビテーションのデスクの NABO ちゃん作です。)

ナオト
最後にボクです。BEAT GARDEN DELUX、突然コーナーが消滅したり、始まったり、大騒ぎなわけですが、気にせず、アバウトに見守ってくださいまし。

invitation

インターナショナル

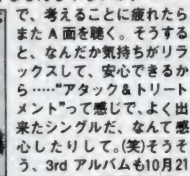
さて、まずは、ちょっと悲しい News から。7月22日から予定されていた麻里ちゃんのよみうりランド East でのライヴだが、ロスから器材が届かなかった為(んんっ一体どんなすんごい器材使ってるんだ!?) 中止になってしまった。それにしてもインターナショナルな麻里ちゃん。インターナショナルついでに、お次は嬉しい News!!
先月もお伝えしましたが、NHK のソウル・オリンピックのテーマ&イメージソングを歌うことになった彼女の New Siagle のタイトルが決定しました。その名も「Heart & Soul」さすがに天下の日本放送協会(通称 N.H.K.) つぅーわけじゃないと思うけど、大胆なタイトルで迫まってきましたねぇ〜。どんな曲かはアタシもまだ聴いていないのでわかんないけど、この本が発売される頃にはリリース済(9月7日発売)なのでみんなして聴いてちょーだいね!! まっ N.H.K. のテレビでもラジオでも、衛星放送でもオリンピック番組の度に流れる訳だから、自然と耳に入ってきちゃうだろうけどね。N.H.K. も麻里ちゃんを選ぶなんてお目が高いよね。なんたってあのハイトーン・ビブラートは最高だもの。背筋がゾクゾクしてくる。声だけで勝負できるヴォーカリストってなかなか捜してもいるもんじゃない。加えて、正確な音感と歌に対するセンス、ルックスも2重丸ときたら、右に出る者はいませんよ、アナタ。歳を取ってきたせいか(とは言ってもまだ20代前半ですが…) ハード・ロックはあまり聴かなくなったアタシですが、気がついたら麻里ちゃんのレコードって全部持っているのよね。一応は、ハード・ロックというジャンルにいながら、どんな音楽を聴いている人にも年令を問わず、ちっちゃな子供からおじいちゃんまで、麻里ちゃんの歌ってきっと好きになってもらえると思うの。この辺がオリンピックの音楽代表選手に選ばれた理由でしょうが……!! 今秋は麻里ブームで決まりだね。

LOVE NEVER TURNS AGAINST
CD:VDR-1518 ¥3,200／LP:VIH-28331／CT:VCF-10358 各¥2,800

Heart & Soul
CS: VDRS-1084 ¥1,000／EP: VIHX-1753 ¥700

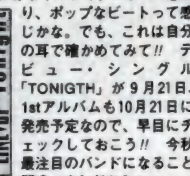
浜田麻里

ATTACK & TREATMENT

9月7日に発売されたばかりの UP-BEAT の New Single、タイトルは「DEAR VENUS」だ。詩を読むと "VENUS" とは自分の愛する人のことを指していると分かるハズ。男の人にとって愛する人はやっぱり "VENUS" だもんね。VENUS というと、完璧で美しいというイメージがあるが、この VENUS はどうしようもなくモロイ普通の女の子だ。"傷ついているままでいいから、本当のキミをさらけ出しておくれ、僕が包みこんであげるから" と言った内容の歌。前作「Blined Age」の頃から感じていたことだが、UP-BEAT は自分達のことだけではなく、もっと広く、他人のコト、社会のコトを考えられる余裕がでてきた様な気がする。スケールがでかくなったっていうのかな。全身をあずけてしまっても安心できる程、懐が広くなった。広石クンに、"寄りかかってもいいよ" なんて歌われたら、思わず甘えてしまいそうになるじゃないの。
シングルの B 面は「What am I? 〈勝手な話〉」。これは最近彼等が興味を持っている原発問題、広瀬隆さんの「危険な話」からインスパイアされてできた曲なのかな?
"世界はいつもボクに関係なく流れていく。わからないものが多すぎる" という社会に対する不満をぶつけたものだ。彼等は大きな愛が見えてきた反面、今まで気づかなかった社会の矛盾に気がつき始めて悩んでいる…ように思える。B 面を聴くと、自分の周わりの出来事についてマジに考えてみたくなるんじゃないかナ……?
で、考えることに疲れたら、また A 面を聴く。そうすると、なんだか気持ちがリラックスして、安心できるから……"アタック&トリートメント"って感じで、よく出来たシングルだ、なんて感心したりして。(笑)そうそう、3rd アルバムも10月21日にリリース予定なので、こちらの方も楽しみだね!!

DEAR VENUS
CS:VDRS-1079 ¥1,000／EP: VIHX-1751 ¥700／ CT:VST-10420 ¥1,000

UP-BEAT

新参者。

確かあれは4月1日、エイプリル・フールの日。今は亡き P.I.T. に BUCK-TICK を観に行ってたアタシは、ビクター・インビテーション・制作2部の安藤広一氏にナンパ…いや声をかけられてしまった。「ちょっとそこの姉ちゃんいいバンドが居るんだけど、今度観に来てよ!! 奈良出身のバンドなんだけどさ」エ——っ!? 奈良って言うとアレかい? 大仏様とかシカが居て、修学旅行なんかで行っちゃったりする、日本の古都? ……そんなトコからロック・バンドが登場するなんて……(奈良の皆さん失礼しました!!) ——等と思いながら安藤氏の後を見ると、そこには素敵な男の子が4人と、かわゆい女の子が1人立っているではないか……思えばアレが LINE-UP との初めての出会いだった。
さて、ビクター・インビテーションに新しく仲間入りをするその LINE-UP のプロフィールを、今月は御紹介しちゃいましょう。結成は86年、奈良。87年5月頃より、地元のライヴ・ハウス「ビバリーヒルズ」にて本格的なライヴ活動を開始し、同年の「ヤマハ・バンドエクスプロージョン '87」の関西、四国、沖縄地区グラプリを見事、獲得してしまったのだ。メンバーは、詩曲のほとんどを手掛けている橋本浩二 (Vo.G)、一戸賢司 (G)、吉田哲 (B)、西谷敬 (Dr)、そして紅一点の西口奈美 (Key) の5人。男の子は4人とも背が高くてカッコヨイ!! キーボードの奈美ちゃんは一見おとなしそうに見えるけど、実はグループ1ひょうきんなユニークな女の子なんだよ。サウンド的にはワイルドで、スピード感あり、ポップなビートって感じかな。でも、これは自分の耳で確かめてみて!! デビュー・シングル「TONIGTH」が9月21日、1stアルバムも10月21日に発売予定なので、早目にチェックしておこう!! 今秋、最注目のバンドになること間違いナシだから!

TONIGHT
CS: VDRS-1075 ¥1,000/EP: VIHX-1749 ¥700/ST: VST-10414 ¥1,000

LINE-UP

7月26日、「タツが笑った」事件発生。

ここでアタシは声を大にして言いたい!! レピッシュはよい。前からよかったが、最近は特によい。(……別にこう書かないと、後でメンバーに何されるか分んないとか…そういうのは置いといて…)「リックサック」はよい。そしてさらに9月21日発売の 2nd アルバム「WONDER BOOK」は凄くよいのだ!! これだけ "よい" と書けば、どのくらいよいか分かってもらえたと思うが…(シツコイって!? ごめんなさいな)
今回のアルバムは、全員が作詞作曲にタッチし、自分の担当楽器以外にもう1つ以上楽器をこなしたりと、オアソビ感覚一杯のマジメーな(?)作品に仕上がっている。最近、特に成長が目覚ましいのは、リズム隊の2人だ。今月はタツくんをクローズ・アップしよう! タツくんが、初めて曲を書いた、(もしかしたら、地道に書きためていたのかもしれないが…) その名も「BAD MAN?」めちゃくちゃ黒っぽいファンキーな曲で、アタシはアルバム中でいちばん気に入ってしまった。勿論、Bass の腕もちょっと見ないうちにずいぶん上達しちゃってるじゃない。加えて、7月26日、NISSIN POWER STATION でのこと。アンコールで突然起こった「タツが笑った」事件。ちょっと笑っただけで、事件になってしまうタツくんは、今や話題の中心だっ!! (なんのこっちゃ!?) 頑張って大学卒業してね♥
さて、続いてもう1人クローズ・アップしたいのは、最近レピッシュの準メンバーになりつつあるトロンボーンの増井サン。彼ってば、あんなにカッコイイのに……もう MUTE BEAT の時のイメージが……という程、ヒョウキン者でステキな人なのデス。
秋は、学祭と全国ツアーを回わるレピッシュ。あっその前に10月13日、日本青年館だね。とにかくイイから観て、聴いて!!

WONDER BOOK
CD:VDR-1548 ¥3,200／LP:VIH-28345／CT:VCF-10372 各¥2,800

リックサック
CS: VDRS-1070 ¥1,000／EP: VIHX-1748 ¥700

LÄ-PPISCH

Mのモスラ倶楽部出張所 ナオト編集長誕生秘話 Vol.4

〈前号までのあらすじ〉
ヨレヨレ野郎高橋ナオトがビクターにやって来るという約束の午後2時、音もなく怒れる巨人マッキー牧元が、拙者Mの前に立ちはだかった。マッキー牧元の出現は何を意味するのか? ナオトの運命は ?!

- -

ズシンズシンと地ひびきをたててマッキー牧元が拙者Mのデスクにむかって歩いてきた。弓矢も、鉄砲隊も、ものともせず大魔人がごとくせまりくるマッキー牧元。マッキー牧元の怒りは今村課長にも静められない、静められるのはデスク石川ナボミの「牧元さんお腹すいたァーン」の猫なで声だけだ。しかし、頼みの石川ナボミは半休(午前中会社をサボ、いや休むこと)で来ていない。うーっどうしようマッキー牧元はもうそこまで来ている。うなり声をあげてマッキー牧元が口をひらいた。「みとうー(ゴーッという感じ)」「は!はい!」「お昼ごはん行かない♥」な、なんとマッキー牧元は昼食のさそいに来たのだった。前号よりもりあがりにもりあがった、マッキー牧元出現の意味は、昼メシ時を告げただけであった。
以下 牧元談(モーニングの翔丸風に読むこと)
「そうなんです。今でもはっきり覚えています。私が空腹を覚えた時、ふいに現われたんです。それは、普通の青年ではなくやけに不似合なスーツを着たひとりの男にみえました。それが偶然だったのかどうかは、わかりません。似合わないスーツを着ることで、印象づけようとしたのかどうか私にはわかりません。」
ビクターのインビテーション・マッキー牧元は高橋ナオトとの出会いをこう語る。
高橋ナオトはヨレヨレのTシャツではなく、スーツを着てビクターにやって来た。そのスーツ姿こそ「幻のスーツ事件」と呼ばれる高橋ナオトの一生で一度の正装だったのだ。ビクターにスーツ姿で現われた高橋ナオト。牧元組設立はどうなったのか? 次号ライバル、イカンガー百瀬登場を待て!!!

- -

何がビートガーデンデラックスだ。デラックスってのはカラーページになったりした時に使うもんだ。高橋オメーは言葉の使い方を知らんにも程がある。もっと「キュート」とか「組」とかつけろ。それではまた来月☆

Words by Mitoh fromReal

BEAT GARDEN ギャラリー

勝ち抜き選をやめてから、本トにハガキが減っちゃったみたいだね〜。まっ、今月は量より質で勝負!!って感じだったけど。そんじゃ今月の最優秀作品をコメント入りで紹介したーい!!

●福岡県は TOMOMI の作品
こいつは力作だ!! 書道用の清書用紙っつーのかな? B5ぐらいの大きさの紙に墨書きで大仏すわりの広石クン を書いてきてくれた。アッパレ!

●練馬区、宗像薫の作品
これも手が込んでるね。芸が細かい。送り返してほしいって言わない所が気が大きいね。

●神奈川、楠木ゆいの作品
「1時間以上かけて書きました」というコメント付き。東川クンって、こんなにボーッとしてギター弾いてるの!?

●福岡県、渕上幸美の作品
これまた東川クン、かわゆくていーわっ。特長つかんでるね。

●兵庫県、中谷圭子の作品
シ…シブイ、岩永クン。かっこいい人は、似顔絵にしてもやっぱかっこいいのね。

というコトで、このコーナーでは、似顔絵を募集しています。別に UP-BEAT のじゃなくたって、インビテーションのアーティストだったら誰でもいーのヨォ! あて先は下記。あっ掲載者には Real Beat の T シャツをプレゼントするよ!!

HARD DAYS ●●●●●●●●● NEWS

■10月5日、日本武道館 LIVE 目前の ARB がシングル「Long Long Way」をリリースする。タイトルからして現在の ARB の気持ちを率直に表わしている。「長かったよネ、ここまで。でも、まだまだ長いよバンドの道は」てな感じではないでしょうか。オマケにゴキゲンなのは、過去の9作品のCD化。「ARB」から「砂丘1945」までが同時に発売されるゾ! エッまだ出てなかったのかって? イヤ面目ない……。

■ARB の一週間後、所は同じく日本武道館とくれば、この後ナオトに言わせる読者はモグリ (何のモグリだヨ) と呼ばせてもらおう。でも、言っちゃいます。そう、UP-BEAT も武道館やるゾオー! 11月7日は UP-BEAT の武道館の日ですヨ。ところで、11月7日の GIG に来るにあたっての心得はもうわかってんよナ! 知ってるけど言ってほしいって? なんてカワイイ奴らなんでしょ。それでは、コホン♠。10月21日に遂に UP-BEAT の New ALBUM がリリースされるから、それ買って曲をちゃんと憶えとくと more more 楽しいよってことです。ALBUM のタイトルは只今あれやこれや中。

■5月にリリースされた ALBUM 「ROCKN' ROLL RIDER」も快調に夏をぶっ飛ばしてくれた THE STAR CLUB が10月21日、初の VIDEO をリリース。タイトルは「IN OUR TIME」。なんかニュー・ミュージックみたいなタイトルなんて言わないでネ。問題は中味なんだから。さて、その中味ですが、7月19、20日に大盛り上がりだった INK STICK 芝浦での GIG のグチャグチャぶりの19日の方を収録しました。はっきり言って目からウロコが飛び出すゼ!

■今月も新人を紹介します。東京少年。デビューは11月21日。ボーカルの笹野みちるという BOY のような GIRL がピカピカのバンドです。デビューに先立って、LIVE します。10月7日渋谷 LIVE INN、10月13日京都、14日大阪でもやる。きっと見てみるといいと思う。ナオト編集長タイコバン押す。

MAGUMI from LÄ-PPISCHの やさしくゴメンね。

今晩わ寺内貫太郎です。世の中にはいやな事がいっぱいおっぱいあります今日この頃野口五郎ですが、そこで一つ今日の教訓「映画館でさしみを食うのはやめよう。」(そんな奴はおらん) と話がうまくまとまったところでなんとこのコーナーにもハガキが来ました。まず最初に横浜市、田吉由美のハガキ。「一年以上前に学祭で MAGUMI が投げたサングラスを友達から千円で買ったのは何をかくそう私です。」おいコラッいいかげんにしろ! 俺の値打ちはたったの千円か!! 売る奴も売る奴だが買う奴も買う奴だ。やはり最低でも原価の三割引位でやってもらいたいものだ。まきしんじのセリでももっと高いぞ。それでは次、川西市、坂田仁美のハガキ。「今日わ MAGUMI、私はレピッシュと、わに(鰐)が好きです。」・・・・・僕に何が言いたい訳? ハイ次、練馬区、斉藤ようこのハガキ。「狂市さんにぜひあいたいと伝えてください。オワリデス。」俺は伝書鳩か。さすがの俺も笑うぞ。このコーナーではあなたの恥ずかしい写真を送りたいと思いますのでよろしくお願いします。さて9月21日にはレピッシュの2枚目のアルバム「ワンダーブック」がでますんで買ってください。それではライブではブラジャーよろしく。

おわりに ●●●

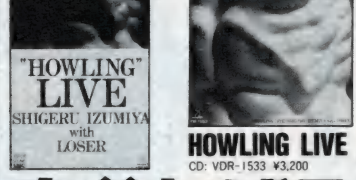
……というわけで名前も新たに新装オープンした B.G.D. いかがでしたか? アタシも初めての大仕事で、肩がコリコリになってしまったデス。あ――っやっと陽の当たるお外へ出れる!! 世界は夏休み真只中だってのにサ (あっでもこの号の出る頃には、中・高生の皆さんは新学期を迎えているのだね、ムフフ←何コレ? ブキミ…) みんなからのお手紙、各コーナーへのハガキ待ってますよん。あて先は…〒150 東京都渋谷区神宮前4−26−18(原宿ピアザビル内)ビクターパチパチ・ビート・ガーデン・デラックスの係まで。あっもう頭がウニ!! 来月までリフレッシュしとくから、次回もお楽しみにーっ!! じゃあ、まうたねエ〜♥

もう誰も止められない!

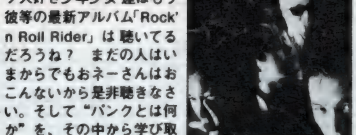
それにしても今年の泉谷しげるのブレイクぶりは凄い。その凄さを集約して感じることができるのが、7月21日に発売された「HOWLING LIVE」だ。(もうみんなは CD もビデオも体験済みだと思うけど)。4月5日に汐留 P.I.T. で行われたライヴの模様を収録したものなんだけど、CD にしろ、ビデオにしろ、あの日の迫力が目の前に迫ってくるものね。歌い始めて15年間吠え続けている泉谷さんは、あの日もオープニングから吠えていた。(キミが生まれた頃から、いやもしかしたら生まれる前から歌っているんだよ、あのオジサンは!!) 泉谷さんの歌とバックの演奏のパワー、それに答えるかのような観客のヤジ。初めて…今年の1月だったかな、泉谷さんのステージを見た時、言葉は悪いけどなんだかとってもあったか〜いのよね。そう、緊張感とホノボノ〜が上手くミックスされた、とても気持ちの良いステージなんだよね。これも泉谷さんのお人柄から生まれてくるものなのでしょうか? 彼の表情は、優しさと厳しさと淋しさの入り混じった、ミョー (いい意味で) なモノだもんね。

秋は LOSER (村上 "PONTA"秀一 〈Dr〉 吉田建 〈B〉、仲井戸麗一 〈G〉、下山淳 〈G〉 〜いや、いつ見てもスゴイ、メンツだな〜) と共に、学園祭を回わるという泉谷さん。動き始めたオジサンを、もう誰も止められない!!

HOWLING LIVE
VHS:VTM-146 BⅡ:VBM-146 各¥4,800

HOWLING LIVE
CD: VDR-1533 ¥3,200

泉谷しげる

これがパンクってもんだ!!

真のパンク・バンドって、彼等みたいなバンドを言うんだろうナ。結成11年目を迎えた THE STAR CLUB。彼等は10年以上もひたすらパンク・ロックを探究している。その辺のポップなビート・パンクとは、ちと訳が違うのだ。なんつっても、ポゴや、ケンジ&トリップス等、あの辺のパンク・ロックやってる連中は、みーんな多かれ少なかれ THE STAR CLUB の影響を受けてるんだもんね。パンク界の大先生、御師匠様ですよ!! さて、パンク・キッズは勿論、ロック大好き少年少女 達はもう彼等の最新アルバム「Rock'n Roll Rider」は 聴いてるだろうね? まだの人はいまからでもおネーさんはおこんないから是非聴きなさい。そして "パンクとは何か" を、その中から学び取って下さい。そうそう、7月 19、20 日の芝浦 Inc Stick でのライヴ模様を収めたビデオが10月に発売されるヨっ!!

ROCK'N ROLL RIDER
CD:VDR-1508 ¥3,200 LP:VIH-28327/CA:VCF-10354 各¥2,800

THE STAR CLUB

見事な変身!

8月21日に発売されたばかりのニュー・アルバム「EMOTIONAL COLOR」と、シングル「I MISS YOU」。44マグナムって、ダンス・ミュージックになってたんですねェ…… 彼等がまだ、ヘビィ・メタルを演ってた時代の名曲「LOVE DESIRE」が好きで、昔はよく聴いてたんだけど、ここしばらく聴いていなかったので、(申し訳ナイ!!) ビックリしてしまった。でも、以前からメロディー・ラインは美しかったよね、この人達って!! それにしてもこうもあっさりとヘヴィ・メタル色から脱皮して、新しいジャンルの音楽に入りこめるマグナムは見事だ。その柔軟性がプラスの方向に働いて、"いろんな音楽の要素" を上手く取り入れた新しいロックを創り上げることに、このアルバムでは成功しているようだ。ドラムスの JOE が脱退したり、音楽性の変化によるファン層の変化等、まだまだ彼等の周りは移行期にあるが、彼等なら大丈夫、きっとやってくれるよ!!

"44マグナム" という名前だけで、聴かず嫌いをしているアナタ。是非1度、ダマされたと思ってこのニュー・アルバムを聴いてみてよ!!

EMOTIONAL COLOR
CD: VDR-1543 ¥3,200/LP: VIH-28342/CT: VCF-10369 各2,800

I MISS YOU
CS: VDRS-1078 ¥1,000/EP: VIHX-1750 ¥700

44マグナム

魂こがして、10年目

……10年。1言で10年と言ってしまうのは簡単なコトだが、やっぱり10年って長いよね。10年前、君は何歳だった? 10年の間に体験する出来事、感動、喜び、悲しみ…… etc それは計り知れない程、多くのものだろう。10年前も、そして今も、変わらなく歌い続けているロッカーが居る。それも常に最前線で。石橋 "織田信長" 凌率いる A.R.B。今年で結成10年目を迎かえる A.R.Bが、10月31日、初の武道館ライヴを行う。16の時「Just A 16」に涙した少年は23歳になった。彼は、ニュー・アルバム「PAPERS BED」のオープニング・ナンバー「System in System」の中で絶叫する凌さんの魂を感じた瞬間、16の頃の自分に戻った。そして10月31日、日本武道館に足を運ぶだろう。ほんとにいろんなコトがあった10年間だと思う。でも魂をくすぶらされるその一瞬の感動は、10年前も今も変わらない。

"Congratulations! 10th Anniversary A.R.B.!!"

PAPERS BED
CD: VDR-1519 ¥3,200/LP: VIH-28332/CT: VCF-10359 各¥2,800

System in System
CS:VDR-1042 ¥1,000/EP: VIHX-1745 ¥700

A・R・B

抜け出せない妖気

ビッグ・ニュース!! 6月8日の日本青年館を2時間で SOLD OUT にしてしまった DEAD END だが、その追加公演である9月24日の渋谷公会堂も、またまた SOLD OUT にしてしまった。

個性的な4人のぶつかり合いから生まれる妖気……これが、彼等がオーディエンスをつかまえて離さない理由なのではないかと思った。彼等のアルバムからは鋭く、一見突き離した様な感覚が伝わってくる。1度その味を覚えてしまうと、2度、3度と経験したくなり、はまってしまうのだ。そう、自分からはまり込んでしまう。……そんな人に嬉しいお知らせだが、9月24日の渋公ライヴでは彼等のビデオ撮りが行われ、年末にライヴビデオとしてリリース予定だそーだ。もう1つ、Dr の湊クンが、ちわきまゆみのレコーディングに参加。さらに広がりを見せている DEAD END、益々先が楽しみだ。

shámbara
CD:VDR-1510 ¥3,200/LP: VIH-28328/CT:VCF-10353 各¥2,800

DEAD END

存在自身がROCK

鮎川さんてば、そこに居るだけで絵になるんだよね。ちと昔のハナシになるが、7月17、18日の芝浦 Ink Stick でのライヴを見てつくづくそう思った。ロケットの面々がステージに登場しただけでドキドキしてきちゃったもん!! んで、ギターの音がジャーンと聞こえた途端にもう Knock Out! 加えてシーナさんのセクシーな歌声。とても3人のお嬢ちゃんがいるとは思えないキレイな御足はいつ見ても見事。いや〜、もお、ステージ演ってくれるだけで満足って感じ!!

シーナ&ロケットは日本のロック界の宝物ですもんね、もう。彼等を聴いて、ロックを始めたミュージシャンも沢山居る訳だし、アタシなんか、"ピンナップ・ベイビー・ブルース" に中学の時感動しちゃって日本のロックを聴くようになった人ですから……長くやればいいってもんではないけど、ヨイ物をずうっと演り続けているシナロケって、やっぱりすごいよね。ところで、彼等の10枚目のアルバムにあたる「Happy House」はもう当然聴いてくれてるよね。新メンバーの (と言っても、サンハウス時代から一緒にやってた) 奈良さんも、この N.Y. ですっかりシナロケ色にそまったって感じ。何はともあれ、50になっても60になっても、ずうーっとロックン・ローラーでいてほしいものです。

9月24日(土)日比谷野外音楽堂ライブチケット発売中!

HAPPY HOUSE
CD:VDR-1528 ¥3,200/LP: VIH-28336/CT:VCF-10363 各¥2,800

HAPPY HOUSE
CS: VDRS-1069 ¥1,000/EP: VIHX-1747 ¥700

シーナ&ロケット

ガンバレ! なおと編集長

B·G·C → B·G·D に変わり果てて、夏も果てを迎えております今日この頃。夏休みはいかがお過ごしになりましたでしょーか。海、山、川、湖、遊園地、野球場、動物園、水族館、博物館、映画館、ライブハウス、コンサート・ホール、発電所 (コダワル!) といたるところにお楽しみはありましょーが、ナオトの場合は仕事の侵略を許しつつ、歯科医院の扉を叩いたのでありました。ナオトにとって歯医者通いなど、至上のぜいたくと言えましょう。クーラーの良く効いた、ゆったりとした空間で大口をあけ、ヒステリックな機械の音にマゾヒスティックな心地良さを満喫させていただきました。助手のおねえさんやさしかった。先生はまだお若い青年? だった。あまし痛くしないでどうもありがとう (ウルウル)。さて、歯が治ってみてどーかとゆーと、これはもうアナタ、人生変わってしまいますよ。なんかこう、大きな壁を乗り越えたっつーか、(何か感違いしてるカナ) すみれ色の風が吹いてくるっつーか (こりゃ大感違い) まぁウマク言えませぬが、清々しい気分ネ。ファイトォーイッパァーツ! て感じだネ。カッカッカッカッ………。1988年、ナオト( )才の夏の思い出でした。ちょっと寂しい。( )の中に適当な数字を入れてみてヨ。当たった人には、ああナツカシヤ BEAT GARDEN CLUB ステッカーをひとつかみあげまする。当たり多いときは適当に選ばせてくださいネ。それでは、ニュー・フェイスの You-Ya をヨロシク、サヨナラ!

C-C-B

ACT HISTORY

はじめの一歩は、1983年7月5日**渋谷・ライヴイン**でのデビューライブだった。
着々と実力を備えて、1985年3月までに70本以上のライブを行なったのだった。
1985年4月25日には、記念すべき**渋谷公会堂**ファースト・コンサート。
この年の"ファースト・コンサート・ツアー"は
全国80本に渡る一気モノだったのだ。10月6日は、雨天の**日比谷野外音楽堂**を敢行、
感動するミシナも美しかった。クリスマス・イブには、ハートフルに**品川プリンス・ホテル・ゴールドホール**でホーリィ・ナイト・コンサート。
1986年からは、『桜前線まっさかり!』の恒例**よみうりランドEAST**がスタートする。
4月6日の、夕暮れ時はしっかりと、胸に滲み込んでいるはずだ。1年間、100本を超える"冒険のススメ・ツアー"は、
9月14、15、16、17、18日の**渋谷公会堂5DAYS**を挟んで、日本中を駆け回っていった。
1987年からのお楽しみは、1月4、5、6日の**中野サンプラザ3DAYS**。
おめでとうウキウキで、ミシナ、ちょっぴりおしゃれして来てくれるのもうれし。
この年も、モチ、**よみうりランドEAST**を4月4、5、6日に。泣いたよね、ここでは。
"フライイング・トリップ・ツアー"で、キミの街に会いにいったのは、ついこの前のことみたい。
9月7、8日は、アア**日本武道館2DAYS**。やっぱり、いい、興奮した。
1988年の幕開けも、1月4、5、6日の**中野サンプラザ3DAYS**。
そして、**よみうりランドEAST**から、"キープ・オン・ランニング・ツアー"に旅立っているC-C-Bなのだ。

冒険のススメ

コンサート・ツアーとシンクロしたコンセプト・アルバム。ヴィジュアルにも、サウンドにも、夢がある、勇気が湧く。「冒険のススメ」他、全10曲収録。1986.6.18

愛の力コブ

全員のオリジナル作品を収録した話題盤LPレコードには、ダブル・ジャケットのプレゼント。中の写真には、ちょっぴり、どっきり。「毎晩、悪夢が落ちてくる」他、6曲収録のミニ・アルバムでカワイイ。1986.12.15

石はやっぱりカタイ

"もっこりポスター"にもなったヴィジュアルが、とても印象的。ヒット・シングル「2 Much, I Love U.」を収録。1987.7.25

走れ★バンドマン

C-C-Bって?バンドマンだ!メンバーの素顔の魅力が、そのままパッケージされた等身大アルバム。いま、のC-C-Bがよくわかる編。初めて聴く人にもおススメの、名盤だ。タイトル・チューン他、全10曲。1988.5.25

It's New! 6 VIDEO CONCERT **9月23日より全国一斉実施**

C-C-Bほか、が楽しめちゃう。

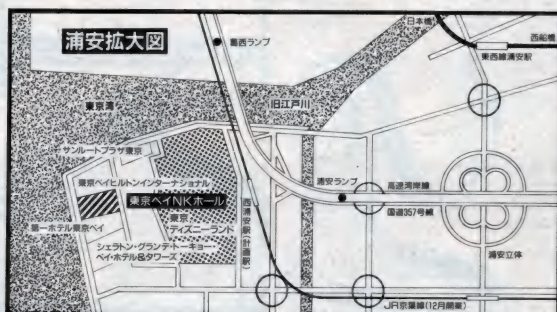
[参加方法]はがきに、①住所②氏名③参加希望人数を書いてお申し込み下さい。
[宛先]〒153 東京都目黒区大橋1-8-4ポリドールVC「PATi²・C-C-B」係
[〆切]9月15日(当日消印有効) お問い合わせ:03-477-2576

なお、ツアーの途中ですが…・C-C-Bは、

10月2日[日]東京ベイNKホールで

東京ディズニーランドとなり

コンサートやります!

浦安拡大図

交 通
地下鉄:東西線浦安駅下車
バス:東西線浦安駅前発➡N.Kホール直行バス
(ディズニーランド行バスターミナル)
15:30始発予定~17:30最終予定〈ピストン輸送〉
車:湾岸道路「浦安ランプ」又は「葛西ランプ」で降り
案内板にしたがってご来場下さい。

OPEN▶16:30/START▶17:30 S席▶¥3,500/A席▶¥3,200
✖チケットぴあ ☎03-237-9999にて絶賛発売中!!
お問い合わせ:C-C-Bコンサート係▶03-505-4134/ダストコーポレーション▶03-780-0504
主催:東京放送事業部/スナフキン・カンパニー 後援:日音/ポリドール株式会社 協力:MAY CLUB

Keep on Running Tourスケジュール 10/8[土] 宇都宮市文化会館 ㊐自治医科大:0285-44-2111
10/16[日] 愛知勤労会館 ㊐ジョイナス:052-962-1207 10/23[日] 新潟県民会館 ㊐FOB新潟:0252-29-5000
10/24[月] 長野市民会館 ㊐FOB長野:0262-27-5599 10/25[火] 金沢市観光会館 ㊐FOB金沢:0762-32-2424

そんでもって、**なんと**

10月25日[火]には、新曲を発売してしまうのです!!

『信じていれば』

作詞:渡辺英樹 作曲:米川英之 編曲:田口智治/米川英之
Side 2:A-Ki-Ra-Me-Na-I-De
作詞:渡辺英樹 作曲・編曲:田口智治
Single:7DX 1580 ¥700 CD Single:H10P 40005 ¥1,000 Single Cassette:10CX 1536 ¥1,000

どうだっ!!!

Snufkin co. POLYDOR K.K.

ALBUM HISTORY——

マイルド・ウィークエンド
さわやかなアルバムだ。リゾート・ココナッツ・サウンドが、今、聴いてもフレッシュ。ファースト・シングル「キャンディ」を収録。
1983, 6, 25

ボーイズ・ライフ
このアルバムから、田口智治、米川英之が参加する。初期の名曲「瞳少女」は、とっても溌剌してしまう。明るく、楽しい、C-C-Bサウンドの原形がここに。1984, 8, 25

すてきなビート
「Romanticが止まらない」が入っているんだから、すごい。8曲入り、2,350円て、お釣りをもらうのも、楽しい。「急接近」を収録、大ヒットアルバム。1985, 5, 25

僕たちNO-NO-NO
シックなジャケットが、すごくオシャレ、だった。メンバーひとりひとりの個性が、よく聴こえてくる。涙の「ジェラシー」収録。
1985, 12, 15

HiMURO KYOSUKE

KING SWING

第1号10月下旬発行予定。
只今、会員大募集中！

■年会費　¥6,000
■特　典
●オリジナルメンバーズカードの発行
●氷室京介の情報を満載したプライベートマガジンの発行（年4回）
●KING SWING主催によるイベントへの参加
●海外コンサートツアーにおける会員価格での参加
●オリジナル商品の販売
●その他
■申し込み方法
●入会希望の方にはKING SWINGより所定の申し込み用紙をお送りいたしますので、あなたの住所、氏名、郵便番号を明記した返信用封筒（60円切手を必ず貼って下さい）を下記の宛先までお送り下さい。
●宛先
〒112 東京都文京区小石川2-5-7 佐々木ビル5F
㈱八曜社内"KING SWING"入会係
●お問い合わせ先
TEL▶03-814-2196（11:00～18:00［月～金］）

KYOSUKE HIMURO PRIVATE MAGAZINE "KING SWING"創刊！

BUCK»«TICK

COPY by MISATO KONDA PHOTO by KAZUHIRO KITAOKA

BUCK-TICK

NEW PERSONAL CLOSE UP
TOLL YAGAMI

3回目のパーソナル・クローズ・アップはヤガミトール、アニイの登場である。ユータのアニキでもあり、バンドの中でも1番年上でもあるアニイは、いつもシビアな眼でバクチクを見ている超現実派だ。と書くと、ずいぶんオカタイ人間のような感じがするけれど、とてもオープンでフランクな性格だったりする。そこで、今回は彼のこれまでの発言をランダムに拾いあげ、アニイの実像に肉迫してみよう。

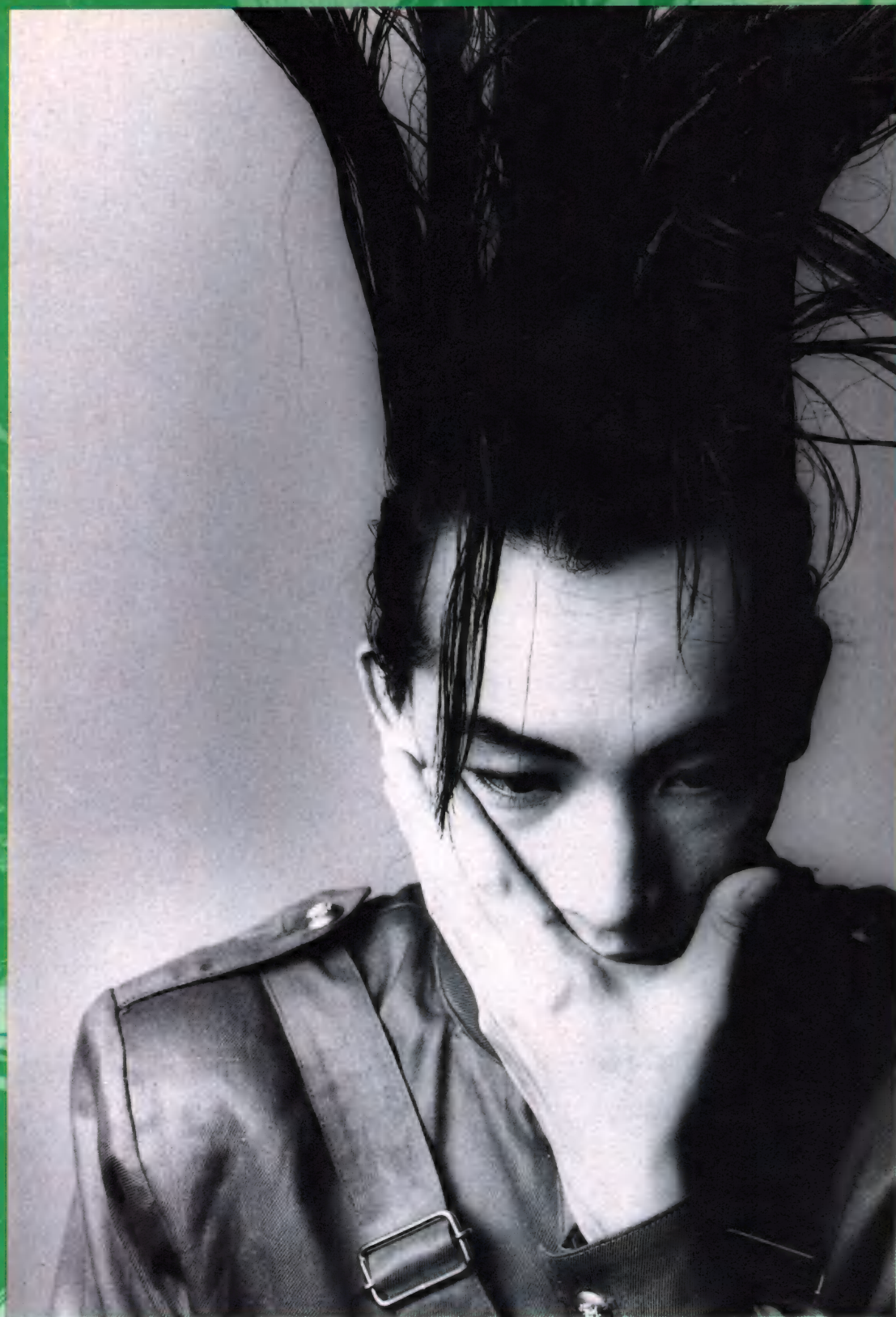
アニイと初めて会ったのは、豊島公会堂で行なわれた〝バクチク現象〟の前日。某音楽雑誌の取材の時だった。待合わせの喫茶店にユータと2人で飛び込んできたアニイは、サングラスをかけ、今みたいに髪をピッと立たせ、「いかにもコワイ人」という風貌をして、私を黙らせてしまった。この時点に関していえば、彼の印象はすこぶる硬派、つまり、こわさのあまりに近付けない人。どうやって話をしていいのかな、と、私は活路を見い出そうと必死になっていた。

今思えば、とんでもない取り越し苦労をしていたものだ。いざ話をしてみたら、初対面にもかかわらず会話が進む進む。いやあ、こんなに話しやすい人なんて、あんまりおらん。ホントに外見と内面のギャップはありすぎた。かといって、とんでもなく軟派っていうわけじゃない。こっちが話しやすい雰囲気を、自然と作ってくれるのだ。それは、アニイが言いたい事を思いっきり口にしたからだと思う。まさに、歯にきぬ着せぬっつー感じで喋り通すから、つられて私も言いたい事を言ってしまうのだ。

正直な人を前にして、ウソとかベンチャラ言ってたってしょーがない。

それ以来、別の意味でアニイが「コワイ人」となった。喋りやすい分だけ、少しでもいい加減なことを言ったらピシャリと言い返される。顔ではヘラヘラと笑いながらも、ヤガミトールの前にいる時の私の背筋は普段より少し伸びている…ハズだ。

アニイは、他のメンバーと年が離れている分、バンドのことを冷静に見ている気がする。それに、ドラムというポジションが加わって、ますます〝冷静な人〟のように思えてしまう。言葉を変えれば、現実的でシビアな人、という感じがすごく、する。

バンドを直視する姿勢は、もちろんメンバー全員が持ち合わせているだろうが、その姿勢をひとつひとつ確認するかのように〝態度〟や〝言葉〟で表すのが、アニイな

のだ。ジョークまじりにボンボンと次から次へと出てくるセリフは、聞いていて実に小気味がよく、強気ともいえる内容は「うーむ、やるなあ」と唸ってしまうほど頼もしい。そんな彼の今までの発言を、ランダムに拾ってみると——。

〈ポピュラリティ〉

「ユーミンやサザンと一緒に聞いてもおかしくない音楽っていうのかな、そういう音楽を作りたいって思う。たとえば、海行ってラジオからユーミンとか流れてくるじゃん。で、〝ああ、ユーミンっていいなあ〟って思ってるところにバクチクがかかってさ、〝何、この曲?〟とか言われるのがイヤなの。なんか、俺達の曲の時だけ気分が盛り下がっちゃうような言い方をされるのがシャクだっていうか。いわゆるフツーのポップスとか歌謡曲と並べられても、ちゃんと聞いてもらえるような曲をやりたい」

「俺ら、インディーにいた頃、〝おまえら売れ線〟みたいなことよく言われた。でも、売れ線っていう意味がわかってて、売れ線ですよっていう曲が作れたら、インディーになんか初めからいないだろうっていう（笑）だから、メジャーにきてから、ちゃんとした評価を得られるようになったと思う。だって、いろんな人に聞いてもらえば、それだけチャートだって上がるわけだし、ライブに来る人だって増える。ホント、メジャーにきてよかったと思ってるよ、俺は（笑）」

〈番外〉

「俺、はやく番外になりたい。なにやっても〝こいつは番外だから仕方ないや〟って言われるようになりたいっていうか（笑）そしたら、好き勝手に何でもできるじゃん」

〈金〉

「金はあったほうが絶対いい。やっぱり金があれば、あっただけ好きな事ができるからね。自分達で事務所作って、全部自分達で管理することもできる。スタジオだって作れるんだぜ。本当に自分達の思うままにバンドをやっていこうと思ったら、金は必要だよ。だから、俺は金持ちになりたい。誰かスポンサーになってくれないかなあ、なんつって（笑）」

〈テンション〉

バクチクって、すごくテンションの高いバンドだと思う。だから、地道に一歩一歩っていうより、2、3年のうちにカタをつけたいって感じ」

〈将来〉

「俺、ビートルズがひとつの理想なんだよね。若いうちにガンガンライブやって、騒がれるだけ騒がれて。（笑）で、少しほとぼりがさめたらスタジオに入って、アルバム作りに専念する。そして、ライブ活動はやめて、もうアルバムしか出さない。これってミュージシャンの理想でしょう。レコードだけで、純粋に音だけでバンドを見てもらうっていうか。そんなふうになれたらベストだよね」

アニイのこうしたビジョンは、バンドの上昇指向をよく表している。事実、バクチクの評価はメジャーのフィールド内で高まっていき、アルバムも好セールスを記録した。アニイがいつも強気の発言をするのは、それを現実に変えることのできる自信、そして、バンドに対する絶対的な信頼があるからだろう。だから私は、いつまでもその強気を崩してほしくない、と思っている。

※

最後に、アニイの「最近一番印象的だった事」について触れたいと思う。それは、〝ドラマー・ヤガミトール〟の部分を最も刺激する出来事だったようだ。

「札幌のイベントに行った時、村上ポンタさんとファンキー末吉さんと、アン・ルイスのバックのもて木さんと俺とで、ライブハウスみたいな店で夜飲んだんだよ。で、その店にあるドラム・セット使って、4人でドラム合戦をしたっていう。（笑）みんな、俺が読んでた『ドラム・マガジン』に出てた人ばっかりじゃん、そういう先輩のドラミングを間近で見てるとタメになる。ただでドラム・クリニック受けてるみたいで、えらい得した気分（笑）特に、ポンタさんはね、すごいと思った。あの人、氷室さんや泉谷さんのバックの他に、阿川泰子さんのバックもやってるんだよ。ロックもこい、ジャズもこいで、すごいマルチなんだよ。その時の雰囲気で叩けるわけ。それだけ引き出しが多いっていうか、自分の幅があるからできることでさ、普通の人間だったらできないよ。ひとつのことを深くできる人は多いけど、広く深くできちゃうんだからね、ポンタさんは。これはもう、かなわないって思う。憧れだよね。

俺、根本的にテクニック指向じゃないから、ただうまいだけのドラマーってインパクトないし、ピンとこない。ドラマーって迫力とかも絶対必要じゃない。それを、テクニックあって迫力あって、オイシイツボを押さえてて、本当にたまんないよね。初めて間近でみたら、すごすぎて何も言えなかった（笑）この充実した札幌の夜が、いかされるようにしたいな、と。だって俺、帰り際にポンタさんに、〝がんばります〟って言ったし（笑）」

この本が出る頃は、もうロンドンに行ってしまってるんですねぇ、バクチクの人達は。はたしてアニイは、無事飛行機に乗ることができたんでしょーか(笑)気になるところです。気になると言えば、今井君。イベントやら何やらと、慌しい日々を送っている中で、一体いつ曲を作っているのでしょう。レピッシュの狂市も「今井、よく曲が作れるなあ」と感心していましたけど。で、今井君といえば、ここ最近めっきりバクチクらしくない髪型で評判ですが(笑)、京都での野外イベントでは雨が降ってしまい、桜井君の髪型までがくずれてしまったのです。でも、雨の中、「どーにでもなりやがれ」っつー感じでトバしまくる桜井君は、カッコよかった。私は久々にバクチクのステージを見て感動してしまった。派手なセットや照明がなくても、5人の存在感だけで充分魅力的なのである。思いっきりキザにキメる彼らもいいけど、やっぱり私はブッちぎれながらも、なおかつカッコイイっつーハートな彼らの方が好きだなあ。髪の毛がグシャグシャになっているメンバーを見ながら、ポーズをつけるよりも生身の自分をさらけ出しちゃった方が、ずっと自然で、ずっとカッコイイのに…などと考えていた私。いっそのこと髪の毛降ろしちゃえば……なんてね。

BUCK»«TICK

DON'T GO AWAY BOY
PRINCESS PRINCESS

あの名曲「GO AWAY BOY」をBGMにお送りする、今月のプリプリは、まさにオンナゴコロの複雑さを絵に描いたような企画。やっぱり男の子大好き。いくら強がっても、ステージの上では誰も寄せつけないニラミをきかせても、心の中では、誰かを想ってる。そうでなくちゃ、やっぱり恋の歌はうたえないもん。だけどね、誰でもいいってわけじゃないの。そこんとこ、間違えないでね。

PHOTO●ATSUSHI UEDA　COPY●MAYUMI TAKAYAMA　STYLING
●YOSHIAKI SATOH＝CODE　HAIR&MAKE-UP●NAOMASA SATOH＝BI-UP

DON'T GO AWAY BOY
PRINCESS PRINCESS

ドント・ゴー・アウェイ・ボーイだ。カタカナで書くとなんとも長くなってしまうが、日本語にするのもけっこう難しいのである。だって「行かないで、アナタ」じゃ演歌だし、「行くんじゃねぇよぉ」ではギャグだし、まあサラリと「行っちゃわないで、ネ」と、袖を引っ張るくらいの可愛らしさって良いと思うけど、現実のボーイフレンドとの付き合いは、方程式どおりにウマクはいかない。まして「ゴー・アウェイ・ボーイ」に出てくる男の子は、浮気っぽくてミエっぱりで困った奴。だけど不思議なもので、そんな人を好きになっちゃう女の子も多いんだ。

というわけで、今月はあのフリフリがいま赤裸々に語る(!?)男の子との楽しい付き合い方――私のドント・ゴー・アウェイ・ボーイ――編をお届けする。ファンタスティック!

―奥居香の場合―

「見かけはネ、私って「チョットォ」とかってエバってそうでしょ? ところが基本的に亭主関白が好きなの。(笑) 意外でしょう? その人のために時間を費すのはちっとも嫌じゃないから。"奥居尽クシ"とか、"奥居 貢"とかって呼ばれるほど。(笑) それも「アンタ、あんな男のどこがいいの!?」って言われるような人に。もちろん私にとってはその人しか考えられないんだけどね。で、カッコイイよりカワイイ人の方が好きなの。これはイメージなんだけど、自分のことを「俺」って言うより「僕」って言う子の方が好きなの。そういう子にエバって欲しい。そういう子が、私の前でだけはエバってるっていうのがいいな。

エ、ステージと全るで違うって? でも、そういう内面っていうのはステージでもちょっとずつ出ていると思うんだよね。だってステージのままの女の子だったら強すぎて、誰も好きになってくれないと思う。(笑) ウチの歌ってさ、「テメエ、コノヤロー」って言ってながら「でも涙なんて…」って、結局泣いちゃうワケでしょ。私たちのファンの女の子って一見すごく強くても、どっかホロッとしちゃうそういう内面を持っていると思うのね。で、それはそのまま自分にも通じると思うの。

私ね、結婚にもすごく憧れるの。だけど、できないんじゃないかって思う。だってこういう言い方って恥ずかしいけど、いまだってすごく好きな男の子はできるけど、バンドやめてまで結婚しようって思わないもの。昔3年間付き合ってた人がいて、その時の私は彼に似合う女の子でいたかったから、上から下までなんとピンクハウスを着ていたりしたんだけど、バンドのやり甲斐がどんどん出てきた時に何故か別れちゃったのね。だから今度好きな子ができたらね、私は絶対にステージを見せたいの。その人の前では、たぶんお料理もするし、ジュースも買って来るそういう女の子だけど、(笑) いまは私には歌があるから、きっと違う立場で恋愛ができると思うの。男の子は自分の時間や友達を大事にして、私が仕事をたいせつにしているのもわかってくれて、私の歌を好きでいてくれる男の子と付き合うんだ。で、その人と代官山を手をつないで歩くと、ファンの子が「ヒュウ!」って口笛吹いてくれるって、いいな!(笑)

―渡辺敦子の場合―

「男の子の趣味も変わりましたね、私も。(笑) 昔は勉強もできてスポーツもできて、みんながカッコイイナって憧れる人が好きだったんだけど、でも男の人はやっぱり中身だよね。カッコ良くても、中身が軽薄でしっかりしてないって困るでしょう。見かけもある程度良いほうがいいけど、それより性格が第一。

私ってこういう感じだから、いままでわりと気分が悪いと薬を買ってきてくれたり、車で送り迎えしてもらったりしたことがある。でも、男は引っぱってくれなきゃね。ここ数年恋愛からは遠のいていて、渡辺改心とかってメンバーには呼ばれてるけど、(笑) 抱擁力のある人がいいな。でも、抱擁力があって年が5歳～10歳離れていて落ち着いていてカッコイイ人って、必ず結婚しているじゃない。不倫だけは嫌だから、そうなると、いなくなっちゃう。(笑)

恋はね、やっぱりバランスだと思う。ある時好きになると、いつでもソバにいたいじゃない。で、ソバにいたいのはいいんだけど、ある距離を保つっていうのは、ずっとお互いが新鮮でいるためにはたいせつだよね。いろんな意味で。バランス取れなくなると重くなり過ぎちゃうからね。それができるようになると、他の人ともうまく付き合えるようになるんじゃないかな。それは男でも女でもね。

で、ここ数年恋愛してませんが、それはバンドに賭けたいからなんだ。プリンセスプリンセスでまず燃焼したら、その後は良き妻になりたいというのが、私の夢だね」

―今野登茂子の場合―

「もともと、おしゃべり過ぎる人はあんまり好きじゃないのね。あと、ダメなのは場所をわきまえてない子。親しくなってあいさつするのはいいんだけど、慣れなれしく寄ってくる人っているでしょう。軽い奴、ダメなんです。でも、私って惚れっぽいです。すぐ好きになっちゃう。あの子もいいし、この子もいいなって。だけどすぐ醒めちゃう。(笑)

え、カッコイイ人が好きかって? いやあ。憧れのタイプの男性の欄には、真田広之さんとか、昔だったら原辰徳さんとか、そういう人を挙げたけど、おもしろいですか? だって私、昔は器械体操をやってたからJACに憧れてたの。動ける人が好きだったの。で、バンドが売れなかった頃、今のうちにやめてJACに入ろうかなって。(笑) で、第2の志穂美悦子になろうって思った。女優さんにもなりたかったから。

というように、巾広く手を拡げて、あ、これでもういいやって思うとそこで満足しちゃった私ですが、それは男の子にも反映されてます。(笑) 最初すごい好きになっても、なんかこの人めめしいなって感じたり、私のこと頼り過ぎてるって思ったり、仕事より私の方が大事って言われると、もう一偏に醒めちゃうの。男の人は、いつまでも夢を追いかけていて欲しいなぁ。本当に、男は旅人っていうか、そうあって欲しいなぁ。

私、お嬢様的なものにはすごく憧れるから『風と共に去りぬ』って大好きだけど、でもああいう恋愛ってやだし、だってスレ違いじゃん。やっぱりハッピーエンドがいい。でも男の人には野心を持っていてもらいたいし、そのための苦労ならいといません。ただし今は嫌だけどね。だって今はこっちがメインじゃない。バンドやらしてもらいます(笑)」

―富田京子の場合―

「軽い男の子って、まず嫌いですね。ウチは女の子が5人いるから、スキあれば付き合おうってする人いるんですよ。もう誰でもいいからって。そういう下心見え見えで、はしゃぎまくっちゃう人って嫌ですね。それより、しっかり自分のペースを持っている人がいいな。で、相手のペースも大事にしてくれる人。私が自分のペースをくずさない人だからね。

あと、金がない、金がないって言う男の子は嫌いなの。私は、いい服を着たりいい車に乗ったりすることは全然悪いとは思わないのね。その子がそこに賭けてるんだったら、それを買うために家では苦しくても、(笑) うわべばかりを気にして、とは思わない。ただ、なんでも中途ハンパに、いい服を着たいのに金がないとか、いい車に乗りたいけど金がないって言ってるのは嫌なの。絶対にお金なんて頑張れば、その範囲の中で何かは買えると思うのね。とてつもないものでなければ。だから、無いものねだりっていうか、文句やグチばかり言ってる人は嫌なの。

だから、今はお金がなくて下積みの仕事をしていても、絶対に何年後はダイジョーブっていうような自信を持っていればグチったりしないでしょう。それとか自信のない仕事をしてても、家ではちゃんと自分の未来を裏付けるようなことをしているとか、ね、よくホラ、まったく仕事がつまんなくてっていう人いるでしょう? だったらやめればいいのにって思う。

自分がいま、前向きに仕事してるでしょう。だからそういう人と付き合ったら疲れちゃうと思う。で「いいよなぁ」とか言われたら「ウルサイなぁ。私たちだって昔は売れなかったけど、グチらないでガマンしてやって来たんだゾッ」って言いたくなるから。(笑) だから、自分がシッカリしてるからこそ、人の批評もキチンとできる裏付けのある人がいいな。

それにね、ウチはメンバーがみんな小姑みたいだから、"今度は誰々ちゃんが誰々と付き合ってるヨ"ってなると、"認めないからね"って。(笑) ウチの○○ちゃんはアンタなんかにはやりませんヨって感じだから、男の子を見る目は鍛えられてしまいます (笑)」

―中山加奈子の場合―

「私にとってのいい男は、もう浮気しない人に限る!(笑) 昔からいつも頭にあったのは、本物の男でなきゃ困るってことなの。コイツは本物かどうかっていうのは、本気でロックやっているか、本気で誰かを愛しているかどうかが私のバロメーターになっているの。で、本物は、お前だけだよって言って裏でチャラチャラやったり、影では俺はスゴイんだって言いながら、大勢の人の前ではシュンてなっちゃったりはしないね。だから、私にとっての本物はやっぱり浮気しない人です。

でも、私はロックやってる人が好きだけど、そういう人の中には浮気しない人はあんまりいないね。(笑) いや、だからこそ私はいま捜しているんだけど、これがいつも浮気されちゃう。(笑) で、昔ボーイフレンドが私の友達と知らないうちに付き合ってて、それがわかった時にもう絶対人なんて信じないってギャーギャー泣いてたら、慰めに来てくれた男の子に言われたんです。「そんなに浮気しない男がいいんだったら、牛乳ビンの底みたいなメガネかけてクラスの隅でジッとうつむいてるみたいな男にしろ、じゃなきゃ無理だ」って。でも私は「いや、絶対いる」って。(笑)

世界中にどんなにたくさん人間がいても、私にはその人しか目に入らないし、その人には私しか目に入らないっていうのがいい。でも、これ夢物語だね、男の人はダメみたいですね、そういうのは。(笑)

私ね、いつも本当に真実で、生涯に一人の人だって思うんだけど、でも数は多いみたいなんです。他のメンバーにいわせると。(笑) だけど、きっといつか私にとっての本物を見つけて、その時は離さない」

女の子が5人いれば、恋も5通り生まれるものだが、フリフリのそれぞれの場合を聞いていると、どれもがどこか自分と似ていてクスリと笑ってしまうのだ。

きっとそれは、彼女たちがとても"普通"だからだと思う。もちろんステージに立って歌いかける時、気持ちいいプレイを展開する時、フリフリのパワーは決して普通ではない。でも、こうやってドント・ゴー・アウェイ・ボーイを語るのは、ちょっぴり頬をピンクに染めたり、優しい瞳を空に向けたりして、胸の奥のたいせつな男の子を思い描いている、どこにでもいる女の子たちだ。

5つの恋を並べてみたら、偉大なる普通という言葉が浮かんだ。

それは、決して数の多さだけを指しているわけではない。こんなにも普通の女の子たちとして生きているからこそ、フリフリの歌がますますハート♡にグッと来るのだという、そういう意味なのである。

衣装協力●ラブダイアモンド(03-463-4155) IDEE'S(03-478-0430) CROLLA(03-404-0551) PRORELER(03-403-3987) GOOD WILL(03-408-9244) マヌ(03-463-5804)

永井真理子の場合、時に期間を決めてのレコーディング、というスタイルはとっていないようだ。毎月会って取材しているが、いつでもいつ話しても、少しずつ新曲の情報を聞くことができる。ツアーをやりながら、ラジオのレギュラーをこなしながら、取材とか打ち合わせとかリハーサルとか、その他モロモロいろいろな日々を送るなか、常に活動の一部としてレコーディングを続ける。もちろんそれは、ひとつの方法だし、だいいちとても真理子らしい気もする。彼女の日常や生き方をしっかり反映させてこそ活きる曲が、今の永井真理子の世界だし、前向きな元気をテーマにした以上、プライベートでの自分自身にも自信を持ちたいし元気でいたいし、という真理子の様子が伝わってくるからだ。勇気が出る、元気が出る歌をうたいたい。だから自分も元気でいよう。そして、今いる自分にこそうたえる歌が、永井真理子の世界です。そんなふうにして、歌と真理子が追っかけっこしたり磨き合ったりしている雰囲気は、いつだって彼女を見ていれば感じる。現在進行形の、これからもっともっと変化したり大きくなったりしていくだろうと予感させることは、私達をドキドキと期待させたりもする。いいことだし、すてきなことだと思う。

『Tobikkiri』は、だから、そんなふうにして出来上がった、今の永井真理子を知るにはコレを聴けばよい、とシンプルに言ってしまえるアルバムだ。

デビュー盤『上機嫌』、そしてセカンドの『元気予報』と比べると、グッと統一感が出てきている。今までうたってきたさまざまな曲のカラーから選び出したひとつの世界"真理子流応援の歌"で埋まった。どの曲からも現在の彼女が強く伝わってきて、そういうのって印象としてはやはり強烈なもの。

「実のところを言うと、レコーディングの最初の頃はツラかったんです。だからこのアルバムは、ツライ気分で始まって楽しく終えたってかんじ。ちょうど落ち込んでた頃に始めちゃったんですよね、レコーディング。何で落ち込んだかというと、今ラジオ番組を5本やってるんですけど、そういうふうにして忙しくなってくると、初めてラジオでしゃべった時の感動とか楽しさが、だんだん薄れてきちゃうんじゃないかと思って、そう考えたらすご一く淋しくなっちゃって」

インタビューを始めて間もなく、こんなことを話してくれた。

「そうしてたらすべてのことに落ち込んじゃって、私にとって歌ってなんだろう、とかね。結構考えました。でね、思いついたんです、このところ恋もしてないし遊んでもいないし、きっと欲求不満のストレスじゃないかって」

だから遊びに行ってみた、というのが真理子の行動力。たとえばディスコで踊ってみたりして、その後でふと気づいた。

「そういうことじゃないんだよなぁって。ホントのところ、こたえはまだ出てないけど、でもとにかく私は、なんでもいいから努力して前に進まなきゃって、すごくそう思ったんです」

ここまでをスラスラッと一気に話した様子からすると、確かにひとつの壁をクリアしたんだなと思う。不調の時には、何もかもがズルズルと後ろ向きになってしまったりもするもの。真理子も、上手にうたうには、を考え過ぎた結果、声のコンディションが最悪な状態にまでいってしまったらしいけど、彼女がいうように、とにかくやってみよう、努力しようを実践して、ハイこのとおり、しっかりとびっきりを作り上げた。

「落ち込んでもがいてた頃のことは、まさにA-2の「Pepper And Salt」だし、「Dear My Friend」とか、今回は特に私の実話的なことが歌詞になってると思います。ウソはうたいたくない、が私のこだわりだから、アルバム全部が私のホントだと思ってくれてもいいんです」

オープニング曲「Fight!」はその名のとおりファイトなナンバー。そしてラストのスロー曲「Change」で人間臭いボーカルを聴かせているが、今回ではこの2曲がアルバムのテーマになっているようだ。自由に、思いっきり、自分らしくとうたい続けている。シングル・カットされる「自分についた嘘」でも、自分らしくいようと語りかける。

いわゆるラブソング、は今回1曲もなく、バラードも、ラストに収められた曲のみ。とにかく勢いのある、勇気のあるアルバムだ。

「今回いろいろあってはっきりわかったことは、私はとにかく歌が好きなんだってこと。うたいたいから、早く落ち込みから抜け出したかった。早く元気を出してうたいたいから、努力もした。うたって、みんなに心を伝えて自分も感動したい」

真理子が作詞した「御飯食べてる?」(このタイトルは、アルバムの中でも、ハッキリ言って浮いてます。全くもって、真理子らしい。ハハ)では、いつも御飯食べてなきゃ派手な恋もできないよと、モンキーダンス踊りたくなるよな軽快なアレンジにのせてキュートにうたう。でも、ホントにそうだよね。ごはんしっかり食べて、元気でいなくっちゃね。『Tobikkiri』は、まさにそういうアルバム。ホントにそうだよね、元気出さなくっちゃ、楽しく笑いたいよね、って思わせる。

9月17日の日比谷野音ライブを控えて、夏バテでもしてないかなと気にもしてみたけど、永井真理子は大丈夫。取材場所に持ち込んだパンを、「私はおなか空いてない」と言いながらも2〜3個はペロッといってたし、撮影用のバックをペイントしていたカメラマン植田さんに、その場のノリで着てきたホワイト・シャツにペイントをお願いしちゃったり(実はそーだったのです。カッコイイでしょ)と、勢いはもちろん生活のスピードにまで至っていた。

"上機嫌"で始まり、"元気予報"につながった真理子のイメージ。インパクトの強いアルバム・タイトルはいつでも可愛くて気に入ったが、どれもがそのまま、その時の真理子を言い表わしていた。だから、今は"とびっきり"。隠してたりしないから、ウソはないから、頑張ってるから。とびっきりに元気でいたい心は、永井真理子のやり方だから。

●風はいつでもとびっきり、君に吹いてるとびっきり――と「ロンリィザウルス」で歌う真理子から新しく届く元気は、9月27日リリースのサードアルバム。その名も『Tobikkiri』。さらに同日シングル・リリース「自分についた嘘」も待ってます。今年の学園祭の女王などと早くも巷では評判。時折テレビで見かける風情も、それこそとびっきりの輝き。そんな真理子と今月も、楽しくいろいろ。

PHOTO●ATSUSHI UEDA COPY●KUMIKO FUKUOKA

TOBIKKIRI

NaGaTo Mariko

ザ・ペッパーボーイズ。

デビューして最初の夏をしっかりと走り抜け、雨がたくさん降ったけど、その分よけいに充実感も味わえて、たくましくなったペッパーボーイズ。そんな残りわずかとなった夏のある日に、彼らに会って、いきなり浴びせる質問は、"男とは？"!! 自信があるなら胸を張って答えてみたまえ。自信がなければまた今度。――さて、彼らの答えは、やっぱりたくましかった。

PHOTO●MITSUO KAWAMOTO COPY●KYOKO MORITA HAIR&MAKE●KENJI YOSHIDA

世の中はわからないことばかりだけど、こと男の子の構造に関しては、内的にも外的にも（ハハ）謎だらけ。

たとえば、いつも元気で明るいS君（仮名）がいきなり考え込んでたり、誰に何と言われようと髪を伸ばし続けるガンコなY君（仮名）が、投げたピックを拾う子のケガを心配したり、いちばんおとなしそうなN君（仮名）が、インタビュー中に積極的に発言したり、すぐ他人（ひと）の言うことを信用するH君（仮名）が、やっぱりいつも騙されてて、でも"もし本当のことだったら困るでしょ"なんて強さを見せたり。

男の子の謎は深まるばかり。ライセンスなしでは潜れない、深い深い海の底。それでも少しはわかりやすく、解説などをしてほしい。そ、池袋サンシャインシティの水族館みたいに、ガラス越しにでも、見てみたい。……そうだ。ペッパーボーイズなら教えてくれるかもしれないッ。ペッパーボーイズに聞いてみよう。（ソウショウ！）

根本「男とは、愛とやさしさ。それだけです。（キッパリ）なだめるようなやさしさじゃなくて、いつも遠くから何も言わないで見守っててあげる、そういうやさしさ」

柴田「男とは、夢を追いかけてゆくもの。明日を目指して生きていくもの」

吉田「男とは、すごくワガママで子供みたいなもの。表向きには強がりを言ったり、ハッタリをかましたりするけど、家に帰れば"シマッタ…"。（笑）それでも本当のやさしさを求めて、男は一生努力する」

橋本「男とは、雑誌とかで、さっぱりして男の中の男とか、決めるときは決めるとか、って、あれ本当なんですか？ 僕はそうは思えない。男とは、見せかけなんかじゃない」

この日のペッパーボーイズの撮影は、どうやら"男っぽさ"を強調するために、ニラミをきかせたりして、みんなあんまり笑っちゃいけないことになってるようだけど、でも実は、そーゆーことが男らしいんだなんて、誰も思ってなかった。ヨカッタ。ニラミつけたその瞳の奥で光ってる、愛と夢とやさしさと真実。やせっぽちな両手からは、迷いや後悔やワガママも、ときどきこぼれ落ちるけど、発展途上のオトコだもん、それも魅力になってしまう。

柴田「でも、自分がもう1人いたら、許せない、と思うかもしれない」

なんてことを。

根本「サラッとできないやつは許せない。しつこくても、しつこいくらい執念があるのはいいけど、切り替えのつかないやつはダメ」

あー、いるいる。

橋本「きたねー手を使うやつ！」

と言いながら、本当に怒り出した。

吉田「許せない男？ 物事を前向きに考えない人。すぐ投げちゃう人」

前に進まなきゃね。

自分に厳しい柴田君（意外に女の子にも厳しいらしい）は、シュガー・コーティングされた歌も、その中の本当のメッセージを見失わず、いつもキッパリ言い切る根本君は、ベースの音も歯切れがいい。自分の感情をまっすぐ表面に出せる橋本君は、ストレートに澄んだ音を叩き出すし、ポジティブな吉田君のギターは、悲しい歌でも救えるパワーを持っている。

ウン、それがペッパーボーイズのサウンドかなぁ～と、ぼんやり、夏の最後の線香花火をチリチリさせながら、考えてみたりする。とりあえず、今のところ、そんな気がする。

夏のイベントでは、並入るビート系バンドの間をサワヤカにすり抜け、ペッパーボーイズの存在感を見せつけてきた。

根本「僕たちは、音的にはガーッといく感じじゃないけど、違う意味でパワーがあることに気づいたんです」

柴田「デビューして初めて迎えた夏を、有意義に過ごせたんじゃないかな。もうオナカいっぱい。これからそれが栄養になっていくと思う」

ウマイッ。今ならば、小さなミスも、楽器のトラブルも、いろーんなバンドとの交流も、すべて血や肉になっていく、と、彼らは自覚して、さらに前進。

その、キリリとしたマユ毛は、やはり男らしい、としか言いようがない。

柴田「自分を男らしいと思うとき、ですかあ？ それはやっぱり人によって解釈が違いますからね、裸で鏡の前に立ったときとか、そういうことじゃないんでしょう？（シーン……）あ、エート、そうだなあ、やっぱり歌ってるとき。みんなに伝えたいことを歌ってるとき！」（リアルに再現してみました）

吉田「女の子といるとき」

橋本「たとえば好きな女の子がいたら、その子を叱ってるとき、かな」

根本「嫌なことがあって、泣いたとき。そのときは、そうは思わないけど、でも、あとで考えたら……」

その"男らしさ"は、みんな表現のしかたが違うけど、それぞれのテーマとポリシーを胸に掲げて、これからも歩いたり転んだりまた起き上がったり立ち止まったりそれでも走ったりして、私たちの前で、あらゆる"男らしさ"を見せてくれるはずの、ペッパーボーイズ。もう後には引けないヨ。

根本「モテる男になりたい。オトコからもオンナからも。そういう大人になりたい」

吉田「みんなから愛されたいとも思うけど、自分も、みんなを愛せるようになりたい」

橋本「うちのお父さんは……って、自分の子供に自慢されたい（笑）」

柴田「夢を与えられる人になりたい。ウォルト・ディズニーに負けないくらい」

私たちの目の前の、等身大の彼らは、今はあんまり財産がないけど、それ以上に大切なものをあり余るほど持っている。

"男とは"なんて漠然としたテーマで進んだ取材は、少なくとも、もう1歩彼らに近づけたことに間違いはないみたい。少しでも目を離したら、どんどん先へと行ってしまうからね、ペッパーボーイズは。

さて、男の子の心理研究は、やはり相当難しく、たった1時間弱のインタビューでは、やはり無理というものだ。

世の中はわからないことばかりで、こと男の子に関しては謎だらけ。

それも好きな男の子となれば、問題はますます難航する。でも、わからないからこそ、すごく、好きなのかもしれない。

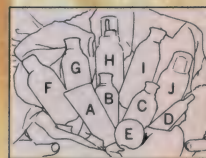
men's...

シピは、フランス語で「自己主張する女の子」という意味
いいものにビーンとくる女の子たちへ、肌・髪・からだ用化粧品
…シピ。新発売

SHISEIDO シピ

Chipie

Pour plaire à qui je veux

肌 A.ウォッシングフォーム 500円〈つるつる洗顔料〉 B.フレッシュローション 600円〈さっぱり弱酸性化粧水〉 C.モイスチャーローション 600円〈すべすべ弱酸性乳液〉 D.モイスチャーアップ エッセンス 700円〈肌あれ防ぐエッセンス〉 E.フレッシュアップ パック 800円〈ニキビのできやすい肌に、♡型のシートパック〉 髪 F.トリートメントシャンプー 350円〈さらさらシャンプー〉 G.トリートメントリンス 350円〈さらさらリンス〉 H.トリートメントムース 800円〈好みのヘアスタイルにセット&トリートメント〉 からだ I.ボディークレンジング 500円〈つるつるボディー洗浄料〉 J.シャワーミスト 800円〈すべすべボディー化粧水〉

第1回ライブ決定!

シピ WELCOMES LIVE Chipie

THE PEPPER BOYS コンサート
10/8〈SAT〉6:30 START
NISSINパワーステーション

肌・髪・からだ、負けず嫌い。シピ

HIMURO FLOWERS for ALGERNON

ALBUM INTERVIEW

「ソロになって目新しいモノをピック・アップしていって、それ以前にあった自分がゆがんじゃうことより、まず第1段階としては〝自然にやるべきだ〟って気持ちが強かった」――氷室京介の語る自然体の曲線は、アルバム『FLOWERS for ALGERNON』で、ゆっくりと大きな、まるで地平線のような孤を描き、ぼくらを圧倒しようとする。

PHOTO●YOSHIAKI SUGIYAMA COPY●AKIRA SAEKI HAIR&MAKE-UP●MUTSUO TADOKORO STYLING●TACO AIDA

HIMURO
FLOWERS for ALGERNON

BOOWYというバンドの〝ありさま〟をこれまで何度となくメタファー（比喩）してきたが、最近また一つ考え出した。

キューブ型の水槽に別々の色のついた4つのドライアイスが浮かんでいて、その4つは絶えずくっついたり離れたりしながら同一色の煙（＝ガス）を発しているというもの。水槽がBOOWYというバンドの現場であり、個々に色のついた4つのドライアイスがメンバー、そして立ちのぼる煙（ガス）が4人集まった時に生まれる不思議なパワーである。水そうから取り出したドライアイスは、ガスを発さない。

ここが問題である。BOOWY解散後、バンドという規定から逃れたフォー・ピーセズは、バンドがあったからこそ立ちのぼらせることのできた不思議なパワーを、もう発せられなくなるのではないか？と。

しかし外に取り出されたワン・ピースを手で握ろうとすると、火傷を負ってしまうのである。その、過度なクールさと、バンドという規定によって、生まれた（時に聴く人を煙に巻いてしまう）不思議なパワーがBOOWYだったとするなら、裸のオレを見つめなよと言いながらもジカに触れると火傷を負うかもしれないポテンシャルを、一人の存在としてパフォームしたのが、氷室京介である。

1年程前、氷室は自分のことを〝オレは陽気なペシミストかもしれない〟と言ったが、彼のデビュー作『フラワーズ・フォー・アルジャーノン』は、そうしたペシミスティックな発想（＝オーバー・クールネス）が、熱く、時として肌を溶かす局面も露出するさまを、しっかりと内に含んでいる。〝BOOWYからの道〟を、さまよいながら、前へ歩き出した彼に話をきいた。

——唐突な質問ですけれど、〝レコーディングとライブとどっちが好きか？〟と訊かれたら、ヒムロックはどちらをとりますか？

「どっちか選ばなきゃいけないとしたら、ライブの方だな」

——レコーディングに関してネックになるようなところ、あまり好きになれないところがあるんですか？

「レコーディングはやっぱ、生みの苦しみっていうかさ、作品を生むまでの過程がすごく重要じゃない？ ライブってのはそうじゃなくて、作品自体を自分の中に取り込んでいって消化していく作業だから……そっちの方が楽しいんだよね、何となく。

——レコーディングで〝初めの一歩〟じゃないけど、最初のカタチ創りをするのはなかなかにツライもんがある？

「そうだね。カタチにするまではいろんなアイデアとか方法を選択するじゃない？ そこでさ、オレって優柔不断だからさ。（笑）自分の中で湧き上ったモノのうち、どれをピック・アップするかが一番たいへん。で、ライブは自分のできる範囲がおのずと決まってくるしさ、音も限定されるし……そこの部分ではライブの方がラク。あとはオーディエンスとのかけひきはやっぱ楽しいよ」

——確かにレコーディングになると、自分だけ、送り手だけの世界になるから、なかなか選択ができないのかもしれないけど……今回ソロ・アルバムを創ってみて、そうした状況は事前に思ってた以上だったんじゃないですか？

「うん、すごく必要以上にナーバスになったと思うしね」

——自分の描きたい世界というか、あらかじめイメージしてた世界は当然あったわけでしょう？

「うん。でも最初からさ、自分の頭の中で描いてるモノと、現に出てきたモノがそんなに一致はしないだろうと思ってたよ」

——へえ。じゃあ実際に出てきてナンボっていうか、ヒムロックの頭だけが突っ走っちゃう、みたいなことはそうなかったんだ？

「そう、〝とりあえず最初だから〟と思ってね。別にそれはネガティブな意味じゃなく……次につなげられる作品ができればいいと思ってた」

——スタジオでおこなわれる作業が、バラバラになって困ってしまったということはありませんでした？

「デモ・テープの段階ではけっこう心配してたけど……自分の中にもいろんなパターンがあるんだなと思って。デモの時は17曲位録ったのかな？ で、その17曲に一貫性が見つけられなくてね。客観的に見て…。でも、スタジオは全体にうまくいった方だと思うよ。その辺（吉田）健さんのナイス・プロデュースがあったからだろうけど」

——いやアルバムを聴いてて〝フラワーズ・フォー・アルジャーノン〟っていうキー・ワードは、製作の最後の方で付けられたんじゃないかと思った。

「そうだよ。だから、アルバムのタイトルとコンセプトは関係ない。今回はノン・コンセプトだから。ほんと、あのタイトルで全部聴いちゃうとツライところがあるよね。（笑）その辺は、単純にオレが〝アルジャーノンに花束を〟っていう本を読んで、オレなりにその

HIMURO FLOWERS for ALGERNON

本を消化してさ、〝もしオレが主人公だったら……〟みたいな部分がアルバムに持ち込まれてると思う。チャーリー・ゴードンじゃなくて氷室京介演じるところの〝アルジャーノン〜〜〜〟だし、あの曲にはオレの社会観みたいなモノも出てる。それって、オレの中では一番キャッチーなのね。だからそれをアルバム・タイトルにしただけの話」

——じゃあヒムロック自身は、あの本から受けたモノって、けっこう大きかったんですね。

「うん、精神的に不安定な時期とかが、長かったりしたから」

——それはいつ位から？

「狭い範囲で見れば、BOOWYをやめる1年から1年半位から前。広く考えれば、18歳位の時からずっと。オレってさ、自分で言うのも何だけど、社会に適応できないぜったいミス・フィットだと思ってる。そういう人間って、どうやって社会に溶け込んでいこうかと常に考えてる。その辺でさ、チャーリー・ゴードンもいわゆる白痴という、社会的にはミス・フィットな存在なわけじゃない？ だから何となく近くに感じ」

——でも、その辺の話ってヒムロックの中である程度一貫してたりするよね？ 〝サイコパス〟の時もそんな話をした。カッコ良く言うと〝自己存在の被疎外性〟みたいなさ。（笑）

「（笑）。だから、いわゆるシステムっていうか社会っていうか、その辺に対する嫌悪がずっとあるのかもしれないね。システムに特別溶け込みたいわけじゃないけど、まったく接することなしには生きられない。だったら接点として自分のポジションを築きたいと思って……そこで音楽を創ってるのかもしれないよ。結局〝ディア・アルジャーノン〟にだってシステムに対する反感だとか違和感が入ってるもん」

——ヒムロックが思ってる〝システムの模範型〟みたいなのってあります？

「やっぱ身近なところでは会社世界じゃないかな？ でも、それもよくわからないところがあるんだよ。一対一の人間レベルでつき合ってるぶんにはいいんだけど、いきなりそこに〝上からの声〟とかが出てきちゃったりするじゃない？ たぶん、その中でみんなあがいて生きてるんだろうと思うけど。そこにジレンマも何も感じなくなったらオシマだよ。何か、そういうレベルで〝ディア・アルジャーノン〟とかをわかってもらえたら、すごく嬉しい」

——でも、そういうヒムロックの姿勢って、言い方は変わっても、〝モラル〟の時から今に致るまでずっと底辺に流れ続けてると思う。

「いいこと言ってくれるじゃん。（笑）それがなくなったらオレじゃなくなっちゃうと思うからさ」

——前に話をきいた時、〝BOOWYはけっこうフィジカルだったのにディジタルな匂いを持たれた〟とか〝歌詞的にBOOWYでは使えなかったコトバを使いたい〟って言ってたでしょう？ で、ソロ・アルバムを創り終えてみて、逆に気付いたBOOWYの特長みたいなのはないですか？

「今回のオレのアルバムにもしもサウンド的なテーマがあるとしたら、BOOWYが多くの人に匂わせたディジタル臭さから逃げたい、って言うとヘンだけどそこから違うところに行きたかった！ みたいなのがテーマだろうね。そうやってくうちに、逆に肉体で演っていながらディジタルに感じさせてたBOOWYのスゴサにもまたびっくりしたけどね」

——4人の肉体で演っていても、肉体性がスポイルされてなおかつ存在感だけは残るって部分がスゴイよ。

「うん。それもだからいろいろ演ってくうちに削り落とされそうになったわけじゃん？ もちろんライブとかじゃ、汗は感じさせてただろうし……まあ、汗臭くはなかったろうけど、それなりに〝光る汗〟はあったよね」

——うん。だから、BOOWYでできなかったモノを……って言って取り組んで、それでもでき上がった作品には氷室京介の精神性の深部が感じられたというところは、すごく興味深かった。

「ソロになって、目新しいモノをピック・アップしていって、それ以前にあった自分がゆがんじゃうことより、まず第1段階としては〝自然にやるべきだ〟って気持ちが強かったから」

——キャラクターをかなり変貌させて〝ソロ・氷室京介〟を演出するやり方も頭の中にはあったでしょう？

「チラッとね。でもオレ、そういうやり方ってたぶん一生できないと思う。だからある意味じゃ……BOOWYってその都度自分たちの中にでてきたモノを音にしていったバンドだったでしょう？ 変わったけど自分たちから大きくはずれることはしなかった。そのアプローチの仕方は今でも同じなのかもしれないと思うよ」

最新作『フラワーズ・フォー・アルジャーノン』は、この先ずっと続くであろう氷室京介の気負いのない第一歩である。そしてそれは、最終解答の出ないプロセスでの打診でもある。

HIMURO
FLOWERS for ALGERNON

HIMURO
FLOWERS for ALGERNON

ALBUM INTERVIEW

衣装協力●アルティジャーノ☎03(405)9666 クレイジーキャット ☎03(401)9837

HIMURO KYOSUKE

KING OF ROCK SHOW

SPECIAL THANKS TO EVERYONE INVOLVED IN OUR SHOW

HIMURO KYOSUKE

"DON'T KNOCK THE ROCK" GOODS

通信販売の申し込み方法

●商品を購入される方は、郵便局に置いてある「郵便振替用紙(払込通知票)」にてお申し込み下さい。現金書留は一切受け付けておりません。

▶郵便振替用紙の書き方◀

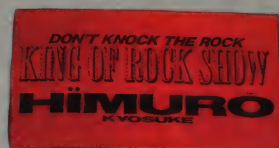
●郵便振替用紙は払込通知票と払込票のふたつに分かれていますが、それぞれ※印が記されている欄は全て書き込んで下さい。記載の方法は下記の通りです。

口座番号：東京 6-64235
金　　額：お申し込みになる商品の総額を書いて下さい。
加入者名：㈱ユイ音楽工房通信販売部
払込人住所氏名：あなたの郵便番号 住所、氏名(フリガナ) 電話番号

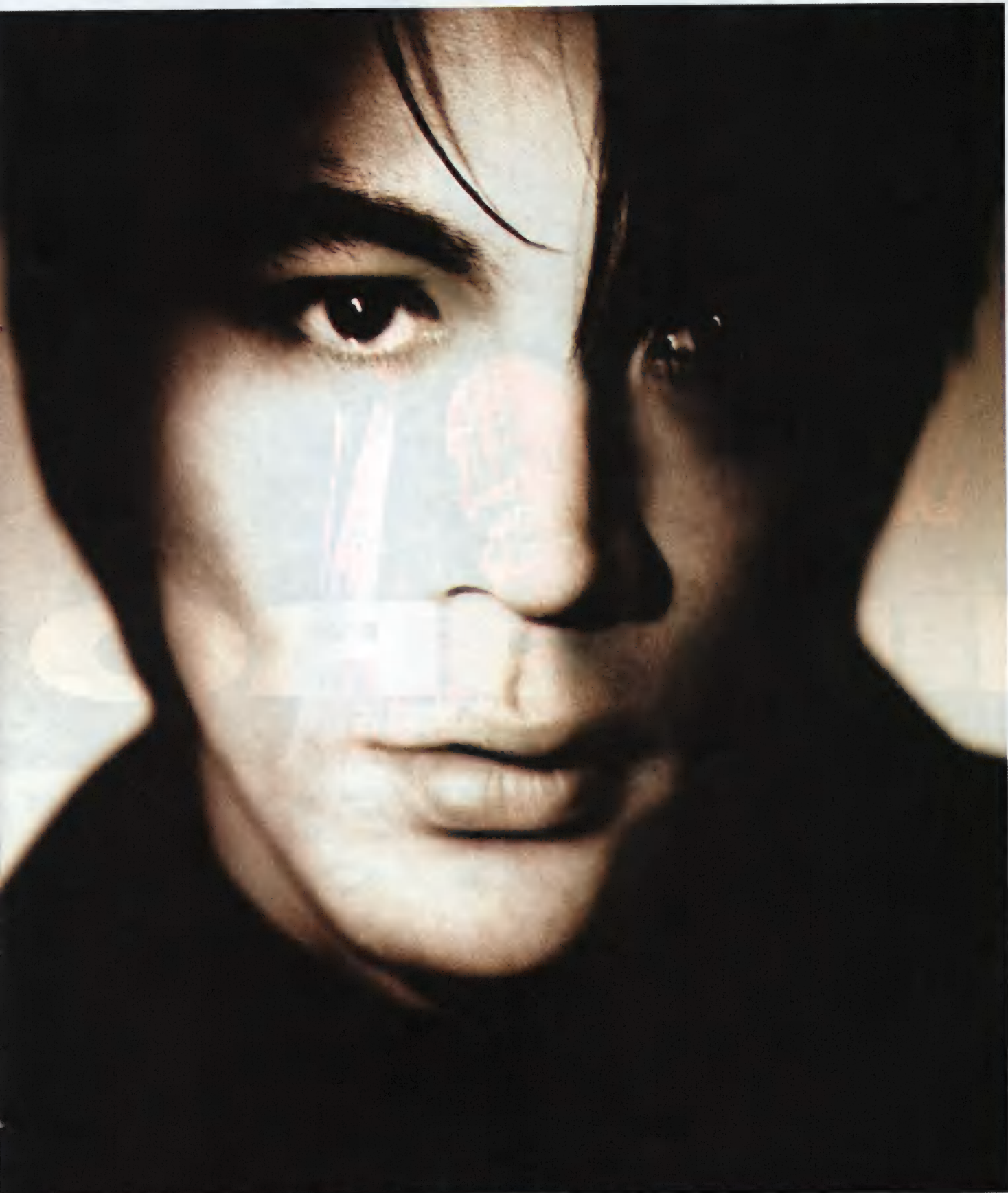
●次に、払込通知票の裏にある通信欄に御希望の商品名、品番、数量、金額を必ず記入して下さい。金額の過不足や、郵便振替用紙に書きもれ、書きまちがいがありますと、発送が遅れるなど不備が生じますので、くれぐれも御注意下さい。尚、価格には送料および荷造り手数料が含まれています。

●商品申し込みの締切り日は昭和63年9月30日(当日消印有効)です。また、10月下旬より先着順に発送いたしますが、応募者が多数殺到した場合には多少遅れることがありますので御了承下さい。

●問い合せ先
㈱八曜社内ユイ音楽工房通信販売部
東京都文京区小石川2-5-7佐々木ビル5F
Phono. 03-814-5490
(AM11:00～18:00[月]～[金])

①ステッカー ¥1,300
②バンダナセット(2枚組) ¥1,200
③シガレットケース&ライター ¥2,200
④バッチ(2個セット) ¥600
⑤ビッグタオル ¥4,000
⑥タンクトップ
レディース(グレー×黒) ¥2,800
メンズ(黒) ¥2,800
⑦ポスター(2枚組) ¥1,200

タンクトップは御希望の色をはっきりとお書き下さい。

MAIL-ORDER

心への音楽
EASTWORLD TOSHIBA EMI

● シングル"ANGEL"のREMIX VERSIONを含む全11曲収録予定 *CD*(CT 32-5300):*¥3,200* *LP*(RT 28-5300). *MT*(ZT 28-5300):*¥2,800*

"氷室京介スペシャルエディションVTRプレゼント" シングル・アルバム両方をお買い上げの方に抽選で1000名様に進呈! 詳しくはレコード店で。

フラワーズ・フォー・アルジャーノン

RS for ALGERNON

HÏMURO KYOSUKE

FLOWERS for ALGERNON

HÏMURÓ KYOSUKE

KING OF ROCK SHOW
FLOWERS for ALGERNON
TOUR

10/1 高松市体育館
10/4 福岡国際センター
10/12 広島サンプラザホール
10/30 新潟産業センター
11/22 大阪城ホール
11/24 名古屋総合体育館
11/30 月寒グリーンドーム
12/8 仙台市体育館

(問)ユイ音楽工房：03-404-6881

予約特典：ポスター

9·1 RELEASE

氷室京介

FLOWE

HOUND DOG ▶ OVERLAND TOUR GODS

Tシャツ(B)/フリーサイズ/¥2,000(送料¥240)

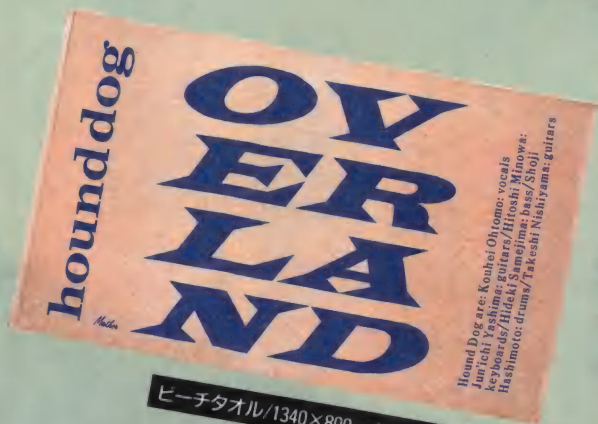
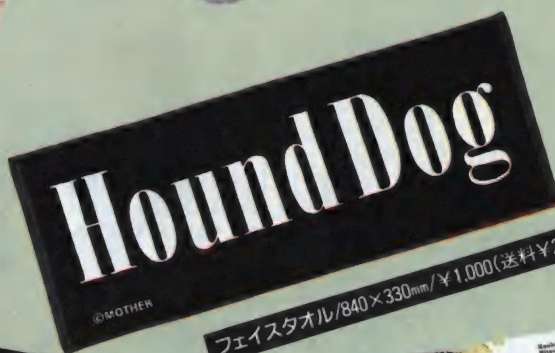
Tシャツ(W)/フリーサイズ/¥2,000(送料¥240)

キーホルダー/70×26mm/¥500(送料¥120)

長袖Tシャツ(W)/フリーサイズ/¥3,000(送料¥240)

ポスター/840×1180mm/¥1,000(送料¥600)

バッジセット/32φ×3コ/¥500(送料¥120)

タンクトップ(B)/フリーサイズ/¥2,000(送料¥240)

ビーチタオル/1340×800mm/¥4,000(送料¥350)

フェイスタオル/840×330mm/¥1,000(送料¥240)

パンフレット/B4・P68/¥1,500(送料¥350)

▶お申し込み方法

ご注文の際は、希望商品名、数量、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、商品＋送料の合計代金を現金書留で下記の住所までお送り下さい。郵便振込でお申し込みの際は、裏の通信欄にアーティスト名(HD〈パチパチ〉)、商品名、数量等を明記の上払い込んで下さい。

〒106 東京都港区六本木2-2-13
(株)ポップロック・カンパニー HD〈パチパチ〉係
PHONE:03-584-1610
口座番号:東京8-359413
加入者名:株式会社ポップロック・カンパニー

※写真と実物は多少異なることがありますのでご了承ください。

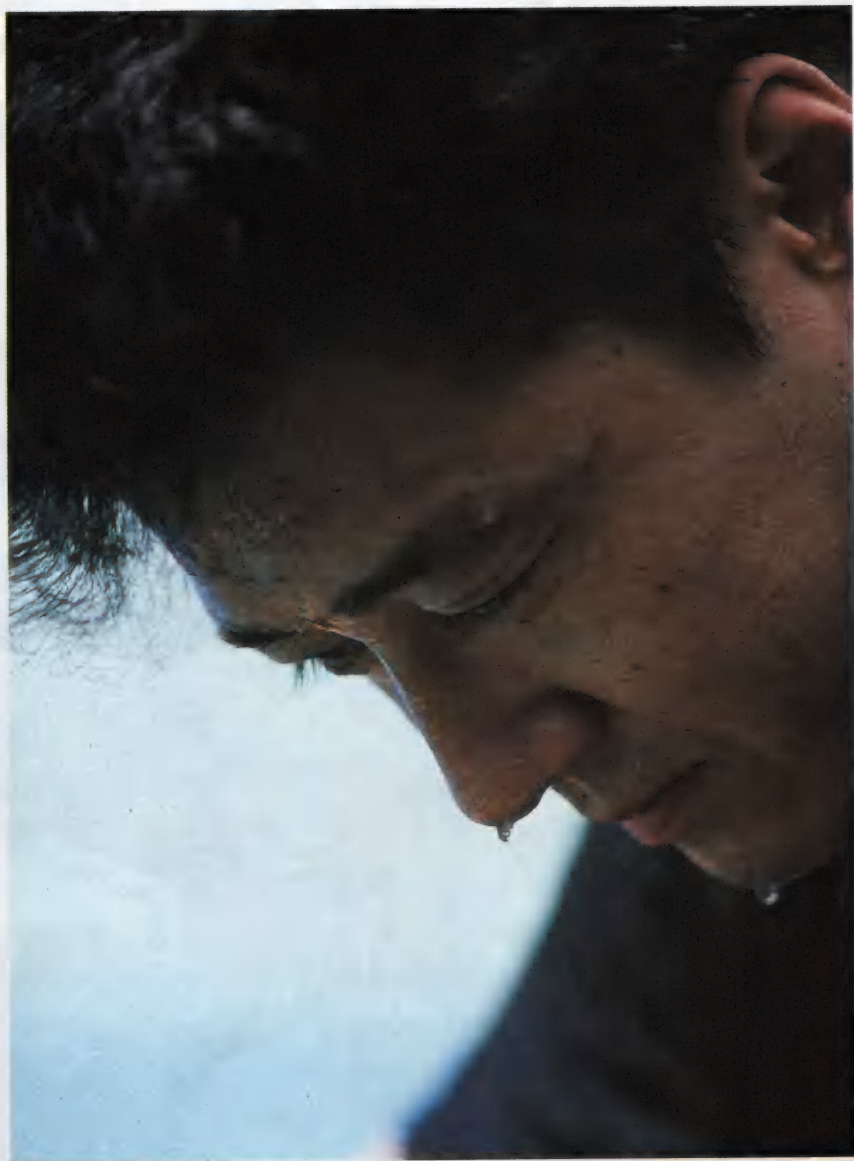
5 DAYS LIVE HOUND DOG

1988.8.20／SAT AT SEIBU STADIUM FOR 5 DAYS LIVE!

'88年８月20日、午後６：00。ハウンド・ドッグ西武球場５DAYS、17万５千人のコンサートが幕を明けた。開演を告げる"炎のランナー"が球場内に流れ出すにつれて、"そうか、17万５千人か…"とつぶやいてしまう。ひと言で17万５千人。されど17万５千人だ。ひとつひとつのコンサートを全力でつみ上げた結果の数がここにある。西武球場５日間。だから、とっても誇っていいんだ。そう思う。

PHOTO●NANAKO NISHIYAMA (P116-P118) KENJI TSUKAGOSHI (P114-P115)　COPY●EIKO FUJISAWA

5 DAYS LIVE HOUND DOG

ひとつひとつの積み重ね…だから誇れるんだ

1988年8月末、埼玉県所沢——

梅雨の延長のような夏が続いたかと思うと、突然の残暑。盛夏が欠けてしまった異常気象は、一日一回、夕刻になると決まったように降る雨が、涼しさより暑さをもたらしていた。こういう蒸し暑さ、中国では悶熱と書いてメンラアという。悶絶しそうな暑さということだろう。

この日も、そんな暑さが、ここ所沢西武球場を取り巻いていた。高校野球準々決勝に地元、浦和市立高校が進出。そのTV中継が球場ダッグアウトの一室からもれてきていた。

西の甲子園では、2週間に渡った球宴が幕を閉じようとしていた。片や東のここ西武球場では、ハウンド・ドッグの5日間に渡るコンサートの幕が上がろうとしていた。

午後1時30分、灼熱の中でリハーサルが始まった。

「西武球場って、相性良くねえんだよな」といい、眉を八の字にしながら大友はステージに上がっていった。

この会場は、彼らにとってワンマンで3度目になる。一度目は、3年前の8月10日。3万5千人は収容できる球場に、ある日集まった人の数は1万5千人だった。やけに空席ばかり目立っていた。おまけに開演と同時に雨。ヒットのないキャリア6年のバンドにとって前向きな条件はひとつもなかった。しかし、彼らは、そんなことに臆するでも、ふてくされるでもなく、実に伸び伸びと熱いステージを展開した。

ところが、残りあと数曲というところにきて、大友の目の前で突然、花火が暴発した。これは、客席から見ていると、吹き上がる火の中に飛び込んでいったかのように映った。歌はそこでブッツリと途絶え、演奏だけが続いていた。スタッフが、倒れて微動だにしない大友をかかえていく。騒然となる客席。

しかし、続くラストナンバーのイントロがかなでられると、大友はステージに再び現われた。片目にバンダナを巻き、肩をスタッフに抱きかかえられ、少しふらつきながら、彼は歌った。

奇蹟的に傷は軽い火傷だったという。でも、それよりももっと奇蹟的だったのは、あの夜、すべての負の条件が正へのエネルギーに転化して、1万5千人が3万5千人に充分匹敵したことだった。

そして、彼は無暴にも叫んでいた。

「俺は、決めた！ 来年もまたここでやるぞ!!」

この'85年8月10日が、後にいう〝伝説の雨の西武球場〟で、その時彼が思わず叫んだことばが〝誓いの日〟として、翌'86年8月10日、同じ西武球場でのコンサートになった。が、一回目と二回目とでは、状況はまるで違った。

一回目、空席や雨を、まるで対バンか憎くき敵のようにしていどんでいた彼らが、二回目に目のあたりにした光景は、西武球場初まって以来の記録という3万7千人、超満員の客席だった。

その時のステージは、今思い返しても、首をひねるばかりのらしくないものだった。とりたてて悪かった部分も失敗があったわけではなかった、逆にいうと、いい所もない、欲求不満が残るものだった。いくつもの意見が出た。プレッシャー負けだとかメニューの失敗だとか。

しかし、いちばん大きかったのは、ハウンド・ドッグというバンドは、常に逆境のバンドであることを忘れていたからかもしれない。

一回目のおとしまえをつけるつもりでケンカにいどんだら、二回目は相手がひるんで逃げてしまい、ほんの一瞬拍子抜けしてしまった。そんな状況だった。

そして、今回、三度目。5日間の球場というケンカ相手を前に、大友はリハーサルをこう締めた。

「この前の西武球場が、自分としては屈辱のコンサートでしたから、今回は、そんなことのないように……なによりもスタッフとメンバーの心が離れることがいちばん恐いわけで、ひとつ、憎しみあうくらいの気迫でのぞみたいと思います。ま、前座のような形で、この夏いろんな人がここでコンサートやったみたいですが、ま、ちょっといいすぎですが、（笑）デッカイ、ライブハウスという気分で、モヤモヤした夏を吹きとばすようなコンサートにしたいと思います。ひとつ、よろしく！」

5日間ではけたチケットの数は17万枚。ソールドアウトになったのは最終日のみで、残り4日間あわせて5千枚が残っていた。もちろん、メンバーはそんなこと百も承知だった。いくら無暴とはいえ、売り切れでなくてイイ気分なわけがない。

心配性の蓑輪が、グラウンド中央にやってきて、グルリとスタンドを見渡しながら

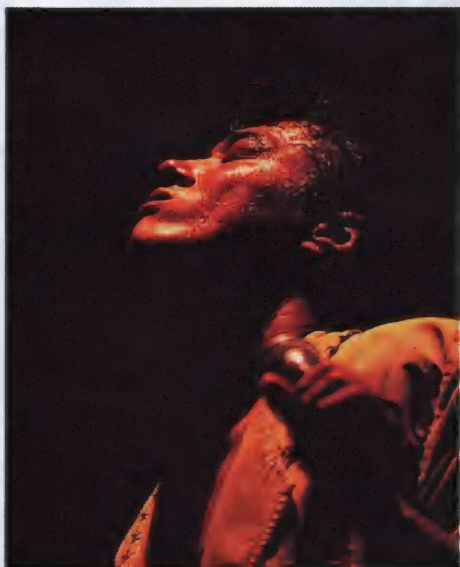
「どのへんがあくんでしょうね」

とイベンターに問いかける。

「左右の上のほうが山なりに欠けると思います。でも、気になるほどでもないですから……」

といっている横で大友がいう。

「しかしよ、初めての時よりはマシなんじ

5 DAYS LIVE HOUND DOG

「やねえかぁ、ガハハハッ」

午後6時10分。

まだ充分に明るい夏の夕刻、西武球場に2年振りに、ハウンド・ドッグのオープニングを告げる「炎のランナー」が流れた。

約3万4千人の視線がいっせいにステージに注がれる。そのステージは、一面に白い幕でおおわれていた。楽器のセットはもちろん、メンバーも見えない。見えるのは、幕と、左右に居並ぶ巨大なスピーカーと、やはり巨大なスクリーンだけ。

その無人に見えるステージから、いきなりオープニング・ナンバーが流れてきた。アコースティックな調べに乗って、

〝いたずらに 過ぎてゆく 時の流れの中で/ときめきと さよならを 繰り返してばかり/ポケットにつめ込んでた わずらわしさのうずを ひとつずつほどいてくれたあの日から/おまえこそ 最後の俺の人と感じてる/今こそ I LOVE YOU I BELIEVE 今 いえるぜ愛を信じてる/I BELIEVE 愛は命 生まれ変わっても めぐり逢いたい I LOVE YOU〟

と。おそらく日本中で500人しか知らない、H・DのNYレコーディングの曲、「BELIEVE」。実は、これは、大友の結婚記念CDとして、披露パーティに出席した人のみに配られたものだった。

その「BELIEVE」が2番に入ったところで、幕が左右に開いた。

まったく意表をつくというか、ハラハラさせられるというか、冒険というか――。

しかし、この冒険がいい緊張感につながった時、彼らは、底知れぬ強さを発揮する。ステージは、続く「KNOCK ME TONIGHT」から怒濤のように走り出した。

と同時に、さっきまでのピーカンがウソのように、ぶ厚い雨雲が張り出し、空を見上げる間もなく雨に変わった。そして、時折、稲妻の閃光が、山あいに走った。

が、その閃光すら照明効果にかえ、曲は「トラブルメーカー」、「無理を承知で」「OVER HEAT」と、つっ走る。

広いステージを前半から右へ左へと駆け抜ける大友。スタンドにいても怪腕が間近かに感じられるドラムのブッチャー橋本。華麗に舞いながら小気味良くプレイするギターの西山。跳ねたり飛んだり、コミカルな動きを忙しいプレイの間でも欠かさないキーボード小僧、蓑輪。いつもより後方にひかえながらも、音では引かないベース鮫島。メロディアスなギターソロが人を動かす、八島。

6月から始まっている今回のツアーは、すでに40本を越し、前回の3年越しの〝BLOODSLIVE〟とはまったく趣きの異なる構成で行なわれている。

「BABY BLUE」、「おちょくられた夜」という6年前のナンバーを、平気でメニューに加えながら、とまどう客席を楽しんでしまう余裕。常連だったバラード「Jのバラード」を抜いて、「SEPTEMBER RAIN」、「LONG GOOD BYE」、「DON'T CRY」を中盤にサラッと配置できる自信。

以前より簡潔に、肩の力を抜かせるようにできているようでいて、後半で、どんでん返しにあってしまう。

Oクンは、25歳になったばかりの東京のラジオ局の新米アナウンサーだ。

彼は、今年になって、いきなり、業務命令でロック番組の担当になった。それまでは、バラエティもの、アイドルものばかりで、アナウンサーとしてはもちろん、学生時代にも、ロック・コンサートに一度も行ったことがなかった。もちろん、レコードもほとんど聞いたことがない。かろうじてヒットチャートにのぼる曲とアーティスト名を知っている程度。

「とても僕なんかにはつとまらないんじゃないでしょうか……」

彼は正直に上司に訴えた。

ところが、上司は、こういった。

「知らないからいいんだ。変に業界人だったり、音楽にうるさいと、ファンと同じ視点で話ができない。口先だけの理屈より、生きた言葉が、ロックなんだ」

それでも彼は、迷っていた。

恥かくのではないだろうか。いや、それよりも、まったく未知のものを自分自身が受け入れることができるのだろうか。

彼は、この春から、半ば強制されるようにしてロック・コンサートに足を運んだ。ライブハウスからBIG EGGまで、ありとあらゆるコンサートに出かけた。

行ってみると、どのコンサートも、異常なまでの活気に満ちあふれ、どのアーティストもスゴイ人気のあるビッグバンドに映った。

「いやあー、すごい熱気でした。全員が総立ちで、ドッと前につめかけ、ずっととびはねっ放しなんです」

彼は、マイクの前で懸命にしゃべった。

この調子が1か月続いた時、上司のディレクターにいわれた。

「何も伝わってこない。客席がどうのこう

5 DAYS LIVE HOUND DOG

そして、この積み重ねは永遠に続いてゆく。

の、熱気がどうのっていっても、おもしろくもなんともない。全部いっしょに聞こえる。僕は、Oクンがそのアーティストを見てどう思った、どう感じたかを知りたいんだ」

コンサートの数は30本を越していた。でも、彼の迷いは続いた。好きだナと思えるアーティストはいくつかあった。でも、その感情は、うまくことばに出ない。毎回、彼は、放送のたびに落ち込んだ。

アナウンサーとして3年。少しは形になってきたかなと思っていたところへ、ロックによってスランプがやってきた。

そんな時に、彼は、西武球場にやって来た。初めてのハウンド・ドッグのコンサートにやって来た。彼にとって41本目のコンサートだった。

彼は、いつものように、ノートを広げ、ペンを片手に、

〝何を話そうか。どこをピックアップしようか……〟

アレコレと思いあぐねながらステージをながねめていた。

曲は、そろそろ終盤にさしかかっていた。「LAST HERO」で、大友康平がバケツ一杯の水を頭からザバッとかぶった。

その光景は、傍観者の彼にとって、ちょっとした衝撃だった。

それがキッカケだったかもしれない。

ステージから大友が息をせき切らしながら、

〝OVER LAND TOURってのは遠まわりとか回り道とかそんな意味があります。いかにも俺たちらしいぜー！ 世の中には、簡単に、きたないテを使って金をもうけたり、偉くなったりしてやがる奴がいるけど、そんなもんウソっぱちばっかりだ。俺はやっぱり、信じられるもの、熱いとか、気持ちが盛り上がるとか、感動するとか、涙を流すとか、そういうものがいちばん好きです。チャンスなんてのは、そこら中に転がってんだぜ。妙にサメたりしねでよ。もっと前のめりになって、俺たちといっしょに、がむしゃらでいようぜー！」

と叫んだ。と同時に、「アンビシャス」の演奏が始まり、ステージから上空に向かって、何本ものサーチライトが一直線に伸びた。その光は、届かない想いが、果てしなく遠い想いが、一本の線でつながっているかのように思った。

気付くと、彼の頬を熱いものが伝っていた。

翌日、彼は、マイクに向かって、

「僕は、コンサートで初めて泣きました。すごく恥ずかしいことだけど、いろいろ落ち込んでたことがあって、それが西武球場で、ステージと僕の席がうんと離れていたのに……」

ことばとしてはまるでまとまっていない感動を、彼は、懸命に話していた。

Oクン、25歳。

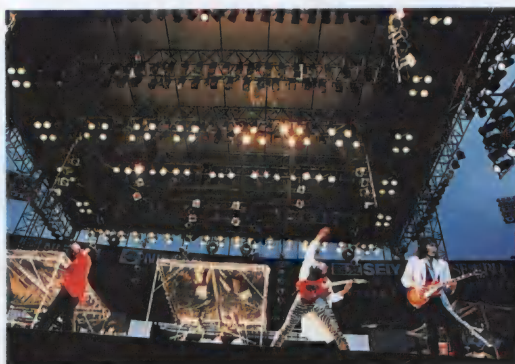
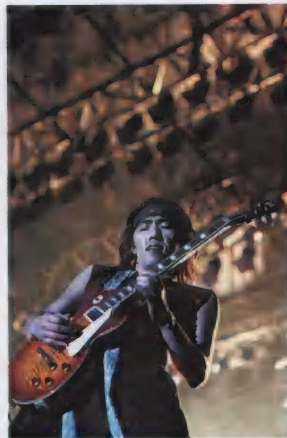
まだロックのことはよく分らない。でも、ひとつだけ分ったのは、ロックには不思議な力があること。

彼は、今の立場をチャンスだと確信できるようになった。

三度目の正直ではないが、ハウンド・ドックの西武球場は、小雨というオマケまでついて、記憶に残るコンサートの1本になった。

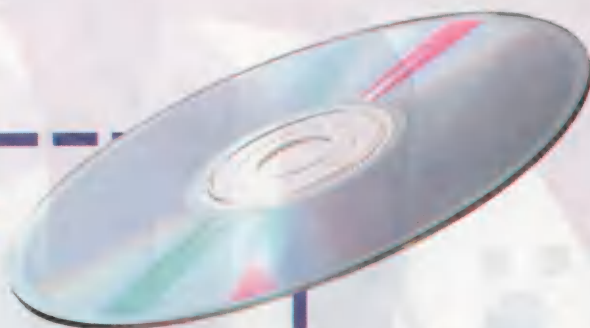
いちおう、ツアーの中の東京公演が、この5日間にあたる。春のBIG EGG5万人を含め、東京だけで今年すでに22万人動員ということになる。それに各地のツアー、大阪球場などを加えると、今年最大の動員数になることは間違いない。

それでも、彼らにしてみれば、5千枚も余ったことが宿敵のように悔しいに違いない。

この悶絶しそうな旅は、来年の春まで続く。

SONY

よい音お聴かせしたいから、ワタシをきれいなカラダにして欲しい。

MOUSSE TYPE

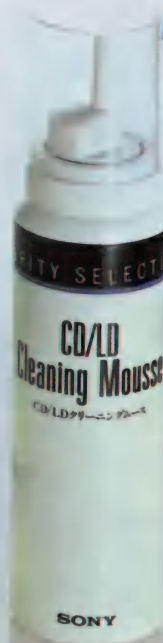
泡ですっきりクリーンアップ。
使った感じが新しい、楽しい
ムース・タイプ

CLOTH TYPE

聴く前の簡単クリーニングに。
汚れをしっかりキャッチする
クロス・タイプ

PEN TYPE

たとえば指紋1コ、ディスクの
ワンポイント・クリーニングに
ペン・タイプ

TISSUE TYPE

部屋で、車で、アウトドアで、
気軽にクリーニングできる
ティシュ・タイプ

SPRAY TYPE

ビギナーもマニアにも、これが
CDクリーニングのベーシック。
スプレー・タイプ

CD/LD Cleaning Tissue

CD/LD Cleaning Mousse

CD/LD Cleaning Spray

CD Spot Cleaning Pen

Wiping Cloth

美しいディスクは美しい音がする。
だから、〈ピュアリティ・セレクション〉新発売。

CDは音がいい。LDの映像は美しい。でも、ディスクの汚れは、高音質・高画質の大敵です。だから、AVのハートもソフトも知り尽したソニーが作りました。AVクリーニング・ギア〈ピュアリティ・セレクション〉。いつもピュアな音と映像を楽しむために、新登場です

CDクリーニング ムース・キット：CDM-1K ¥1,400●CDクリーニングムース(75cc)、スイーパーのキット

CDクリーニング スプレー・キット：CDM-2K ¥1,100●CDクリーニングスプレー(30cc)、スイーパーのキット

クリーニングティシュ〈ボトル・タイプ〉：CDM-4(CD・LD用)、KK-14(キャビネット用)、KK-15(ディスプレイ用)、KK-19(テレホン用)、各40枚入り ¥1,000

CD・LDクリーニング ティシュ〈ポケット・タイプ〉：CDM-5 ¥450(12枚入り)

クリーニングティシュ〈スティックタイプ〉：CDM-6(CD・LD用)¥350、KK-16(ディスプレイ用)¥400、KK-17(イヤホン・ヘッドホン用)¥350、各5本1組

CDスポットクリーニング ペン：CDM-3 ¥1,200(ドライ用スペアクリーニングチップ2個付属)

CD・LDワイピング クロス：CDM-120C ¥1,000(サイズ：20cm×20cm)

PURITY SELECTION

Sony AV Cleaning Gear

ME CLUB

[全国コンベンションツアー・ルポ]

みなさん、御飯をおいしくいただいていますか？　この天候でお野菜が高くなってしまいましたが、この秋の米の収穫には期待しましょうね。GO FUNKってる米米CLUB改め、ゴハンクッてる米米CLUBもさわやかにプロモーションを展開してる次第。

PHOTO by GORO IWAOKA　COPY by KYOKO SANO　協力●熊本ホテルキャッスル

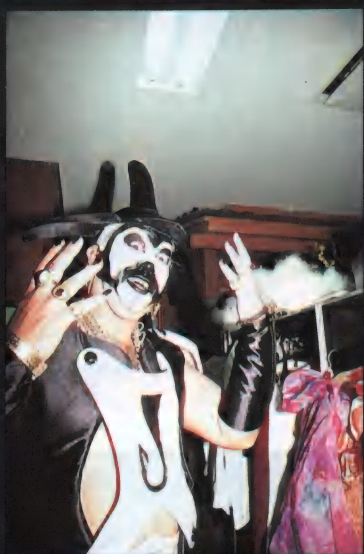
KOMEKO

ごはんくら

GO FUNK

「GO FUNK!」。
「ファンクでイこう!」とはイキのイイ
「御飯食う、なんてダブル・ミーニングな
んですね、これが」
あらま。やっぱし、どっかヒネクレなく
ちゃ気がすまないんですな。
「高度なギャグでしょ?」
そうでしょうか……?
「どっか政治的な匂いまでしてくるという。
しません? なんとなく?」
ウ、ウ、ウーン……
「ソウル市民に向けてのメッセージですよ」
「あのね。米米CLUBってファンク色が
強いと言われながら、レコードにはその面
がほとんど出てなかったと思うんですよ」
言われてみりゃあ、確かにねえ。
「だから、『美熱少年』をアルバムに入れる
という課程の中で如々にファンク色が強ま
ってきたんです。ウチラ、別にファンクを
極めたいってバンドじゃないんですけど、
形態として何が一番近いかなと考えたら」
ファンクですか? やはり?
「それとね。いままでの三枚はわりとキュ
ウクツなレコーディングをしてきたと思う
んですよ。米米CLUBの場合、スピリッ
トナシでやってきたでしょ。そういうスタ
ンスと制約の中で作ってきたから、どっか
キュウクツだったと。それがここに来てフ
ッ切れちゃったっていうかね」
具体的に説明してくださいな。
「つまり、とにかく自分達の好きなように
やろうってことです。売れなきゃイケナイ
とか考えて作ってたってしょうがないなあ
と。もう一度、米米CLUBがやりたいこ
とを見つめ直してみる必要があると」
バンドとしての体制を立て直すというイ
ミも含めて、ですか。
「そう。メグミが辞めたり、サトミちゃん
が引退したり、米米CLUBの体制自体変
わった時期でもあるし、ここで奮起して米
米のノリをレコードの中に叩き込もうと。
米米ならではの大上段に構えたアルバムを
ドーンと出しちゃえって。もう小手先でチ
マチマやるのをやめちゃおうとしたんです」
「ファンク色は確かに強まりましたよ。そ
りゃ、みんな好きだからね。でも、中心の
コンセプトは、オレ達らしいものを作ろう
ということなんです。そのためには、みん
なで遊びたいだけ遊んで、楽しみながらレ
コーディングしようと。その楽しさは必ず
聴いた人にも伝わるだろうと」
いつになく真剣に語るカール君です。驚
きと同時に『GO FUNK』に賭けるイ
キゴミをヒシヒシと感じたりなんかして。
「オレなんか元がミュージシャン肌じゃな
いから、第三者的に見える部分もずい分あ
って、みんなが言いたいことあるのに黙って
るんじゃないかなって思ってたんですよ。
そういうのって違うんじゃないかと感じて
たのが、ここで一気に〝カマワネェー、ヤ
ッチャエ!〟って爆発したんですね。だか
ら、初めてアーティストの顔してレコーデ
ィングできた、ファーストアルバムみたい
な感触があるんです」
全員が妥協することなく、思いきり自分
達らしさを押し出すことが、ひいては米米
CLUBらしさになるという考え方だ。
「なんだか、やっと米米らしい大らかさが
出てきたなあ。ミュージシャンって、それ
が本筋なんじゃないですか。言いたいこと
言って、みんなでゲラゲラ笑いながら、楽
しいものを作って、世の中に評価されてい
く……。評価されたいがために作るものじ
ゃなくて、好きに作ったものが評価される。
それが本物だと思うんです」
全国コンベンション・ツアーも、「自分達
が愛する作品ができたから、一肌脱いでみ
よう」という気持ちで挑んでいるそうだ。
「意志は固いですね。今回、ビッグ・ホー
ンズビィもシュークリームシュも頑張った
し、米米CLUBがひとつにまとまったア
ルバムができたという自信はありますね」
「頑張って作りました、というようなちょ
っとクサイ言葉も本当にそうなのだから堂々
と口にできる。何をしでかすか見当もつか
ない集団だけに、アーティスト・パワーが
結集したときの威力はスゴイ。
「全体からすると、オレが歌っている曲が
多いんだけど、ジェームス小野田のパワー
と熱がレコードでもちゃんと君臨してるん
です。彼もまた大きくなったし、新たに自
分を発見できたと思いますね。小さな失敗
にこだわってた時代はもう終わったんです。
失敗もイタズラぐらいの余裕が出てきた」
本をただせば、「面白いことやろうよ」
で、始まった米米である。プロフェッショナ
ルになれば、モロモロの手かせ足かせは生
まれるが、原点は遊び心にこそあるのだ。
「自由に伸び伸び、楽しんでやってるのが、
音に出てますね、ハッキリと。楽しみなが
ら自分達の手で作った音になってる。ウー
ン、満足だ」
うん。確かに。米米CLUBときいて、
パッと頭に浮かべるイメージがそのまま理
想的な音楽になった。コレだよ、コレ、コ
レ、と声を大にして叫びたい気分だ。
「米米って、イイ加減さが良かったはずな
のに、レコードではどうしてもそれが出し
切れなかった。今回、やっとイイカゲンに
なってきたんじゃないですかね。(笑)」
即興性というか、気紛れというか、フト
思いついたことをステージや音楽に取り入
れてきた彼らの目の付けどころに、我々は
ホンロウさせられてきた。そこが、米米の
重要かつ面白い点で、売り方でもあった。
「その中で最大限に何ができるかを考えた
んです。プロデューサーの健太さん(荻原
健太氏)に教えられたのもそこなんです」
レコードはレコード。ライブはライブ。
彼らもレコードとライブは別のものとして、
切り離して考えてきた。
「それに行き詰まったというより、レコー
ドとライブが同義するというやり方を僕ら
なりに提示したくなったんです。ツアーで
全国を廻るようになって、LPの中から3
曲しか演らないとなると、ちょっと物足り
ないという声もあってね……。だから今回
は曲順もシッカリライブっぽいんですよ」
ステージを映画に例えるとしたら、『GO
FUNK』はサウンド・トラック盤だとい
う。「ライブの勢いみたいなものに近い」と
言うように、アルバムを聴くとビジュアル
が喚起されるしライブを観るとアルバムを
聴きたくなるようにデキてる。
「例えば『美熱少年』。この曲なんて米米の
イイトコロが全部入っているような気がす
る。ジェームスの叫び、オレやメンバーの
煽り、シュークの乱舞する姿、そんな光景
がアリアリと目に浮かんでくる。観てるお
客さんが参加できる内容ですよね」
Everybody 拍手! Than
Kyou Everybody ステージ
ではお馴じみのアノノリをそっくりパック。
「ずっとステージで演ってきた曲だけに愛
着があったし、レコードにすると勢いが失
われるんじゃないかなんて危惧してたのが
ウソみたいに吹き飛んじゃいまして。(笑)」
米米CLUBには、ライブでしか聴けな
い曲が何曲もある。『GO FUNK』に
は、「美熱少年」「BEE BE BEA
T」、「なんですか これは」の3曲がメデタ
ク、レコード化された。
「ライブでしか聴けない曲もちゃんと取っ
てありますよ。それもウチらのライブの魅
力だと思うから、お客さんも自分が通だっ
て思える方が嬉しいでしょうからね」
なるほど。何度もライブに足を運んでい
るからこそ「知ってるもんねー」と通ぶれ
る喜びってあるよね。
「通をくすぐる米米CLUB。そういうの
も大事にしたいと思ってるんです。ただ以
前のアルバムに比べると、ライブで使える
曲が増えた……つーか、全曲使えると思う」
次の全国ツアーも公演メニューは二種類。
さて、どの曲がどこで出てくるかはお楽し
みに。どれを取ってもライブで盛り上るこ
と必至のイキのヨサ、ノリのヨサは保証付。
「ケッコー、イイ曲なんですよね、どれも」
オッと、自画自賛か!?
「イヤ、ホント。自分達のポピュラリティ
を見直しちゃいましたよ。どんなに趣味に
走ってもすごく聴き易いものができるんだ
ということを改めて確認したとゆーかね。
ちゃんと自分達の力を発揮できたから、ア
ルバムとして均整が取れてるんだと思う」
リラックスしながら、キチンと作った育
ちのイイアルバムだから、いわく、
「美人なアルバムです」
「どっちかというと京美人というより、エ
キゾチックな南方系の美人」
これで読めてきたでしょうか? 『GO
FUNK』のプロポーションが。
「アルバムだって、一枚の絵ですもん」
米米CLUBらしい〝美学〟に基づいて、
各人の本領を十二分に発揮して作られた自
信作だ。まさしく、入魂の一作!
「こんなに直接、自信作だと言い切ったの
も初めてですから。(笑)」
「僕達はいままでにない新しいジャンルを
開拓してきたバンドだと自負してますから、
ここまで時間がかかっちゃったんでしょう
ね。試行錯誤を重ねながら、ここでようや
くストレートに自分達を見せてやれという
段階に来たってことでしょうね」
米米CLUBって面白いよ、スゴイよ、
楽しいよ、と口が酸っぱくなるほど吹聴し
ても、ライブを何度か見なくちゃわかって
もらえなかったのが、このアルバム一枚で「ホ
ラ、ネ」と説明不要になった。
「初めて米米CLUBを観たときの感動み
たいなものをこのアルバムから感じてもら
えたら嬉しいですね」
誰よりもイイ加減に見えて、その実、誰
よりもシビアなカールスモーキー石井が、
めずらしく真面目に語ってくれた『GO F
UNK』談。それだけ、このアルバムに対
する愛情も思い入れも深い。
デッカクなったなーと、素直に喜びたい。

疾走する GO FUNK を語る

写真/楽屋にて

KOME KOME CLUB

KOME KOME CLUB GO FUNK CONVENTION IN T.V. KUMAMOTO

この日の模様は、8月20日にテレビ熊本「週刊音楽番付」でオンエアーされました。まさか見逃したりしてないよねっ!

8月9日、米米CLUBは熊本にいた。なぜかというと、『GO FUNK』のアルバム発売記念コンベンションのためにである。場所はテレビ熊本。ここのスタジオでライブ形式のコンベンションを行うのである。

12畳の日本間と応接室を全部使っても、まだ人口密度の高い楽屋に彼らはいた。昨日は宇和島で吉田拓郎、ブルーハーツ、オフコースといった異色の組み合せによるイベントに出演。この日の朝、移動という過密なスケジュールのせいか、少し疲れ気味の様子。全国七都市のコンベンション・ツアーの今日が二日目である。

「ライブが想像つくアルバムができたんで、せーので盛り上げてプロモーション全開体制で挑んでるんです」

オフコースの余裕あるステージングに感銘を受けたというリーダーのボンが語るには、

「健気な姿勢で好感を持ってもらおうと、こうしてマメに廻ってるんです。ウソです。全国の業界の方々に気楽に米米CLUBを観てもらいたくて」

コンベンションは、レコードに関わる業界人用の御披露目パーティといったものである。今回、米米CLUBの場合は昼の部で一般ファン向きのライブ兼テレビ中継を行って、夜の部で業界向きライブ兼パーティを開催。何をやってもフツウのパターンにしないところがリッパというか、大変なところである。

「媒体の人達中心ですから、皆さんオトナでしょ。ワーキャーもんじゃないんで、ちょっと照れ臭いんですけど、けっこうノッてくれたんで安心しました」

ライブは全9曲で約45分と短いけれど、昼夜二回ステージはラクじゃない。

「ニッポン一のゴマスリバンドですよ。(笑)」と、リョウジが笑いながら言う。

「ちょっと演歌ノリだったりして。(笑)」

「イヤ、これがソウルです!」

バンド全員、大所帯でキャンペーンとはマイった。しかも、アルバムも4作目を数える人気バンドが、である。

「ニッポン一(いち)のゴマスリバンドですよ(笑)」

「新人ならいざ知らずねえ……。(笑)何でも逆を行きたいのが米米CLUBですから」

ファン・サービスはもちろん、業界サービスにも熱心な米米CLUB。(笑)

「レコード店の方は、普通のコンサートが始まる時間には間に合わないらしくて、初めて米米を観たっていう人が多かったですね。生の声を聞くのもなかなか参考になります」

中年女性業界人にリョーちゃん、金子さんが人気だったとか、「レコードよりライブの方が面白い」とか、ストレートな反応が即返ってくるらしい。

「ちょっとでもイイ場所にポスターを貼ってもらえたらラッキーですからね。それには、ライブで一緒に楽しんでもらうのが一番じゃないかと思いまして」

それにしても、二回ステージで全国ドドッとツアーするそのパワー、並じゃない。

「光GENTAと呼んで下さい。(笑)」

その合い間にも、次のツアー「B.C. シャリシャリズム」の構想を練ったり、こうして取材を受けたりと、とにかく忙しい。

メンバーはそれぞれに楽器の練習をしたり、曲順の打ち合せをしたり、ノンビリ見えて緊張した空気も漂う楽屋風景であった。

午後3時。そろそろ昼の部が始まる時間だ。

オール・スタンディングで、スタジオはちょっとしたライブハウスの雰囲気だ。テレビの収録を兼ねたライブなので、簡単な打ち合せをする。これをわざと〝ヤラセ〟っぽくキメて、テレビを見ている人に「アレ!?」と思わせる仕掛けなのだ。

カルスモ石井が出てくるなり、「カール!」の歓声。BHBの紹介で「Yeah!」、シュークの紹介で「Yeah!」、そして米米CLUBと言ったら、場内一勢に「帰れ!」コール。まだまだあるぞ。「アンジュール」という曲では、観客全員が下を向いてススリ泣きのポーズ。「パリジェンヌ・ホレジェンヌ」では、石井&観客のコール&レスポンス。

石井「着ているスーツは?」

観客「アルマーニ」

[リョーちゃん、金子さん中年女性を魅了]

石井「持ってるバッグは？」
観客「ルイ・ビィトン」
石井「入れてる銀歯は？」
観客「ティファニー」
石井「私は上から下まで」
観客「ブランド志向。キャーッ」
石井「さっ、復習しましょう」

これだもの。こんなことお客さんにやらせちゃうんだもの。楽しい。笑える。

さて、本番、念入りに復習したせいで、本番はテレビを見ている人にはさぞかしフシギなライブに見えたでしょうな。ククッ。

「Shake Hip」「シュール・ダンス」「どうにも止まらない」など、ダンス・ナンバー中心に、カールの十八番シャンソン歌謡、なぞはさみ込んで、短いけれど米米らしいエッセンスをギュッと凝縮したステージを披露。

夜の部のステージも同じメニューで、大いにオトナの業界人を楽しませた。『GO FUNK』リリース記念だというのにこのアルバムからは「あ！　あぶない！」1曲のみという構成ではあったが、新旧取り混ぜて米米CLUBのいまを伝えることができたようだ。

ライブの後は、プレゼント付きゲーム大会に写真撮影会。サービス精神もここまで徹底するとプロフェッショナルの域！　彼らのそういう姿を見慣れないワタシは、ただただ感心するばかりであった。

しかし、それもこれも全てはアルバム『GO FUNK』の出来が彼らにとって満足するものになったからなのである。単なる顔見せではなく、れっきとしたプロモーションなんである。自分達ができることなら、自分達の手でやる、という米米CLUBの基本方針はこういうところにもよく表れている。

「昔、アマチュアのときたった6人を相手にライブをやったことを忘れちゃいけないなって、いまも思うんですよね」

そのスピリットが大切なんだっ!!

「転職してペンション開いてここまで来たって感じですよ。脱サラバンザイ!!」

ガ、ガンバッテ下さい。(笑)

KOME KOME CLUB GO FUNK CONVENTION IN T.V. KUMAMOTO

MECLUB

THE QUIZ

さてこの写真。120ページの写真とどこが違うでしょう。決定的に違うことを1つ、ハガキに書いて送って下さい。

▶おもしろかったハガキの中から抽選で、ライター佐野郷子からプレゼントがあります。〈宛先〉〒156-91　東京都世田谷区千歳郵便局私書箱25号　CBSソニー出版　ハチ▶コメごはんクイズ係。

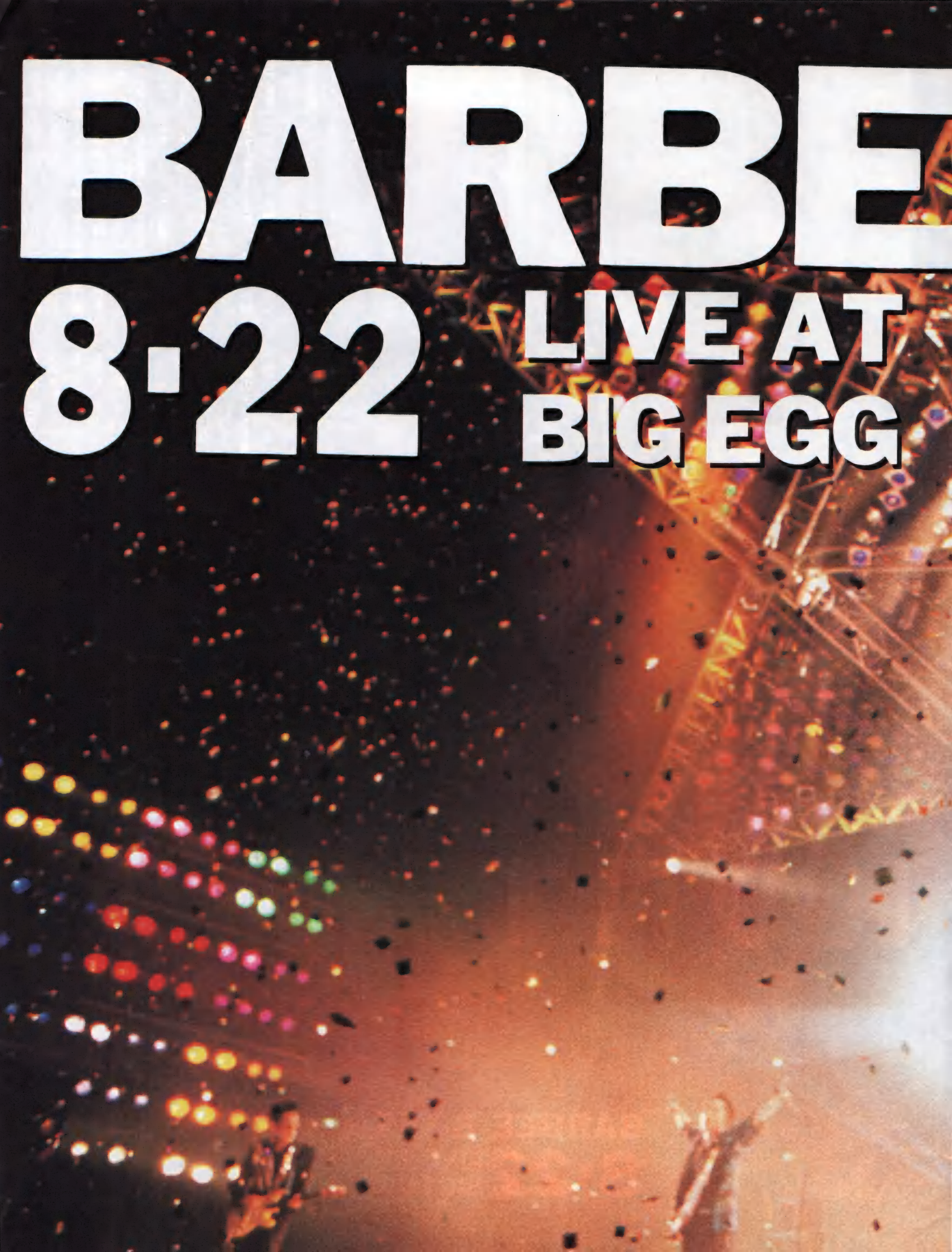
KOMEKO

おかあさんっ、もっと、ごはんくりっ!!

GO FUNK

E BOYS

全国の夏を駆けぬけた“ST ARSON” TOUR。そのラストは、8月22日、ビッグエッグで行なわれた。巨大な空間の中、バービーボーイズはそのパワーを5万人の前で証明してみせた。今回は、そのレポートで、いつものパーソナル・インタビューの担当ライターが、メンバーそれぞれを分析してみた。1階西側のスタンドで、あるいはアリーナ後方の席で見た、バービーの'88年夏の姿。これは結論でも到達でもない、ただひとつの通過点として、ここに残したいと思う。

PHOTO●TETSU ISHIKAWA COPY●KYOKO MORITA(132P) MISATO KONDA(133P) JIRO HAMADA(134P) KUMIKO FUKUOKA(135P) MIHO UTSUNOMIYA(136P)

BARBE

8·22 LIVE AT BIG EGG

［ガクッと膝をついて立とうとしない］

KONTA

BARBEE BOYS 8・22 LIVE AT BIG EGG

聞きたくなかった。"パン・パパン"の手拍子付きの「ラサーラ」なんて。いつものホール・コンサートなら、コンタの凄絶な緊張感がそれをやめさせるのに、やはり5万人相手では、伝えたいことも伝わらない、ということだろうか。もしそうだとしたら、バービーは何故、'88年夏のツアーの終着点にビッグエッグを選んだのだろう。

先日、コンタが"ビッグエッグが終わったら書いてもいい"と言った"だわごと"をここに発表しようと思う。それは、コンタがMCで客席に、一斉にビールやジュースやハンバーガーをステージに向かって投げさせて、もう2度と、ビッグエッグではロック・コンサートができないようにしてやる、という、まさに"だわごと"。そして、ビッグエッグでライブをやった、最後のロック・バンドになる、という。できるもんならやってみな、と思ったけれど、コンタは本当にやりかねないので黙っていた。

8月22日、コンタは、もちろんそんなことはやらなかった。最後列の人にまで気持ちが届くように"いっぺんは、こういうとこでやんなきゃいけないと思ってたぜ!"ときた。胸には、いつものソプラノサックスではなく、映画のキャラで買った(!?)サクセロが銀色に輝やいている。目をかっと見開いて、そして声は強力に伸びて、バカでかいドームに響き渡った。「帰さない」や「もォやだ!」では、以前のような、まるでナイフを隠し持っているような危険さはないけれど、凛とした姿勢が、彼の、歌うことへのこだわりさえも垣間見せた。なかなかドラマチックだった。

それは他のメンバーも同じで、それぞれが誇り高いバービーボーイズのポジションを守っている。「MIDNIGHT CALL」や「ふしだらVSよこしま」の、コンタと杏子のまったく50＝50の、まるで相手に譲らないボーカル・バトルは聞き応えがあった。最近の楽曲ではどちらかがメインになるパターンが多いので、久々に"男女のツイン・ボーカル"(それが売りになるのを嫌がっているようだけど)を堪能したような気がした。バービーはここまで来て、そして原点に帰ろうとしているように思えた。

コンタは、1回目のアンコールが終わったとき、ガクッと膝をついて、他のメンバーがみんなステージを去っても、なかなか立とうとしなかった。その顔が、汗だくのコンタが大きなスクリーンに映し出された。とこまでドラマチックなやつなんだ。

しかし、その感動は確かにこちら側にも伝わってきて、たぶん、5万人の胸に伝わってきていて、みんなに投げさせたかったビールやハンバーガーの代わりに、コンタはものすごい歓声と拍手を浴びていた。10万本の手による拍手は、ここでしか聞けない。もしかしたらそんなゼイタクな気持ちで、コンタはここで歌ったのかもしれない。伝わっても伝わらなくても、自分だけのために。

ENRIQUE

[重大発表！"結婚ってやつですか…"]

BARBEE BOYS 8・22 LIVE AT BIG EGG

おーい、エンリケが見えないぞお〜〜。どこにいるんだよお——い、エンリケってば。

とりあえずベースの音はグワングワンに割れた凄まじい残響となって聞こえてくるのだが、当のエンリケが視界に入ってこない。そりゃそうだわな、ステージ横ギリギリのスタンド席に座っているんだから。おまけに照明とスクリーンのせいで、本物のステージは1/3ぐらいしか見えない。まったく、どうしてくれるんだ…とボヤいていたら、森田さんが、

「大丈夫だよ、エンリケは前に出てくるから」

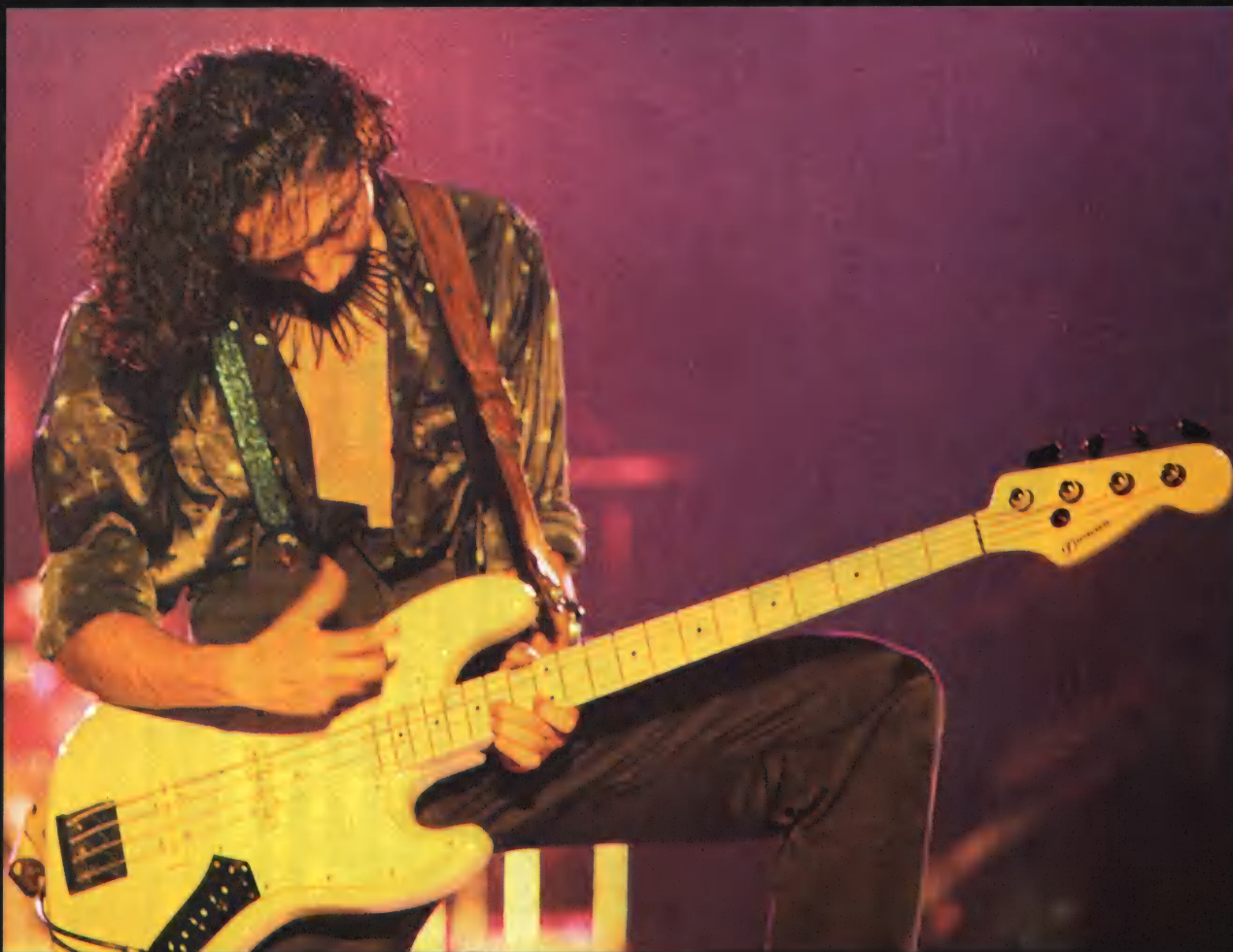
うーむ、そうだった。うっかり忘れていた。エンリケはフツーのベーシストじゃなかったんだ。平気でボーカルの前に踊り出て弾いちゃうベーシストだったんだ。よしよし、たとえ最初の数曲が地味でも、スクリーンにアップがなかなか映らなくても、ほっといたらそのうちズンズン出てくるだろう——ホッとしたところで、いきなりエンリケの姿がスクリーンに映し出された。おーっ、あんなに長かった髪をバッサリ切って、フミヤのようなアタマになっとるじゃないか。ビックリしたぞ。

で、ライブの方はというと、なんだかえらく手堅い感じがした。特に前半は、平凡というか当り前すぎるというか、あまりにも平淡で個人的には物足りなかった。ボヤーッとした空気が変化したのは、「ふしだらVSよこしま」「タイムリミット」の頃だったと思う。ドラム・ソロに続き、エンリケのジミー・ペイジのようなベース・ソロ（笑）が始まる。エンリケはここぞとばかり全身で弾きまくり、客席を煽りに煽る。いつもながらのことだけれど、ホントにベース・ソロの時のエンリケは水を得た魚のようだ。ハッキリいって、イマサよりハデ。（笑）だけど、「タイムリミット」はカッコよかった。ベースにドラムとギターが絡み合うようにして始まるイントロといい、5人がバラバラにステージでプレイする姿といい、気持ちのいい緊張感があり、私の中のバービーのイメージに最も近かった。次の「わがままエイリアン」は、ガラリと変わって"なごみの場"となり、そのギャップの激しさも手伝ってかやたらと微笑ましく見え、それはそれで印象的だった。

しかし、この日一番印象的だったのは、エンリケの重大発言でしょう。

「きたる10月に、結婚っていうやつですか？（そう言いながらニタニタしっぱなしだったりするヤツ）相手はなかなかいいヤツだから、シットしないよーに。以上」

やるなあ、エンリケ。おめでとうっ!!

言いたい事を言った後は、さすがに肩の荷がやっと下りたっつー感じで、思う存分トバしまくっていたエンリケ。ライブ自体にも加速がつき、前半の何百倍もいい調子になってきた。いやあ、よかったよかった。めでたしめでたしだ。帰り道、アンコールでみせたエンリケの勢いあまりあるジャンプを思い返しつつ、幸せっつーのはいいもんだなあと、しみじみ思ってしまった私であった。

BARBEE BOYS 8・22 LIVE AT BIG EGG

KYOKO

［今にも泣き出しそうなラストシーン］

杏子サンはステージに立つと〝杏子〟になる。ゾクッとするほど妖しかったり、激しかったり、みごとに〝女〟になる。

東京ドーム・スターズ・オン。

インタビューで「目線を磨くんだ！」と話していた彼女の目をジッと見つめると、返ってきたのは熱ではなく、ヒンヤリとした余裕。汗グッショリになって歌うワイルドなコンタの後ろで、ヒヤヤカなその目で踊り続ける杏子。時折、客席の一点を見つめては、いつの間にかウットリと自分の踊りに酔うように目線を外しては遠ざかっていく。美しい。多分、この日誰もがそう思ったに違いない。

オープニング、ステージの両方サイドに設置されたモニターに映ってることを確かめて、突然！アッカンベー、そしてケラケラと笑う。これは普段の杏子さん。目元が暖む。

「ふしだらvsよこしま」で黒い上着がハラリと肩から滑るように落ちる。よこしまーふしだらーよこしま。言葉が男と女の間でなまめかしく、鋭く行き交う。耳たぶの星の形をしたイアリングが大きく揺れる。

「タイムリミット」エンリケがひとたびソロで弾き始めれば、そこからベースは完璧な主役になってしまう。一人舞台。そこへ割り込むように「私が主役！」杏子が激しく踊りながらステージ中央へ乱入。彼女は黒いツバ広の帽子を飛ばし、シルクのショールを飛ばし、眼を飛ばす。彼女の挑発に客席のテンションが一気に上がる。激しく回るたびに〈カルメン〉彼女の黒いヒラヒラのロングスカートが真紅の薔薇になる。とびきり華やかな黒を見せて、彼女は主役を演じきる。

そして、それとは対称的な無防備なカワイイ素顔をのぞかせて、この日最も素敵だったのが「Dearわがままエイリアン」。ステージ前方に横一列に並んで、アコースティックなアレンジ（のんびりしたムード）で歌い出す。ドラムを離れ、ぎこちなく立ちんぼうしているコイソの顔をいたずらな瞳でのぞきこんでは、「ダイジョーブ」と、とびきりの微笑みで囁いたりと、メンバーの絆を思わせる名シーンだった。

さて、気のいい〝杏子〟を不覚にもチラリと見せてしまったお返しに後半はさらに燃えるような大胆なポーズで巻き返す。

「負けるもんか」。髪の飾りをちぎるようにも ぎ取ると、髪はもうバラバラになって、その上全身で踊り振り乱すものだから、こちらはもう降参！スカイトラッカーで吹き上がる金色の雨もかなわない。

思えば、この日彼女は客席をにらむことがなかった。見つめたり、目をそらしたり、笑ったり――彼女の中の余裕が最大の魅力だったと言えるかもしれない。最後のシーン、巨大なモニターに杏子さんの顔が大映しになる。うつむいた今にも泣き出しそうな……でも口元は微笑んでいたその顔、素敵だった。

そして、打ち上げの席。彼女は喋りまくった。恋多き女。それが彼女のエネルギーらしい。

KOISO

「コイソ流の男ッ気を見せてくれた」

ビッグエッグ、でっかあ——い。モクモクのスモークの中でコンタが雄叫ぶようにして始まったオープニングはかっこよかったけど、くやしいことにステージの全貌を見ることができない私のシート。後々イマサがMCで、直接視するのが3次元で、巨大スクリーンを通して見るのが2次元とかいう話をしたけど、私の場合、早や2曲目あたりで3次元をあきらめた。しかし、なんたって今夜はビッグエッグ。お祭り。音的事情の悪さも、見えぬッの気持ちも、それなりの趣きと化して心にせまってきたりする。すごい大人数の友達と一緒にでっかいテレビを見たよな夜、曲に身をまかせるというより歌を聞く姿勢でバービーのことを想っていたら、実際何度もゾクッときたし、キュンとしたり、グシュンとしたり。会場自体も、ステージも、そしてこっちの感情の起伏も、おのずと派手。

さて、コイソ。当然のことながら、彼が住むドラムセットは、私から全く見えないのであったが、それはそれ、臨機応変術を使い、腹をくくってしまえば、向かうところ敵無しでエンジョイだゴー。「タイムリミット」で聞けたドラムソロ。なんとドラム台がぐるりと動いてしまう派手さにバックアップされて、ヒーロー君コイソは頑張ってた。が、しかしずいぶんと緊張してたんじゃないのかなぁ。立ち上がって〝オゥー!〟と、力強い握りこぶしを振り上げた時の顔が、マジ。笑顔なんて出てないの。かと思えば、「Dearわがままエイリアン」で披露したバービー初の試み（お祭ならではだ）として、全員がフロントに出並ぶ場面でのコイソは、今度は顔ゆるみっぱなしで照れてた。ま、普段は2本のスティックをあやつる心優しきマッチョ・ボーイが、ハンドマイク1本持たされて歌うわけだからね、ほほえましくもなっちゃうけど、そのぶんリラックスムードいっぱいの、いつもとは違うバービーを見た気がした。

「ホールがどんなにデッカクても、オレがやることはいつもと一緒。ドラムを叩くことに変わりはないからね」なんて言って、カッコヨク予告編してくれてたコイソだったけど、実際は、彼のキャラクターがこぼれ落ちるような、愛すべきコイソ・inビックエッグであった。ヒゲも落としてサッパリして、きっと、お正月を迎える気分と似ているような、そんなヤル気でコイソは、彼流の男っ気をみせたんだと思う。

8月22日のバービーは、そんなふうにお祭り気分の特別編もあったが、「小僧」や「帰さない」でシビレさせたスルドイ面も、もちろんあった。だいいちコンタは終始一貫、マジだった。「ラサーラ」はもう、条件反射のようにして泣ける。が、パンパパンの手拍子はやめてくれ、お願い。それにしてもそれにしても、杏子はきれいだった。表情がスゴかったぁ。女って、やっぱりスゴイんだなぁと、実際女である自分を、もういちど見直したくなる程だったんだから。

BARBEE BOYS
8·22 LIVE AT BIG EGG

［あんな乱暴な音では聞きたくない］

IMASA

BARBEE BOYS 8・22 LIVE AT BIG EGG

結論から書いてしまおう。バービーボーイズは、あまり大きな会場も似合わないし、あまり小さな会場も似合わない。それはバンドの持つキャパシティの問題ではなく、彼らの音楽性の問題だ。

　バービーボーイズは基本的に作為的に音楽をやっているバンド、というのが私の中にはある。ノリだけで聞かせたり、ライブならではのパワーで押すバンドというのとは違うだろう。そういうやり方もまたひとつあるとは思うが、イマサの書く曲は、そうしたプレイのされ方、または聞かれ方を、どちらかというと避けるタイプの曲だと思う。初めに大きな幹が1本あって、というのではない、ていねいに厳選されたパーツが1個、1個、組み合わさって、やがて大きな幹が1本できる、という曲だ。全国ツアーにどんどん出るようになった3枚目の『3rd.BREAK』あたりから、若干、曲の書き方が変わったようにも思うが、それでもひっくり返るというほどではない。「C'm'n On Let's Go」や「女ぎつね on the Run」のような、ワッとくるインパクトの強い曲でも、ようく耳を澄まして聞いていれば、ひとつひとつの音が、それがどんなに小さな音であろうと、すべからく必要性を持って構成されていることがわかる。つまり、すべての音が機能しているのだ。

　このことは、逆を返せば、どんな小さい音もこぼれ落ちてしまえば機能しなくなり、それは曲全体に影響をおよぼすということだ。間であるとか、細かいフレーズであるとか、そういった微妙な部分に至るまでが、曲のニュアンスを伝えるのに左右する。

　BIG EGGのアリーナ席で、遠くかなたのバービーボーイズを見ながら、鈍く大きく響く音を聞きながら、私は腹を立てていた。左右にしつらえられた巨大なスクリーンに映るメンバーの顔のブレと同じに、音までブレている。気持ち悪くなって、途中で椅子に座り込んでしまった。確かに5万人もの人間を集めてコンサートが開けることは、滅多にない。バービーボーイズほどのアーティスト・パワーがないとやれるもんじゃない。杏子が思わず泣いてしまったのも、なんて素直なヤツなんだといじらしく思う。

　が、違う。とにかく音楽をやるということに関しては、ああいう会場はNGだ。また、設備の整わない小屋もこうなればNGと言ってしまおう。私はイマサの書く曲が好きだ。好きという気持ちの中には、雰囲気じゃない、真っ向から音楽に取り組んでいる姿勢の結果としての曲を評価する部分が多くある。あんな乱暴な音では聞きたくない。

　関係ないが、ある日テレビにミック・ジャガーのコンサートをBIG EGGで見てきたという美空ひばりが映っていた。感想を求められて「アタクシ、あんな音ではとてもダメだと思いました」と言っていた。私は美空ひばりのことも好きになった。フンッ。

BARBEE BOYS 8・22 LIVE AT BIG EGG

ROCK'N'ROLL DEF' SPECIAL

The Street Sliders

ROCK'N'ROLL DEF'

PHOTO●MARIKO MIURA　COPY●KYOKO SANO

'N'ROLL DEF' SPECIAL

長いツアーの終わりは、巨大なタージ・マハルと、美しく変化する光と、さらに加わった音と、そしていつもと同じの、嬉しくなるほどあいかわらずの、ROCK'N'ROLLライブ——確かに残した60余りの足跡と過ごした夜のぶんだけ太くなったライブだった。9月21日、その旅(ツアー)で生まれた新しい曲がきけるという。スライダーズだ。

ROCK'N'ROLL DEF'

The Street Sliders ROCK

「ROCK'N'ROLL DE'F」と、SPECIALのツアーを終えたスライダーズ。充実したバンドの充実したライブ・パフォーマンスを見せつけて余り有るステージだった。スペシャルの武道館は、今回で3度目だが、キャパシティの大きさと比例したバンドの大きさを同時に感じさせて、完封勝ちの余裕すら見せた。

長いツアーの終わりは、彼らの言葉で締めくくってもらおう。

——スペシャルでは、先ずあの巨大なタジマハールのセットに驚かされた。

土屋「イメージの統一、と言っておこうか。DE'Fツアーで打ち出した一連のイメージ、あのマークとかね」

村越「タージマハルはその極め付けってところで……。ヤラれましたか？（笑）」

土屋「ハデなセットだったよな、しかし」

村越「でもさ、背中だからさ。（笑）けっこう好きにやっちゃったけどね」

——頭からいきなりアコースティックで「風が強い日」だしね。

村越「たまにはイイんじゃないかな。ちょっと意外なところも含めてさ」

土屋「アコースティックモノって、響きが新しいでしょ。JOY・POPSのときからこの路線を始めて、けっこう評判良いみたいだし、俺達も気に入ってるしね」

村越「たまに手拍子されたりして、ウウッてところもあったけどね」

——今回のツアーで初めて訪れた場所での反応はどうでしたか？

村越「思ってたより（反応が）良かったんじゃないかな」

土屋「"5年間待ってたんだゾ、バカヤロー"ってヤツもいたけどね。（笑）」

——特にディープな旅だった（笑）北海道ツアーに関しては？

村越「あのバス、揺れましたねえ。（笑）」

土屋「"芸能専用"バスなっ（笑）」

村越「好きでしたよ、アレ。行く前はちょっと不安もあったんだけど、始まっちゃえばソレっぽい感じでノッてくれたしね」

——観る側も不安だったみたいですよ。ノリが悪かったら帰っちゃうんじゃないかとか。

土屋「事前に情報があるだけにね。場所によってはボーッと見ることができただろうから、かえって良かったんじゃない？」

村越「いきなりノっちゃうよか、ジワジワノってくれる方に慣れてるしね」

土屋「逆にノッケからワーッとなっちゃう所は選曲で上手くはずさないと、ただのお祭り騒ぎになっちゃうつーか」

——初めてスライダーズを観た人も多かったと思うんだけど、その点はどうかな？

土屋「北海道スペシャルは特にね」

村越「素朴つーかね」

土屋「ちゃんと演奏しようかな、という気になった。いつもそうだけどさ」

——サービス精神が多少出てきたとか？

「踊れ、踊れ」というMCもあったし……

村越「一部では失言というウワサも。（笑）ついノっちゃいまして。（笑）」

——アクシデントだったんですか？

村越「イヤ、イヤ。（笑）一番出っ放しの長いツアーだったけど、何事もなく無事に終わったと。しかし、長かったわ」

——このツアーで経験として得たことといったら何だったんでしょう？

土屋「客層が面白かったな。初めての所が多かったせいだろうけど。ひたすら聴き込んで来るファンとかいたしね」

——"復活"と銘打ったツアーでもあったわけですが、ブランクは感じなかった？

土屋「かなり気合入ってたしね。ズズの脚のことは気になったけど、まっ、あんだけ叩ければね。最後の方はリハビリになって良いなんて言ってた」

村越「うん。ノってくるのも早かったしね」

——バンドの絆みたいな部分で新たに確認したところはあった、と。

土屋「あるけどね」

村越「上手く言えそうにないけどあるよ」

——プレイ全体にそれが出ていると。

土屋「きっと、そうだと、思う」

村越「これしかやれねえや、みたいなね」

——キャリア、なのかなあ？

村越「長くやってりゃ色々わかってくるっていうのはあるでしょう、そりゃ」

土屋「お互いにね」

——ライブへの要求が非常に高まっていた時期でもあったわけですよね。

土屋「うん。相当乾いてたからね。これで大分潤ったんじゃないかな。バンド始めてずっとライブをやるっていう生活が当たり前になってたからね」

——じゃ、そろそろレコーディングが恋しくなるシーズンなんでしょうか？

村越「そろそろ。アイデアも出てきたんで、スタジオ入ろうかなってとこかな」

——ニューシングルの「ありったけのコイン」もまた新境地ですね。よりシンプルに、大らかになったとゆーか。

村越「うん、そうだね」

土屋「らしいと思うよ、実に」

——どっか逃避願望がある詞ですね。それもツアー中にできた曲だからかなと？

村越「イヤー、普段でもありますからね、オレの場合。困ったことに。（笑）」

——アルバム用に曲を書き溜めていたとか。

村越「ちょっとしたフレーズとか断片くらいかな、いまんとこ」

土屋「外出てると中に入りたくなってくるつーかさ。そういうもんだよ。レコーディング自体、好きだしね」

——次の構想なり新しい指標は見えてる？

村越「なんとなくあんのかもしれないね。ハッキリ見えりゃラクなんだろうけどさ」

土屋「音の傾向もツアーずっとやってると自然と出てくるんだよね。今回のシングルのA・B面ていうのもひとつの傾向ではあるよね。シンプルで太くて」

村越「それぞれが太くなってきてるんだと思うよ。ステージで前の曲演ってても、手応えがあるしね。4人がそれぞれにガッンとしてきたっていうかさ」

——人間的に成長した、と。

村越「（笑）どーだろ？」

土屋「世の中出ちゃったわけだし、少しは変わってくるんじゃないの？（笑）」

村越「武道館出たからどーっていうのとか、そういうのってないんだよね。ステージに立ってる側から言わせてもらえるなら」

土屋「デカイホールであればあるだけ、イベント性が強くなってくるでしょ。それがちょっとどーかなーみたいなのはある」

村越「なんつーか、脂が乗ってけばイイなあと思う」

——具体的な目標みたいなものを挙げるとしたら？

村越「（23秒経過）ズ太くやっていきたいなあと思うくらいですね」

土屋「シブトクやりたいよね、この先も」

村越「まだまだつー感じもするんだよね。これからつーかさ」

——これからもっと面白くなる、良くなる。

村越「と、思うよ」

土屋「ますますって感じだよね」

村越「バンド、楽しいしね」

土屋「それぞれの夜を乗り越えて、ね。（笑）」

村越「まあよく飲んだわ、今回も。（笑）」

バンドとしての懐が深くなったのか、何があっても動じないたくましさが、言葉の端々からこぼれるようだった。

ROCK'N'ROLL DEF'

The Street Sliders

ROCK'N'ROLL DEF' SPECIAL

HIDEAKI MATSUOKA

[iʃindǽnsiŋ]

アルバムからのシングルカットとなった「以心伝心」。彼が伝えようとしている日々の思いは、君の胸にちゃんと届いているようだね。i-shin-dancing.! 2つめの角を曲がったボクたちは、必ず次に"3つめの角"に出逢うんだ。さて、3つめの角に立ち止まったキミ、選択を責まられて、何と答える？

PHOTO by MASANORI KATO COPY by KYOKO SANO STYLING by HIDEAKI MATSUOKA

HIDEAKI×MATSUOKA
HIM
HIDEAKI×MATSUOKA

「パチ▼パチにはボクのGパン姿が出るのって初めてなんじゃない？」

撮影もすっかり終わり、カツ丼もシッカリ食べて、松岡君は待っていてくれたのだった。開口一番がそれだった。妙に気分が良さそうな表情をしているなと思った。

「サイズ、26インチなのかな？」

ゲゲッ！ 衝撃的に細い腰！ しかし、ファースト・アルバムではあれほど難色を示したGパンをナゼ今頃はく気になったのか？

「心況の変化っていうのもあるのかな？ なんだかそういう気分なんですよ」

Wonder-landツアーの関所、NHKホールを7月31日に無事終えて、ようやく一息つけるといった状態なのだろうか？

ズバリ、感触を問えば、

「すっごい嬉しかった、とにかくそれが第一」

思い出す度に、そのときの喜びがフツフツと甦るのか、パッと笑顔が広がった。

「ロンドンだったらハマースミス・オデオン、東京ならNHKホールって、ずっと頭に思い描いていたから感激もひとしおっていうかね。中3のとき初めてコンサートを体験したのがNHKホールだったから、思い入れもタップリあって。だから、嬉しくてね」

女性ハードロッカー、ジョーン・ジェットのライブを観たときのトリ肌が立つような興奮をいまも忘れることができない。以来、いつか自分もステージに立つ側になってあの気持ちを、あの感覚を与えることができたら…。

「今回、初めてのホールで広いステージに立つようになって、あー、気持ち良いなあと感じましたね。ただ、自分がどう動いたらイイのか、ライブとして盛り上るのかはまだ掴みきれてない。ココが気持ち良いんだってことを身体で理解したことが一番の収穫かな。そこを生かしていくのが今後の課題でもある」

ステージ上で感じた心地良さは、多分ミュージシャンなら誰もが口を揃えて言うところの「これはっかりは経験しなくちゃわからない」快感なんだと思う。

「ステージから客席を見るとゾクゾクっとしちゃう。2階席だけでもちょっとしたホールクラスの規模でしょ。どの街のどのホールでもステージに対する僕の気持ちに変わりはないけど、いままでで一番沢山のお客さんを眼の辺にしたから、僕自身も盛り上っちゃうというか感激しちゃって」

照明やセットも他のホールより幾分プラスアルファすることができた。「Wonder-land」のとき、フワリと舞い降りてきた風船の使い方など、いかにも彼らしかった。

「お客さんが少くても、それが歌をうたう障害にはならないと思ってるし、少くても平気くらいの気持ちではあるんだけど、増えたら増えたでオマケは付くんじゃないかな？ 大体、僕はおだてられると図にノるタイプなんて、自分が使おうともしなかった力が沸いてくるっていうのはありだと思う。下手するとハシャギすぎちゃったりするんだけど」

反省もチラリ。ホントはタップリなのかもしれないけれど、それは御自分で片づけていただくとして。ステージを観ていて驚いたのは、意外なくらい堂々としていた彼の歌いっぷりと、それに気がつくようなシンプルな構成、内容であったことだ。ビジュアル志向の強い彼のことだから、ナニかあると思っていたのだが、派手なシカケも凝った演出に頼らずに、松岡英明という存在のみに視点を集中させるような流れになっていたのだ。

「ライブはビジュアル的にも面白くしたいと思ってるんだけど、ちゃんと練ったものでなくちゃ安易に使いたくない。今回は時間的な制約もあったし、いまの僕にとって大切な音を固めることに精力を傾けようと」

正攻法は逆に難しい面もある。

「うん。ステージがシンプルだと浮いてしまう部分があるでしょうね。それがどこなのかは一つづつクリアーにしている際中です」

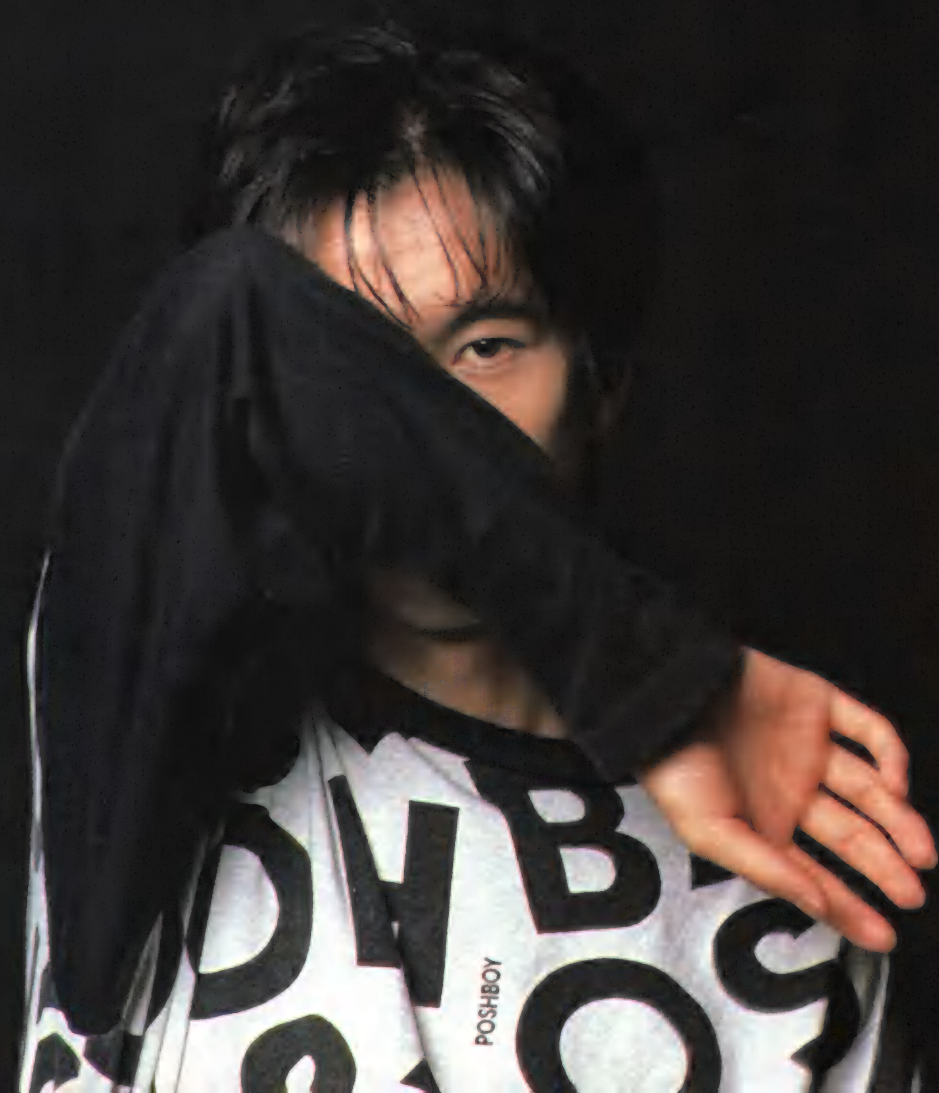
頭の中で計算して先を読むより、身体を通して学んでいきたいという。例え失敗しても、生身で知ることの方を選ぶ。

「シンプルにしたら、こんなに歌が前に出ちゃうんだって自分で気がつくことが大事なんだと思う。人に言われてちゃダメですよね」

経験主義。というより、身に振りかかって我にかえるタイプ。

「いまの時代、情報やノウハウはあらゆるところに転がってるでしょ。何か知りたいと思ったらHOW TO本を読めばわかったような気になっちゃう。1＋1＝2だって情報としては知っていても、どうして2なのかわかってなかったりする。僕は自分の体験を通して1＋1＝2を知りたい」

答らしきものは知っていても、本当の答は自分の中にしかないと彼は考えていて、いまは答探しの旅に出ている修業中の身である。

「色んなものを掴みかけているという気はし

HIDEAKI MATSUOKA

[iʃindænsiŋ]

HIDEAKI×MATSUOKA

HM

POSHBOY

HIDEAKI
MATSUOKA
[iʃindænsiŋ]

HIDEΔKI
MΔTSUOKΔ
[iʃindænsiŋ]

てる。ステージでは客席から飛んできたエンゼル・パイまで掴んじゃいましたけど。(笑)具体的にはペース配分や動きに関して。ひたすら遊んじゃってもイケナイし、歌との歩み寄りもうまくバランス取りたいし、なんて頭で考えても実際は違っちゃったりする」

全国ツアーで、初めて松岡英明のステージを観たという人も多い。反応の違いにとまどうことはなかったのだろうか。

「新しいファンと初期から応援してきてくれたファンの違いはやっぱりありますよ。〝マッボーのライブってこういうノリじゃない〟とでもいうようなね。手拍子が起きると思わず振り返っちゃったりね。でも、そういう状態もライブの後半になると変わってくるの。廻りを気にしていたのが、一人一人の表情に変わっていくのを見たとき、僕も感激したのを覚えてる。あっ、こういうことって有り得るんだなって」

人気が高まるにつれ、ファン層も広がった。〝マッボーが遠くなっていく〟というちょっと淋しい声も聞こえるが、誰よりも淋しいのは彼自身であったりする。

「もし、僕が間違って売れたりしたら、一緒に〝ヤッタ!〟って喜び合える体制が作れたらイイなって思う。ムシがイイ話なのかもしれないけど、さっきの瞬間みたく有り得るんじゃないかなとも思ってる」

皆のオダテにノって、ついにスピーカーの上まで昇ってしまった上昇志向の持ち主、もちろんそんな筋書きはなかったわけで……

「リハーサルのとき、スピーカーに〝本番で昇るかもしれないよ〟って言っといたの。だから、安心して昇れたっていうかさ。木昇りするときもいつもそうだった。言葉にするんじゃなくて心で話しかけるの」

スピーカーと交信していたとは!? 事前に舞台監督から厳しい注告があったというのに。

「頼むから今日だけは昇らないでくれ。斜めに置くから昇ると危険なんだよ」と言われ、「もちろんですよ。絶対しません!」と約束しておきながら、昇ってしまった大嘘つき。

「僕のこと、呼ぶんだもん、スピーカーが」

スタッフは彼のことより、お客さんが心配で、心配で……。まったく手に憎えないサイキック・ボーイなんである。

「ライブの前は大切にしたいことを思い出します。歌に対する気持ちを高めつつ」

マイク・タイソンの精神力、集中力が羨しいという。自分を高ぶらせる力が欲しい。

「ディスコに繰り出すときは別のパワーが出てくるんだけどなあ(笑)それから、地方によっては大好きな『ねるとん紅鯨団』が放映されてないのが残念ですね。ホント言うと、ボク、出たいんだ! 背中に哀愁を漂わせながら去っていくあの役がやりたい!」

大丈夫だ。この調子ならば。

「元々、嫌な人っていないのに、最近ますます好きな人が増えてきちゃって」

ニューシングル「以心伝心」は、ファンからリクエストの声が高かったアルバムのタイトル・チューンだ。

「一枚のシングルを何十人で聴いてもらってもイイです。そうやって伝心していくと本望かな、みたいな」

控え目なようでいて、実に自信に満ちた発言ではないか!! うん、その調子だ。

HIDEAKI MATSUOKA
[iʃindænsiŋ]

HIDEAKI×MATSUOKA
HM
HIDEAKI×MATSUOKA

HIDEAKI MATSUOKA
NOT FOR SALE

Nö4

〔最初の角〕を、
僕は曲がらずにまっすぐ歩くことにした
1＋1＝2である
学校では"こう"教えてくれたけど
本当に"こう"なのかな？
少なくとも素敵な人と出逢って恋をしたら
この公式とは、お別れしたいと思ってる
"好きな人の1と、僕の1をたしたら
2よりも、もっと大きなものが生まれる"
"こう"信じていたいから………
〔2つ目の角〕を
僕はゆっくりと右に曲がった
そこには、僕たち以外誰も知らない
幼稚園があった
実は、僕たちの通っていた幼稚園は、
理由があって、もうなくなってしまったんだ
でも、
そこにはたくさんの思い出が、眠っていて
あの頃の友達も、
目を閉じると、すぐに目を覚ましてくれる
みんな今はどうしてるのかな？
"逢いたいと思うのは簡単でも
逢いたいと思わせるのは難しい事"
以心伝心の詩には"そう"書いたけど
本当に"そう"なのかな？
〔3つ目の角〕を、
僕は曲がろうか、どうしようか、迷っている
なんだか見慣れた場所なのに
どこにいるのか分からなくなってきた
恋って、迷路（ラビリンス）みないだね
出口に辿り着くまでには幾つもの壁があって
間違った道を行くと行き止まりが待っている
でも必ずたったひとつの出口があるっていう
そんなところが、よく似ている
だから、恋に恋している時っていうのも
迷路の中で迷っている時みたいなものかもね
恋っていうのは、ああだとか、こうだとか
いろんな人が教えてくれたけど
"なん"だかんだ言っても
恋って本当は"なん"なのかな？って事は、
誰も教えてくれないし、誰にも教えられない
だけど、
本当に"なん"なのかな？

SENRI OE

LATE SUMMER'88

●28歳まであといく日か…… 夏も終わり近いある日、並木道を見おろす喫茶店で出会った千里くん。『１２３４』を世の中に送り出してしばらくたって、さまざまな反応が返ってきて、そして彼自身も思いっきり動き回っていて……
そんな彼の、少し日焼けした姿から出てくることば—'88年の夏の終わりの等身大の千里くんのかなり太いことばです。

撮影●樋田敦　文●宇都宮美穂　スタイリング●阿部いくこ　ヘアメイク●佐野美由紀

「自分で感激できない曲は書きたくない」

千里君と取材で会ったのは、雨ばかりが続く今年の夏には珍しい、ピーカンに晴れ上がった日の午後だった。車に乗って取材場所を移動する間、私は照りつける太陽にさらされてうだったような風景をながめていた。ちょうどお盆にあたり、人気の少なくなった表参道では、ガランとした道路のアスファルトに木々が作る光のプリズムと、ムッとする熱気が散らばっていた。いつもこの頃になると、まっ青な空に浮かぶ雲の向こうを見上げたくなるのはどうしてだろう。出会ったことのない、核のキノコ雲が目のはじにちらつくのはどうしてだろう。そんなこと新聞やテレビでしか見たことがないから知らない。なのに、ちょっとだけ怖い。暑さのせいでいろんなことを考える。

みんなわらいだす
眠り足りない瞳にまぶしすぎる海
人目も気にせずKISSも照れないような
ハワイへ行きたい

軽く言わないで
この海の先は今日前線に入る
ニューヨークじゃない　ロサンジェルス
でもない
ハワイへ行きたい

アルバム『1234』の中に収められている「ハワイへ行きたい」を、思い出した。明るいハワイへ彼女と行きたい、という他愛のない思いつきに、その海の向こうで今も続けられている戦争をほんの5㎜ほど意識した、不思議な世界観がある作品だ。いきなりホーンで迫ってくるけたたましい音と、遠ざかっていく静けさの音。目の前に海と雲の大胆なコントラストが浮かび上がり、やがてその絵が歪んでいくような……。解放感と、緊張感と、違和感が共存していて、ものすごくシュールな気分に陥る。「ハワイへ行きたい」という明解なタイトルにして、いちばん不明瞭な作品かもしれない。

が、確かに人にはこういう気分になることがある。それもたまにではなく、日常茶飯事こういうワケのわからなさと私達はつき合っているはずだ。混沌や疲れのひとつひとつにすべて理由や意味があるわけではなく、それらをひきずりながら毎日を送っているのが、たいていの人間だ。だから、不明瞭な作品と書いたが、不明瞭さをありのまま出し尽くしているという点で「ハワイへ行きたい」はわかりやすく、そしてリアルだ。飾りたてたり、むやみに整理してないぶん、シンプルでもある。『1234』は、そうした彼の作品の書き方の変化が汲み取れるアルバムだが、特に「ハワイへ行きたい」では顕著なような気がする。

「正直に、リラックスして言葉を出すことっていうのを心掛けて最近は作ってるかな。わりとこう、いろんな風に、いろんな角度でカメラを動かすクセが僕にはあって、またそのクセがたまんないっていう人もいたりするけど、（笑）こうパッと見たときに〝あっ、目を見た〟とか、最初にインパクトがある場所をストレートに描こうとしてる」

ディテールにこだわらない。より赤裸々に自分を出すために、ある事柄にぶつかった瞬間の気持ちではなく、反応を言葉に移す方法を取った。もちろん、動きや呼吸はそのまま詞にはなり得ず、だから、より核心を突こうとして何度も言葉を推稿したあとが、最近の作品には身受けられる。

正面からザックリと切れ込んだ言葉は言いよどみがなく、太い。そして、そのぶん彼を間近に感じる。

「インタビュー受けててもさ、ありのままの自分が伝わることの難しさってすごくある。そんな難しいことじゃないと思うんだ。（笑）普通にしてればいいんだから。でもそれができないんだよね、人間って。弱いというか、頑なというかさ。自分の遜二無二さばかりが表に立っちゃって硬直状態で人に映っちゃったりする。で、俺が最近思うのはそれも含めてありのままに映ればいいなってこと。やっぱりね、もっと試されたり、もっと恥をかかないと固まるって危機感があるもん」

『1234』を、彼は「自分の背丈ぶんのアルバム」と言った。作品が歌い手の等身大であるという部分では今までのアルバムもそうであったが、『1234』では等身大の彼が考える夢や理想さえ描かれていない。要するにひどく現実的だ。

「ちょっとプラスして理想に近づこうとしていた自分」より、「ダメな部分もある自分を描いた」アルバム。リリースしてからの反応は様々であったらしい。私の感想を書くならば、強いなと思った。上を見上げて憧れるのは簡単でも、自分の足場を冷静に見るのは簡単じゃない。弱さや無知や、そんな自分を取り巻く環境を、みんな無視したくて無視できない。

「理想主義にはなりたくない」と彼が言う。理想主義？　キレイごとばかり言い連ねる人も理想主義なら、文句を並べてアジテートす

る人も裏返せば理想主義だ。彼は、そのどちらにもつかない。

大江千里という人を、みんなはどんな目で見ているのだろう。生真面目に音楽をする人か、硬派に生きる人か。それとも優しいお兄さんか。私は彼のなかに、ときどき自分のどうしようもない部分をみつけて、なんとも言えない気分になる。清廉潔白ではない、かといって大悪人でもない、宙ぶらりんな自分。これといって身の証しを立てるものがなく、立てる気もないまま、不機嫌でいる自分が見える。

彼は浪人のとき、自分の身分を証明するものが何もなく、生まれて初めてどこにも属さない人間の気分を味わったという。

「定期券買うにも証明するものがないんだよ。……ショックだったけどね。で、今、手に入ったものもあるし、手に入らないってわかったものもあるし。でも総じて言えば、まだ求めるものには手が届かないって感触なんだよね。それは形や場所が変わっても同じだと思う」

手の届かないもどかしさ。考えてみれば、これはデビューしてからずっと、彼の作品の中に一貫してあった。

「だって曲ができる基本は『愛ですよ』なんてとても言えないもんね。愛の根底にはやっぱり傲慢があったりさ、すると思うのね。自分がいちばんいい目を見たかったり、全部手に入れたかったり、結構するんだよね。それがすべてとは言わないけど、恋愛は勝利者になりたいって思うし、敗者になりたくないってよく思うからね。その気持ちで、『僕のテーマは愛です』とは言えない（笑）もっと複雑だし、もっと屈折してるでしょ」

「こーんなわけない」と憤って、テレビのニュースにかじりつく。それを増幅させて曲を書く。衝動は、浪人生のときも今も、変わらない。

私達は多分まだ、誰もちゃんとした社会人にはなれてない。社会人と名乗るには、それこそ「自分のいっちばん嫌いなヤツと会話して共存しなくちゃいけない」。社会をチラチラと意識しながら、入り込めず個人として生きている。みんな、宙ぶらりんだ。

「自分で社会的な認識っていうのを持ってないって自覚してるからね。だから自分の個人的なことと社会が交差しちゃって、それが手に負えなくなって混沌と化して歌になるんだよね。ここまでは個人で、社会とのつき合いはこうって割り切れてないから歌もそうなるんだと思う」

「自分が聞きたい歌を作る」と言う。彼が聞きたい歌はすなわち、東京の23区内のどこかで生活している若者の、ありのままの声が聞こえる歌だ。自分と変わらない生活をしている誰かの歌だ。

「自分で感激できない曲は書きたくない。全部の行を感激しまくってるわけじゃないんだけど、ひっくるめて感激できないと嫌じゃない」

萎えた気持ちを自分の曲が奮い立たせてくれることもある。

ついこの間、引っ越しのダンボール箱を整理していたら、何年も前にエピックで作ったたくさんのアーチストの曲が入っているオムニバス　テープが出てきた。タイトルは、NATURAL』。中に収められている彼の曲からとったものだ。そのテープをかけて自分の曲を聞きながら、思わず背筋を伸ばしていた。「妥協しちゃいけない」——そんなふうに思った。

（この原稿を書いている時点では）あと2日で、5年十一ヶ月におよんだイランとイラクの戦争に終止符が打たれる。

けれども、ニューヨーク　タイムズ紙によれば、世界でなお二十四の戦争が進行中だという。

私達に関係のない戦争では、ない。せめて、今抱えているもどかしさを手放さないようにときどき大江千里の歌を真面目に、きちんと向かい合って聞くというのもいいかもしれない。

1988.8.8 OSAKA ROCK MEETING'88 BAKUFU SLUMP

英雄伝説　どうなの？　番外編

どうなの?

時は1988の8月8日。(パチパチパチパチ) ところは大阪城ホール。異様な熱気にホールが包まれているように見えるのは気のせいでも暑さのせいでもない。なんと、プライベーツ、The Street Sliders、TOPS、聖飢魔II、BAKUFU-SLUMPという鋭くも恐しくも超豪華な面々のライブが行われたのだ。一見不思議なこの組み合わせ、しかしそこは顔の広いBAKUFUでありました

PHOTO●HARBIE YAMAGUCHI COPY●KYOKO SANO

BAKUFU SLUMP

1988.8.8 OSAKA ROCK MEETING '88 BAKUFU SLUMP

ハーイ、エビィバデ。ワタクシ、8月8日、午後11時現在、大阪城ホールにやってまいりました。ウーン、これがウワサのビッグ・エッグならぬビッグ・カブトですか。大阪城を臨む緑豊かなロケーションにドーンと構える武道館よりデカイホールであります。オッとあれはデーモン小暮でしょうか？　よく見たら、女の子じゃありませんか。このクソ暑い炎天下で、あのように顔を塗りたくるのは日焼け防止なんでしょうか？　御苦労サマです。かと思えば、こちらのインド更紗組は、スライダーズ・ファンですね。御苦労サマです。

「ちょっと！」

ヘェッ!?　ワタクシですか？

「パス見せて、パス!!」

アッ、これからもらうんです。ジロリとニラまれてしまいました。ン、もーお、愛想ないなあ、ブツブツ。搬入口でバックステージ・パスを頂いて、と。恐る恐る楽屋へ向かいます。

「お早ようございますっ！」

ファンキー末吉さんです。バクフーの楽屋には、トップス、プライベーツのメンバーの姿も見えます。そうですね、教室ぐらいの広さですか。衣装がダーッとハンガーに並び、中央に20人がけの大テーブルが位置しております。お弁当を食べる者、ヒゲを剃る者、「スピリッツ」に読みフケる者、チューニングに余念がない者、それぞれが好き勝手に過ごしております。廊下をへだてて、隣の楽屋にはルックの皆さんがいらっしゃいます。チープと千沢さんは狭い廊下でキャッチ・ボールして遊んでらっしゃいます。余裕ですね。

2階の食堂に御案内しましょう。アレま、皆さんこんなとこでキツネうどんなんか食べてるゥ！　この日のイベントのトリを務めるバクフーは、すでにリハーサルを終えて〝待ち〟の体制。今朝一番の飛行機で大阪入りしたせいでしょうか？　すでに睡魔が押し寄せている模様です。

「OSAKA ROCK MEETING '88」。開演の5時まで、およそ半日と迫りましたッ！……∞

中野「一日が長いなあ」
河合「おとといが広島のピース・コンサートだったでしょ。昨日、レコーディングで遅かったし、眠い、眠い」
末吉「広島で新曲やったんですよ。その名も『スバる』。『スバル』じゃないです」
中野「歌詞の一部が谷村新司の『昴（すばる）』に似ているんですよ。フッフッフッ。〝ズバゲティ〟のスパをかけた自称問題作！」
河合「ツアーと夏のイベントをぬってのレコーディングでしょ。バクフーしかできないよね、このスケジュール！」
中野「歌詞がねえ……」
河合「中野！　気持ちイイ誕生日を迎えただろ!?（笑）」
中野「そーなんだよー。（笑）」

ニューアルバムを出して、そして、今年の年末、12月30日には再びこの大阪城ホールにて単独でコンサートを行うんですよね。

末吉「今日のイベントのメンツは、〝大阪城ホールまであと一歩〟アーティストらしいですよ。バクフーはそのトップを飾ることになるんでしょうね、きっと」
河合「オレ、聖子ちゃん観たことあるんだけど、けっこうイイ感じだったな」
中野「キャパはデカイけど、もうどこに出てもちゃんと演れる自信はあるからね」
ほーじん「初めて武道館でやった年って、つい半年前まではライブハウスで演ってたんだよね。そりゃちょっと緊張もしたよ」
河合「しかもオープニングで音が出なかった……。あの瞬間から記憶がなくなった」
中野「あれはひとつの危機だったね。（笑）」
河合「東京で武道館のとき、大阪が厚生年金の大ホールだったけど、満杯にはならなかったような気がする」
末吉「あれから3年ですからね」
ほーじん「オレ、万博会場の太陽の塔の下で一度演ってみたかったな。大阪城ホールって、なんかメロンパンみたいやな、と」
中野「大阪城ホールを満杯にできるのは、聖子ちゃんクラスを含めて15アーティストしかいないらしいよ」
河合「ゲゲッ！　頑張らねば！」

話は変わりますが、夏のロック・イベントについてバクフーの御意見をひとつ。

ほーじん「まだまだ地方は、ロック・コンサートに行っちゃイカン的な考え方のところが多くてね。困った問題だよ」
末吉「ツアーで回れない場所でのイベントは次への足掛りになれるんですよ。イベントで盛り上げて、次回はコンサートで行くとか。布石にはなりますね」

ミュージシャン同士の親交もイベントがきっかけで生まれることもままありがち。

中野「でもさ、新人のときはビビっちゃうよね。いきなり、「大友さん、飲み行きましょうよ」とは言えないもん。（笑）まっ、ボクらはもう誰と一緒でもビビらないけど」
ほーじん「家が近所だったりしたら、仲良くなったりしてね。そういや、この前ウワサのBUCK-TICKが挨拶に来た。（笑）「ヘア・スタイルでは河合さんに負けた」というBUCK-TICK側からのコメントもありました。（笑）」
河合「10年早いって言っといて！（笑）」
一同「ゲーッ、泉谷だあーっ泉谷現象だッ」
中野「オレ達、新人のとき挨拶したかなあ。アッ、行ったわ、そういやあ」
末吉「〝最近の新人は挨拶にも来ん！〟と怒ってた大物バンドもいましたね。（笑）」

さて、今日のイベントの出演バンドと、バクフーの親密度はいかに!?　お楽しみ、楽屋交遊図のお時間がやってまいりました。ゲストは御存知、デーモン閣下です！

中野「あー言えば交友録。どう、最近？」
小暮「昨日出たイベントのメンツが凄かった！　CCB、オメガトライブ、スタレビ、そしてラ・ムーに聖飢魔II!!」
中野「これまたナンツー組み合わせ！」
小暮「だろ!?　ところがトップの我々が出たときは快晴だったのにその後ずっと雨。さわやかな連中なのに気の毒だったな」

中野、小暮両人は共にスーパースランプ出身のボーカリストであります。そして共に早稲田大学に通う身でありました。

小暮「オレ、初めて中野さんに会ったのは7年前なんだよね」（さん付け！）
中野「オレ、結局8年大学にいたからな」
小暮「齢は我輩の方が9万9千9百……」
中野「2年後輩なんだよね」
小暮「うん。我輩は卒業したけどな。（笑）この前、オレ、東畑に会っちゃったよー」
中野「ゲェーッ！」（この辺、かなり身内ノリの話が続くので割愛させてもらいます）
小暮「よって、我輩も『尻の穴から出たい』が歌えるのだ。スーパースランプの系図を作るとかなり面白いゾ。出入り激しくて」

世を忍ぶ仮の姿状態の閣下ってば、ランDMCのTシャツなんか着てお若いのよん。

小暮「オレ、若いもん」
中野「ダメだよ地を出しちゃ。（笑）」
小暮「それとかオレのことデブだと言ってる不届な奴がいるんだよな。世の中には中肉中背というものがあるのだ」
中野「白塗りすると膨張して見えるんだよ」
小暮「我々二人は早稲田フォークソング・クラブの仲間なのだ、ハハハ」
中野「エッ、オレも？　知らなかった」
小暮「豊作氏（スーパースランプの生みの親）がそう言ってたよー」
中野「ヘンな縁だよな、オレ達も」
小暮「ジョイントしてそうで意外にしてないんだよね。なんかやりたいよね、今度」
中野「それよかスーパースランプの周辺情報、もっときかせてよ」

メイクを落としてからの素顔でフォト・セッションお願いしますネ、閣下！

さて、お次はルックの皆さん。

河合「ボクはとーる君がコンテストで優秀ギタリスト賞をもらったのを見てた！」
とーる「会う度にそれ言ってるね」
ほーじん「千沢さんの近所に引越したんだ」
千沢「ホントッ!?　今度遊ぼうぜ」

とまあ、各人世間話に花が咲き、プライベートなノリを展開。と、そこに乱入してきたのはシンガー・ソング・コメディアン嘉門達夫さんじゃありませんか。突如、テープレコーダーをワシ掴みにしましたッ！

嘉門「昭和34年3月25日生ま……」

受けて立ったのは、トップスの三井選手であります。エグイ大阪弁の押し問答で、

三井「ダレがオマエの誕生日きいてんねん」
嘉門「三井さんのが人生経験豊富やから」
三井「ジャカマシねん!!」
中野「嘉門さんてルックのチープに似てるよー。ネーッ、ホラッ！」
嘉門「スイマセンねえ。今日もTOPSとルックの間とルックと聖飢魔IIの間に5分ほど歌わせてもらいますねん。両方合わせて計25曲ですか？　ボクの場合〝カツオ風味のフンドシ〟で1曲ですから」

楽屋は嘉門さんの話にドッと沸きます。

ほーじん「ところで、嘉門さん、今日のステージに賭ける意気込みのほどを？」
嘉門「気楽でヨロシイわ」
三井「モニターの存在知らなんだくせに」
中野「ギターの弦、張り替えてたよ」
よし子（トップス）「力入ってるよー」
嘉門「大阪城ホールは3回目やからね。この前はパソコン・フェアでしたわ。まっ、このメンバーの中では慣れてる方かなっ！」
河合「お笑いの人達の楽屋と比べてどう？」
嘉門「なんぼかラクやね。やっぱりオレの血はミュージシャンやなと」
三井「おい、おい、エエ加減にしなさい」

てなわけで一段とニギやかになったバクフーの楽屋であります。オッとそろそろ、開演時間のようです。ヘアにメイク、衣装替えに楽器の最終チェック。デーモン閣下も素顔になりました。男性メンバーのパンツ一丁姿に頬を赤らめながら、ワタシはそっと楽屋を出ました。

PATi▶PATi＋BAKUFU SLUMP PRESENTS

これがラスト・チャンス！

㊡大運動会参加者

10月1日（土）　宮城県多賀城市総合体育館
開場▶16：30 開始▶17：30 問G.I.P ☎022(222)2093

10月2日（日）　札幌市真駒内スケートリンク
開場▶16：00 開始▶17：00 問WESS ☎011(521)8181

10月4日（火）　大阪府守口市民体育館
開場▶17：00 開始▶18：00 問キョードー大阪 ☎06(345)2500

10月8日（土）　福岡中央体育館
開場▶14：00 開始▶15：00 問くすミュージック ☎092(791)0101

10月14日（金）　広島サンプラザホール
開場▶17：00 開始▶18：00 問夢番地 ☎082(249)3571

10月18日（火）　夢の島総合体育館
開場▶17：00 開始▶18：00 問フリップサイド ☎03(770)8899

応募要項

さて、いよいよラストチャンス。BAKUFUのメンバーと運動会などという、めったにない（いや、この先もう全くないかもしれない）、希少価値かつハイクオリティイベントへの参加方法です。よく読んでまちがえないよーに。

①往復ハガキを用意する。②往信用ハガキの表に次の住所を書く。〒156-91 東京都世田谷区千歳郵便局 私書箱25号 CBS・ソニー出版パチ▶パチ編集部 爆風スランプ 秋の大運動会係 ③往信用ハガキの裏に、Ⓐ希望会場名と Ⓑあなたの住所、氏名、年齢、電話番号を明記して、④同じく往信用ハガキの裏に左下の応募券をしっかり貼る。⑤返信用ハガキの表にあなたの住所、氏名を明記する（様まで付けること！）以上の作業を終えて、きちんと確認したらポストへ。

締切▶宮城、札幌、大阪、福岡は9月20日。広島、東京は9月25日。折り返し、2名様まで入場できるチケットを送ります。（会場までの地図付き）

注1▶応募者多数の場合、先着順で運動会参加者を決めます。ただし、大会当日、会場で参加者と観客に分ける場合もあります。

注2▶そういうワケなので、開始時間には遅れないよーにね。

注3▶会場までの往復交通費はすべて自己負担。

注4▶当日の服装は基本的には体操服（ジャージ、トレパン、短パン）＋体育館シューズ（上ばき）ただし、着替える場所はない。着替える工夫をするか、体操服で来ること。

注5▶左記の各問い合わせ先には会場の場所がどうしてもわからない場合にのみTELしてください。必要事項はすべてチケットに明記されているので、チケットが届くまで待つこと。

面白くて嬉しくて、感動して、それでもって超スペシャルなごほうびまであるかもしれないこの運動会。参加しなけりゃ一生モンの後悔だ。

BAKUFU-SLUM
応募券
PP

'88年12月30日(金)
大阪城ホール
OPEN▶17:30 START▶18:30
全席指定¥3,000

'89年1月7日(土)・8日(日)・9日(月)
日本武道館
OPEN▶17:30 START▶18:30
全席指定¥3,000

9月23日一斉発売!

●チケットセゾン 06-308-9999●チケットぴあ 06-363-9999●プレイガイド21 06-251-9999●〈問〉キョードー大阪 06-345-2500
●CN21 03-258-9999●チケットぴあ 03-237-9999●チケットセゾン 03-5990-9111●〈問〉FLIP SIDE 03-770-8899
●(1/7のみ下記全国「玉ネギツアー」イベンターにて予約できます。)

CBS SONY CBS/SONY RECORDS

DAIKANYAMA PRODUCTION CO., LTD.

速報!
NEW ALBUM
11月2日(水)
RELEASE!
心して待て——!!

来てみるか**東京**、**見**てみるか**玉ネギ**。BAKUFU-KIDS東京集結。

全国「**玉ネギ**ツアー」決行!

今回のBAKUFU-SLUMP武道館3DAYSを行うにあたって全国のBAKUFU-KIDSのためにツアー(バス・電車・飛行機)を組むことになりました。この『**玉ネギツアー**』に参加した人はBAKUFU-SLUMPが只今計画中の**スペシャル企画**にも参加できるというウキウキもんのTOURです。みんなの手で武道館にデッカイ**玉ネギの花**を咲かせようじゃあーりませんか。詳しくは
●北海道地区/WESS 011-521-8181●東北地区/エムスコーポレーション 022-222-4000●仙台地区/G.I.P. 022-222-2093●北陸地区/FOB企画金沢 0762-32-2424●東海地区/サンデーフォーク静岡 0542-84-9998 名古屋 052-320-9100●北関東地区/FLIP SIDE宇都宮 0286-33-1009●関西地区/キョードー大阪 06-345-2525●中国地区/夢番地広島 082-249-3571●四国地区/デューク高知 0888-31-2020●九州地区/くすミュージック 092-791-0101まで。

【現在ULTRA TOUR続行中!】

●9/12(月)宮城県民会館/13(火)新潟市公会堂/16(金)宮崎市民会館/17(土)鹿児島市民文化ホール第1ホール/19(月)大分文化会館/21(水)熊本市民会館(大)/22(木)長崎市公会堂/23(祝)福岡サンパレス/27(火)静岡市民文化会館●10/31(月)福井フェニックスプラザ(大)/(これより先、コンサートの内容がすべて変ります。)●11/15(火)高知県民文化ホール/16(水)松山市民会館(大)/17(木)香川県県民ホール/25(金)広島郵便貯金会館ホール/28(土)岡山市民会館●12/1(木)青森市文化会館/2(金)秋田市文化会館/13(火)郡山市文化センター(大)/14(水)岩手県民会館/21(水)22(木)名古屋市民会館/24(土)旭川市公会堂/25(日)北海道厚生年金会館/26(月)函館市民会館

BAKUFU-SLUMP

EGAWA HÔJIN • PAPPARA KAWAI • NEW FUNKY SUEYOSHI • SUNPLAZA NAKANO •

B

BAKUFU SLUMP

NEVER CHANGE

10,11 AUG '88 LIVE at MZA ARIAKE

LOOK
EXTRA MILD

ルックの東京での久々のライブが8月10、11日の2日間、新しいライブ・スポット"MZA有明"で行なわれた。そこに登場したルックの4人と、サポート・メンバーの3人は、息の合った音をお互いに発信して、あの"ワンダーランド"を創り上げる。いつも変わらない、いつものルック。まろやかで、それでいて少しも退屈しないステージは、もっと評価されてもいいはずなのに。みんなもっと、ルックを聞けばいいのに——。

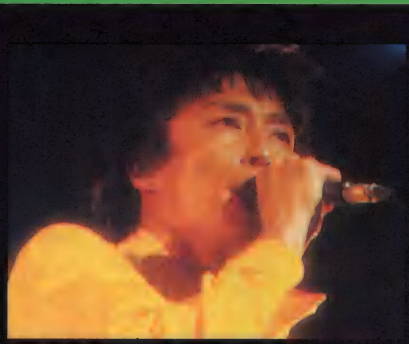
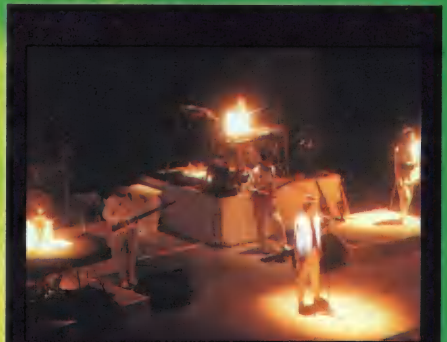
PHOTO●SHINJI TAGUCHI　COPY●KYOKO MORITA

出来たばかりの音楽空間〝MZA有明〟は都心からは、かなり遠い。おまけに外は、どしゃぶりの雨。カサなんて何のために持っているのかわからない。霧降りグレイのTシャツが、またたく間に黒に変わる。すべての匂いが消されてく感じ。こーゆー日にコンサートへ行く、というのは、勇気もいれば根性もいる。これがルックのライブじゃなかったら、部屋でTVでも見てるんだけどな。

シンプルなステージの上には、ぽっかりと細長いお月様。外界の大雨とはまったく無縁のルックのワンダーランド。そういえば、こんなふうに、いつもいつもルックのライブは、現実から少し離れたところで、それでも現実がちゃんと見えるところで、行なわれていたような気がする。

オープニングは「ラストシーンから始めよう」のアカペラ。夢にあふれていても、ルックのライブは決して子供っぽくならない。それはメンバーの年齢とか、そんな理由ではなくて、自然にやさしい手触りで、無理なくこちら側に語りかけてくる楽曲の深さ、かもしれない。少しも下世話じゃなく、かといって固くもなく、徹君のあんまりおもしろくないジョークだって、そこでは魔法にかかったように、私達の気持ちを幸せにしてくれる。

NEVER CHANGE

「ONE DIMEの夢」、「ブルースカイと黄色いTシャツ」と、最近のナンバーを続けて、次は1st.アルバムの中の「ト・ピ・ラのむこうで…」。世界でいちばん短いミュージカルのように、勢いに乗って千沢君と徹君のツイン・ボーカルがはねる。

サックス・ソロで、チープに初めてスポットが当たる。彼は片手でサックスを支え、片手をかざし、それから客席を指さして、〝なんだ、来てるんじゃない〟みたいな、親しげなポーズをとった。4人のメンバーの中で、いちばんファンに近い距離にいるチープ。それでいてオシャレで、ルックの大切なカラーを守っている。

現在のルックと、あの頃のルック。その違いを確かめているかのように、ステージはタイム・トリップしていた。そして、まだレコーディングされていない「ハローロンリネス」へと世界はまた逆戻り。

ピアノの前に座ったまま、千沢君が話し出す。

「今日は、すごい天気だね。そんな中、僕達のコンサートにようこそ！」

〝夏って、どうしてこんなに待ち遠しいんだろう〟という話をさんざんしたあと、千沢君はゆっくりと「冬のソリティア」のイントロに持ち込んだ。ルックの〝4 SEASONS TOUR〟という名にふさわしい(!!)この季節感のなさ。まさに、ワンダーランドだね、と、ここではこじつけることにしよう。

千沢君の歌うバラードは、いつも誠実で、やっぱりどんなときに聞いても、心打たれるものだから。

NEVER CHANGE

徹君のバラード「AGAIN」も、じっくりと聞かせてくれた。客席はシンと静まり返っている。こんなふうに、イマドキの少年少女が、こういう良質のポップスを聞くというのは、すごく良いことだなーと、冷房のききすぎた2階席で、ふと思った。みんなもっとルックを聞けばいいのに、と素直に感じる。

そして、久々にはるきち君の「ROUND AT THE NIGHT」も聞けた。彼は、いつもルックのいちばん後ろにいる人。必要以上に自分をアピールしようとしない。冷静な視線と、凝り固まらない視野で、ルックを見つめている。そんな彼がフロントで歌うこの曲は、なんだかくすぐったいくらいに、柔らかくて、やさしい。

さらにバラードは続いて、「追憶の少年」。そして「サヨナラ・イエスタディ」へと展開するときの徹君の〝ドラマ〟は見事。

メンバー紹介では、1人ずつがお気に入りのフレーズを披露して、「PLANET GIRL」へ。徹君と、サポート・メンバーの江口君のギター・バトルは見ても聞いても楽しい。「SONG FOR YOU」では、サビの部分を客席と大合唱。ここのところは歌詞も素敵なので、男の子も女の子も、かなりきれいな気持ちになっていくんじゃないかと思う。みんなもっと(これを読んでる人とか)ルックのライブに行けばいいのに。本当に。

NEVER CHANGE

次は、なつかしい「パパイヤ娘」。またタイム・スリップ。今のルックには不自然なくらいに(!?)明るくてかわいい歌を、徹君は本当に嬉しそうに歌っていた。

「PARTY LIFE」になると、千沢君もピアノを離れて、ハンドマイクを手にする。銀色の花吹雪が舞い、色とりどりの風船（LOOKのロゴ入り）が空から降ってきた。その賑やかさもまた、ルックのカラーのひとつで、それでも音は乱れない。ここがポイントだったりもする。「スターダストクラブで人生を」も、ミュージカルの1場面のように、楽しくステージを湧かせた。

NEVER CHANGE

この夏は東京と大阪でワンマンのライブ、そしてイベントにも、いつになく積極的に参加したルック。そのさ中に、徹君が〝最近、ルックすごくいいんだよ。なんか知らないけど緊張感があってさー〟と言っていたのを思い出した。

アンコールは「ドリーム・ファクトリー」、「ハートに火をつけて」、そして最後に〝坂本九さんに捧げます〟と言ってバラード・バージョンの「少年の瞳」を歌った。

なつかしいナンバーも登場して、充分に楽しめたルックの〝MZA〟でのライブ。奇をてらうことはまったくなくて、正統派の、上質のポップスを、相変らず、自分たちのペースで聞かせてくれた。そこに集まった観客はルックに心から満足して、惜しみない拍手を送った。どうしてみんな、もっとルックを聞かないんだろう、とフシギに思いながら。

外は、まだ雨が強く降り続いていた。すっかり、忘れてた。

ティーンのための恋と占いの生活情報誌／ときめき

TOKIMEKI

元気印だから、
恋に、友情に、
進路に…
悩むのデス

恋と占い、おしゃれ

情報を満載して、ティーン向け新雑誌

10月3日いよいよ発刊！

PATI・PATI増刊

発行●CBS・ソニー出版
判型●A4変型 160ページ
予価●350円

発売記念！
抽選で3000人プレゼント
［コンピュータ恋占い
＆相性診断］
あなたと彼の〝相性度〟を
コンピュータで診断します。
相性度は%で表示。90%以上
なら2人の将来はバラ色…。
抽選で3000人限定。

「TOKIMEKI」
No. 1の特集記事

【占い特集】
幸運を呼ぶ
「ファッション・カラー占い」
ホロスコープでわかる
あなたの「恋の行方」
星座とタロットで占う
／今週の運勢
恋人もコンピューターで
選ぶ時代ですって!?
幸せ人体図鑑
ラブキャッチ・おまじない
好きな花で未来占い

【生活特集】
男のコ1000人アンケート
／男のコ白書
悩み面談相談室
友だちとのトラブル脱出法
〈付録〉星座別シェイプアップ法

CONCERT SCHEDULE
・コンサートスケジュール

●あんまり夏らしくなかったけど、夏休みも終わり。毎日学校行くのがちょっとシンドイ位長いのが2学期。でも、楽しい(?)体育祭や文化祭があるのも2学期。と、ゆーわけで、今月号のコン・スケにも学園祭ライブ情報がギッシリです。もちろん秋からのコンサート・ツアーの情報だって満載。もぉこんなに来年の1月まで決まっていては、鬼も笑うに笑えまい。

尾崎豊
"LIVE CORE"
9月12日(月)BIG EGG 問84

米米クラブ
"B.C.SHARISHARISM"
9月23日(金)高松市民会館 問24
24日(土)高松市民会館 問24
25日(日)愛媛県民文化会館 問24
27日(火)広島厚生年金会館 問26
28日(水)広島厚生年金会館 問26
10月1日(土)宮崎市民会館 問105
2日(日)鹿児島県市民文化ホール 問105
3日(月)鹿児島県市民文化ホール 問105
5日(水)熊本県立劇場 問105
6日(木)熊本県立劇場 問105
8日(土)福岡サンパレス 問105
9日(日)福岡サンパレス 問105
10日(月)九州厚生年金会館 問105
13日(木)神奈川県民ホール 問71
14日(金)千葉県文化会館 問71
15日(土)千葉県文化会館 問71
20日(木)浦和市文化センター 問71
21日(金)浦和市文化センター 問71
29日(土)大阪フェスティバルホール 問83
30日(日)大阪フェスティバルホール 問83
11月8日(火)石川厚生年金会館 問77
9日(水)名古屋市民会館 問16
10日(木)名古屋市民会館 問16
17日(木)山形県民会館 問112
18日(金)郡山市民文化センター 問112
20日(日)宮城県民会館 問112
21日(月)宮城県民会館 問112
24日(木)札幌厚生年金会館 問88
25日(金)札幌厚生年金会館 問88
27日(日)青森市文化会館 問112
29日(火)京都会館 問131
30日(水)京都会館 問131
12月1日(木)守山市民文化会館 問131
3日(土)神戸文化ホール 問132
4日(日)和歌山県民文化会館 問132

渡辺美里
"ribbon power"
10月10日(月)宇都宮市文化会館 問84
13日(木)新潟県民会館 問18
14日(金)長野県民文化会館 問18
16日(日)川崎CLUB CITTA' 問61
17日(月)川崎CLUB CITTA' 問61
19日(水)山梨県民文化ホール 問7
20日(木)群馬県民会館 問62
24日(月)神戸国際会館 問20
29日(土)下関市民会館 問42
30日(日)徳山市文化会館 問42
11月1日(火)福山市市民会館 問42
2日(水)島根県民会館 問42
4日(金)岡山市民会館 問42
5日(土)広島郵便貯金会館 問42
8日(火)富山市公会堂 問18
9日(水)石川厚生年金会館 問18
11日(金)福井フェニックスプラザ 問18
16日(水)北海道厚生年金会館 問11
17日(木)北海道厚生年金会館 問11
19日(土)伊勢崎市文化会館 問69
23日(水)静岡市民文化会館 問15
27日(日)磐田市民文化会館 問21
12月3日(土)山形県民会館 問112
5日(月)岩手県民会館 問112
6日(火)青森市文化会館 問112
8日(木)秋田県民会館 問112
12日(月)鹿児島市民文化ホール 問28
13日(火)宮崎市民会館 問28
15日(木)大分文化会館 問17
19日(月)福岡サンパレス 問28
20日(火)熊本市民会館 問17
22日(木)長崎市公会堂 問17
1月10日(火)徳島市立文化センター 問24
11日(水)高松市民会館 問24
13日(金)高知県民文化ホール 問24
14日(土)愛媛県民文化会館 問24
17日(火)宮城県民会館 問112
18日(水)郡山市民文化センター 問112
21日(土)千葉県文化会館 問84
24日(火)茨城県立県民文化センター 問62
25日(水)大宮ソニックシティー 問84

バービーボーイズ
10月28日(金)川崎CLUB CITTA' 問61
29日(土)川崎CLUB CITTA' 問61

氷室京介
"KING OF ROCK SHOW! ~FLOWERS FOR ALGERNON~"
10月1日(土)高松市総合体育館 問5
4日(火)福岡国際センター 問105
12日(水)広島サンプラザホール 問39
30日(日)新潟産業センター 問48

レッド・ウォーリアーズ
"King's Rock'n Roll Show!"
9月10日(土)リージョンプラザ上野 問31
12日(月)富山教育文化会館 問31
13日(火)石川県教育会館 問31
14日(水)福井県民会館 問31
16日(金)鳥取文化センター 問39
17日(土)島根県民会館(中) 問39
19日(月)福山市民会館 問39
20日(火)山口市民会館 問39
23日(金)広島郵便貯金会館 問39
24日(土)岡山市民会館 問39
25日(日)愛媛県民会館(サブ) 問39
27日(火)高知県民文化ホール 問39
28日(水)徳島市文化センター 問39
29日(木)香川県民会館 問39
※このTOURではTHE HEARTがオープニングアクトをつとめます。(一部会場を除く)
"3RD ANNIVERSARY"
10月10日(月)川崎CLUB CITTA' 問61

BUCK-TICK
"SEVENTH HEVEN TOUR '88"
10月13日(木)渋谷公会堂 問71
15日(土)群馬音楽文化センター 問14
18日(火)浦和市文化センター 問116
20日(木)平市民会館 問96
21日(金)千葉県文化会館 問71
22日(土)山梨県民文化ホール 問96
25日(火)京都勤労会館 問19
28日(金)平塚市民会館 問32
31日(月)大阪厚生年金会館 問114
11月2日(水)川崎CLUB CITTA' 問32
3日(木)川崎CLUB CITTA' 問32
8日(火)高知県民文化ホール 問24
9日(水)愛媛県民文化会館(サブ) 問3
11日(金)広島郵便貯金会館 問26
12日(土)徳山市文化会館 問150
14日(月)福岡市民会館 問28
15日(火)鹿児島県文化センター 問140
16日(水)長崎平和会館 問97
18日(金)熊本市民会館 問17
22日(火)新潟県民会館(大) 問48
24日(木)長野県民文化会館 問47
25日(金)金沢市観光会館 問60
26日(土)富山県民会館 問60
29日(火)愛知勤労会館 問58
30日(水)浜松市市民会館 問21
12月4日(日)山形県民会館 問82
5日(月)仙台電力ホール 問82
7日(水)茨城県民文化センター 問13
8日(木)宇都宮市文化会館 問13
14日(水)札幌市民会館 問88
16日(金)秋田市文化会館(大) 問44
18日(日)郡山市民文化センター(大) 問82
19日(月)岩手教育会館 問82
20日(火)青森市文化会館 問68
23日(金)静岡市民文化会館(中) 問65
27日(火)群馬県民会館 問14

中村あゆみ
"INNOCENT TEARS ~It's Only You~"
10月15日(土)綾瀬市文化会館 問8
20日(木)府中市市民会館 問8
23日(日)鳴門市文化会館 問24
24日(月)高松市立市民会館 問5
11月7日(月)岐阜市民会館 問58
8日(火)姫路市文化センター 問20
10日(木)舞鶴市総合文化会館 問20
14日(月)紀南文化会館 問20
16日(水)八尾市文化会館 問20
21日(月)中津文化会館 問149
25日(金)福岡市民会館 問28
28日(月)新潟県民会館 問48
29日(火)柏崎市民会館 問64
12月13日(火)静岡市民文化会館 問65
14日(水)名古屋市民会館 問58

UP-BEAT
"TO The Lasting Blind"
9月9日(金)長崎市平和会館 問28
11日(日)熊本市民会館 問17
13日(火)広島見真講堂 問26
15日(木)京都会館(第二) 問20
16日(金)金沢文化ホール 問57
19日(月)小倉市民会館 問28
21日(水)松山市民会館(中) 問3
22日(木)高知県民文化グリーンホール 問24
25日(日)岩手教育会館 問82
26日(月)仙台電力ホール 問82
28日(水)青森県民文化ホール 問82
29日(木)秋田文化会館 問82
10月13日(木)札幌道新ホール 問11
21日(金)浜松福祉文化会館 問21
28日(金)大阪厚生年金会館 問83
11月7日(月)日本武道館 問7
(学園祭)
10月22日(土)杉山女学院
29日(土)富山女子短期大学
11月3日(木)久留米大学
4日(金)九州歯科大学
20日(日)女子栄養大学
23日(水)熊本県立農業大学
※お問い合わせは全て〈ハンズ〉☎0120-05903-(フリーダイアル)。

プリンセス・プリンセス
11月9日(水)川崎CLUB CITTA' 問61
10日(木)川崎CLUB CITTA' 問61
"PANIC TOUR〈Winter〉"
12月4日(日)渋谷公会堂 問71
8日(木)新潟県民会館 問18

9日(金)長野市民会館 問18
11日(日)名古屋市民会館 問16
12日(月)京都会館 問20
14日(水)高松市民会館 問5
16日(金)広島郵便貯金会館 問26
17日(土)神戸国際会館 問20
20日(火)熊本県立劇場演劇ホール 問28
21日(水)福岡市民会館 問28
23日(金)大阪厚生年金会館 問20
25日(日)松山市民会館 問3
26日(月)大阪厚生年金会館 問20
1月8日(日)宇都宮市文化会館 問13
9日(月)群馬県民会館 問13
11日(水)札幌市民会館 問88
14日(土)秋田県民会館 問82
16日(月)郡山市民文化センター 問82
17日(火)仙台市民会館 問82
19日(木)青森市文化会館 問82
23日(月)日本武道館 問71
24日(火)日本武道館 問71
25日(水)日本武道館 問71

〔学園祭〕
"PANIC学園祭TOUR"
10月9日(日)十和田市民文化センター(北里大) 問13
21日(金)米沢市市民文化会館(山形大) 問106
22日(土)郡山日大工学部学内大講堂 問112
27日(木)栃木会館(国際情報ビジネス専) 問13
30日(日)杏林大学 問71
11月1日(火)静岡市民会館(静岡県立大) 問15
2日(水)立正大学 問51
5日(土)日大商学部生田校舎2号館 問51
8日(火)群馬音楽センター(高崎経済大) 問13
19日(土)茨城大学 問13

UNICORN

10月14日(金)渋谷公会堂 問71
20日(木)大阪厚生年金会館(中) 問20
30日(日)松山市民ホール(中) 問39
11月1日(火)岡山市民会館 問27
2日(水)広島郵便貯金会館 問39
3日(木)神戸文化ホール(中) 問20
9日(水)京都会館(第二) 問20
12日(土)熊本郵便貯金会館 問105
13日(日)大分農業会館 問29
15日(火)鹿児島市民ホール 問29
16日(水)福岡都久志会館 問29
17日(木)長崎平和会館 問29
21日(月)横浜教育会館 問71
24日(木)愛知勤労会館 問16
27日(日)札幌道新ホール 問11
28日(月)旭川市民文化ホール 問11
12月15日(木)石川教育会館 問18
16日(金)新潟音楽文化会館 問18
17日(土)長野勤労福祉センター 問18
20日(火)岩手県民会館(中) 問112
21日(水)青森市民文化ホール 問112
23日(金)仙台市民会館 問112
24日(土)秋田県児童会館 問112

大江千里

"1234"
9月29日(木)神戸国際会館 問83
30日(金)京都会館(第一) 問19
10月4日(火)鹿児島市民文化ホール(第一) 問17
6日(木)長崎市公会堂 問17
7日(金)熊本市民会館 問17
8日(土)大分文化会館 問17
13日(木)沖縄市民会館 問121
24日(月)大宮ソニックシティ(大) 問84
25日(火)山梨県民文化ホール 問84
11月7日(月)浜松市民会館 問21
12月1日(木)茨城県立県民文化センター 問62
3日(木)福井フェニックスプラザ 問18
4日(日)石川厚生年金会館 問18
6日(火)長野市民会館 問18

12日(月)千葉県文化会館 問84
14日(水)群馬県民会館 問62
15日(木)宇都宮市文化会館 問62
20日(火)北海道厚生年金会館 問11
21日(水)北海道厚生年金会館 問11
28日(水)大阪厚生年金会館 問83
29日(木)大阪厚生年金会館 問83
30日(金)大阪厚生年金会館 問83
31日(土)大阪厚生年金会館 問83

HOUND DOG

"OVERLAND"
11月3日(木)富士吉原市民会館 問15
4日(金)清水市民会館 問15
5日(土)焼津市民文化会館 問15
7日(月)倉敷市民会館 問27
8日(火)倉敷市民会館 問27
11日(金)岩国市民会館 問27
12日(土)防府市公会堂 問27
15日(火)出雲市民会館 問27
16日(水)鳥取市民会館 問27
17日(木)福山市民会館 問27

松岡英明

"WONDERLAND TOUR"
9月10日(土)札幌共済ホール 問88

BAKUFU-SLUMP

ULTRA TOUR'88 "CIRCLE GAME"
9月12日(月)宮城県民会館 問148
13日(火)新潟市公会堂 問48
16日(金)宮崎市民会館 問29
17日(土)鹿児島市民文化ホール(第一) 問30
19日(日)大分文化会館 問29
21日(水)熊本市民会館(大) 問29
22日(木)長崎市公会堂 問29
23日(金)福岡サンパレス 問29
27日(火)静岡市民文化会館(大) 問15
10月31日(月)福井フェニックスプラザ 問60
11月15日(火)高知県民文化ホール 問24
16日(水)松山市民会館(大) 問3
17日(木)香川県県民ホール 問5
25日(金)広島郵便貯金会館 問27
26日(土)岡山市民会館 問27
12月1日(木)青森市文化会館 問82
2日(金)秋田市文化会館 問82
13日(火)郡山市文化センター(大) 問82
14日(水)岩手県民会館(大) 問82
21日(水)名古屋市民会館 問16
22日(木)名古屋市民会館 問16
24日(土)旭川市公会堂 問88
25日(日)北海道厚生年金会館 問88
26日(月)大阪城ホール 問83
1月7日(土)日本武道館 問84
8日(日)日本武道館 問84
9日(月)日本武道館 問84
〔学園祭〕
10月22日(土)北陸学院女子短期大学体育館
※お問い合わせは〈BAKUFU-SLUMP F・C〉☎03(448)9070。
11月24日(木)栃木会館(宇都宮大) 問62

永井真理子

"HEART BEAT TOUR '88 TOKYO SPECIAL"
9月17日(土)日比谷野外音楽堂 問7
"HEART BEAT TOUR '88"
11月15日(火)札幌道新ホール 問11
12月5日(月)富山市民会館 問57
7日(水)新潟音楽文化会館 問57
8日(木)桐生文化センター 問69
13日(火)福岡都久志会館 問138
14日(水)広島県民文化センター 問39
15日(木)大阪厚生年金会館(中) 問20
19日(月)中野サンプラザ 問7

20日(火)中野サンプラザ 問7
22日(木)愛知勤労会館 問16
〔学園祭・イベント〕
9月23日(金)横須賀少年工科学校 問117
10月9日(日)松商学園短期大学 問117
10日(月)専修大学神田校舎 問117
16日(日)岐阜笠松町立小学校 問117
20日(木)杉並公会堂(中央大) 問117
31日(月)金井学園記念講堂(福井工大) 問60
11月1日(火)浜松市民会館(浜松医科大) 問21
2日(水)足利工業大学 問98
3日(木)早稲田大学 問117
4日(金)明星大学 問117
6日(日)石川高等専門学校 問57
20日(土)島根大学 問39
22日(火)九州大学 問117

C-C-B

"Keep On Running"
10月2日(日)東京ベイN・Kホール 問141
16日(日)愛知勤労会館 問10
23日(日)新潟県民会館 問48
24日(月)長野市民会館 問47
25日(火)金沢市観光会館 問60

LOOK

10月25日(火)川崎CLUB CITTA' 問61
26日(水)川崎CLUB CITTA' 問61
〔学園祭〕
11月27日(日)調布電気通信大学
※お問い合わせは〈ルックスリーグ〉☎03(498)5258。

岡村靖幸

10月12日(水)川崎CLUB CITTA' 問61
12月4日(日)大阪厚生年金会館 問83
7日(水)新潟市公会堂 問18
19日(月)仙台電力ホール 問112
20日(火)青森市民文化ホール 問112
22日(木)札幌道新ホール 問11
25日(日)福岡都久志会館 問28
26日(月)広島県民文化センター 問42
〔学園祭〕
10月22日(土)文京女子大学 問128
11月20日(日)岡山理科大学 問42

久保田利伸

"久保田利伸 With Friends"
10月8日(土)川崎CLUB CITTA' 問61
9日(日)川崎CLUB CITTA' 問61
※武部聡志・AMAZONS・高樫明生・MOTHER EARTHがゲスト主演予定。

THE BLUE HEARTS

"Return of The Pineapple"
10月3日(月)山形県民会館 問4
4日(火)郡山市民文化会館 問4
5日(水)宮城県民会館 問4
7日(金)宮城県民会館 問4
11日(火)京都会館(第一) 問19
13日(木)静岡市民文化会館(大) 問15
14日(金)神戸国際会館 問20
16日(日)広島郵便貯金会館 問26
17日(月)下関市民会館 問26
18日(火)岡山市民会館 問26
23日(日)長崎市公会堂 問29
25日(火)福岡サンパレス 問29
26日(水)鹿児島県文化センター 問29
27日(木)熊本市民会館 問29
11月3日(木)高知県民オレンジホール 問24
4日(金)松山市民会館 問24
7日(月)高松市民会館 問24
9日(水)鳥栖市民会館 問29
10日(木)宮崎市民会館 問29
13日(日)名古屋市公会堂 問16

14日(月)名古屋市公会堂 問16
16日(水)沖縄市民会館 問121
21日(月)金沢観光会館 問60
22日(火)福井フェニックスプラザ 問60
24日(木)新潟県民会館 問48
25日(金)長野県民会館 問47
28日(月)札幌厚生年金会館 問88
12月5日(月)川越市民会館 問116
6日(火)群馬県民会館 問84
9日(金)青森市文化会館 問4
10日(土)秋田県民会館 問4
13日(火)千葉県文化会館 問84
15日(木)大阪厚生年金会館 問20
16日(金)大阪厚生年金会館 問20
21日(水)横浜文化体育館 問147

吉川晃司

LIVE FILM "ZERO"
9月10日(土)静岡市民文化会館(中)
11日(日)豊橋勤労福祉会館
※以上、お問い合わせ〈ブレーントラスト〉☎052(263)9115。
9月17日(土)高松市民会館
19日(月)鳴門市文化会館
20日(火)南予文化会館
21日(水)高知RKCホール
22日(木)今治市公会堂
23日(金)丸亀市民会館
24日(土)土佐清水文化会館
25日(日)観音寺市民会館
27日(火)徳島郷土文化会館
28日(水)新居浜市民文化センター
29日(木)愛媛県民文化会館
※以上、お問い合わせ〈デューク〉☎0888(31)2020。
9月18日(日)京都会館(第二)
※お問い合わせ〈J音楽企画〉☎075(231)7770。
9月21日(水)岡山三木記念ホール
23日(金)広島東区民文化センター
24日(土)山口教育会館
※以上、お問い合わせ〈キャンディ プロモーション〉☎082(249)8334。
※他地区での上映スケジュール予定のお問い合わせは〈セブンスエンタープライズ〉☎03(405)9201まで。

THE HEART

9月15日(木)宇都宮ビッグアップル 問13
17日(土)名古屋ハートランド 問16
18日(日)名古屋ハートランド 問16
20日(火)新宿パワーステーション 問71
24日(土)大阪バナナホール 問83
25日(日)大阪バナナホール 問83
27日(火)新宿パワーステーション 問71

De-LAX

9月10日(土)名古屋ELL 問16
11日(日)名古屋ELL 問16
14日(水)京都ビッグバン 問53
17日(土)大阪ミューズホール 問80
18日(日)神戸チキンジョージ 問80
24日(土)新宿パワーステーション 問71

サザンオールスターズ

真夏の夜の夢"1988 大復活祭"
9月10日(土)小牧市民球場 問16
11日(日)小牧市民球場 問16
17日(土)横浜スタジアム 問115
18日(日)横浜スタジアム 問115
19日(月)横浜スタジアム 問115

THE PEPPER BOYS

10月8日(土)新宿パワーステーション 問76
16日(日)名古屋ハートランド 問16

CONCERT SCHEDULE

21日(金)大阪バナナホール 問83
22日(土)大阪バナナホール 問83

レビッシュ
"WONDER TRIP TOUR"
9月30日(金)宮城県民会館 問4
10月8日(土)熊本郵便貯金会館 問29
9日(日)大分スタジオオーティス 問29
11日(火)福岡都久志会館 問29
13日(木)日本青年館 問87
11月4日(金)京都教育文化センター 問19
12月18日(月)栃木会館(小) 問13
23日(金)名古屋フレックスホール 問58
24日(土)大阪御堂会館 問86
(学園祭)
11月12日(土)広島女学院 問42
18日(金)国立富山職業訓練短期大学 問31

ECHOES
"HURTS SO GOOD '88"
10月1日(土)日比谷野外音楽堂 問7
6日(木)愛知勤労会館 問16
24日(月)大阪厚生年金会館(中) 問20
29日(土)愛媛県民文化サブホール 問3
11月1日(火)高知県民グリーンホール 問74
28日(月)福岡桃地パレス 問29
30日(水)長崎平和会館 問29
12月1日(木)熊本県立演劇ホール 問29
14日(水)新潟県民会館 問48
21日(水)藤沢市民会館 問7
23日(金)前橋市民文化会館 問7
1月8日(日)渋谷公会堂 問7
(学園祭)
10月20日(木)広島文教女子短大
30日(日)岡山山陽学園短大
11月2日(水)福岡第一経済大学
3日(木)愛知県立大学
6日(日)横浜商科大学
13日(日)東京農工大学
※以上、お問い合わせは全て〈ECHOES OF YOUTH〉☎03(423)2695。

Be Modern
"ロックンロール大作戦 Vol.1"
9月26日(月)静岡すみやオレンジホール 問65
28日(水)インクスティック芝浦 問7
10月8日(土)新潟プラーカ遊とぴあホール 問18
10日(月)名古屋ハートランド 問102
11日(火)神戸チキンジョージ 問23
12日(水)京都ビッグバン 問23

エレファントカシマシ
9月10日(土)渋谷公会堂 問71

OKs
"WAKE UP BOYS"
9月13日(火)山梨県民文化ホール(小) 問22
16日(金)府中グリーンプラザ(けやきH) 問22
20日(火)茅ヶ崎市民文化会館(小) 問22

山下久美子
"Baby alone in BABYLON"
9月11日(日)札幌市民会館 問88
15日(木)渋谷公会堂 問71

浜田省吾
"ON THE ROAD '88"
9月12日(月)鹿児島市民文化第一ホール 問29
13日(火)鹿児島市民文化第一ホール 問29
15日(木)熊本市民会館 問29
16日(金)熊本市民会館 問29
20日(火)沖縄コンベンションセンター
※お問い合わせは〈琉球放送事業部〉☎0988(67)2151。
9月27日(火)京都会館(第一) 問23
28日(水)京都会館(第一) 問23
10月1日(土)川崎市産業文化会館 問7
4日(火)福島県文化センター 問62
5日(水)郡山市民文化センター 問62
12日(水)千葉県文化会館 問84
13日(木)千葉県文化会館 問84
15日(土)小田原市民会館 問7
22日(土)函館市体育館 問88
24日(月)北見市民会館 問88
25日(火)帯広市民会館 問88
27日(木)室蘭新日鉄ホール 問88
11月4日(金)姫路市文化センター 問23
5日(土)徳山市民文化会館 問39
7日(月)長崎市公会堂 問29
8日(火)長崎市公会堂 問29
10日(木)佐世保市民会館 問29
11日(金)福岡県立久留米体育館 問29
16日(水)神奈川県民ホール 問7
28日(月)いわき市平市民会館 問106
29日(火)茨城県立県民文化センター 問62
12月1日(木)大宮ソニックシティ 問62
2日(金)大宮ソニックシティ 問62
7日(水)旭川市民文化会館 問88
8日(木)旭川市民文化会館 問88
10日(土)札幌月寒グリーンドーム 問88
11日(日)札幌月寒グリーンドーム 問88
13日(火)釧路市民文化会館 問88
19日(月)徳島市文化センター 問27
20日(火)香川県県民ホール 問27
22日(木)倉敷市民会館 問27
23日(金)倉敷市民会館 問27
26日(月)福岡国際センター 問29
27日(火)福岡国際センター 問29
1月6日(金)神奈川県民ホール 問7
9日(月)大阪城ホール 問23
10日(火)大阪城ホール 問23
12日(木)広島サンプラザホール 問39
13日(金)広島サンプラザホール 問39
17日(火)大阪城ホール 問23
18日(水)大阪城ホール 問23
26日(木)名古屋レインボーホール 問16
28日(土)名古屋レインボーホール 問16
29日(日)名古屋レインボーホール 問16

THE PRIVATES
"MONKEY PATROL TOUR"
10月27日(木)渋谷公会堂 問71
28日(金)大阪国際交流センター 問83
11月15日(火)名古屋フレックスホール 問16
17日(木)福岡都久志会館 問28

JUN SKY WALKER(S)
"全部このままでツアー"
9月9日(金)横浜市西区公会堂
10日(土)前橋ラタン
16日(金)青森スペース1/3
19日(月)本八幡ルート14
28日(水)熊本イエロースタジオ
29日(木)小倉IN&OUT
10月2日(日)水戸サントピア
4日(火)大宮フリークス
5日(水)長野NBSホール
6日(木)諏訪セロニアス
11日(火)栃木会館(小)
12日(水)横浜7thアベニュー
14日(金)広島ウッディーストリート
17日(月)京都ビッグバン
18日(火)神戸チキンジョージ
21日(金)秋田モーニングムーン
25日(火)仙台ヤマハホール
26日(水)仙台CADホール
11月1日(火)名古屋ELL
26日(土)渋谷公会堂
※以上、お問い合わせは全て〈BADミュージック〉☎03(352)3779。
"ROCKN' ROLL TOYS' BOX スペシャル・ジャパン・ツアー"
9月14日(水)札幌共済ホール
17日(土)仙台イズミティー21(小)
21日(水)大阪厚生年金会館
25日(日)名古屋厚生年金会館
26日(月)福岡郵便貯金会館
※他に、筋肉少女帯、RYDERSの出演があります。お問い合わせは全て〈バックステージ・プロジェクト〉☎0488(66)3888
(学園祭)
10月29日(土)跡見女子大学祭
11月3日(木)大東文化大学祭
4日(金)大阪大学祭
12日(土)桃山大学祭
※以上、お問い合わせは全て〈BADミュージック〉☎03(352)3779。

江口洋介
"GO FOR BROKE!!"
10月3日(月)大宮フリークス 問84
6日(木)札幌ペニーレーン 問88
8日(土)仙台CADホール 問112
14日(金)名古屋ハートランド 問102
17日(月)大阪ミューズホール 問20
20日(木)広島ウッディーストリート 問105
22日(土)福岡ビブレ 問105
24日(月)横浜7thアベニュー 問84
25日(火)インクスティック芝浦 問84

TOPS
"ROMANESQUE CHAMPION"
11月1日(火)愛知勤労会館 問16
3日(木)大阪厚生年金会館(大) 問83
8日(火)渋谷公会堂 問84
12日(日)福岡郵便貯金会館 問28

谷村有美
10月7日(金)新宿パワーステーション 問71

THE MODS
9月22日(木)渋谷公会堂 問7
26日(月)大阪厚生年金会館 問20
27日(火)名古屋市公会堂 問146
30日(金)福岡市民会館 問28
10月1日(土)広島郵便貯金会館 問26

PEARSONZ
9月9日(金)熊本郵便貯金会館 問17
14日(水)新潟市公会堂 問127
15日(木)長野NBSホール 問127
16日(金)前橋市民文化会館 問7
21日(水)福岡郵便貯金会館 問28
22日(木)愛知県勤労会館 問16
23日(金)大阪厚生年金会館 問20
25日(日)日比谷野外音楽堂 問7
10月5日(水)札幌共済ホール 問88
12日(水)千葉教育会館 問7
19日(水)秋田児童会館 問100
20日(木)仙台イズミティー21 問4
27日(木)浦和市文化センター 問7
29日(土)水戸市民会館 問7
11月1日(火)藤沢市民会館 問7

FENCE OF DEFENSE
"2235 ZERO GENERATION"
10月1日(土)岡山市民会館 問27
3日(月)宮城県民会館 問82
5日(水)新潟県民会館 問18
18日(火)福岡郵便貯金会館 問29
19日(水)熊本郵便貯金会館 問29
21日(金)広島郵便貯金会館 問39
26日(水)大阪厚生年金会館 問20
27日(木)愛知勤労会館 問16
11月1日(火)渋谷公会堂 問7
28日(月)札幌道新ホール 問63

有頂天
9月17日(土)仙台CADホール
18日(日)ウォーク八戸
20日(火)札幌ベッシーホール
23日(金)青森スペース1/3
24日(土)秋田モーニングムーン
25日(日)新潟ウッディー
29日(木)前橋ラタン
10月1日(土)豊橋かごやホール
3日(月)京都ビッグバン
4日(火)神戸チキンジョージ
5日(水)高知キャラバンサライ
8日(土)広島ウッディーストリート
10日(月)熊本イエロースタジオ
12日(水)福岡Be-1
14日(金)大阪バーボンハウス
15日(土)名古屋フレックスホール
23日(日)日比谷野外音楽堂
※以上、お問い合わせは全て〈PCM〉☎03(350)8009。

DER ZIBET
10月15日(土)大宮フリークス 問84
17日(月)横浜7thアベニュー 問84
18日(火)豊橋かごやホール 問122
19日(水)京都ビッグバン 問19
20日(木)岡山ロフト 問144
22日(土)福岡Be-1 問29
24日(月)広島ウッディーストリート 問39
25日(火)神戸チキンジョージ 問80
27日(木)仙台CADホール 問4
12月21日(水)大阪御堂会館 問80
22日(木)名古屋フレックスホール 問58
26日(月)渋谷公会堂 問84

KENZI & THE TRIPS
"SEXC' TOUR"
9月21日(水)名古屋芸創センター 問58
28日(水)茨城県民文化会館(小) 問13
30日(金)渋谷公会堂 問116
10月3日(月)札幌共済ホール 問88
4日(火)旭川スタジオ9 問[illegible]
7日(金)帯広勤労者福祉センター 問88
12日(水)仙台イズミティー21 問82
13日(木)福島県文化センター 問82
15日(土)岩手教育会館 問82
17日(月)山形県民会館 問82
18日(火)秋田児童会館 問82
23日(日)川崎CLUB CITTA' 問32
31日(月)大阪御堂会館 問23
11月5日(土)広島見真講堂 問134
30日(水)石川教育会館 問60
12月1日(木)新潟県民会館(小) 問48
2日(金)新潟県民会館(小) 問48
14日(水)松山市民会館(中) 問3
17日(土)福岡都久志会館 問134

ZIGGY
9月12日(月)札幌共済ホール 問88
22日(木)横浜青少年センター 問147
28日(水)宮崎県民会館 問4
29日(木)埼玉会館 問116
10月1日(土)大阪厚生年金会館 問23
2日(日)広島見真講堂 問26
3日(月)福岡都久志会館 問28
5日(水)愛知勤労会館 問103

ZELDA
9月23日(金)日比谷野外音楽堂 問87
10月10日(月)大阪厚生年金会館 問20
11日(火)京都会館(第二) 問20
22日(土)埼玉会館 問116
27日(木)横浜教育会館 問147

ROLLIE
"マジカル・ロケット・ツアー'88"

9月10日(土)広島ウッディーストリート 問130
11日(日)福山くり 問113
13日(火)神戸チキンジョージ 問108
14日(水)大阪ミューズホール 問66
15日(木)名古屋ELL 問1
23日(金)渋谷Egg・man 問123
27日(火)枚方ブロータウン 問113
28日(水)千葉ルート14 問113
10月7日(金)仙台CADホール 問111
9日(日)青森⅓ 問113
11日(火)札幌ペニーレーン 問136
12日(水)北見夕焼け祭り 問113
13日(木)釧路オーカンパニー 問113
14日(金)帯広ロッキンホール 問113
16日(日)藤沢BOW 問113
22日(土)前橋ラタン 問89
29日(土)大宮フリークス 問119
11月5日(土)横浜ビブレ 問40
6日(日)横浜ビブレ 問40
12日(土)岡山ロフト 問129
13日(日)福山くり 問113
16日(水)大分オーティス 問113
17日(木)佐賀ガイルス 問113
18日(金)福岡ビブレ 問41
20日(日)柳川小川楽器ホール 問113
22日(火)徳山ブキーハウス 問113

佐木伸誘
9月29日(木)新宿パワーステーション 問71
10月1日(土)大阪バナナホール 問83

グラスバレー
9月14日(水)大阪バナナホール 問20
30日(金)新宿パワーステーション 問71
10月1日(土)新宿パワーステーション 問71
2日(日)新宿パワーステーション 問71

SION
TOUR '88 "SIREN"
9月20日(火)大阪近鉄劇場 問20
21日(水)愛知勤労会館 問16
26日(月)渋谷公会堂 問71

FAIR CHILD
"YOURS"
9月15日(木)新宿パワーステーション 問87
19日(月)名古屋ハートランド 問102
20日(火)大阪バナナホール 問20

the Shamröck
10月15日(土)福岡Be-i 問29
22日(土)大阪ミューズホール 問20
23日(日)名古屋ハートランド 問16
27日(木)渋谷LIVE・INN 問84
11月5日(土)札幌ペニーレーン 問88
6日(日)仙台CADホール 問112
〔学園祭〕
10月29日(土)流通経済大学
30日(日)岡山山陽短期大学
11月3日(木)東京薬科大学
12日(土)帝塚山短期大学
12日(土)平安女学院
13日(日)東京農工大学
20日(月)目白学園女子短期大学
※以上、お問い合わせは全て〈ドライブミュージック〉☎03(584)1620。

the REDS
9月16日(金)渋谷LIVE INN 問7

DEAD END
9月24日(土)渋谷公会堂 問110

アンジー
9月18日(日)日比谷野外音楽堂 問87

HEART BEAT PARADE

HEART BEAT PARADE 大阪編

▼お待ちかね「HEART BEAT PARADE」大阪編、好評にお応えして第4弾の登場です。

前回3度目の時は、舞台を神戸に移し、終了時間オーバーで花火大会を見逃しちゃったのが、少し残念だったけど、"夏休み"気分いっぱいだったこのイベント。今回は、お慣じみ大阪・ミューズホールから、デビュー間もない、またはデビュー直前のバンドを中心とした、新らしいライン・アップでお送りします。

丁度、雰囲気としては「HEART BEAT PARADE」最初の頃と同じような感じカナ? この中から、またみんなをワクワクさせてくれるバンドが、きっとみつかるよネ。う~ん楽しみ!

▼9月25日(日)
▼大阪・ミューズホール
▼15:00OPEN/15:30START
▼Be Modern
REGWINK
KATZE
PII:Z
LINE-UP(他ゲスト予定)
▼前売¥1000/当日¥1500
▼お問い合わせ〈チケットぴあ〉
☎06(363)9111
●チケット発売中

モチロン、ラジオ大阪「MUSI-C…ING」との連動企画だから、番組内でもON AIR。"パチ▼パチ・ランド"のページで確認してネ。

●お問い合わせリスト

1名古屋ELL☎052(201)5004
2ブレーントラスト☎052(263)9115
3デューク松山☎0899(47)3535
4MUSICギルド仙台☎022(222)2033
5デューク高松☎0878(22)2520
6キョードーP☎03(407)8240
7ホットスタッフ☎03(478)8888
8ステージフライト☎03(499)0004
9GAKUON☎0985(29)2751
10ジョイナス☎052(962)1207
11ユアソング☎011(271)3040
12松本レコード☎096(352)5671
13ACT☎0286(21)2241
14高崎音協☎0273(22)7145
15サンデーフォーク静岡☎0542(84)9999
16サンデーフォーク名古屋☎052(320)9100
17ビッツバーグU☎096(356)1808
18キョードー北陸☎025(240)2633
19J音楽企画☎075(231)7776
20サウンドC☎06(361)9900
21速文連☎0534(54)9999
22マーマレード☎03(486)7449
23夢番地・大阪☎06(341)3525
24デューク高知☎0888(31)2020
25ノースロード☎0188(33)9314
26キャンディ・P☎082(249)8334
27夢番地・岡山☎0862(31)3531
28BEA☎092(712)4221
29くすMUSIC☎0992(23)7710
30K&M☎0992(791)0999
31BIGプロ☎0764(92)4400
32スワット☎03(463)6100
33サウンドウエーブ☎092(713)8275
34サーパス・ツー☎03(711)5647
35川崎音協☎044(222)3090
36前橋音協☎0272(32)1012
37KMミュージック☎045(201)9999
38バンビミュージック☎03(760)5716
39夢番地・広島☎082(249)3571
40横浜ビブレ21☎045(314)1003
41福岡ビブレ☎092(714)2121
42ユニオン音楽☎082(247)6111
43A・R・G☎03(770)6371
44エムズコーポ秋田☎0188(34)8558
45コスモプロモーション☎0166(25)4046
46セントラルミュージック☎052(201)2255
47FOB長野☎0262(27)5599
48FOB新潟☎025(229)5000
49アームホール☎06(316)1777
50ソールドアウトM☎0886(22)3488
51シンコーミュージック☎03(292)7911
52アワーズ☎011(521)2588
53ビックバン☎075(255)1596
54ワンダーランド☎0263(36)4850
55フリーウェイ☎0157(25)4795
56キョードー札幌☎011(221)0144
57サウンドソニック☎0762(91)7800
58ジェイルハウス☎052(261)0641
59メロディパーク☎0138(53)9787
60FOB金沢☎0762(32)2424
61CLUB CITTA川崎☎044(244)7888
62フリップサイド宇都宮☎0286(33)1009
63フェスティバル札幌☎011(251)8870
64柏崎芸術協会☎0257(22)5898
65ビートクラブ☎0542(73)4444
66大阪ミューズホール☎06(245)5389
67スクランブル☎0988(63)0217
68コルクボード☎0177(23)2844
69桐生音協☎0277(53)3133
70ベイシティ・クラブ☎045(201)8888
71ディスクガレージ☎03(239)9900
72バナナホール☎06(361)6821
73LIVE INN☎03(464)8381
74CAT KIDS C☎0888(82)7867
75チャンプ☎03(505)4656
76キョードー東京☎03(407)8155
77キョードー北陸(金沢)☎0762(62)6777
78東京音協☎03(213)8591
79VCステーション☎075(255)1596
80U・D・O☎06(341)4506
81ユイ音楽工房☎03(404)6881
82エムズコーポ☎022(222)4000
83キョードー大阪☎06(345)2500
84フリップサイド☎03(770)8899
85越谷センター☎0489(85)1111
86SOGO大阪☎06(344)3326
87SOGO東京☎03(405)9999
88ウエス☎011(521)8181
89前橋ラタン☎0272(34)2365
90H・I・P☎03(475)9999
91大阪バーボンハウス☎06(372)1018
92SYCファクトリー☎0888(2)0262
93静東音協☎0559(31)7078
94グレイテストヒッツ☎03(486)6962
95キティーレコード大阪☎06(315)7663
96MUSIC WAVE☎03(583)6766
97FMサービス☎0958(26)1333
98タイトプランニング☎03(836)3820
99NONSTOP大阪☎06(361)3721
100Mギルド秋田☎0188(32)1511
101サモンミュージック☎06(252)5635
102ハートランド☎052(202)1351
103Jプラニング☎052(937)6651
104近鉄劇場☎06(771)1009
105キョードー西日本☎092(714)0160
106ノースロード仙台☎022(222)0700
107キティーレコード福岡☎092(471)7977
108神戸チキンジョージ☎078(392)0146
109VIPS大阪☎06(312)5000
110チアリングハウス☎03(476)4627
111CADホール☎022(261)8638
112キョードー東北☎022(223)2188
113R・C・C☎03(496)3482
114Tオフィス☎06(241)6138
115キョードー横浜☎045(252)9999
116パックステージP☎0488(66)3888
117ミュージカルS☎03(341)3411
118横浜7thアベニュー☎045(641)2484
119大宮フリークス☎0486(42)3315
120渋谷LAMAMA☎03(464)0801
121PMエージェンシー☎0988(64)1616
122かごやホール☎0532(52)2655
123渋谷Egg-man☎03(496)1561
124秋田新音☎0188(33)9314
125スターライト☎06(533)6699
126栃木音協☎0286(22)4101
127アーリータイムス☎025(241)1444
128ハンズ☎03(470)3601
129岡山ロフト☎0862(32)7739
130ウッディーストリート☎082(242)8187
131京都音協☎075(211)0261
132大阪音協☎06(341)8638
133シャム猫企画☎0465(24)1208
134福岡エジソン☎082(245)3692
135神奈川音協☎045(641)1649
136札幌ペニーレーン☎011(241)2477
137ユニオンプレス☎0836(32)0457
138ブレインズ☎092(771)8121
139ビックショット☎03(479)3271
140鹿児島音協☎0992(26)3465
141ダストC☎03(700)0504
142フォーラス☎0188(36)2884
143茨城音協☎0294(22)5330
144VSS☎0862(25)8325
145フリップ☎092(522)7025
146キョードー名古屋052(962)0511
147たむとむスコープ☎045(251)3491
148G・I・P☎022(222)2093
149九州労音☎0952(26)2351
150ラグ☎0839(25)6843

パチ・パチ・ランド

●う〜ん、今年もまた知らない間に夏が走り抜けてってしまったワ♪　夏休み中についちゃった夜更かしグセが抜けずに困っているキミ！　それはやっぱり楽しい音楽番組のせいかしら……？

PATI-PATI LAND

AKIDA!!

THE DOKI-SHOOSHO

SOMETTI

〔FAN FUN TODAY〕　ニッポン放送（月～木24:00～24:30）、北海道放送／岩手放送／九州朝日放送（以上月～金23:30～24:00）、青森放送／東北放送／新潟放送／信越放送／北日本放送／北陸放送／静岡放送／和歌山放送／山陽放送／中国放送／長崎放送／宮崎放送／南日本放送（以上月～金23:00～23:30）、秋田放送／山形放送／ラジオ福島／福井放送／山陰放送／山口放送／四国放送／西日本放送／南海放送／高知放送／大分放送／熊本放送／琉球放送（以上月～金22:00～22:30）、山梨放送／東海ラジオ（以上月～金22:30～23:00）、大阪放送（月～金24:00～24:30）全国33局ネット。

JUST POP UP

●今月は1回だけしかやらないの♢

T.V. ▼「えっ!? どーして？ なんでっ！」と、ビックリしてはいけません。今月の『JUST POP UP』は、9月10日だけ、たった1回しかないんですっ！

それはナゼかと尋ねたら！ そう、今年は4年に1度の〝オリンピック・イヤー〟。『JUST POP UP』の時間帯も、ソウル・オリンピックの中継が入る為、放送がお休みになっちゃうの♢

さて、そのたった1回の貴重な放送、出演者は、大沢誉志幸・EPO・ZIGGY・SHOW-YA、他の予定。それから米米クラブからのメッセージも届く予定です。

番組がお休みの間は、〝ガンバレ！ ニッポン〟しながら待ってることにしよーね！

※ON AIR局
毎週土曜日18：00～18：40。NHK総合テレビジョンで全国放送です。

〝別冊〟ミュー・トマ・JAPAN SPECIAL

●9月17日のライブを楽しみにネ！

T.V. ▼スペシャル・ライブもももうすぐ。たくさんの応募をアリガトぉ！ 当選者の方には、もうそろそろ招待状が届いてるハズ。9月17日をお楽しみにネ。

でも、いつもの『別冊ミュートマ・JAPAN』もがんばるゼ。

会場の日比谷シティ内C&Cプラザ・ホールは、毎回超満員。それだけじゃなく、ガラス張りのホールのまわりまで、たくさんの人がとり囲んじゃってるから、出演の森田サンも会場に入るまでにひと苦労しちゃうんじゃないだろーか……。

〈放送日・出演（予定）〉
9月11日　ちわきまゆみ／ECHOES
18日　米米クラブ／てつ100%
25日　ARB／木嶋浩史

▼ニュー・アルバム『GO FUNK』を引っさげて登場の米米クラブ。シングル曲「KOME KOME WAR」も好調で、ビデオ・クリップがまたもや楽しませてくれちゃう。

アルバムのトラック・ダウンで行ったN・Yでのお土産話もあるだろーし、とにかく話題にはこと欠かない米米なのですネ。

▼冒頭でご紹介のライブ・イベント。9月17日のこの模様は、10月7日㈮18：30～19：55に放送の予定。こちらも忘れずにヨロシク！

※ON AIR局
毎週日曜日15：00～15：53。テレビ神奈川にてON AIR。

VIDEO JAM

●米米クラブがやって来る!!

T.V. ▼さて『VIDEO JAM』今月の注目は〝米米クラブ特集〟。待ちに待った4thアルバム、「GO FUNK」の発売を9月21日に控え、話題てんこ盛りの米米がスタジオに登場。新曲はもちろん、懐かしいクリップも流れるョ！

さて、風もなんとなく秋めいてきたかな、の今日この頃、番組もちょっぴり衣替えの気配……。ま、『VIDEO JAM』のことだもの、ますます面白くなるのは確実だね！

▼今月のクリップゲスト（予定）
9月12日　クリップ▼レベッカ／Be Modern　ゲスト▼Be modern
19日　米米クラブ特集　クリップ▼「Paradise」「KOME KOME WAR」他
26日　リクエスト特集　ゲスト▼米米クラブ

※文中の放送日はテレビ朝日の場合。
〈ON AIR局〉
テレビ朝日　(月)24：30～25：00
北海道テレビ　(火)24：30～25：00
東日本放送　(月)24：30～25：00
福島放送　(木)24：20～24：50
静岡県民テレビ　(火)24：20～24：50
新潟テレビ　(火)24：20～24：50
九州朝日放送　(土)25：20～25：50
大分放送　(日)24：15～24：45
鹿児島放送　(月)24：20～24：50
名古屋放送　(月)24：30～25：00
福井放送　(水)24：35～25：05
広島ホームテレビ　(月)25：15～25：45

LIVE TOMATO

●〝ノースピア〟より愛を込めて♡

T.V. ▼今年の夏のトリを務めたともいえそうなのが、プリンセス・プリンセス。

なんのことかわかるよね。そう、東神奈川の米軍基地〝ノースピア〟で、8月31日に行われたビッグ・イベントのこと。

日本で初めてのこのコンサートの模様を、9月22日と29日の2週にわけてON AIRします。

とにかく広大なこの場所に集まった、1万3千人＋5人の感動が伝わるでしょう。

行った人も、行けなかった人も、必見の2週間です。

▼今月のプログラム
9月15日　ベスト・ライブ・コレクション（第2週）
22日　プリンセス・プリンセス／松下里美
29日　プリンセス・プリンセス／KAYOCO
10月6日　爆風スランプ
13日　横山輝一／田中一郎

▼楽しみなライン・アップで目の離せない『ライブ・トマト』です。

※ON AIR局
テレビ神奈川▼(木)22：00～22：55
テレビ埼玉　▼(火)20：00～20：55
KBS京都　▼(金)20：00～20：55
テレビ和歌山▼(土)15：00～15：55
サンテレビ　▼(水)19：00～19：55
北海道UHB▼(木)24：20～25：15
秋田テレビ　▼(月)24：20～25：15
（本文中はテレビ神奈川の放送日）

eZ

●Gigs on eZ

T.V. ▼今月の『eZ』はちょっと異色プログラム。TMネットワーク、バービーボーイズ、ザ・ストリート・スライダーズ、佐野元春の4組のライブから、1曲づつをピックアップしてお届けします。

さながら4大アーティストのライブ・バトルロイヤル！ 真夜中のライブをお楽しみください。

〈ON AIR局・放送日〉
テレビ東京　26日(月)24：40～25：10
北海道文化放送　15日(木)24：20～24：50
青森放送　20日(火)24：35～25：05
秋田放送　25日(日)24：30～25：00
テレビ岩手　21日(水)24：55～25：25
仙台放送　22日(木)24：55～25：25
福島中央テレビ　22日(木)25：35～26：05
新潟テレビ　19日(月)24：20～24：50
静岡放送　15日(木)25：40～26：10
信越放送　21日(水)24：44～25：14
富山テレビ　10月16日(日)24：45～
石川テレビ　10月6日(木)25：20～
テレビ愛知　29日(木)24：45～25：15
三重テレビ　27日(火)24：50～25：20
岐阜放送　30日(金)22：30～23：00
福井放送　29日(木)24：55～25：25
テレビ大阪　26日(月)24：10～24：40
KBS京都　10月10日(月)24：25～
テレビ和歌山　30日(金)25：30～26：00
奈良テレビ　27日(火)24：15～24：45
びわ湖テレビ　26日(月)24：40～25：10
広島テレビ　23日(金)25：10～25：40
テレビ瀬戸内　30日(金)24：30～25：00
テレビ山口　27日(火)24：45～25：15
九州朝日放送　10月28日(金)24：50～
熊本県民テレビ　10月15日(土)25：05～
大分放送　10月2日(日)24：45～
鹿児島テレビ　14日(水)24：45～25：15
テレビ宮崎　25日(日)23：45～24：15
沖縄テレビ放送　11日(日)17：00～17：30

▼困った時の〝eZテレフォン〟。放送スケジュールや、次回の内容もチラッと教えてくれちゃうのサ！ ☎03（404）8280がソレ。

HITACHI FAN FUN TODAY

●話題のゲスト集合。

AM ▼洋行帰りの上柳さん。8月下旬からの3週間のアメリカ出張は、けっこう色んな所へ行ったみたいだョ。お土産話もたくさんの『HITACHI FAN FUN TODAY』です。

ところで、8月にこの番組と『オールナイト・ニッポン』との連動企画で行われた、新進バンド大集合の〝銀スタ・ライブ〟はもちろん聴いてくれたよね。今、音楽シーンにはそんな勢いを持ったバンドがたっくさんいるでしょ。そんな状況を、この『FAN FUN TODAY』が見逃すハズはありません。これからもみんなからの声を参考に、注目の新人バンドをたっくさん紹介していくからね。

と、いうところで今月のゲスト予定。まず15日に米米クラブ。そういえば米米のメンバーも、9月21日発売のアルバムのトラックダウンで、ニューヨークへ行っていたんだよね。上柳さんとアメリカ話で盛りあがるかな？

それから19日にはUNICORN。パチ▼ロク最新号では、遂に表紙・巻頭を飾った彼ら。さっきの〝銀スタ・ライブ〟でも盛りあがりは最高、ほんっとに楽しみなバンドです。

29日には、ニュー・アルバム発売前日ということで久保田利伸が来る予定。LA録音のできたてホヤホヤの新譜に期待しちゃおう！

また、今月中に、氷室京介もゲストに来てくれそう。

とにかく話題の人達ばかりが集まるこの番組。でも、もっと楽しい番組を作るには、みんなの声が必要です。だからホットライン、☎03（211）3299。受付時間は深夜だから、絶対まちがえないでね。

※ON AIR局・時間は上欄外に。

"NACK FIVE"開局!!

●"ナックファイブ"と呼んでくれっ!!

FM ▼先月お知らせした"FM富士"は覚えてるよね。今回お知らせする、この"NACK FIVE"も、首都圏に新らしく生まれるFMステーションなのです。

この"NACK FIVE"は、MUSIC(今、一番聴きたい音楽を)・SPORTS(FM局初の挑戦、スポーツ中継)・FESTIVAL(リスナーと共に各種イベントを)の3つを柱として、楽しいおしゃべりで彩って、「遊び心」満載のにぎやかな放送局を目指します。番組編成も、10月31日の開局に向けて、急ピッチで進んでる模様。みんなが「あっ!」と驚くパーソナリティー陣が予定されているらしいよ。

放送が届くエリアは、埼玉県、東京都の全域と、群馬県、栃木県、茨城県、千葉県、神奈川県の一部。

所在地は、埼玉県所沢市。

コールサインは"JODV-FM"おっと、かんじんの周波数は79・5MHZ。そう、つまり"795(ナックファイブ)"。

NISSIN POWER STATION

●新宿"パワーステーション"がオイシイ♡

FM ▼新宿のロッキング・レストラン"パワーステーション"から、注目のライブをピックアップしてお送りしているのが、この『NISSIN POWER STATION』。

今月も録れたてライブを新鮮なうちにお召しあがりくださいな!

▼今月のアーティスト

〈9月11日〉川島みき。歴代クラリオン・ガールきっての実力派。セカンドアルバム『W-----』も好評。

〈9月18日〉伊藤銀次。ゲストにコレクターズ、他を迎えて、にぎやかなライブを。

〈9月25日〉村田和人。さわやかな歌声が魅力デス!

※ON AIR局

毎週日曜日22:00〜、全国の民放FM局で、一緒に聴けるのサ♡

サーフ&スノウ

●注目アーティストの歴史を探れ!

AM ▼いつも音楽を楽しむことを第一にお送りしているDJ番組といえば、この『サーフ&スノウ』です。1時間の番組内で、とにかくたくさんの曲が聴けるのがウレシかったりするよね。

さて、9月12日〜16日に渡ってお届けするのが"アーティスト・ヒストリー"。毎日1アーティストに注目して、その歴史を探っちゃおうという企画。久保田利伸(12日)米米クラブ(13日)バービーボーイズ(14日)他を、本人のコメントと、たくさんの曲で徹底解剖します。

19日からの1週間は、アーティストをDJとして迎えてのON AIR。19日・プリンセス[2]の奥居香、21日・永井真理子、といった面々が曲とおしゃべりで番組を進めます。

9月の月間ベスト10は浜田省吾。

※ON AIR局

毎週月曜日〜金曜日、:00〜24:55。TBSラジオ(954KHZ)、放送は関東のみ。

パチ▼パチ倶楽部

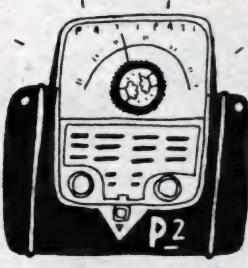
●ブライテストホープはブルー・エンジェル

FM ▼今月のブライテストホープは、BLUE ANGEL。もちろん9月22日にはゲストです。

それからFM大阪以外で聴いてる人には、ソロ・プロジェクト"TRAUMA"も好評な、レベッカの小田原豊も間に合うね。(大阪8日放送)

ホットラインは15日、編集部よしだよしみから、大江千里情報を。

※ON AIR局(文中はFM大阪)

FM大阪 (木)20:00〜(85・1HZ)
FM山口 (金)20:00〜(79・2HZ)
FM三重 (土)20:30〜(78・9HZ)
FM北海道(月)25:30〜(80・4HZ)
FM福岡 (月)25:00〜(80・7HZ)

MUSIC…ING

●"ハート・ビート・パレード"に集まってネ。

AM ▼放送も100回を越えて、ますます元気な『MUSIC…ING』です。

8月26日(金)〜30日(火)にかけて行われた、記念イベントも無事終了。9月11日の放送でも、このイベントの様子を特集してお送りします。THE HEART、金山一彦、安藤秀樹、佐木伸誘らのライブがON AIRされる予定。

もちろん、ゲストもにぎやか。米米クラブ(11日)、UP-BEAT(18日)、A-JARI他が、森田恭子との楽しいおしゃべりを聞かせてくれそうだョ。

それから25日の放送では、この日に大阪ミューズホールで行われる"HEART BEAT PARADE"(詳しくはコン・スケのページを見てね)の模様を。出演者の人達も、ドッとなだれ込んでくる気配…♡

※ON AIR局

毎週日曜日22:00〜23:30。ラジオ大阪からON AIR。

藤井郁弥の"キュートしようよ"

●秋風のように、胸に沁みるバラードを…。

AM ▼CMも聴き逃さないで!CBS・ソニー出版提供だから、パチ▼パチの最新情報だってバッチリなんだからっ!

さて、"秋"です。ロマンチックな秋、ちょっぴり物悲しい秋、そんなセンチメンタルな季節には、バラードが良く似合う?…ってなわけで、9月17日は、郁弥の選曲による"バラード特集"をお送りします。せつない気持ちにひたってみてね。

24日は、米米クラブのカールスモーキー石井サンがゲスト。楽しい番組になるのは、まちがいなさそぉ。

好評"生歌コーテー"も復活して、絶好調で進んでいる『キュートしようよ』なのでした♡

※ON AIR局 ( )内=KHZ

ニッポン放送▼(土)22:30〜(1242)
札幌STV ▼(日)23:30〜(1440)
信越放送 ▼(日)24:00〜(1098)
福井放送 ▼(日)22:00〜(864)

信じられない結果に感謝感激！

私の秘密兵器

英語、面白くして大当たり

イングリッシュ・アドベンチャー

「新聞、雑誌の広告、"もうやめて"と私はいいたい。だって、せっかく、みんなをだしぬいてやろうとしているのに。友だちには『イングリッシュ・アドベンチャー』を知られたくないのです。誰もが夢中になって、英語が上達しちゃいそうだから」。こんなにまで称賛される英語の教材がかつてあっただろうか。一度でも耳にすればもうやみつき。悪魔みたいな魅力にとりつかれてしまうのである。

追跡

日本中、老若男女80万人がハラハラ

その秘密は簡単である。つらいはずの英語の学習が、楽しくて仕方がなくなるからだ。つまり、ぐんぐんと英語が身につくので、幸福な気分を味わえるのである。

「まだ始めたばっかりですが、学校の授業で英語の先生の発音が、とてもブロークンに聞こえて気になりだしました。おかげで自信がわき、英語の時間が楽しみです」。

『イングリッシュ・アドベンチャー』で学びだした高校生からの便りであるが、おそるべき効果と自信ではないか。このほかにも「英語の成績が飛躍的に上がった」というのはザラで「英検に初トライで合格した」とか「大学入試のヒアリングテストが日本語を聞いてるみたいに理解できた」といった具合に、続々と成果が寄せられている。

まさに魔法の教材ではないか。しかし、それはむしろ当然なのである。

飛行機事故で死亡した両親の遺骨を引き取るためにアメリカに渡った青年が、巧妙に仕組まれた悪の罠をかいくぐりながら西へ東へ大陸を逃げまわり、やがてはその黒幕と対決する、約4万語からなる12章のサスペンス・ストーリー。これが大評判の『追跡』である。各章をくり返し耳にし、口にだしながら1ヵ月ごとにマスターしていくと、1年後の完結と同時に、莫大な量の単語を相当暗記していることになる。英語の力が飛躍的に身につくのはあたりまえなのである。

途中で投げ出せない

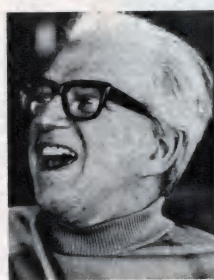
また、英語の勉強といえば途中で投げ出したくなるのが相場。が、そんな心配も全く不要である。今をときめくアメリカの大ベストセラー作家のシドニィ・シェルダン氏が"途中で投げ出させない"を約束して、特別に書き下ろしてくれたのだから。

勉強嫌い、英語嫌いであっても、トライする価値は十分。間違いなくトリコになってしまうだろう。

そのもうひとつの理由はテキストを朗読してくれているのがオーソン・ウェルズ氏だからである。この俳優の天才ぶりはもうご存知だろう。『市民ケーン』『第三の男』での名演ぶりはあまりにも有名で、とくに語りは絶品だ。

ややダミ声ではあるが、全身から発するヴォイスなので、ストーリーの面白さと同時に何度聞いても決して飽きることがない。師は達人につけ、の諺どおりなのである。

「途中でやめさせないぞ！」

シドニィ・シェルダン

シェルダン氏は、若い頃華やかなりし映画の都ハリウッドで脚本家、プロデューサーとして大活躍した人。「イースター・パレード」「アニーよ銃をとれ」など数々の大ヒット作を手がけ、作家に転身してからも発表する作品がことごとく超ベストセラーになるという、名うてのストーリーテラーだ。

氏の作品はいかにもハリウッド出身の作家らしくテンポが速く、息もつかせぬ展開が読者をぐいぐい引っ張っていく。

そしてこんな現代の語り部が手がけた『イングリッシュ・アドベンチャー』だから、「ちっとも英語を勉強している気がしない」、「物語の面白さに引きずり込まれてウソみたいに英単語を覚えてしまう」と、みんなが素直に喜んでいるのだ。

95%が入会してよかった

ビジネスマン、技術者、高校・大学生、OL、主婦、人気タレント、作家、スポーツマン、英語の先生、塾の講師、お医者さん、等々、実に様々な職業の人々がこの講座で英語の勉強を始めている。

「ヨーロッパのスーパー、デパートを視察、ついでに大英博物館にも行ってきたが英語が通じて楽しかった。EAのおかげです」(48歳の受講者)

「語学上達には最高の教材であることを保証します。このスタイルで、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語などの講座もぜひ始めて下さい。大いに希望します」(某国立大助教授)

すでに80万人の人が参加した『イングリッシュ・アドベンチャー』、事務局の実施したアンケート調査では一年勉強した人の実に95%が「入会してよかった」と答えている。

EAにはすぐ入会できる

自分もちょっとやってみたい人に『イングリッシュ・アドベンチャー』の規約を紹介すると、まず、この組織は会員制になっていて、教育の内容を試してみてから入会するかどうか決めることができる試聴制度をとっているから、半信半疑の人も安心して申し込める。

第1章を試聴してみて、これを続けようと思う場合はそのまま使っていると会員として登録され、翌月には第2章が送られてくる。入会したくない場合は第1章を受け取ってから10日以内に返品すればよい。また途中で退会することも自由。

試聴の申し込みは電話をするか、ハガキを送ればよい(試聴申し込み用ハガキがこのページにアカデミー出版から提供されているから、それを利用して下さい)。入会した場合の費用は毎月3、800円(レコード)、カセットは月4、000円、CDは月4、500円。

『コインの冒険』も『追跡』も12ヵ月、全12章で完結する。入会金、郵送費等は不要。

なお、『コインの冒険』を終えると2年目コースとして自動的に『追跡』に、『追跡』から入会した人は上級コースの『ゲームの達人』に進むシステムになっているが、1年だけで終えるのも、途中の章で退会するのも常に自由だ。その場合はEA事務局に連絡すればよい。

☆　☆　☆

早く教材の欲しい人は事務局に電話して下さい。

日本全国フリーダイヤル
0120—077077
東　京　03(496)6666
札　幌011(631)7777
仙　台022(265)5555
名古屋052(971)2222
京　都075(701)6666
大　阪　06(452)2222
福　岡092(831)3333
電話は休日も受け付けています。
〒150東京都渋谷区鉢山町15—5
アカデミー出版

初級の人には家出のドリッピー

「わからない」「眠くなる」の悪循環を繰り返して、やがて英語を聞いただけでゲンナリする……。こんな症状がでたら社会人も学生も人生赤信号。

ある中堅機械メーカーの社長さんは「10年前、20年前と違いますね。技術でも営業部門でも英語のできる者が責任ある地位についています」と国際化時代の英語の必要性を説いている。

思い立った今、学生は成績アップのために、ビジネスマンやOLは学生時代に仕込んだ英語を今度こそ「使える英語」にするために、チャレンジしよう。

そんな方々のために開発された『イングリッシュ・アドベンチャー』の初級コース『家出のドリッピー』は、中級用『追跡』同様ベストセラー作家と名優のゴールデン・コンビで作られたもの。楽しい学習・バッチリ効果のほどが口コミで伝わり人気はうなぎのぼり。しかも『ドリッピー』は、O・ウエルスが全体の朗読を担当。他の配役は人気DJのケーシー・ケーサム、喜劇俳優のジェリー・ルイスなど豪華メンバーが競演しているので、まるで映画を見ているみたいに楽しく分かりやすいと評判が高い。

高橋クン(高一)は、先生の推薦で『ドリッピー』に入会した。当時の彼は意欲はあるのに、単語を覚えたり、文法が苦手で、成績はパッとしない。こんなとき、補習教材としてすすめられたのがコレ。高橋クンにいわせると「まさに奇跡がおこった」のだそうだ。

大好きな音楽を聴くようなイージー・リスニング。あきない学習は、「やる気」を取り戻させた。めんどうだった辞書引きも気軽にできはじめるころ、『ドリッピー』の本文も丸ごと暗記。こうなると苦手の文法も解けはじめ効果バッチリ。期末試験の結果はユーユーと中から上位へ。

こんなふうに『ドリッピー』は、英語ゼロの人や、勉強したけれどものにならなかった人にも格好の教材。一家に一台備えて、ビジネスマンのお父さんも、海外旅行を計画中のお母さん、そして中・高校生の子供達全員で、利用されている例の多いのも、うなずける。

諺に「百聞は一見にしかず」というのがあるが、EAはその反対。「百見は一聞にしかず」。あなたもぜひ、O・ウエルスやジェリー・ルイスの絶妙なナレーションを聴くことを、おすすめする。

らくらく学習で実力はすぐアップ

『ドリッピー』は12章、一年で完結する。二年目は初中級コースの『コインの冒険』、又は中級コースの『追跡』に進級するが、途中退会は常に自由、会費は月三、八〇〇円(レコード)、カセットは四、〇〇〇円、CDは月四、五〇〇円。第一回目を聴いてみて、不要なら返品できる試聴制度があるから安心して申し込める。

試聴の申し込みは、このページについているアカデミー出版行きのハガキに『ドリッピー希望』と印せばよい。

電話での申し込み番号は、

日本全国フリーダイヤル
0120—077077
東　京　03(464)1010
東　京　03(496)6666
札　幌011(631)7777
仙　台022(265)5555
名古屋052(971)2222
京　都075(701)6666
大　阪　06(452)2222
福　岡092(831)3333
電話は休日も受け付けています。

うれしい便りがたくさん届きます

英語の成績もうそのようですが上がったのです。こないだの中間では英語3教科のうち2つは95点でもう1つは100点という信じられない結果をおさめることができ、感謝感激です!!

イングリッシュ・アドベンチャーは、もう最高! 最近テレビの英語放送が日本語のように解るようになってきたし、毎月送られてくるMEETで、とってもいいペンフレンドができたし、E・Aは僕にとってただの英語教材というだけでなく、友人をも作ってくれた幸せの青い鳥です。

ヤッホー、お陰さまで大学合格っ!! です。これからもがんばります。

予想以上に分かりやすいので驚きました。

今まで経験したことのない世界にすいこまれたようで、抜けようにも抜けられない。

〝ドリッピー〟をはじめて成績もあがったし、英語に対するなれも出来てきた。

高校2年生です。英語の成績が10になりました。英検2級に合格しました。1年間どうもありがとう!!

広告通り何回聞いてもあきないし、楽しく勉強できます。

聞くだけでイマジネーションが広がってきました。英語の息使いがつかめた気がします。一度に1年分のテープを頂きましたが3日で一本を聞くというペースです。ストーリー展開がすばらしいので一度に用いてしまいたいくらいです。

この一年間、「ドリッピー」では大変楽しく未知への冒険の痛快さを、十二分に味わう事が出来ました。

聴かせるビデオ、見せてあげる。

NOW ON SALE

FIRST • LIVE VIDEO
PRINCESS PRINCESS
PRINCESS² PANIC TOUR
HERE WE ARE

VIDEO CASSETTE
Vol.1
●収録曲目:19 GROWING UP－ode to my buddy/恋のベンディング/KEEP ON LOVIN' YOU/ガールズ・ナイト/冗談じゃない 全5曲
■カラー/ステレオ/23分 ビデオカセット:
Beta 38QH184、VHS 38ZH184 各￥3,800

VIDEO CASSETTE
Vol.2
●収録曲目:ヴァイブレーション/WONDER CASTLE/FLAME/世界でいちばん熱い夏/GO AWAY BOY 全5曲
■カラー/ステレオ/25分 ビデオカセット:
Beta 38QH185、VHS 38ZH185 各￥3,800

VIDEO DISC
PRINCESS PRINCESS
PRINCESS² PANIC TOUR

●収録曲目:19 GROWING UP －ode to my buddy/WONDER CASTLE/恋のベンディング/KEEP ON LOVIN' YOU/FLAME/世界でいちばん熱い夏/ヴァイブレーション/ガールズ・ナイト/冗談じゃない/GO AWAY BOY 全10曲
■カラー/ステレオ/46分
ビデオディスク:〈光学式〉68LH186 ￥6,800

問 CBS・ソニーレコーズ
☎03(266)5733

TWO ALBUMS NOW ON SALE

TELEPORTATION
CD 32DH670 ￥3,200
LP 28AH2182
CA 28KH2189 各￥2,800

HERE WE ARE
Including powerful track
"19 Growing Up"
"My will"
"Go Away Boy."
CD 32DH5004 ￥3,200
LP 28AH5004
CA 28KH5004 各￥2,800

CBS SONY
CBS/SONY RECORDS

今の俺、すべて。

9·7 RELEASE

Masanori

IKEDA

NEW ALBUM

LP(RT28-5295 ¥2,800)
CD(CT32-5295 ¥3,200) MT(ZT28-5295 ¥2,800)

NATURAL 22

●池田政典・EVENT SCHEDULE
10/8 サウンドコロシアムMZA有明／問い合わせ・トライアングル03(404)2288

好評発売中SINGLE"君だけ夏タイム"(ダイドーMコーヒー CMソング)
SINGLE(RT07-2106 ¥700) CD-SINGLE(XT10-2016 ¥1,000) SINGLE-CT(ZX10-6136 ¥1,000)

EASTWORLD 心への音楽 TOSHIBA EMI

'1st BLOOD'

今、BEATが聴こえる。

Never Give Up And Hold On Dreaming To Get Back The Treasure Left Behind Such A Vacant Material World. What The Hell Do We Live For? Now, You Need An Imagination, Fella!

DEBUT ALBUM 9/25 ON SALE

1. HEARTはREVOLUTION
2. 泣かないでジェシー
3. American Dream
4. FOREVER～君を探して
5. 変わらない君で居て欲しい
6. OUTSIDER(答え無き失踪)
7. 千秋楽
8. TOMORROWから見つめよう
9. 今、BEATが聴こえる

All Songs & Arranged by MAKOTO

CD:H33P 20259 ¥3,300
LP:28MX 1296 ¥2,800
MC:28CX 1528 ¥2,800

デビューシングル

クラリオン・カーオーディオ "City Connectionワールド・バージョン" CFソング

「American Dream」
アメリカンドリーム

C/W恋のあやまち

CDシングル：H10P 30021/シングルカセット：10CX 1525 各¥1,000
シングル：7DX1570 ¥700

It's New!6 VIDEO CONCERT **9月23日より全国一斉実施**

'1st BLOOD'ほか、が楽しめちゃう。

[参加方法]はがきに、①住所②氏名③参加希望人数を書いてお申し込みください。
[宛先]〒153 東京都目黒区大橋1-8-4 ポリドールVC「パチパチ」係
[〆切]9月17日(当日消印有効)お問い合わせ：03-477-2576

イリア・ソロアルバム

絶賛発売中!

ガールズ、ジューシィ・フルーツそしてソロデビュー!
いつでも時代の最先端

アルバム
「ティングル」 Iria/Tingle

シングル同時発売!
「素敵にさよなら」b/w ソルティーキッスで乾杯

Bloody Maryの嘆き/Morth Dock OAM/ソルティーキッスで乾杯/手帖/銀波～SILVER WAVE～/素敵にさよなら/惑る微笑/Mr. モーニングコール/Midnightにくちづけを/No Excuse.

IRIA'S BRAND-NEW ALBUM "TINGLE"

CD:H33P 20260 ¥3,300
ALBUM:28MX1295 ¥2,800/CASSETTE TAPE:28CX1526 ¥2,800
● SINGLE "SUTEKI-NI SAYONARA" b/w "SALTY KISS DE KANPAI-
7-INCH SINGLE:7DX1569 ¥700/SINGLE CD:H10P 30022 ¥1,000

Iria·Tingle

polydor POLYDOR K.K.

Victor
JVC

小泉今日子
BEAT TICK CAMP TOUR '88

BEAT TICK CAMP TOUR 88

〔VIDEO〕9/21発売

BEAT TICK CAMP TOUR '88 VOL.1, VOL.2
小泉今日子

VOL.1 VT(B)M-150/49分/カラー/STEREO Hi-Fi/¥4,500
VOL.2 VT(B)M-151/49分/カラー/STEREO Hi-Fi/¥4,500

ビデオテープ購入予約特典
①コーティングB2ポスター(VOL.1、VOL.2別絵柄)
②VOL.1、VOL.2同時購入予約の方は
30cm特大カン・バッチ(先着5,000名様)

〔VIDEODISC VHD〕10/5発売

BEAT TICK CAMP TOUR '88/小泉今日子
ODM-1084/100分(予定)/カラー/STEREO/¥7,800

ビデオディスクVHDの予約特典
☆コーティングB2ポスター2種類

小泉今日子のオールナイト・ニッポン スクール・フェスタ '88
きょーこちゃんまつり ヒュー！ヒュー！

10月30日(日)高知大学「大学祭」/11月1日(火)北九州大学「青嵐祭」/2日(水)明治学院大学「白金祭」
4日(金)中央大学「白門祭」/6日(日)桜美林大学「学園祭」/13日(日)駿河台大学「駿輝祭」/19日(土)関東学園大学「三松祭」
20日(日)武蔵工業大学「M.I.T.祭」/21日(月)慶応大学「三田祭」/25日(金)法政大学「工学祭」

快盗ルビイ
11月12日全国東宝系で公開
小泉今日子・真田広之主演
和田 誠 監督作品

UP-BEAT Shidō

広石武彦にインタビューする。ヴィヴィッドに今を感じ取り、今を表現するUP-BEATを、今、広石武彦が語る。ツアーがあり、ニューシングルがあり、そしてニューアルバムがある。それらはみな"始まり"の予感と期待で私たちの胸の奥をつつんでくれる。UP-BEATの今。

PHOTO●KENJI TSUKAGOSHI　COPY●TOMOSO NONAKA

UP-BEAT Shidō

人間は誰もが多かれ少なかれ変化しながら見えない時間軸を辿っていっている。変化に気づいてる人もいれば、まったく気づかずに、意識する事なく毎日を送る人だっている。

広石武彦。このところの彼を見ていると、その変わり具合の波の振幅が大きいように思う。多分彼は、それを意識している方の人。当り前だ。その変化は、彼の意思でもある。

UP-BEATのニュー・シングル「DEAR VENUS」がもうすぐリリースされる。すでにツアーでも演っている曲だ。以前、「Blind Age」を彼らが発表した時。「この曲は"NO SIDE ACTION"があって、できた曲だという気がする」と彼に言うと、彼は「そうだと思う」と頷いていた。そして今。この「DEAR VENUS」も「NO SIDE ACTION」をして「Blind Age」とつながった気がしている。

広石は「当り前だよね。生きてるんだから」と笑った。"今"は昨日の延長線ではない。半分延長で半分新しかったり、全部裏返しだったりもする。それでも「今」はそれまでとつながっている。当り前の事に、なぜか力を得てしまう。彼はこの曲に関してきっぱり言う。

「シングルとしての威力を持ってると思うよ」

◆

「昨日ね、"DEAR VENUS"と"Blind Age"をCDシングルでずっと聴いてたんだ。繰り返し繰り返し、何度聴いたか。(笑)で…来たね！ すごく込み上げるものがあってさ。自分の歌に励まされた」

この新しい曲の事を彼に聞こうとして、質問する言葉を探してしまった。なぜなら歌が、すべてを語ってしまっているからだ。

「今なら言えるだろう、という感じ。何でも言える時、っていうのがあるんだよね。パワーを持たないとしようがない時っていうのがさ。もちろん比喩にする時もあるよ、そういう言い方の方がいい時だってあるから。でも最近は普通の事、特別なコトじゃない事をね、すごく直接的に言いたがったりするんだ。思いきり隠し込んだりする歌もあるけれど、"DEAR VENUS"は逆だよね。この曲はね…こうありたいという願望、誰かそういう事を言ってくれるヤツがほしかったんだね。…自分でわかってる事ばかりだけど、あえて自分に言いたい時期ってあるじゃない？ だから人に言ってるようで、自分に言ってるんだ」

腕の中に包まれているのに怯えきった目をしているヴィーナス。弱さや傷を隠しきれないのは、優しさに触れてしまったせいかもしれない。彼女はこんな風に呼びかけられる。

My dear Venus
うそぶかずに傷ついてるままでいいのさ

こんな風に歌える彼の中に、ためらいながら暗闇の中の誰かに光をあてる様な、そんな優しさを感じていた。けれど"そのままでいいよ"という声をほしがっているヴィーナスは彼自身でもあるわけだった。

恋の歌を歌った事がないという彼は、そんな歌を本当は歌いたがっているような気もする。彼自身がそう言えるヴィーナスに向って。これに勝手な思い込み、かもしれないけれど。

「やっぱりこれも恋の歌ではないよ」そして、「でもそういうのって大した事じゃないんじゃないかな」と彼は続けた。何かにこだわっているのはこちら側で、ふと足元をすくわれた気がした。"歌"という素朴なものの前で。

「今は、そうじゃないし歌いたくない事を歌っても仕方ないから。ラブ・ソングって一番難しいんだよね。"あなたが好き"っていうのが、それを言うのが一番難しいと思う。でもやりたいと思う事があればやるよ、歌わないってわけじゃない。自然にその時期がくるのを待ってるだけだよね」

そして、"優しさ"についても彼は「さあ？」と首をかしげる。「それを売り物にはしてないけど…。今って優しい人っていっぱいいるからさ、それを売り物にして、俺までそうなっても仕方ないでしょ。優しさ、冷たさよりもね、好きなようにやってるだけだよね。言いたい事を言ってるだけ。中途半端なやさしさなら…持てない方がいいとも思うしね。でもこの"DEAR VENUS"はね、聴く人の全てに責任は持てないけど、何らかのパワーになってる気はする。自分の出すものが悪い方にならないようにというのはね、願ってるし」

◆

曲の中のヴィーナスは光り輝く美しさとは違うところで、弱々しくけれど頑なに輝いている。どこか危い表情で。

"dear Venus"。響きに惹かれて彼はこの言葉を選んだ。

「誰でもあるでしょ、好きな言葉とか"いつか使ってやろう"って言葉をかさ。曲に使うのはそんな、子供の頃に印象に残った言葉とかって多いよ。これも18歳の僕の中にあった言葉。イメージとしてはベルベット・アンダーグラウンドの"毛皮のヴィーナス"って曲があるんだけど、それを"カッチョイイなぁ"と思ってて。脳ミソのシワにくっきり刻まれたんだよね。(笑) その時。でこういう曲が出てきた時に当てはまった。ヴィーナスは…とにかく装飾的じゃないんだよね、そんな感じのイメージ」

これは関係ない話だけれど、ベルベット・アンダーグラウンドと共にその周辺で活動してきた1人の女性アーティストが死んだというニュースを耳にした。彼と会う前の日の事だ。公園のベンチの横で息絶えていたその繊細な神経の持ち主だった女性(ひと)が、ふっと毛皮を着た淋しい表情のヴィーナスのイメージと、この時だぶった。

けれど、UP-BEATのヴィーナスは悲しいその人とは違う。これからきっと、力を得ようとしている人だ。詞にも音にも感じるその感触が、彼の言う「シングルとしての威力」かもしれない。

「前よりいい曲いい曲、という意識で作るというのはもちろんあるけど、それに押しつぶされるのは嫌だよね。でも…なんだかんだ言いながら最近のシングルは…"Kiss in the Moonlight"以降、ちゃんとやってるヨ。(笑)押しつぶされそうになる事だってあるけど、でもふっきれたというのは大きい気がす

UP-BEAT Shidō

る、一番。日本ってあまりにもポップすぎるよね、今。でもそう言っててもそれを批判するんじゃなくて、それはそれでイイモノなんだけど、"オレには関係ないよね"という。俺は俺なんだし、そんな事気にしてても仕方ないやっていうところでやれるようになったんだ」

できない事はできないし、やりたい事やればいい。見えているものを。そんな簡単な事を今、あっさりと彼は手にした。まぁさらな心で現在という時間の中の自分を受け入れる事。少し前の彼はとても何かを欲しがっている風で、それを手にできない事や否定したいもののためにやっきになっているようにも思えた。けれど今の彼はどうでもいい事には「そういうのはイイんじゃない」と笑える。それはいい意味の投げやりさと抜けた感覚で、そのぶん力を抜いて彼は本当にほしいものを追いかけられるのだと思う。

「バンドが１つの方向に向かってるかどうか？さあ…それは今は本当に腹わって話してないからわかんない。(笑) でも全員同じになって仕方ないしね、それじゃツマンないし。でもバンドで行った合宿は、あれ結構前になるけど…あれでなんか…あの合宿に行く前あたりからかな、自然になれ始めた気がするのは。ある種投げやりにもなれたし。一番いいかげんが許されるのがRockだと思うしさ。(笑) 実際ガチガチしてたからね。前はそう思って追い込んでたから。今はそれを解除できる余裕があるよ。例えば "俺ってこうするしかないんだ" と思い込んで余裕なくしてたんだけどね、前は。今は "そんな事ない" とも思うようにできる」

見えすぎてしまう事、感じすぎてしまう事の苛立たしさは確かにある。人と話している時。相手の事を考えすぎたら、何も言えなくなってしまうように。

「前はそれで言ったり言わなかったり。その間にすごく考えてるんだよね。壁に突き当ってる人に"こういう状況でこれを言ったら、もっと壁は大きくなってしまうかもしれない" とか、それで "俺って疲れるなー" とか思ったりね。(笑) 今は逆に考えられるようになったんだ。"俺がこう考えてるんだからきっとこいつも考えてるんだろう"ってね。向こうも同じなんだ、俺だけが疲れてるんじゃないんだって。前は「俺が一番キツイ" "俺が一番疲れてる"って思ったりもしてたけどさ」

その時その時の自分から曲が生まれる。だとしたら "その時" の彼と "今" の彼では、出てくるものももちろん違うのだと思う。

「前は刹那的だったよね。あれはあれで素晴しいと思うけどさ。今一番求めてるのは "自己の解放" だからね、イイ意味で」

◆

「DEAR VENUS」のB面には「What am I?〈勝手な話〉が収められている。ここでも彼は今を見つめている。

「No SIDE ACTION」で愛する女性の為 "世界背にして逆う日が来る" と感じたあの日。「Blind Age」で"ここに居ると鐘を鳴らせ "と叫んだ事。けれどこの曲の中の彼は言う。それを"今では違う誰かの言葉に感じてしまう"と。"勝手だと思うけど"と言いながら。

この曲は前の自分を否定しているのではない。やはり "今" はつながっている。彼はこの「What am I?」を「DEAR VENUS」のアンサーソングだと言った。

「"うそぶかずそのままでいいんだぜ" って言ってるって事はね、だから前に思った事もまるで別の人が言ってるように思える時だってあるさという具体例だよね。こういう勝手な事を思う事もあるよ、と。ヘンな自信過剰とかではなくてね。ただ悪い事を言われてもそれを受け入れる強さだってあるという…。こういう曲の作り方をあえてしたのは…珍しいんだけどね、でも今言わないと。日本は外国と違ってサイクル早いからやれなくなっちゃうと思ったから。海外だとね、１枚の曲が持つ寿命は長いからいいんだけどね」

この曲で彼は歌う。わからない事がわからないままで進んでしまう、何も残せない世界の上で。"僕は何をやればいい？" と。

答えが分っていたら歌わない事を、歌う。

「個人と社会的な事…？　スムーズではないけれど、歌の中でつながっていくと思う。そういう意識でやってる。ミュージシャンだからね。うん、ただの "うたうたい" だよ、あくまでも。ただ、その歌うたいに何ができるか、というところだよね。曲を見えやすいものにしようとか、そんな意識は全然ないよ。そんなもの人に合わせて作るもんじゃないしね。俺がやりたい事、メンバーがやりたい事を、俺達が楽しくなれる事をやってるだけ。逆に…それで俺達はどんどんストレートになってるって気がするよ」

そのストレートさは彼ら自身、という意味でのストレートさだ。「…子供達には難しいかもしれないね」彼はそう言って笑った。

そんなUP-BEAT自身、彼らの今の気持ちを切り取るようなアルバムのレコーディング作業は着々と進行中だ。

「サウンド的には…とにかく大きなもの。でっかけりゃいいやって感じで見てる。日本っていろいろなバンドあるじゃない、世界でもそうだけど "ダンス・ビート" とかってさ。フィルがチョコチョコ入るような、でもああいうんじゃなくて。ジャーン、ジャーンでさ、ドーン！　でいいじゃないって感じなんだ。細かい事をコショコショやっても仕方ないかと思う。ビックリすると思うヨ。曲もそうだけど詞で一番。逆説になってる、全ての意味が。音もさ、やりたいようにやってるよ」

カセット・テープが止まった後に彼はこう言った。「ROCK BANDでしかできない事をやりたい」と。それは過激で凄いこと、らしいが今はまだ想像もつかない。

言い忘れたが彼はヴィーナスの事を、"猿の惑星" のラスト・シーンに出てくる自由の女神のイメージだとも言った。「これが真の女神だねって感じ」砂に埋もれた自由の女神を発見して、人々は違う惑星と思っていたとこが自由なアメリカという国だった事を知り愕然とする。随分前にそのシーンを見て衝撃を受けたものだ。10月に発表されるアルバムにもそんな衝撃が隠されている予感がする。

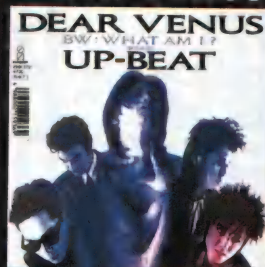
日本武道館

OPEN▶17:30 ▶18:30 全席指定▶¥3,000
主催▷ニッポン放送 企画 AND, HANDS 後援▷VICTOR INVITATION

9・11SUN 10:00▶プレイガイドにて一斉発売
INFORMATION▶HOT STUFF 03・478・8888

TANIMURA Yumi

—THE 'I' IN THIS IS I.—

文●谷村有美　撮影●川本満雄　ヘア&メイク●天野ひろこ

「あぁーっもう大嫌いっっ!!こんなもの、なきゃいいんだっっ!!」まどから投げ出された一冊の楽譜。雨あがりの芝生に〝ばさっ〟と音を立てて落ちた。セピア色のザラザラした表紙には、独語で"J.S Bach sinfonien (drei−stimmige invetionen)":Sinfonien:は、一度に三旋律を弾かなくてはならない。

「だいたい、腕は二本しかないんだもー無理なんだ」

レッスンは明後日。絶対ゼツメイ…もうかれこれ二時間以上もピアノの前に座っている。なのに、依然として音と音はバラバラで、ちっとも曲にならない。イライラと焦りが、突然〝怒り〟に変わった。

——「ウ——、このヤロ——」——何の罪もナイのに放り出された可哀想な楽譜…。

「いってきま——す」

心の中が後悔で圧し潰される前に、思わず友達の家へと走りだした。仲好しのその友達には中学生のお兄さんがいる。

「有美ちゃん、ピアノ弾けるんだって?じゃ、これ弾いてみて」

差し出された一本のカセット。

「楽譜は!?」「ないんだ。その通りに弾いて欲しいんだ」「ふーん」

"LADY MADONNA" "IN MY LIFE" ビートルズのナンバー。

帰り道。一度捨てた楽譜を拾った。小学校四年生の夏。

初めてのリハーサル場所は、ドラム担当の家の居間だった。皆で合わせて音をだす。

「なんて、楽しいんだろう。なんて、気持ちイイんだろう!!」

夢中になって鍵盤をたたいていた。

そして、ピアノ・レッスンの日。

「こんにちわ」

「どうしたんです」(楽譜のすみっこについた泥をみつかっちゃった)

「あの…転んじゃって。(だって、ヤツ当たりして…投げたなんて言えナイヨ)

「始めなさい」(ホッ…)

弾き始めて、四小節弾くか弾かないかという所で、いきなり私は、手をはたかれた。

「鍵盤は叩くものではありません。今日はもうお帰りなさい」

〝タッチが荒れる〟という理由で、私はBANDを禁止された。

——どうして!?同じ音楽じゃない!?——

☆

中学に入学した頃の私は、コンプレックスのかたまりだった。背が低い(入学当時138cm!!)とか、顔とか。

——でも中学時代で20cmのびた!!)とか、顔とか。そして〝声〟が好きでなかった。大きい、響き易い、高い。音楽の授業での合唱は苦痛だった。逃れる為の手段は一つ。ピアノ伴奏担当!!(いるいるそういうヤツ)

——でも、本当はウタイたかった——

ますますkeyに熱中した。高一の夏休み、音大受験を決意。ほとんど、一日六時間以上弾いてた。半年後に、ツケが廻ってきた。右手が動かなくなってしまった。学年末テスト、全科目左手で受けた。〝ピサン〟、ほぼ全滅。めちゃくちゃ落ちこんだ。

——こうして振り返ってみて思うのだけど、〝谷村〟ってヤツはすぐムキになる。信じられない程淡白かと思うと、たまに、すごーく〝負けず嫌い〟でもある。後で考えると恥ずかしい!!ってコトもある。ボロボロに疲れ果ててるトキもある〝私は完璧じゃない〟こんな当り前のコトに気づいたら楽になった。

〝失敗をおそれてちゃ何もできナイよ〟

〝夢は、必ずかなうよ〟

まずは自分自身を信じなくっちゃね。

明日も、谷村はAM三時に起きマス♡

PROFILE

昭和42年10月17日生まれ。鹿児島県出身。血液型はO型。天秤座。86年、CBS・ソニーSDオーディションに合格。87年11月デビュー。9月1日に、ニューアルバム『FACE』がリリースされたばっかりだよ!

有美Chanホットニュース◎待ちに待ったファートコンサートのお知らせだ!10月7日、新宿パワーステーション! お問い合わせはディスクガレージ☎03(239)9900まで。また、〝谷村はAM3時に起きて…〟テレビに出てる。TBS『DAWM AT6』(月・木・金曜/AM6:00−6:25)パーソナリティをやってるよ。早起きして谷村チェック!

De - LAX
WAR DANCE

回転ちがいの地球の上で
誰も止められない音が
踊る
回転ちがいの地球の上で
誰も止められない歌が
叫んでいる
—君を愛しても
　どこかで銃声が鳴る、と
回転ちがいの地球の上
炸裂している
ライブ！

PHOTO●MASANORI KATO
STYLING●YUKA EGUCHI
HAIR&MAKE-UP●YOSHIO YOKOHARA

FENCE OF DEFENS
2235ZERO GENERATION

フェンス・オブ・ディフェンス。3枚めのアルバム『2235ZERO GENERATION』が9月21日にリリースされる。彼らの中からそれは自然に、それも理想的な形をもって生まれ出た。彼らの求めるものが的確に表現されだしたのは、当然のことなのだ。

PHOTO by KATSUMI OHMURA CORY by TOMOMI NONAKA

2235

イメージを限定してしまうのは、何よりそのイメージを正確に伝えようとするための何かによって、なのかもしれない。例えば言葉。例えば映像。けれど音は違う気がする。違う気がすると感じさせてくれる音に出会った。

3作目のアルバム『2235ZERO GENERATION』。まず最初にあるひとつのストーリーを彼らは作った。音のイメージは初めはそこから導き出されていった。けれど、音はいとも簡単にそのストーリーを飛び越して、映像の加速度をあげながら拡がっていった。「ストーリーと音は互いにひきずられないように」というのが、アルバムを作る際の約束事だったという。互いにイメージを高めあいながら無限に拡がり、探している何かに辿り着こうという意志がそこにはある。こんな理想的な関係があるだろうか。

ストーリーは2235年という無雑作に選び出された近未来が舞台だ。統制されたその管理社会に生きる一人の男が突然、現代にやってくる。彼の目に映った現代。「なかなかいい時代」でもあるし、何かにつながりそうな危機分子の存在も感じる。ひと言では表わせない何かが音になった。

北島 一番の基本は…1、2枚目を作った時はボクらに何ができるかということでアルバムを捉えて作ったんだよね。でも3作目はレコードの方がメインになった。〝ボクらはこうですヨ〟というバンドの紹介じゃなく、1枚のアルバムとしてまとまった1つの何かが欲しかったというか。わかりやすく言うとね…1、2枚目はお皿に上に曲という小さなショートケーキをいっぱいのっけて、〝バイ、これです〟と。でも3枚目は例えばウェディングケーキみたいにひと固まりにしたかったワケ。

それで、元になるものは何だろう、という事でそのストーリーをまず作ってみる事になった。そのストーリーとサウンドが互いに干渉しながら進んでいこうとね。

西村 最初に大まかなストーリーがあってそこから作り始めてから違う方向に進んでく事もあったし、まったく関係なく音も作った事もあったしね。ストーリーに逆に引きずられないで、音楽的にもストーリーを感じられるものにしたかったからあまり捉われないようにしようというのはあったしね。僕個人は、最初に曲作る時はサウンドトラックのつもりでやってたんだけど。まず映画のようなものを想定してイメージが湧いたらすぐに音に再現してコンピュータに打ち込んでいって…次々に音は出てきましたね。欲もいっぱい出てきたし。だからレコードになってない部分、捨てた曲も何曲かあるし…このへんにもう、水子の霊がたくさん……(笑)

北島 音とストーリーは互いにつかず離れずで関係しながら、コトバで表わせない音を表現したという感じかな。完璧にストーリーに合わせると映画音楽になってしまうし、音は音で1曲という考え方もしながら。最終的には拡がっていくイメージはあると思うし、常に表面に出てこないとこにそのストーリー、全体像があればイイなと思うね。

山田 1つの曲が1つのシーンを表わしてる、というような感じなんだけれど、全体に言えるのは1曲1曲にこだわってないという事かナ。全体通してつながってるんです。そのニュアンスを聴いてもらいたい。シーンがどんどん集まっていってストーリーが進んでいく、という感じ。Fenceの場合、音的に目指している1つのイメージとか、〝○○風にしなきゃ〟というのはないんです。例えばコンピューターを駆使してる曲もあれば、今回の目玉といえる(笑)〝Honey Money〟のように、一切シンセも使ってなくて3人だけでやってる曲もある。Fenceっぽさを出せればいいナ、と思って毎回毎回やってるし、逆に出せる自信も出てきた気がしますね。これからはないモノねだりで…もう4枚目の話なんかもしてるんだけれど。脳天気さを出せればイイね、とか。(笑)

北島 バリエーションは多いと思うよ、曲の。より言葉のイメージとして立場が明確になったのがこの3作目だけど、意識してないけれどそのせいで音作りが変わってきたというのもあるかもしれない。極端にシンプルな曲もあれば、静かだけど広さを感じる曲もあるし、最後のバラードのような曲もある。ヘタしたらすごく散漫になるかもしれないよね。でもそれも、1、2枚目で築かれたFenceの方法論みたいなモノにあてはめると合ってしまったし…。だから俺は逆に今まで築いて来た事は意識しないでやっていこうと思ってる。守りに入っちゃイケナイと思うから。

自分から何が出てくるか、を試すようにして作る音。だからこそ音が作り出す世界は多くの可能性をはらんでいるのだろう。Fence of Defense。このバンド名は、〝自分を守るための柵〟を持つという事だ。守るのは固定しようとする自分のイメージではなく、これからの自分の中の可能性だ。3人のミュージシャンはそれを手に入れているのでとても気持ちよさそうに音を弾き出す。

最後に。ストーリーの中の主人公は未来から現代を見つめたが、彼らは現代からどんな未来を見つめるのだろうか。

北島 このストーリーの中では悲観的な未来があるのかもしれない…パラレルワールドで考えてもいいんだけど、時間軸が一杯あってその中のあまり望ましくない状態…かな。それは1988年にもあるかもしれないし、その世界を設定し今と対比してるというか、1、2作目の詞の部分にあった現代の危機感…警告みたいなものが3作目で、未来の世界に設定されてよりつよくなったと言えるかも。あくまでもストーリーの中ではね。暗さも明るさもどっちもありだけど、ただ暗さを象徴して〝今〟を言ってるかもしれない。

西村 …どっちかわからないけど…その答を探すためにアルバムを作ってるのかな…。

北島 そうだね。本当の事はわからないね。

探すための「音」があるというのはとても素敵な事だと思う。ゼロ・ジェネレーションは紀元とかそこからスタートするという意味。3人はいつでもそこに立っている。

KENJI KITAJIMA
GUITAR, VOCAL

MASATOSHI NISHIMURA
VOCAL, BASS, SYNTHESIZER

WATARU YAMADA
DRUMS, VOCAL

ボクたちのナツ。

東南西北は、現在すばらしく素敵なアルバムを制作中である。まだ音を聞いてもいないのに、どーしてそこまでわかるのかって？　それは簡単です。私はレコーディングの合い間を縫って彼らにインタビューを試みたから。ナントそこには東南西北というバンドのイメージそのものをクツガエスことにきっとなるであろう激しい変化が現われていたのです。（これはスゴイ）と、私は小さな胸の中で大きくつぶやいた。

ちょっと冗談ぽく書き始めてしまって、ゴメンナ（先に謝っておこーっと）。でも、本当に驚いているのだ。で、それが何かってことを述べる前に、彼らとの談笑をここに再現してみましょう。どーぞ。

――レコーディングは快調に進んでる？

入船　1日1曲のペースだから、これまでのペースからすると驚異的。（※東南のレコーディングは長いことで有名だった）

大池　曲もね、今回のために全員でたくさん作ったんですよ。100曲くらいかなぁ。

他全員　また大きいこと言って。（笑）

久保田　今回はメンバー全員がメインとなって曲を書いたんです。約60曲あったかな。

入船　僕らの基本にあったのは『飛行少年』なんです。戻りたいっていうことではなくて、あのガチャガチャした雰囲気が欲しかった。で、思いついた曲をみんなで書いたら、1曲1曲ビートの違うものができた。実は今回ディレクターから「お前らからいい曲が出なかったら、全部他の人に書いてもらってもいいんだぞ」って言われた。（笑）だからカンジンなのは、メンバーで全曲を書いたってことじゃなくて、書いた曲がこうなったってこと。べつに意地になって自分たちの曲だけで押し通したかったってわけじゃないから。

久保田　そう、いいものってやっぱり違うね。ネ、なんか同じ学校に通ってたみんなで曲が作れるなんて、すごいですよ。もっともひとり学校が違うけど。（と、加納君を見る）

加納　まあだ言ってる。（笑）

久保田君は、とても嬉しかったのだと思う。東南西北といえば全員で尾道からやってきてデビューして以来3年。なのにその後デビュー時のういういしいイメージ変わらず（もちろんそれは彼らの最大の魅力のひとつだが）、ここらへんで一発巨大な花火を打ちあげたいナとは、本人たち及びスタッフ並びに周辺の人々そしてファンなら、必ずもくろんでいたに違いない。とはいえバンドは全員の力、いままでのように久保田君のみがクローズアップされるばかりでは、やはり限界がある。そこへ、他4人のガンガンの頑張りである。

清水　前のアルバムのことを反省してみると、ディレクターやアレンジャーと柵があった。

久保田　それは、これまでスタジオに持ち込まれてた最新鋭の機械の使い方がわからなかったっていうこともあるんだけど、もうわかっちゃった。（笑）

加納　スタッフにゴンゴンロを出せるように本当になったよ。ちょっと違うね、とか。

清水　曲を実際に音にしていく作業では、前はディレクターやアレンジャーの方が一歩先に行ってて、チクショー、きっと打ち破ってやろーって思ってた。今回は彼らも完全に5人の一部で、スタジオにいてもみんなの波長が一致してる。音は絶対に一個スコーンて抜けてて、聞けば確実にわかる。

久保田　僕らはデビューした時に松本隆さんに、ビートルズみたいなバンドだって言われて、〝ジョン・レノンはいるから、あとはポール・マッカートニーだね〟って。それが今回僕も含めて5人ともポールになれたんじゃないかって……うわっこのたとえは恥ずかしいから、今の話やめよう。

大池　じゃなくて、曲作りの面でもある程度バンドっぽい形がとれたってことです。

久保田　そうそう、そういうこと。僕が言おうと思ったのは。（笑）

物事がウマク運ぶ時というのはおもしろいもので、それを取り巻くすべてがウマクいってしまうのだ。いつもはインタビューの東南は、まさにそんな感じだ。いつもはインタビューでイニシャチブを取るのは久保田君なのに、今日はのっけから5人が各自で語り出す。「スタジオがすごく盛りあがってる」というのは、きっとこのインタビューと同じように充実しているということなんだろう。

久保田　僕、歌を歌ってる時ね、清水君が書いた曲でも、人のものっていう感じがしないんだ。

ちょっぴり誇らしそうに久保田君は語った。一方、今日はのっけからバンドのスポークスマンという感じで頼もしい入船君は「これ、事前にいかに詰めたかという証明」と言って、一冊のノートを見せてくれた。そこにはイラストやら、キーワードやら、楽曲の特徴やらが、メンバーにしかわからない言葉でビッシリと書き込まれていた。

――この「行動」と「パッション」って何？

入船　つまり今回のキーワード。僕らの、何かモヤモヤした状態を打ち破りたいっていう気持ちがこの2つで、それは曲に現われてる。

レコーディング中の取材でいつも悔しいのは、まだここには音がないということだ。（しかも、ここまで盛りあがっている今回の東南だというのに）早くみんなに聞かせたいでしょう？と聞いたら、入船君は「もう、もう」と2回繰り返した。

入船　僕発売日まで待ち切れないから、できあがったら原宿にテープを売りに行きたいくらい。（笑）

アルバムのリリースと前後して、全国33か所でのライブハウスツアーがスタートする。今回は、ホール規模では回ることのできない隅々にまで足を伸ばして、「同じ町にいる」という楽しさを伝えるつもりだ。そして12月27日には中野サンプラザでのコンサート。この時点で彼らは、デビューから4年目の活動期に入っている。たぶん東南にとって第2期目の始まりを確信させるであろうニューアルバムは、このぶんじゃやっぱりすばらしく素敵になるとしか思えない。

THE TON NAN SHA PEI

今回はメンバー全員が曲を書きました

THE東南西北の表情は、ごらんの通り精かんな顔つき。アラアラ頼もしや…という感じで、彼らは彼らの夏をすごしています。なんだかとってもスゴイんです。10月21日に出るアルバムの感触が今までになく、パワフルな様子らしいのです。

PHOTO by KATSUMI OHMURA COPY by MAYUMI TAKAYAMA

BEING ARTIST DEVELOPMENT オーディション VOL.3

■ビーイング出身アーティスト

BOØWY
TUBE
LOUDNESS
織田哲郎
浜田麻里
亜蘭知子
村松 健
秋本奈緒美
清水靖晃
BLIZARD
北島健二
マライア
松本孝弘
ドクトル日詰
・・・・・etc

みーんな・・・・
BEINGから
デビューしました。

第2回最優秀賞受賞「BOLAN」
（BMGビクターよりデビュー予定）
9.24土 渋谷THE LIVE INNワンマンライブ
（問）ぴあ、プレイガイド

今、どんなに輝いているアーティストも、最初はただの可能性の固まりだったのです。

私たちビーイングでは、今までのいろいろなアーティストをプロデュースしてきた実績をもとに、今後、よりいっそう充実した音楽制作と、より輝けるアーティスト育成を目指しています。

そして、そのための第一歩として、このBADオーディションを通じ、これから先十分に磨きがいのある可能性の固まりに出会いたいと考えています。

第1回最優秀賞受賞「桜井ゆみ」
（来春、ビクターインビテーションより
レコードデビュー）

応　募　要　項

1 募集部門

A. アーティスト部門
　プロとしてデビューを考えているバンド又はソロアーティストを対象としています。
B. ミュージシャン部門
C. 作詞家部門
D. 作曲家部門
E. 編曲家部門
F. ミキサー部門
　将来、それぞれの分野において、プロとして活動していきたいと考えている人を対象としています。

2 応募資格

一切、問いません。プロ・アマ・年令など一切気にせずどんどん応募して下さい。
応募・審査・オーディション料はすべて **無料** です。

3 応募方法

次の3点をBADオーディション事務局迄送って下さい。

1）作品ー募集部門を明記の上、
　A. アーティスト部門
　　自分たちの演奏・歌唱を収録したカセットテープ（既成曲のコピー演奏・カラオケ歌唱でも可）
　B. ミュージシャン部門
　　Guitar、Bass、Keyboards、Drums他、自分の演奏を収録したカセットテープ
　C. 作詞家部門（昨年度から5名がプロとして活躍中）
　D. 作曲家部門
　　自分の作品を収録したカセットテープ又は譜面
　E. 編曲家部門
　　自分の編曲による演奏を収録したカセットテープ
　F. ミキサー部門
　　自分で録音、トラック・ダウンしたカセットテープ
2）写真ー全身大と顔のわかるもの2点
　（バンドの場合は、メンバーそれぞれのものも添付）
3）プロフィールー個々の履歴と音楽活動を記入のこと
4）合否通知郵送代として300円切手を同封して下さい。
　（応募・審査・オーディション料はすべて無料です。）

4 〆切

昭和63年10月31日（当日消印有効）

5 審査

1）一次審査
送られた作品をもとに書類選考を行います。
結果は合格者のみ11月中旬に連絡いたします。
2）本審査　12月4日(日)
一次審査合格者のみを対象に、東京にて、生演奏又は生歌唱及び面接による審査を行います。
尚、B・C・D・E・F 部門は、作品審査と別途面接による審査を行います。

6 奨学金

最優秀者には、奨学金100万円を贈呈。
また、優秀者には各部門別に優秀賞・奨学金の他、レコーディングスタジオにて48chマルチトラック・レコーディングによるデモテープ作成、練習スタジオの無料提供、プロになるためのアドバイスなどの援助が受けられます。

7 最後に

●私たちは、きみたちの可能性を見たいのです。細かいことは気にせず、まずは応募してみて下さい。
　それでも不明な点は事務局迄、問い合わせて下さい。
●応募作品etc.は返却しませんので、その旨御了承下さい。

デビュー

本審査合格者は、ビーイング・グループが責任をもってアーティストスタイルに合ったレコード会社、プロダクション等を選択します。その後、制作方針が決定次第、順次デビュー！
　また、B・C・D・E・F 部門合格者は、ビーイングの音楽制作に積極的に採用していくとともに、外部へのプロモートをしていきます。

bad
BEING ARTIST DEVELOPMENT

〈応募先〉

〒106 東京都港区六本木3-10-9
音楽制作会社ビーイング内
BADオーディション事務局
PATIPATI係
TEL.03-403-9757

DISK GARAGE

PEARL
10/28(金) 渋谷公会堂 START 18:30 全指¥3,000 ●9/10発売

THE TOYS
10/18(火) 渋谷公会堂 START 18:30 全指¥3,000 ●9/11発売
10/22(土) CLUB CITTA 川崎 START 19:00 全自¥3,000 ●ぴあ・セゾンにて発売中

プリンセス プリンセス
12/4(日) 渋谷公会堂 START 17:30
全指¥3,000 ●10/23発売

JUN SKY WALKER(S)
11/26(土) 渋谷公会堂 START 18:30
全指¥2,000 ●9/11発売

てつ100%
—SPECIAL MONTHLY LIVE—
10/19(水) クラブクアトロ START 19:00 全自¥2,700

UNICORN
11/21(火) 横浜市教育会館
START 18:30 全指¥3,000 ●9/18発売
★10/14 渋谷公会堂はSOLD OUT!

MINNIE
10/20(木) クラブクアトロ
START 19:00 全自¥2,500 ぴあ、セゾンにて発売中

AKAI MUSIC TOMORROW
THE PRIVATES
—MONKEY PATROL TOUR·
LET'S GO CRAZY R&R NIGHT—
10/27(木) 渋谷公会堂 START 18:30 全指¥2,500

横山輝一
11/15(火) 日本青年館
START 18:30 全指¥3,000 ●9/23発売

YAPOOS
10/4(火) 東京厚生年金会館
START 18:30 全指¥3,000
※10/2 渋谷公会堂はSOLD OUT!

De-LAX
11/18(金) 横浜 7THアベニュー
11/19(土) 大宮フリークス START 19:00 全自¥2,800

SUPER BAD
10/8(土) 9(日) クラブクアトロ START 19:00 全自¥2,500
11/16(水) CLUB CITTA 川崎 START 19:00 全指¥2,800

「BEAT CHILD FILM」●マザー編●
●FEATURING·HOUND DOG·YUTAKA OZAKI
THE STREET SLIDERS·RED WARRIORS·THE HEART
9/25(日) 渋谷公会堂 ①13:00 ②16:00 ③19:00
10/17(月) 栃木会館 18:30
10/19(水) 浦和市文化センター 18:30
10/24(月) 水戸市民会館 18:30
11/1(火) 千葉県文化会館 18:30
11/5(土) CLUB CITTA 川崎 ①15:30 ②18:30
11/9(水) 前橋市民文化会館 18:30
前売¥1,500 当日¥2,000 ●チケットぴあにて発売中
※問 フリップサイド(0286-33-1009)、アクト(0286-21-2241)

鬼頭径五
9/21(水) クラブクアトロ START 19:00 全自¥2,500

シオン & ザ・ノイズ
—TOUR '88 "SIREN"—
9/26(月) 渋谷公会堂 START 18:30 全指¥3,000

LIVE at NISSIN POWER STATION

		SDS	B1.2	
THE HEART	9/20(火) 9/27(火)	¥3,300	¥2,300	●START 19:00 (一部を除く) ●SDSは食事代別途
佐木伸誘	9/29(木)	¥3,000	¥2,000	
AKAI MUSIC TOMORROW グラス・バレー	9/30(金) 10/1(土) 2(日) (10/2 18:00 START)	¥4,000	¥3,000	
SUPER BAD	10/22(土)	¥3,500	¥2,500	
「BEAT CHILD FILM」	9/3(土) START ①14:30 ②17:00	前売¥1,500	当日¥2,000	
De-LAX	9/24(土) 10/28(金)	¥3,800	¥2,800	
千年COMETS	10/19(水) 9/10発売	¥4,000	¥3,000	
AKAI MUSIC TOMORROW 竹本孝之 & HEART OF ROCKS	11/10(木)	¥3,800	¥2,800	

DISK GARAGE INFORMATION 03-239-9900(平日 15:00~19:00) ※ディスクガレージでは、チケット販売・電話予約は一切行っておりません

★チケットぴあ 03-237-9999(特電:03-237-9911)、チケットセゾン 03-5990-9999(特電 03-5991-9999)、丸井チケットガイド 03-363-9999 CN21プレイガイド・03-257-9999にて発売

MOTHER & CHILDREN INC.

THE

HEART

2DAYS LIVE

TOKYO,NAGOYA,OSAKA

東京:日清パワーステーション 9月20日(火)OPEN 17:30 START 19:00〈SOLD OUT!!〉追加公演 9月27日(火) OPEN 17:30 START 19:00 問い合わせ ディスクガレージ PHONE 03(239)9900
名古屋:ハートランドスタジオ 9月17日(土)、18日(日) OPEN 18:00 START 19:00 問い合わせ サンデーフォーク PHONE 052(320)9100 大阪:バナナホール 9月24日(土) OPEN 18:00 START 19:00, 25日(日) OPEN 17:00 START 18:00 問い合わせ キョードー大阪 PHONE 06(345)2500 〈井口一彦のSFロックステーション〉1332Khz 東海ラジオ放送 毎週金曜日 25:20～27:00

WELCOME TO OUR WONDERLAND

あそびにおいで!

▶MENU◀

●C-C-B●サンタ●KAN
●パール兄弟●1st BLOOD
●TILT●クォーターバディズ
●ティー・ヴィー●夏木晴美
●永井真理子●横山輝一●OKs

It's New! VIDEO CONCERT Part 6

入場無料

It's New!6 VIDEO CONCERT

C-C-B POLYDOR
クォーターバディズ POLYSTAR
永井真理子 Fun House

Polydor　POLYSTAR　Fun House

サンタ POLYDOR
KAN POLYDOR
パール兄弟 POLYDOR
TILT POLYDOR
1st BLOOD POLYDOR

夏木晴美 POLYSTAR
ティー・ヴィー POLYSTAR
横山輝一 Fun House
OKs Fun House

IT'S NEW/ 6 会場リスト

地区	会場名	日程	時間	主催店名	問い合わせ
網走	サウンド・カフェ・ラハイナ	9/30	16:00~	高間レコード	0152-43-2959
旭川	西武デパートスタジオ9	9/26	16:00~	ディスクポート西武小路	0166-22-5706
滝川	ワールド	10/1	14:00~	サクラ商会	0125-22-4165
留萌	吉崎ホール	10/1	15:00~	吉崎楽器	01644-2-1223
帯広	玉光堂Gスタ	9/23	16:00~	玉光堂帯広店	0155-22-0888
札幌	YES4Fシアター	9/23	①13:00	そうご電器YES	011-214-2840
			②15:00		
札幌	琴似玉光堂Gスタ	9/23	14:00~	玉光堂琴似店	011-643-4228
小樽	玉光堂2Fホール	9/24	14:30~	玉光堂花園店	0134-23-6184
倶知安	アイデン社ホール	10/2	13:00~	アイデン社	01362-2-0376
函館	北斗電気ホール	9/25	15:00~	北斗電気	0138-23-1121
青森	ライブスペースI/II	10/2	15:00~	音楽堂新町店	0177-23-2828
青森	金正堂新町店2Fホール	10/2	15:00~	金正堂新町店	0177-23-2616
弘前	ハイローザ5Fホール	9/24	15:00~	ジョイポップス	0172-32-3041
八戸	文明堂3Fホール	10/1	15:00~	文明堂	0178-43-0310
むつ	ジョルノ3F小ホール	9/25	13:00~	成田本店むつ店レコードPax	0175-22-8111(内33)
盛岡	フェザン・パーティー・ルーム	9/24	16:00~	新星堂盛岡店	0196-54-7862
秋田	フォーラス・モーニングムーン・スタジオ	9/26	16:00~	秋田フリーウェイ	0188-32-1616
横手	柏屋楽器駅前店3Fホール	9/24	14:00~	柏屋楽器駅前店	0182-33-1547
仙台	日立ファミリーセンター	9/24	15:00~	ヤンレイ	022-267-4379
仙台	東芝仙台ショールーム	9/24	14:00~	フリーウェイ・スーパー・レコード	022-222-2021
山形	山交ビル801号	10/1	15:30~	RSサンパック	0236-42-4325
酒田	中央マルホン4Fホール	10/8	15:00~	中央マルホン	0234-23-0812
新庄	蜂屋2Fフロアー	9/24	14:00~	新庄蜂屋	0233-22-1291
福島	ざらんど3Fホール	9/24	15:00~	ざらんど	0245-22-9178
会津若松	レコードのサトウ3Fホール	9/25	14:00~	レコードのサトウ	0242-27-9291
渋谷	THE AIR(アンテナ21 8F)	9/23	13:30~	山野楽器東急東横店	03-477-4574
				コタニ東急プラザ店	03-463-4677
				WAVE渋谷店	03-462-3118
				ミュージックメイト・アリマ109BI	03-461-2806
				山野楽器東急本店	03-477-3457
				カワイ・ミュージックショップ青山	03-409-2511
銀座	山野楽器本店4Fホール	9/23	12:00~	山野楽器本店	03-562-5051
錦糸町	西武百貨店6F(スタジオ錦糸町)	9/24	①14:00	ディスクポート西武	03-846-0111
			②17:00		
小岩	アルプス・レコード小岩店2F	9/23	15:00~	アルプス・レコード小岩店	03-671-7704
板橋	星光堂本社8Fホール	9/24	14:00~	星光堂板橋店・大山店、駅前店	03-961-0765
荻窪	新星堂本店地下ホール	9/23	14:00~	新星堂本店	03-393-3801
大森	プリモ・サロン(プリモ6F)	9/24	15:00~	新星堂大森店	03-764-3255
吉祥寺	山野楽器サンロード店2F AVルーム	10/1	13:00~	山野楽器サンロード店	0422-21-3610
立川	BASHルーム(フロム中武3F)	10/1	16:00~	キクイチ立川店	0425-24-3943
町田	ソーナ1ビル4Fイベント・ホール	10/8	①13:00	タハラ町田店	0427-22-2413
			②15:00		
中央林間	ポケットパーク(とうきゅう駅ビル2F)	9/28	16:00~	新星堂中央林間とうきゅう駅ビル店	0462-75-7444
宇都宮	宇都宮音楽館(2F)	9/24	15:00~	宇都宮音楽館	0286-22-7775
水戸	サウスコア(サントピア7F)	10/15	15:30~	フジディスク	0292-31-0805
勝田	スティング	9/25	13:00~	レコード・CDのボイス	0292-72-9327
千葉	秀和ビル7F(エントリーバー)	9/25	①13:00	山野楽器(パルコ店)	0472-25-6331
			②15:00		
銚子	ジョジョ2F(スタジオUMI)	10/1	13:30~	ジョジョ	0479-22-2246
松戸	ボックスヒル8F(クリスタルホール)	9/24	15:00~	ヤンレイ	0473-66-1294
大宮	駅ビルWE4F(ホワイトルーム)	9/23	13:00~	ヤンレイ	0486-45-5373
熊谷	ニットーモール(3Fホール)	9/24	16:00~	新星堂熊谷店	0485-25-4508
所沢	西武百貨店ボディ・ソニック	9/24	14:00~	ディスクポート西武	0429-27-3313
横浜	VIVRE 21(ライブ・スクエア・ビブレ)	9/26	16:30~	新星堂第3ブロック	045-312-4747
横浜	横浜ヤマハFCサロン	9/24	17:00~	ヤマハジョイナス店	045-311-3355
高崎	新星堂店内ホール	9/23	14:30~	新星堂高崎店	0273-27-3963
渋川	AVルーム1713	9/24	15:00~	サンコー	0279-22-0436
山梨	ナガヌマ	10/8	15:00~	ナガヌマ	0553-22-0315
長野	信毎ホール・Cルーム(駅ビル)	10/2	15:00~	新星堂長野駅ビル店	0262-24-2576
新潟	PLAKA I・II・III(マルチビジョン)	9/24	13:00~	新潟WAVE	025-240-2315
		9/25	13:00~		
三条	体育文化センター	9/23	13:30~	荒町ムジークフェライン	0256-35-6561
長岡	島津レコード(ミニシアター)	9/25	15:00~	島津レコード	0258-32-2017
六日町	ヤマリ・レコード	10/1	14:00~	ヤマリ・レコード	0257-72-2078
高田	多田金(2Fコンサート・ホール)	9/24	15:00~	多田金	0255-23-4360
静岡	すみや本店オレンジ・ホール	9/30	18:00~	すみや本店	0542-51-1234
浜松	イケヤ本店(3Fホール)	9/23	13:00~	イケヤ本店	0534-52-5151
浜松	ヤマハ4Fホール	10/8	14:00~	ヤマハ	0534-54-4440
名古屋	三菱電機ショー・ルーム	10/1	13:00~	玉音堂	052-561-2966
名古屋	太陽サウンド・オン店内ホール	9/23	13:00~	太陽サウンド・オン	052-916-1221
名古屋	栄ノバ8Fホール	10/15	14:00~	名豊ミュージック	052-251-6787
岡崎	大衆堂CAM	9/23	14:00~	大衆堂本店	0564-22-0186
半田	マツイシ本社3Fホール	9/25	14:00~	マツイシ	0569-23-3158
四日市	北勢堂2Fホール	9/23	13:00~	北勢堂	0593-53-0148
大垣	電波堂本店2Fホール	10/2	14:00~	電波堂本店	0584-78-6687
岐阜	電波堂アミコ2Fホール	10/1	15:00~	電波堂アミコ	0582-63-3869
武生	山本楽器2Fホール	9/24	15:00~	山本楽器	0778-22-0172
富山	フクロヤ本店3Fホール	9/25	14:00~	フクロヤ本店	0764-25-3513
七尾	ミヤコ店内ホール	9/24	15:00~	ミヤコ	0767-53-0001
金沢	山蓄タワーレコード3Fホール	9/24	16:00~	山蓄109	0762-20-5010
小松	西武特設ホール	9/25	11:00~	山蓄西武	0761-21-6222
彦根	彦根勤労福祉会館	9/25	13:00~	前川商店旭ミュージックセンター	07492-2-2254
京都	BIG BANG	10/1	14:00~	十字屋河原町店	075-221-5466
京都	ビブレ・ホール	10/3	16:00~	ピックアップ	075-211-1552
梅田	イベント・ギャラリー	9/25	15:00~	ダイガ	06-315-8423
梅田	阪神百貨店6F アクセス・ナショナル・ショー・ルーム	9/24	17:00~	梅田十字屋	06-345-4161
心斎橋	ミヤコ本店3Fホール	9/24	16:00~	ミヤコ本店	06-271-3891
なんば	プランタン8Fフォーラス8	9/27	17:00~	プランタン・なんば	06-633-0077
吹田	イムラ本店4Fホール	10/2	13:30~	イムラ・サンクス店	06-381-0103
守山	キタダ・レコード店内	10/3	16:00~	キタダ・レコード	077-582-3251
神戸	アートスペースD	10/1	14:00~	大蓄本店	078-331-2680
		10/2	14:00~		
奈良	啓林堂奈良店3Fホール	10/8	14:00~	啓林堂奈良店	0742-33-8001
大和郡山	啓林堂郡山店3Fホール	10/8	14:00~	啓林堂郡山店	0743-53-8001
和歌山	イワキ楽音館3Fハイパー・ホール	9/25	13:00~	イワキ楽音館	0734-31-0236
岡山	JOLLY2Fクリスタル・ルーム	10/8	15:00~	テイトムセン	0862-31-6666
備前	レコード・ショップ・チルド・2F	9/24	15:00~	レコード・ショップ・チルド	08696-4-4645
倉敷	富山2Fホール	9/23	14:00~	富山	0864-22-1549
福山	サントーク・カルチャー・ホール	10/1	14:30~	中国ヤンレイ	0849-25-0629
三原	フクハラレコード・イベントホール	9/24	14:00~	フクハラ・レコード	0848-64-6464
広島	カワイショップ・5Fホール	9/24	15:00~	カワイショップ	082-243-9291
鳥取	ディスコイレブン	9/23	13:30~	セイコ	0857-27-6540
高松	タマル本店3Fホール	10/1	14:00~	タマル本店	0878-61-2400
松山	X4(バツフォー)ホール	9/25	13:00~	松山デューク	0899-43-6660
高知	チャオホール	9/25	13:00~	高知デューク	0888-25-2505
北九州	ダイイチ・デオニー5Fホール	9/24	16:00~	ダイイチ・デオニー	093-551-6339
北九州	ハリウッド・ランチ・マーケット2F	10/1	14:00~	ハリウッド・ランチ・マーケット	093-751-6270
福岡	テアトロ・ミニモ	9/23	13:00~	クッキン	092-721-1852
福岡	ベスト電器8Fマルコポーロ	10/1	15:00~	ベスト電器	092-781-7131
福岡	ダイエー香椎店2Fオレンジホール	9/25	15:00~	ヨシダ楽器ダイエー香椎店	092-662-1121
福岡	ショッパーズ内・キッズステーション	9/25	16:00~	ショッパーズ内・キッズステーション	092-721-5411
福岡	ビブレホール	9/26	17:00~	サウンド・ヒロカネ	092-721-6365
二日市	にっぽんの村	9/24	14:00~	レコード・ハウス	092-924-5561
久留米	リズム・レコード2Fホール	9/24	15:00~	リズム・レコード	0942-33-3848
長崎	アトム本店2Fホール	9/25	13:00~	アトム本店	0958-27-2424
大村	ミュージックス・ホンダ3F	9/23	14:00~	ミュージックス・ホンダ	09575-3-8864
熊本	マツモトレコード・イエロー・スタジオ	9/27	17:00~	マツモトレコード	096-352-5671
大分	パルコB2ホール		15:00~	エトウ南海堂・パルコ店	0975-37-0735
宮崎	西村店内ホール	9/24	16:30~	西村	0985-24-4141
鹿児島	十字屋店内ホール	9/23	15:00~	十字屋	0992-25-3131
鹿児島	RSひまわり3Fスタジオ	9/23	13:00~	RSひまわり	0992-67-3935
大口	鬼塚電機	10/1	14:00~	鬼塚電機	09952-2-0302

参加方法

★すでに入場券が郵便で送られてきた人

☞それでOK!!
当日、会場へ行こう!

★入場券をまだ持っていない人

1 行く会場を決めている人➡各主催店に問い合わせて、入場券を手に入れる。
2 どの会場に行くか迷っている人➡全会場に入場できる共通入場券を申し込む。
〔申し込み方法〕はがきに①住所②氏名③参加者希望人数を書いて郵送してください。
宛先:〒153 東京都目黒区大橋1-8-4 ポリドール株式会社 VC「PATI PATI」係

★わからないことがある人

☞お問い合わせ先
☎03-477-2576

雨の中、35400人のハートにありがとう。

7月22日から27日の6日間。
心が燃えた。
カラダが燃えた。
浅間が燃えた。

来年もまた浅間の下で燃えたいね。

ASAMA WOW! 1988

参加ミュージシャン

●大江千里 ●バービーボーイズ ●UP-BEAT ●the REDS ●大沢誉志幸
●The Street Sliders ●鬼頭径五
●世良公則 ●C-C-B ●宮原 学 ●竜童組 ●カシオペア
●スターダストレビュー ●氷室京介(順不同)

浅間高原フェスティバル実行委員会

BEST SELECTION

CBS・ソニー出版

毎日こう残暑が続くと、どうしたって夜の方が元気がでちゃうね。すっかり夜行性になってるキミは、本を読むのも真夜中を過ぎて、気がつくと夜が明けてた、なんて。だけど、もう秋。そろそろ朝の目覚めの気持ち良さ、思い出してみては。

今月の NEW BOOKS 新刊

パリ・ダカを超えた新たなラリーの誕生

消えたトランスアマゾン・ラリー

●山本昌美・著●A5判●176ページ●定価980円●好評発売中

あの〝パリ・ダカールラリー〟よりも長い26日間にわたり、壮大な南アメリカ大陸・1万3500kmを走り抜く。この世界で最も長いラリーの一部始終を『パリ・ダカ・レディ』山本昌美がレポート。

北南米大陸を駆るツーリングを超えたツーリング

風を超えて ―北南米大陸縦断30,000km―

●内田正洋・著●A5判●176ページ●定価980円●好評発売中

昨年の9月末から5カ月間にわたって、南北両アメリカ大陸・3万kmをバイクで縦断したツーリングレポート。北極に最も近い道を起点に、南極に最も近い道まで、バイクライダーの眼から見た視点で綴る。

ユニホームを脱いだ素顔のエース

川合俊一STYLE BOOK

●B5変型判●160ページ●定価1,500円●好評発売中

全日本バレーボールチームのエース、川合俊一。今や実力、人気ともにナンバー1といわれる彼の魅力を凝縮した初のパーソナルブック。全日本のユニホームを脱いだプライベートな一面を、たっぷりとお見せします。

好評 BOOKS 既刊

達人を目指す人のためのバイブル

噂的達人

●AB判●112ページ●定価980円●10月1日発売予定

TBS系全国ネットで放映中の同名の番組の完璧収録版。そこに本書独自の取材を加味し、徹底した達人探究を行う。『引越の達人』から『サウナの達人』まであらゆる達人が勢揃した究極の達人入門書。

ダイナミックな男の野外料理術

悦楽の野外料理

●西川 治・著●B5判●144ページ●定価1,500円●10月1日発売予定

ダイナミックな調理人として定評のある著者、西川治が野外料理の醍醐味を教えます。素材別に解説される料理はすべて、彼が世界各国を食べ歩いて自分の舌で味わったものばかり。その旨さは折り紙つき。

あなたにぴったりなフレーズを探してください

いろんな気持ち

●康珍化・著●B6変型判●224ページ●定価1,000円●10月1日発売予定

こんなふうに誰かを見つめていた時がある。すれ違った思いの行き場に困ったことがある。そんな70編の言葉たちが、歌から独り立ちして歩き始めました。淋しくて、うれしくて、切なくて、熱くて……いろんな気持ち、受け止めて下さい。「君だけに」「ギザギザハートの子守唄」「天国にいちばん近い島」「艶姿ナミダ娘」「悲しい色やね」「バスルームから愛をこめて」等全70編。第一級の作詞家が贈る、これは第一級の詩集です。

自転車のことならこの一冊におまかせ

自転車メンテナンス

●A5判●144ページ●定価1,200円●10月1日発売予定

自転車のメンテナンスの仕方を、徹底した分解写真と詳しい説明でわかりやすく解説。ひとつひとつのパーツを丁寧に見せているので、自転車に興味を持っていない人でも、模型作りの感覚で楽しめます。

キミもパスタ上手になれる

パスタの本

●スーパー・ドーム・スタジアム編●128ページ●定価1,500円●好評発売中

パスタといえばスパゲティ・ナポリタンやミートソースしか浮ばないキミ。世の中にはこんなにたくさんの楽しいパスタ料理があるんだぞ。この本を参考にして、たまには家で作ってみてはいかが?

天才ドライバー、セナのすべて

アイルトン・セナ

●A4変型判●80ページ●定価980円●好評発売中

'88年、ロータスからマクラーレンに移籍、プロストとともにダントツの速さを誇っているセナ。ホンダエンジンとのコンビも絶好調でときには教授(プロフェッサー)をも凌駕する勢いである。その端整な容貌に女性ファンも多くいまやF1界のナンバー1スターになりつつある彼の魅力を満載。

'88年圧倒的な強さを発揮

マクラーレン

●A4変型判●80ページ●定価980円●好評発売中

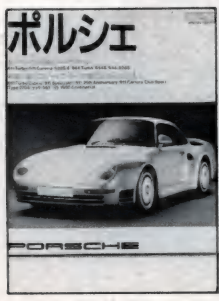
ホンダエンジンの供給を受けた'88年、マクラーレンは周囲の期待通りまさに圧倒的な強さで白星を重ねている。いつの時代もF1の王道を行く、この名門チームの強さの秘密は何なのか。過去から現在に至るまでのマシンを、写真入りで徹底的に解説。

スポーツカーの雄、ポルシェのすべて

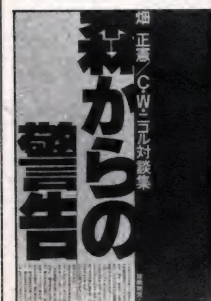
ポルシェ・ブック

●ロード&トラック編●A4変型判●104ページ●定価1,500円●好評発売中

アメリカでナンバー1自動車雑誌として人気の「ロード&トラック」誌が特別編集。959、911ターボをはじめとして、ポルシェの魅力ひとつひとつが凝縮。定評のある解説記事と迫力ある写真で見るポルシェのすべて!

ムツゴロウ・ニコルが世界の自然を語る　畑正憲VS.C.W.ニコル対談集

森からの警告

●A5判●224ページ●定価1,500円●好評発売中

自らを自然の一部ととらえ、木と語り、動物と語りあうふたつの魂が、たとえば知床の森林伐採を怒り、たとえば屋久杉の乱伐を痛み、あるいは沖縄の珊瑚礁破壊を悲しむ。心、知、体に裏打ちされた真のナチュラリストが、失われた人の心を語り、自然を語り、野性を語る。

CBS・ソニー出版　〒102 東京都千代田区五番町6-2 TEL03(234)5801

JUN SKY WALKER(S)

11/26(SAT) 渋谷公会堂

OPEN18:00 START18:30 全席指定¥2,000

9/11★ON SALE

チケットぴあ03-237-9999、チケットセゾン03-5990-9999、丸井チケットガイド03-363-9999、CN21プレイガイド03-257-9999にて発売

※ディスクガレージではチケットの電話予約・販売は一切行なっていませんのでご注意下さい。

INFORMATION : DISK GARAGE 03-239-9900

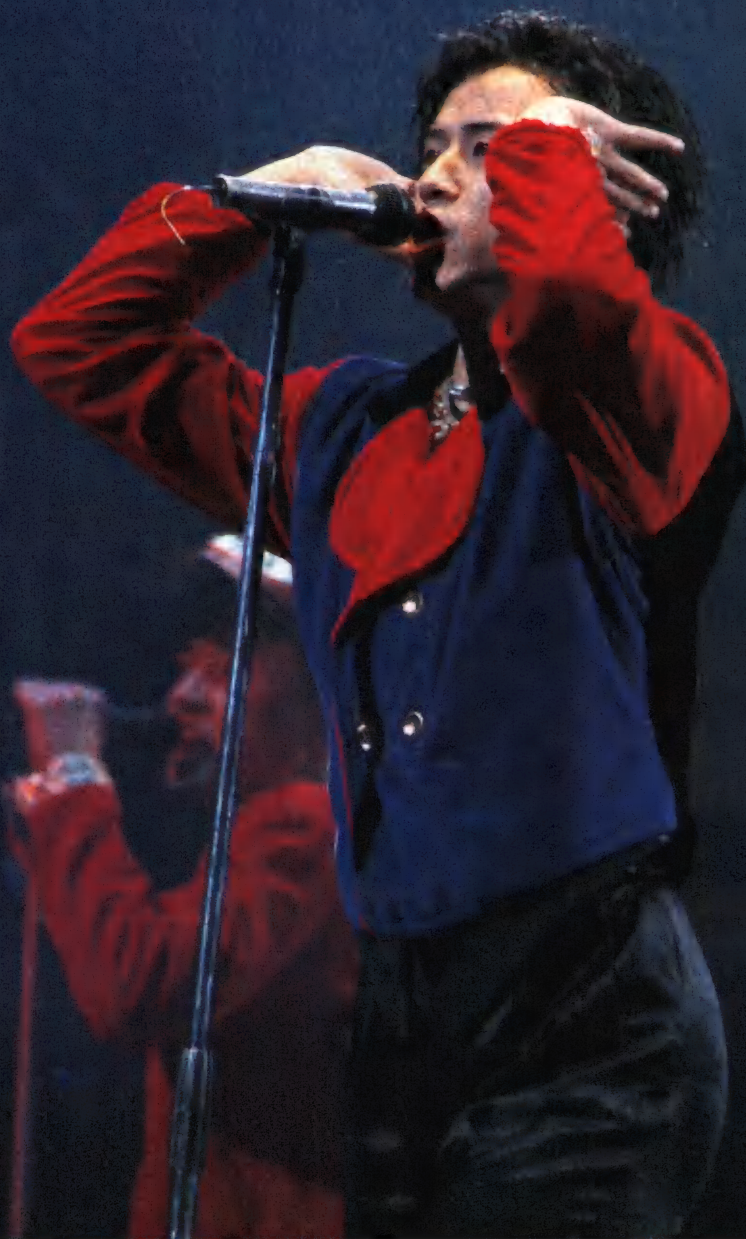
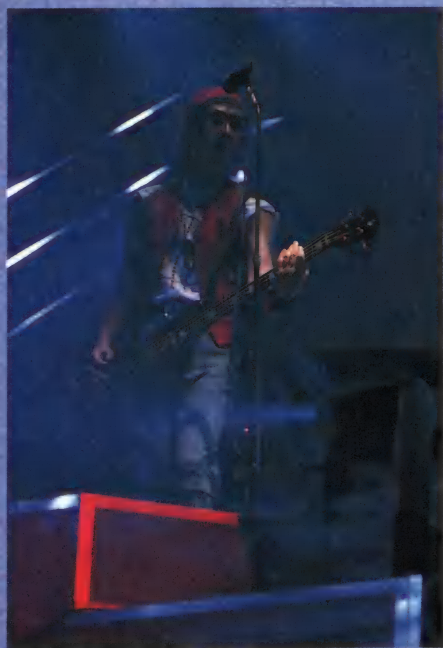
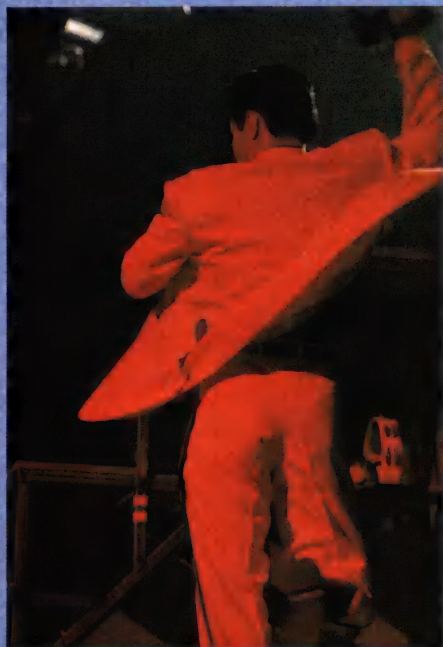
3rd. AUGUST IN FUKUOKA

SCREW

'88 SUMMER TOUR SCREW

THE CHECKERS

PHOTO by HISAKO OHKUBO　COPY by MIHO UTSUNOMIYA

'88年夏を駆け抜けたチェッカーズ。アクシデントの中で
それでも7人は心を寄り合わせ、踊り歌い続けていた。

3rd. AUGUST IN FUKUOKA

SCREW

'88 SUMMER TOUR SCREW

THE CHECKERS

3rd. AUGUST IN FUKUOKA

SCREW

'88 SUMMER TOUR SCREW

THE CHECKERS

8月3日、午後2時5分。機体がゆっくりと持ち上げられ、浮上し、羽田を遠く引き離す。断続的に続く鈍い揺動を身体に感じながら、徐々にこれから旅に出るのだという気分に慣らされてきた。

窓に映るまっしろな雲。その隙間を埋める青い空。真夏日のチェッカーズ——飛行機に乗っている約一時間半の間には、いろいろな記憶がよみがえり、それらのひとつひとつが私にはとても大事に思える。

昨年の夏、ツアー・パンフレットの原稿を依頼され、私はチェッカーズの〝GO-TOUR〟を追いかけた。ちょうど、彼らの初めてのオリジナル・アルバム『GO』が出たあとで、あの強力にロックっぽいサウンドをステージでどう見せるのか、ものすごく興味深かった。チェッカーズはバンドだ。そのことは頭では理解されていても、実際にステージで音となって表現されなければ意味がない。ビジュアルを重視して、パフォーマンスを第一と考えるチェッカーズでも、バンドと問われれば、それに答えるにはステージで作る7人の音を出すしかない。

「みくびっていた」というのが、〝GO-TOUR〟での私の最初の感想だった。長いことチェッカーズにつき合っていれば、ある程度は彼らの力を予測もできるはずだが、それでも30か所におよぶひと夏のツアーでは、彼らのバンドとしての自然な呼吸のしかたを間近に感じ、驚かされた。

アクシデントは山ほどあった。ほとんど出ずっぱりのツアーの合い間を縫ってのテレビ、ラジオ出演、取材等の超人的スケジュール。フミヤの疲れ。マサハルの捻挫。ナオユキのケガ。繰り返されるルーティンの煮つまり。機材のトラブル。暑さにあえいだ球場コンサート、etc、etc。こうしたアクシデントに見舞われたときのメンバーの表情は、意外にもたいていの場合には明るかった。一人じゃない、バンドだからなんとかなるさ、とでも言いたげに、みんな反応のいちいちが淡々としていた。そこには何年も、同じ顔を突き合わせ、恐らくは何度もあっただろう危機を7人で手を組んで乗り超えてきた自信と、お互いの信頼感があった。

バンド・ブームの最中、バンドと名乗ってデビューするバンドはたくさんいる。また、バンドと言い続けて活動するバンドもたくさんいる。けれど、本当のバンドとはどんなものか、それを身体でわかって呼吸できるバンドはそれほどいない。別に、チェッカーズは仲が良いからバンドなんじゃない。長いことやっているからバンドなんじゃない。7人がひとつの生命体となり、機能できるからバンドなのだ。

険悪なムードのときだって、ある。気持ちがバラバラになっているときだって、ある。それを問題とせず、普通のこととし、ステージに立てば演奏でわかり合い、ひとつになれるから、チェッカーズは素晴しい。出来、不出来の波は結構激しいバンドだが、馴れ合わず、未だに試行錯誤しているから面白い。良い夜も、悪い夜も、それぞれにちゃんと価値があった。

ステージが終ったある夜、身体が疲れて飲みに行く気もしないというフミヤと、それではインタビューをしようということになった。そこで私が「チェッカーズは意思統一はしないのか」と聞いたあとの彼の言葉がとても印象的だった。

意思統一……そんなものはかるようになったらバンドは解散じゃない? わかり合えとかな、なんせんでも、メンバーの誰かがたまに横道にそれてきたなと思ったら、ちょっと意見を聞く。常にそういうことをするようだったらダメだね。意思統一なんてとんでもない。そんなことせんといかんようなメンバーだったら最初から入れんやったらいいやん。それロックバンドの中にクラシックのバイオリン弾くヤツ入れるようなもんやない」

飛行機は滑走路を走り、やがて福岡空港へと入る。福岡も、晴れ。チェッカーズは初日、二日目と松山でコンサートをし、九州で4日間のコンサートをする。今日はその2日目で会場は福岡サンパレス。ここは彼らがその昔、LMCのコンテストでジュニア部門のグランプリを獲った会場として有名だ。つまり、ここでプロへのチケットを手に入れた。

開演の30分前に会場に行くと、すでに長蛇の列。並んで待っている間、テレコでチェッカーズの曲を鳴らすのもひとつの風物となっている。

パスをもらってロビーに入ると、ステージプロデュースをしているスタッフが、顔を見るなり、「実はねぇ…」と切り出す。その曇り顔に不安を覚えたが、「フミヤが足にヒビ入っちゃったんだよ」と聞いたときは、さらに深い不安におとしいれられた。痛さと、彼の立場的役割りと、このあとに続くツアーの日数と、いろんなものが頭の中をかけ巡り、気持ちが悪くなる。昨日の4曲目、ジャンプして着地したときに、くるぶしにヒビが入ったんだそうだ。

「大丈夫なの?」と聞くと「うーん……相当痛いらしいんだよねぇ」。

不安はどんどん拡大して行く。

まっ暗なステージに、ぼんやりとメンバーのシルエットが浮かび上がる。地面から白い光が這い上ってきて、廃墟を思わせる巨大なステージ・セットが映し出された。中央にフミヤ、左右にマサハルとモク。一段上がってトオル、ナオユキ、ユージ。そして天井にも届きそうな高い位置にクロベエ。

オープニングは「World WarIIIの報道ミス」。世紀末を思わせるような演出で、今までのチェッカーズにはなかった世界。デジタルのビートが妙に気持ちいい。黒で、袖と襟の部分だけが赤のジャケットを着たフミヤの、腕の動きだけが暗闇に浮かんで、その不可思議な動きに目が奪われる。

と、ここで本来なら2曲目に移るところにフミヤのMC。一瞬シラフに戻されるが、「実は昨日、右足にヒビが入りまして。あまり今日は踊れません。動きが地味かと思いますが、せいぜいノッてやって下さい」と唐突な報告に、会場は騒然。それをさえぎるかのように、「Gipsy Dance」が始まる。いつもならフミヤの踊りの本領発揮がされる曲なのに、右足をかばって不思議な踊りになってしまう。本人も緊張しているのか、額に汗がにじんでいる。

アレンジが変えられて、何の曲かな!? ととまどう「哀しくてジェラシー」歌謡曲の王道を行くメロディーに、ハイ・エナジーっぽいサウンドが加わって新鮮だった。

モクのMC。「ノッてるかーい!?」と問いかけて「というわけでウチの藤井さんがそういうわけなんで、みんな盛り上げて欲しい。いいかな!?」。

応える喚声と拍手。そして「REVOLUTION2007」〝GO-TOUR〟ですっかり定番となったこの曲は、観客とステージのノリが完全に一体化。遠慮しながらの踊りをするフミヤをかばうようにして、モクとマサハルが派手に動いてみせる。

「CRACKERJACKS」「TOKYO CONNECTION」。いつもなら思いきり踵を蹴って、ステージ狭しと自由に踊るフミヤ。このときはああいうふうに踊ってたっけ、このときはこうだっけ、と思い出しながら、彼の今の気持ちを察して不憫に思う。表立ってフォローができるわけじゃないけれど、楽器陣のメンバーもモクやマサハルと同じ気持ちだろう。思い余って、いつも以上に熱のこもったプレイを聞かせていた。

さっきまでにぎやかだったステージに、青い、夜のとばりのような照明が降りると、「MELLOW TONIGHT」。海の中を泳ぐ魚みたいにヒラヒラと、気持ちのいいボーカルをマサハルが聞かせる。本当に、聞くたびに印象を変える不思議な力を持った曲。

「Jim&Janeの伝説」は説明不要。チャート・インをしている旬の力も借りてはじけた。

マサハルのMC。「ノッてますか!? 昨日も今日もたくさん集まってくれてどうもありが

とう。7月21日に6枚目のアルバム『SCREW』が発売されましたが、当然聞いてくれてると思います。（ここで喚声）どうも、どうも。なんか強制的に言わせてるみたいですけど、（笑）この夏は死ぬほど聞いて、よかったら近所のオジさんやオバさんにも聞かせて下さい。えー、藤井さんのカルシウム不足もありますが、みんながガンガン、ノッてくれると足もすぐ直ると思うんで、ひとつヨロシク!!」

例によってのとぼけたMCに会場は大爆笑。こういう神妙なムードのときにも、いっぺんで空気をやわらげることができるマサハルは冗談の天才だ!?

と、懐しいイントロ。なんと、なんと、あの名曲「Lonely Soldier」。ナオユキがサックスを片手にあの照れたような、前髪をかき上げる仕種をしながらフロントに立った。会場をぐるりと見回して、大きく深呼吸をし、そして歌い出す。私達は忘れてはいない。この曲を歌っていた頃のチェッカーズの状況を。当時とは数段違って歌も上手くなり、大人っぽい顔をしているナオユキ。けれどもそのメロディに、その言葉に、切ないような、痛いような思い出がよみがえる。この歌をこうしてまた聞けるなんて……。

「ティーン・ネイジ・ドリーマー」のあとでフミヤのMC。「あのー…みんな心配してると思うんですが。（笑）忘れもしない4曲目、グキーッとイッちゃったんですね。今朝病院へ行ったら医者に『ヒビが入ってる』って言われまして。（『頑張ってー』と声援）踊れないと言いながら結構、踊ってたりするから大丈夫、心配しないで」

全員でアカペラの「ムーンライト・レビュー50'S」、それからドゥ・ワップ。そして今日だけの特別なプレゼント（フミヤ「見舞い返しのつもりで」）「星屑のステージ」。

『SCREW』のテンションの高いサウンドを基調としながらも、テーマは"5年間のチェッカーズ"にあるステージ。そんな気がするメニューのあちこちに、チェッカーズの歩んできた道のポイントとなる曲が散りばめられていて、それが印象に強く残る。

「Rolling My Stone」、「Two Kids Blues」、「WANDERER」。

「ロックンロールは好きですか!!」——フミヤのこの問いかけが出たら、チェッカーズのロックンロール・タイム。「ONE NIGHT GIGOLO」の挑発的なイントロで誘いかけて、観客を興奮のるつぼに叩き込む。フミヤも足のケガを忘れたような、切れのいい動きを見せて、ステージを牛耳る。大丈夫だろうか。見ていてハラハラするほどの動き方だ。「愛と夢のFASCIST」はチェッカーズらしいカラーを持った楽しい曲。マサハルがぶんぶん腕を回しながら走る、走る。そして「GO INTO THE WHOLE」、「YOU ARE A REPLICANT」。これ以上ないような盛り上がりを見せて、会場は沸きに沸く。今日もステージと観客のテンションがピッタリと重なり合い、それだけでうねるようなノリが生まれた。

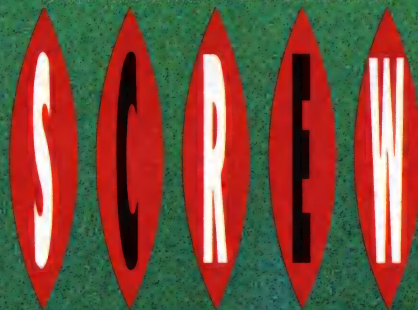
「NANA」を歌い終り、ステージを降りるメンバー。清々しい7人の顔つきが、今日のステージの出来を伝える。

アンコールでは自分がデザインしたTシャツを着て現れたフミヤ。すでに余裕の表情を見せて、No Problem。「TOY BOX」「お前が嫌いだ」、「I Love You SAYONARA」を歌い、そして最後を全員で歌う「Standing On The Rainbow」でしめくくった。

5年間を大切に歌った曲。7人の誰もがそして私達がそれぞれに思いを重ねることのできる曲。

バンドはやっぱり素晴しいし、うらやましい。話し合う必要がないところまで7人の関係を突きつめた5年間は、誰がなんと言っても美しい。友達でもない、家族でもない、恋人でもない、特別な関係のバンド。7人の心が寄り合って、たったひとつの心を輝かす。

何があっても大丈夫だ。バンドだぜ!!

3rd. AUGUST IN FUKUOKA

SCREW

'88 SUMMER TOUR SCREW

THE CHECKERS

THE CHECKERS MINI LIKE EVERYWAY, THAT'S ALL RIGHT.

YAMERARENAI

ONLY THE FUMIYA

[意外とシングルガール] 出演!!

見た？ ねぇねぇ、見ましたか？ フミヤのソロドラマ出演(!?)『意外とシングルガール』。軽いわりには一途に「ねぇ、結婚しよッ」なんて言ってるこの役は、ミョーに気になるのであります。収録に突激。

『意外とシングルガール』、見てますか？ 藤井郁弥氏が役者生命をかけて(というのは大ゲサだけど)、チャレンジしているドラマです。内容をかいつまんで書くと、秋元美樹（今井美樹）25才。ディスプレイ・デザイナーをやっている独身のキャリア・ウーマン。恋人は3人で、結婚をしてもいいような、しなくてもいいような微妙な時期を過ごしている。その3人の男は、津田慎一郎（村上弘明）。設計事務所のエリート課長。そして、堀口春彦(西郷輝彦)。中堅商事会社の課長。妻とは死別し、10歳になる一人息子がいる。そしてそして、柴崎琢也(藤井郁弥)。自称フリーター、今はカフェバーで働いている。この一人の女性と三人の男性をめぐっての、非常に今っぽいドラマ、ということになりましょうか。

はてさて、この話の行方は!? というわけで、行ってまいりました緑山スタジオ。小田急線にゴトゴト揺られながら、行きました。緑山スタジオってねー、遠いのよん。ま、いいんだけど。

8月5日。この日はいわゆる記者会見。金ビョーブの前に出演者、制作者がお座りあそばして、まずは御挨拶であります。

今井「こういうドラマは一年以上ぶりなのですごく緊張してます。正直言って毎朝登校拒否児童になるほど気が重いのですが、出演者の方が楽しい方ばかりなので、緊張の中にも楽しくやらせてもらってます」

西郷「私生活とだぶってるところもあって、やりやすいというか、やりずらいというか、ちょうど22、3、4歳の女の子がいいなぁと思う年令になってきたので（笑）面白がってやらせてもらってます」

村上「根っ子がジャパニーズの役で…。美樹ちゃん見てるとパリジェンヌを想像しちゃうんですね。それで西郷さんがイタリアで、フミヤ君がロンドン子。このジャパニーズがどうやって口説くのか、非常に楽しみにしています」

フミヤ「非常に軽いヤツの役で、自分にとってはやりやすい役です。他の二人の役は当然できるわけがないんですが（笑）。結末はまだわかってないので、美樹ちゃんがこっちに落ちるようになんとかやっていきます」

結構みんな真面目なんだなぁと思って聞いてたら、最後にフミヤ君が笑かしてくれたりなんかして。発言にもあるように、この日の段階では3人のうちの誰に落ちるか、もしくは誰にも落ちないか、結末は見えて

ない。そういう状況の中でドラマ録りは始まったわけです。

8月11日。また来ちゃったよーん、なんてね。緑山スタジオ。楽屋をたずねてみれば、そこには俳優としての藤井郁弥氏がいらっしゃいました。

台本を読みながら「面白いんだけどねぇ、やっぱり知らない世界だからそれなりに大変だよ。オレ、歌は一回も反省とかしたことないけど、演技はいちいち反省するもんね」。

オッ、めずらしく殊勝なこと言ってんじゃん。やっぱ〝ドラマのTBS〟と呼ばれる殿堂に入ったからには気もひきしまるってもんかしら。

「オレ台詞覚えるから」なんてスックと立ち上がり、お部屋の中に込もっちゃったもんね。気合い入ってるー。

と、リハーサル開始、シーンは美樹ちゃんの部屋で、彼女のお誕生日のお祝いに来た3人がかち合うところ。スーツ姿でバラの花束持った琢也に扮して、フミヤ君、迫る迫る。ほとんど地だね、と思うような演技でクサさもまったくなく、もしかしてこの役はハマリだったみたい。美樹ちゃんとの会話もすごくリアルで、脚本も面白いです。あんまりチェッカーズうんぬんとか、フミヤ君うんぬんでなくても単純に面白いドラマだと思うなぁ。

TBS系、毎週水曜日午後9時~9時45分。8月24日よりスタートです。

感想なんぞを、送ってください。

ドラマDE TAKAMOKU

くわーっ。かっこいい…。毎回必ず1シーンはこう思わせるタカモクってば、やるじゃんやるじゃん。もっとやって。

フミヤ君もドラマに出れば、モクも出る。というか、スタートは反対でモクの方が早かったんだけど、なんかドラマづいてますねー、チェッカーズ。

モクのドラマはフジテレビ系、毎週月曜午後9時〜9時54分。こちらは7月4日からスタートしてるので見てる人も多いと思いますが、一応タイトルを書くと『あそびにおいでよ』であります。

こちらも内容をかいつまんで書くと、田村虹子（斉藤由貴）は、老舗のデパート別府屋の食料品売場の定員。ところがある日、彼女に〝企画二部部長〟の人事が下る。21歳の女子店員が、ある日突然部長に。彼女の奮闘記を恋や友情を絡めながらストーリーは展開していくと。

で、肝心のモクの役どころでありますが、名前は天城竹夫。企画部員で態度はかりやたらでかく、上司のウケも悪いという、とんでもない役。ところがこれには裏があって、天城は実は別府屋社長の愛人の息子。最初は女性の企画担当部長に反対していたけれど、やがては支持をするようになるというオチがついている。要するに、いい役なんですね。ちょっぴり挫折してて、でも熱血で根は純情なんてとこ、モクにピッタリの役じゃないかしらん。

でもって、なかなかやる。ワイシャツにネクタイの、普段のモクとはまったく違う格好で、会社員の役をやるモクは、なぜだかカッコよかった。チェッカーズをやっているときのカッコよさとはまた別の。

ブラウン管を見ながら、みんなもそう思いませんでしたか？ なんというか、一生懸命さが伝わってきて、へぇーっと感心させられるんです。

そういえば、今月の取材で福岡へ行ったとき、タクシーの運転手さんが「チェッカーズのヒゲの男。アイツはいい演技するねぇ。役もいいけど、役者もいいよ。ああいうタイプの役者は最近いないもんね」とベタほめしてたっけ。

いつも前向きなモク。頑張って下さい。いろんな人が見てます。

FUMIYA・NA・KIMOCHI 「フミヤな気持。」

あーあ、フミヤ君の骨が折れちゃったよーん。なんて、軽々しく言っちゃいけないけど、ホントにあーあーっていう感じ。ちょうどパチ▼パチの取材があった日の前日だったとかで、ステージはやっぱり痛々しかった。いつもケガしそうで、しなくて、結構注意深くやってんだなぁと思ってたんですが、ま、やっちゃったと。しょーがない。ブックサ言ってもしょーがない。

実際はくるぶしにヒビが入ったということですが、折れるよりヒビの方が怖いといいますから、みなさんも心配だったでしょう。緑山スタジオで会ったときは、意外に平気な顔で「大丈夫、大丈夫」なんて言ってましたが。

「ヒビが入ったとまでは思わなかったの。またネンザやっちゃったな、くらいで。ところがその夜、一気にブワーッと腫れてきて、これは大変だってことになってね。シップからマーサッジから、ありとあらゆることをしたんだけど全部ダメ。で、翌朝病院へ行ったら〝ヒビが入ってます〟だって。ショックだったよ、やっぱり。ツアーだっていっぱい残ってるしさ。でもオレよりメンバーの方がびっくりしてて、松葉ヅエをついて行ったから、もう目が点。ま、一瞬落ち込んだけど、いつものやるしかないって気持ちでね、やった。そしたら踊れたもんね。不思議なことに」

大技をバシバシにキメちゃう彼なのに、こともあろうに1mの高さの台から飛び降りてヒビが入るなんて、お茶目すぎる……。でも、ツアーもほとんど終り、BIG EGGでのファイナルを待つばかり。（この原稿を書いてる時点では）

どんなステージになるんでしょうか。遠くからバスに乗ってやって来るファンの人達もいっぱいいるんだから、楽しいステージでなくっちゃね。ヒビが入ったって言わなけりゃわからないくらいの踊りしてるし、それほど心配でもないですが。

今回のツアー、みんなはどのシーンが好きですか？ 私はマサハル君の「愛と夢のFACSIST」のところが大好き。ポップでキュートで、ホントにドキドキする。ああいうのはやっぱりチェッカーズならではの楽しさではないでしょうか。

関係ないけど今日、評論家の平山雄一さんや吉見祐子さん、ホットスタッフというイベンター会社の永田さん達とお酒飲んでて『意外とシングルガール』の話になったのね。みんな「フミヤ君、サイコーだよね」って絶賛の嵐。で、私が「でも美樹ちゃんはオレには落ちない、絶対に他の二人って言い張ってたよ」と言うと、「それは単に美樹ちゃんがフミヤの好みじゃないだけでしょ」なんて勝手なこと言ってた。（笑）今後の行方が楽しみですね。

涙の予定変更線

これはあるロックバンドの悲しいストーリーです。

C-C-B

PHOTO●SHINJI TAGUCHI　COPY●KYOKO MORITA　STYLING●KOHSON SUZUKI

TOMOHARU TAGUCHI

KOJI RYU

HIDEKI WATANABE

HIDEYUKI YONEKAWA

涙の予定変更線

これはあるロックバンドの悲しいストーリーです。

それは、誰のせいでもなかった。

ニュー・シングルが9月下旬に発売されると断言したのはマネージャーのF。しかし実際にレコーディングは行なわれていたのである。東京タワーのすぐそばにある、あのお馴じみのスタジオで。

それは、誰のせいでもないはずだ。

ツアーやイベントのスケジュールを果敢にもこなしつつ、夜は遅くまで曲作りに没頭していたメンバーたち。あの日、東京プリンスホテルの1階ティー・ラウンジで、

「ウン、まずオレが詞を書いて、それに曲をつけてもらったわけ。つまり、ひとつの詞にたくさんの曲ができたんだよねウンヌン」

と、クラブハウス・サンドイッチを食べながら語ったのは、リーダーのWだ。そのとき彼が、ほんのいたずら心でインタビュアーを騙そうとしたなどとは、これまでの彼の言動を思い計っても、考えられないことである。

幻の〝ひと粒で2度おいしい〟作戦は、消えた。跡形もなく——。

P編集部にその知らせが届いたのは、どしゃぶりの雨が降る過酷な夏休みのある日。

編集担当Mは、そのとき受話器を落としそうになった。

「う、うそでしょう？　だってもう、本は出てるんですよッ」

怒ってみたところで、取り返しはつかなかった。だいたい、NKホールで行なわれる、彼らの〝KEEP ON RUNNING TOUR TOKYO SPECIAL〟の日付を間違えたのは彼女の責任だ。（正しくは10月2日(日)です。本当にすみませんでした。お詫びして、訂正させていただきます）

編集部の電話が鳴った。

「もしもし？　あの、C-C-Bの新曲のタイトル、もう決まりましたか？」

「そ、それがまだ……」

「新曲は誰？　今度は、今度はヨネチでしょ、そーでしょっ？」

「い、いや、それがその……」

「だーって、9月下旬に発売されるんなら、もう決まってなきゃおかしいんじゃない？」

当り前だ。こっちはギョーカイくんの宝庫、CS出版なんだぜ、高校生に言われなくてもジューブンわかっとるわい。……ああ、それなのに。

Mは決意した。読者の疑問を晴らすためにも。汚名を挽回するためにも。さらにP誌のグレード・アップをはかるためにも。彼らのレコーディング・スタジオに乗り込むのだ。そして作業が遅れているというその現場をおさえ、そのレポートを、詳しく読者に伝えよう、と。

深夜の日本テレビ通りは、さっきまで降っていた雨の匂いがたち込めている。Mはタクシーを拾った。ギャラ日まであと10日。しかし、領収証をもらえば、2日で現金は戻ってくるはずだ。細かかった。かなり、細かい。しかし、しがない編集者稼業、細かくなければやっていけない。（アッ、そう言えば、この物語は一部フィクションで、一部ノン・フィクションでお届けしてます。アナタのセンスで嗅ぎ分けてね）

東京タワーの豆電球は、ところどころが消えていて、全部点いているところを、見たことがない。そんなことを考えながらMはタクシーを降り、Nスタジオへと向かった。

狭い階段を降りる。冷房が一切きいていない真っ暗な空間は、不気味な雰囲気に包まれている。

「あーッ!!」

領収証をもらうのを忘れてきてしまったことに、Mは気づいた。

「それにしても、誰もいないじゃない……」

シンと静まり返ったスタジオ。静寂の音、というものがあることを、Mはこのとき初めて知ったのだった。

「いないじゃないよお、C-C-Bは」

彼女のつぶやくとおり、C-C-Bはいなかった。

翌日、Mは彼らが所属しているプロダクションSCに電話をかけた。デスクの女性が、明るい声で彼女の質問に答えた。

「エットですね。昨日からハワイの方へ行ってまして。戻りは今月末になります。何かご伝言をお伝えしましょうか？　あ、そうですか、それでは」ガチャン！

ここのデスクはいつも電話を切るのが速い。それに早口だ。Mは、彼らがハワイへ行ってしまったことへの嫉妬で、何もかもが気に入らなくなっていた。

〝ハ、ハ、ハワイ……!?〟

新曲はどーするんだ、エ、「恋文（ラブレター）」から5か月ぶりの、待望の、シ、シ、新………。

Mは机にうつ伏せた。もう、誰も信用できない、もう何も好きになれない、いいの、どうせ、あたしなんか。

「あのぅ、お電話ですけど」

後頭部から、アルバイトのSの声がした。

「ダレ？」

うつ伏せたまま、こもった声でMは聞いた。悔やし涙が、彼女の頬を濡らしていた。

「ポリドールのミカミさんです」

Mはふるえる手で受話器を取った。

「あ、どうも。お久しぶりです、ミカミです。あのですね、C-C-Bの新曲なんですけども。音ができあがったんですよ。発売日はちょっと延びちゃったんですけどね。そう、10月25日。これは決定です。タイトルは〝信じていれば〟。ね、いいでしょう？　アップテンポの楽しい曲ですよ。詞が英樹、曲が米川、アレンジが田口と米川です」

「あの……」

Mの声がかすれた。

「あの、リードボーカルは？」

「もう、オールスターズですよ。英樹も笠も米川もソロをとるんです。田口はとりませんけどね、ハッハッハッ」

「……あ、そうなんですか……」

「これ、次の号に間に合います？」

「ええ、……ええ、もちろん」

間に合わなくてどーすんだ、レコーディングが終わったら終わったと早く言え……。Mは全身の力が抜け、あとは、オミヤゲを待つばかりの体になってしまった。　（オワリ）

C-C-B

これはあるロックバンドの悲しいストーリーです。

涙の予定変更線

GUITARHYTHM

TOMOYASU HOTEI

FENCE OF DEFENSE III

2235 ZERO GENERATION

荒木真樹彦。

BUHI² BOX

NEW²

●あきらめのまま短い夏がいってしまった人にも、ほてった肌と心をいまだにもてあましている人にも、9月は盛りだくさん。おいしい季節の始まりは欲張りで行こう！

BUHI♥BUHI
・FROM PATi-PATi・

みほりんの恋はしょうがないっ！

JAG TOTOのあげ足とらせて

森田恭子のiKENAiKOTONANO

KONGETSI NO DETAGARi!!
再び!!ステッシャ〜中田(UNiCORNのプロモーター)

S.
SUPER FRiENDS

春を待つ。
春 BY NABERiNOFU。

福岡くるめの
SHiTO SHiTSU KOMiCHi

SOMETTi'S ART SCHOOL
一流絵画教室。

一流絵画教室。

SOMETTI'S ART SCHOOL

SOMETTI

●夏休みとあって、今月は多かったねー。どっさりだ。加えて9月は各地で一流絵画教室展も開かれるよーで、ますます頑張れっ！

TAISHOW

▲東京都　樫村雪絵　20歳
流石、立派！　のこのクチ、この声（がきこえてきそー）　イキオイの良さ、インパクトの強さ、気に入った！

◀東京都　カミナリ小僧　21歳　シンプルだけど全て的を射てる。

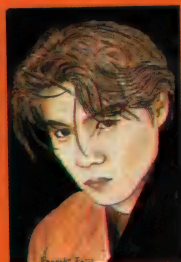
▲神奈川県　長瀬涼子12歳
イーダロー流行のヒマワリ

▲神奈川県　TOHRUさん好きだ
14歳ハッキリ言ってウマイ。

▲山口県　吉原みえ
なぜか聖子ちゃんの民さんをホーフツさせるねー。なかなか丁寧。

◀長野県　牛山知佳　18歳　構成がコッてるね。

▲福島県　なめこ　17歳

◀東京都　こつえのずみ　これ以上ないほどいいアジ出してる。

▲栃木県　清水美由樹
色も構図も元気でヨイ。

◀東京都　世田谷の悪魔　14歳
イヤ、ヘタなんだけどサ、つい……

◀東京都　高橋友美　14歳
14歳のくせに黒いバラ？　味は出てる。

いちりゅうだぜい

BUHI² BUSHI

NEW²

●あー、いよいよ秋ですね。秋の北海道はいいですよね——。（いきなり話題が無理矢理北海道）ゆるやかな丘陵地帯、じゃがいも畑やラベンダーの花畑に風がそよぎます。収穫の香りを包みこんだ風に吹かれて、1人で、あてもなく歩いていく…。適度の運動が体を起こし、つれてまわりの風景といっしょに溶けてゆく。自然が自分の心を柔らかくしていってくれます。そして、そんな風景の中にいる時、想い出す、あの人の顔。「10年、20年後いったいどうしているだろう…」

そうあの人に言って出てきた旅です。

などと気どっていても、トウモロコシはぼくの心をとらえてはなさない。あっという間に、感傷の旅は、食欲の旅にかわってしまうのだ。

というわけで、秋。秋といえば北海道、じゃなかった文化祭。文化祭といえば、言うまでもなく一流絵画教室。（うーん。しかしこの話の展開はほとんど無謀だ）

パチ▼パチでは、君達の学校の文化祭、学園祭で一流絵画教室展を開いてくれるクラス（クラブ、グループ）を募集しているのだよ。

学園祭、文化祭の行われる日時、場所と代表者の住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、〒156-91東京都世田谷区千歳郵便局私書箱25号 CBS・ソニー出版 パチ▼パチ「一流絵画教室展開きたいっ」係へどんどん応募して下さーい。作品を貸し出します。

当然のことであるが、作品は要返却。ちゃんとていねいに扱ってくれる人に限る！ 写真を撮って、事後レポートすることも忘れないでね！

キミの学園祭で 一流絵画教室。 をひろうぜ！

SOMETTI'S ART SCHOOL

▲福岡県　大石尚子　14歳
センスがいいヤツだけ。

▲福井県　中ちゃん大好き
色使い、アイデアともにマル。

▲愛知県　大橋直美　14歳
カーイー、カーイー。

▲京都府　岡安幸子　18歳
久し振りだな岡安。相変わらずアイデアに脱帽。

▲和歌山県　MIHAHA　18歳
頑張ってるのが伝わってくるあたり、好感がもてるねー。

◀福岡県　原田美智子　15歳
キレイな色出してるネー。こーゆー作品も歓迎だ。

▲愛知県　加藤亜衣　14歳　ザツだが銀色がよい。

▲三重県　西川ひかる　16歳
オレの撮った写真もこーなるか。

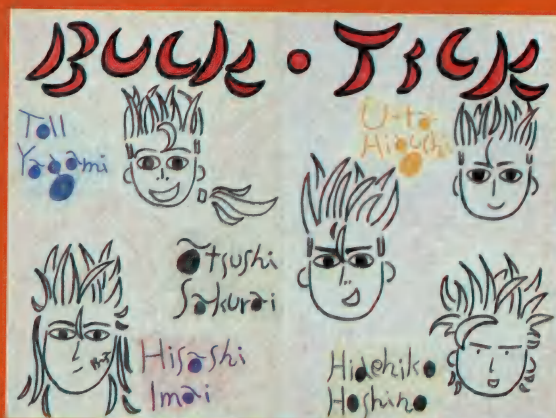
▲宮城県　簡角　19歳
むしろ後ろのハリーが笑える。

▲東京都　賀川佳江　26歳
こーゆーセンス、大好きだヨ。

▶新潟県　細野有子　20歳　細部まで丁寧。書き文字が惜しいところ。

▲東京都　斉藤由佳
常連の由佳。やっぱしウマイ。マンハッタンの風景使いがなかなかニクい。また送って。

◀兵庫県　永井めぐみ　17歳　いい色を使ってるねー。

◀和歌山県　MIHAHA　18歳　今月2枚入選だ。

◀福岡県　TAMAKI FUKUSHIMA　17歳

SOMETTI SHOW

森田恭子のiKENAiK・T・NiNO

8月の喜

そりゃ、嬉しいことも私にだって、ひとつやふたつ。

8月1日は、岡村靖幸クンのPOWER STATIONのライブ。この日が来ることをずーっと前から待っていた。みんな待っていた。フィリップ・ベイリーだって、岡村クンのファンなんだぜ。それにしても、新曲「聖書(バイブル)」は、またまたスゴイ歌。

だけど考えてみたらサー・ここに(喜)を書くのはムズカシイ。他のとちがって、やっぱり(喜)はけっこう個人的なことだからサー。へへへ…。私にとっての(喜)は、だから最近そーゆーことなわけなんですよねー。とは言うものの、キミが考えてるよーなことじゃないわよ。やーねー。ほんとにー。やーなのはオマエの方だーッ。とつっこんでくださいっ

8月28日は、実は今日は8月27日なので明日なんだけど、MUSIC…INGがなんと100回をむかえます。やっぱり喜ばしいよね。この番組で知り合った人もいっぱいいるし。イベントもあるわけで。私みたいなシロートがラジオでしゃべっているのに、みんなハガキさいっぱいくれるようになったし。大阪に行くのはタイヘンだけど(毎週)、パチパチと同じくらいがんばろーっと。別冊ミュートマJAPANもよろしくっ!!

8月の怒

正直に言えばここに書けないこともある。だがっ。

8月8日は、20本くらい電話をかけた。それも大阪から。8月8日はフジテレビの日らしいけどパチパチの日でもあるわけで。月の初めは取材のラッシュでスタジオやカメラマンやライターやスタイリストやヘアメイクさんや、それからジムショとか。電話しまくるわけ。それはいーんだけど、いくら電話とはいえ、マナーの悪いやつがいて、アタマにくるの。そんだけのこと。

8月14日、もちろん日比谷野音に、RCのライブを見に行きました。キヨシロー(さん)も怒ってた。もんのすごーく怒ってた。でも、何でもかんでも、オーッて拳あげて賛同してる人たちが、私にはすごく恐かった。

8月22日、バービーのビッグエッグ。記事にも書いたけど、バラードのときの"パンパパン"はやめてください。ほんとに。しかも「ラサーラ」で……。

Barbee Boysクンの打ち上げウンの話

エンリケおめでとー

カンキーっ

ありがとうございます

うらやましー

杏子ちゃんおめでとー

でも、もうこれについてのコメントはしませんよ!

マネージャー

でも勝手にかくのはいーんだよっ

やっぱりねー

エンリケ結婚おめでとう。

8月の哀

悲しいね悲しいね悲しいね、愛することためらうなんてェー♪

8月6日、大好きな友達(内緒)を誘って、インクスティックのPSY・Sのライブに行こうと思っていたところ、もう一人のすごくおもしろくて大好きな友達(ヒミツ)から電話があって飲みに行こう、ということになった。で、行ったんだけど、私ったら、途中で気分がどーにも悪くて帰ってきちゃったの。ダッセー。最近、気持ちと体がうまくかみ合わないの。それが何よりも何よりも悲しいこと。

8月11日、ルックのライブin MZA有明。アンコールで、とーるクンは"少年の瞳"をうたう前に"坂本九さんに捧げます…"と言った。私も坂本九さんのファンだった。日本人でただ1人、ビルボードの1位になった歌手だよ。って、彼はそれだけじゃなくて、ほんとにスゴイ人なんだけど。今だったら、ロックやってたんじゃないかな。

ルックスリーグのMAKOTO-SAN!! 色エンピツありがとう

8月の楽

毎日楽しく暮せたらいいね。もう何も考えたくナイ。

8月5日、パチパチの妹(?)"TYO"の取材で荻野目洋子ちゃんの取材をした。アイドルのインタビューはいろんな意味でむずかしいので、もう引きうけないことにしてたけど、洋子ちゃんは別。とても頭が良くて、言うこともアーティスティック。

8月9日と10日、自主的に夏休みィーッ!!ってことで新潟までBUSに乗って行っちゃったわよ。そこでイベントやってて、BoModernやジュンスカやSUPER BADが出てたわけなんだけど、結局、休みと言いつつもイベント行ってて、それをパチロクに書いてる私・これは→の哀のコーナーに書いた方がよかったかなー。でもね、楽しかったよね。バスの中でビー・モダンは4人でヘンな歌を作ってました。これがビー・モダンか、と思うくらい、ヘンな歌。明るいヤツらだなー。(それでも一部ではコワイと言われている。コワイときもある……) 9・21発売の『ENCORE』はとてもヨイ。あんまり興味ない人も、きっと見直すと思うヨ。ウン。関係ないけど、大江千里くんの"eZ"、よかったね!!『1234』も大好きで毎日聞いてるの。ナゾも解けたし。THANKS TO SENRI-KENN & キヨミニ。

KONGETSI NO DETAGARI!! 再び!!スラッシャ〜中田(UNICORNのプロモ〜タ〜)

●先月号のこのコーナーに登場してくれたスラッシャー中田くん。あれだけ悪ノリのすぎた記事にもかかわらず大人気。質問が数通やってきた。で、今月は本人が直接答えてくれた。

Q：今月のでたがりNO・5に出た中田研一SANのプロフィールと仕事の内容を教えてっ」(ペンネームTWILIGHT)

A：あのねェ、質問に答える前にひとつ触れておきたいんだけどさあ、一体何なんだよ前号の紹介記事は!! マコトしやかにオレのセリフ入れたり、現場の状況説明したりして書いてたけど、あんなもん全部ウソっぱちじゃねーか。冗談はわかるけどありゃヒドすぎるよ。最後のキチク呼ばわりなんか悪質すぎて笑えねーよ。もっと真剣に活字の影響力考えろよ! 文章書いたパチロクの小林! パチパチもあんなムチャクチャなもんそのまま載せるな!

……てなわけで怒りは殆ど頂点に達してるわけだけど、ぼちぼち本題の質問に答えることにしましょう。

プロフィールはタレントじゃないから教えません。仕事はユニコーンの場合、雑誌の取材について、いろいろアイデア考えてビジュアル作りをすることです。例えば今度の○○では川西君の個人インタビューやろうとか、次の××は上野公園で撮影してこういうページを作ろうとかネ。それで編集担当と話してカメラマン、ライター等をピックアップしてスケジュールを組んだら、現場で企画を進行させるわけです。それなりに大変なこともあるけど、プロデュース性のある仕事だから面白いよね。以上回答終わり!!

P.S 前号の記事を書いた小林さんの言い訳はパチロク10月号のKIDS ARE ALL LIGHTに載ってます。

イラスト●中田研一

BUHI² BUHI NEW²

いろいろあらーな

●そーなのだ。今夜も長電話をしてしまって、原稿がなかなか終わらない。ごめんなさい、編集の吉田さん、きれいな吉田さん。も少し待ってね。盛り上がっちゃったのよ、電話。それにしても、幼稚園が一緒で思えばスゴク長い付き合いの田村義明、キミは一体なにを考えてるのだ。「オレにハリウッドをさせてくれるオンナがいない」とか言っちゃって。笑うなぁ。でもね、みんな気をつけて。男の子がどんなに悪いことたくらんで日々暮らしているのかを、今夜はいっぱい聞いちゃった。だからせいぜい気をつけながらも、少しは悪いこともされたいなーとか……。ま、それよか先に仕事ですね、仕事。

Q くるめさま、このコーナーだけがたよりです。私の質問に答えて下さい。一生のお願いです。米米のカールスモーキー石井さまの使われている時計と男性化粧品がどこのメーカーで何というか、そしてよくきくお気に入りのレコードについて、愛するてっぺいさまにきいてもらえませんか? どうかお願いします。(大阪府 平郡美佐子 15歳)

A お答えは……時計はグッチ! 化粧品はギア! 香水はシャネル! よく聞くレコードはサティだそーですが……編集担当のえりちゃん曰く「最近米々のライブでは、洋服は? アルマーニ! 金歯は? ティファニー! 上から下まで? ブランド指向! なんていう掛け合いが流行ってますからねぇ」というわけで、今回の答えも、どこまで本気にするかは、あなたしだい。しかし、いつだって石井さんは、うまいなぁ。いいなぁ。

Q 私はLOOKの大ファン! 函館に来てくれた時はもちろん行きました。とっても感動したっ。よかったよー。今思い出しても顔がほころぶ…。えー、では質問です。あのLOOKのサポートメンバーの江口正祥さんについていろいろ教えてくださいっ! なんか江口さんは美青年で綺麗ですよね。どんなことでもよいですから、お願いします。(北海道 北海道の山おやじ)

A 確かに、江口さんの明るさと、キレてきた時に出る満面の笑みにはステキなものがあるよね。彼はS35・4・16生まれのA型さん。LOOKのツアーに参加する前は、尾崎くんやShogunなどのバンドでもプレイしてました。ギターとビールを愛する彼からのメッセージとしては「僕は100mハンサムらしいので、皆さん、100m以内で僕を見ないように」ですって。そんなことないよね。いつも元気で、楽しく明るい江口さんは、LOOKのライブに欠かせない存在。ファンレターは、LOOK's LEAGUE内、江口正祥さま宛でね。

Q くるめさん! 8月12日と13日に芝浦インクスティックであった東南西北のライブの曲順を教えて。(広島 セニョリータ 聡子)

A "ムーンライトガーデン"とタイトルされた12日。『①君の名前を呼びたい②水色のドリーマー③内心Thank you④Misty Lola〜君の朝に逢いたい⑤空翔ぶUmbrella⑥マリオネットの涙⑦不思議な小鳥⑧Tonight⑨忘れそうな言⑩ため息のマイナーコード⑪I LOVE YOU(は嘘の言葉)⑫NO-SERIOUS⑬木枯らしの少女〜Bad Girl But Girl⑭微妙な気持ち⑮Atmosphere⑯彼女のIn Side⑰Shadow Dancing⑱星を抱きしめてDance Away』。13日は"ザ・サンシャインガーデン"『①星がっちゃうねジャマイカ②レゲエな気分③レゲエNight④アイ ショット ザ シェリフ⑤MANY RIVERS TO CROSS⑥星屑のブロードウェイ⑦Hey My Little Mama⑧星を抱きしめてDance Away〜コパカバーナ⑨NO-SERIOUS⑩木枯しの少女〜Bad Girl But Girl⑪INNOCENCE〜僕がここにいる⑫イタパローカ⑬Charmin' Chime⑭絵に描いたよりPictur-eness⑮時間切れでもBe My Girl⑯Shadow Dancing⑰エイトビートのLove Letter⑱君の名前を呼びたい⑲アロマティック』

福岡くるめの

私はひたすら暗〜い

受験生なのですが、ついついTVを見て一日をすごしてしまうのです。そして夜遅くなって「さあー勉強しようか」と思うと必ずあくびが出て、「明日から勉強しよーっと」ということんな毎日を過ごしています。これで受験生かッ?(兵庫県 とも♡ 17歳)

☺"今日できることは、せめて明日に延ばして、今宵…"。この言葉を聞くと、なぜか力強く"そうだわ"と思ってしまうんだな。

●この間タンスとタンスのあいだにてっぺいちゃんの写真を落としてしまったのダ。夜中だったものだからてっぺいちゃんは一晩中そこで…あーん。ごめんねDD(神奈川県 てっぺいちゃんのおよめさんねらい16歳)

☺一晩中…彼は絶望の谷間で戦かっていたんでしょうね。でも、電気をつけ、希望の灯をともせなかったの?

先日バイクで、お寿司を運んでいると、

前からバイクで走ってきた酒屋のおばさん(50歳ぐらい)に、「おばさんっ、おばさんっ」と呼び止められてしまった。(長崎県 私は21歳 21歳)

☺うーむ。21歳でおばさんっか……。さしずめパチ▼パチはおじいさんとおばあさんが作る元気マガジンだな。

●たいした事じゃないんですけど…なんか恥ずかしいから、まだ誰にも言ってないんですけど…… "バガボン"のお父さんてはっきり言ってバカでしょ? ほんとに何も知らないんだもん……D それなのに、バカボンとはじめChan、2人も子供つくって…。子供の作り方だけは知ってたのね…… フフフッ(茨城県 男次郎の妻 15歳)

☺そうね、それだけは忘れないものなのね。あれ…でも、ぼくは…あれ? あれれ? どうするんだったっけ? ここんと仙人のような生活…。

この前BAKUFU

-SLUMPのコンサートに行ったとき、私が客席でとびはねていると、となりの席の見ず知らずのおとこの人も飛びはねたので、私は負けてたまるか! とばかりに高く飛びました。するととなりのおとこの人もまた……というように2人の争いはコンサートが終わるまで続きました……(愛知県 私は幸子 しあわせよ♡ 14歳)

☺そして、"高飛び"が伝染していき、そこらじゅうもぐらたたきみたいになったら、楽しいな。

ためいきアベニュー

あたしのか・ら・だ

●私の鼻の穴って♡(ハート)型なのっ(ちなみに両方!!)(神奈川県 峯村博子 17歳)

●7月24日日曜日、私はHOUND DOGを追っかけて大阪球場まで行ってしまった!! "ぼんまに言葉ちがうねんなー"とか大阪のKIDSに言われて、"ワーイ、大阪弁だー"と喜んでしまった。帰りにバスの所まで見送りに来てくれた大阪のKIDS本当にありがとうね。西武球場で待ってるよ!(千葉県 ゆけゆけKIDS 17歳)

☺いやー、ハウンド・ドッグのお客さんいい子がいっぱいだな。

この前、岡村靖幸くん

の「DATE」のカセットを聞いていたら、妹が来て、「なに、これ?」と言って、しばらく聞いたら、うちの父に「おねーちゃんがへんな、スケベなカセットテープ持っとるだけー!」と言ってしまった。父は、少しうらやましそうな顔をしていた。(鳥取県 むねちゃん 15歳)

☺今度は父に「へんな、スケベな舞台に連れてってあげる!」といってコンサートに連れてってもらってしまお!

私はコーヒーが嫌い

です。お金もありません。なのに美里はコーヒーのCMで、てっちゃんは12万円もするEOSのCM。私は悲しみのずんどこ節です。もしMATSU-BOWがチョコレートのCMなんかしたら、チョコレートを見るのさえ嫌な私はどーすればいいのでしょう!どーせならみんなビールのCMにしてほしかった。ビールなら飲めるから。(三重県 折戸久美 17歳)

☺おい、おい、実名でええのか?

●この間、何気なく近所を歩いていると、川でカメが泳いでいた。私の住んでいるところはこんな田舎です。(福岡県 以心伝心 20歳)

☺きっといい風が吹いてる所だろうな。大好きな人みたいな所だろうな。

ついこの間まで"H

ONEY"には"はちみつ"の意味しかないと信じて疑わなかった私は、BOØWYの"MY HONEY"をはじめ、"オレのはちみつ"なんてヘンな曲! と思っていた……数多くの曲の詞を誤解していたようです。(北海道 江口琴 14歳)

☺"オレのハチミツ"とBOØWYが歌ってる所を想像すると、なんだかとってもほほえましいなあー。

CHAKA
PSY·S

みほりんの恋^{2}は、しょうがない。

Ⓒby MASAHARU TSURUKU

撮影●豊浦正明

PSY・Sのチャカです。小さい身体で大きな希望や愛を歌っています。SFっぽい衣装を着て、クルクル踊るステージのチャカもチャーミングだけど、実際に会うチャカもチャーミング。無意識の色気、みたいなものが漂ってる人。

話せる範囲の話しをして下さい、と取材前に説明したら「なんでも話しますよ、私は。みなさんのために」と、堂々としたもの。横からマネージャーの人が「怖いもの何もないですから」って言って笑ってるあたりにチャカの現状が見えました。(笑)

「怖いものはねぇ……天変チョ――マネージャー『天地異変でしょ』――あ、大変地異。(笑)。あと電池が切れたワイヤレス・マイクと運命」

運命、信じてるの?

「信じてるっていうか、運命はあると思う。私はなぜか女に生まれたし、日本に生まれたし、今のお父さんとお母さんの間に生まれたし。別になんの約束事もなければ、どんなカタチで生まれてきてもいいはずなのにこうやって生まれたってことはさ」

「前世は男だったような気がするの、それもすっごい美男子の。(笑)それで女の子をさ、『ブス』とか言ってイジめてたんじゃないかな。きっとそんなこととしてたから今、歌でみんなに楽しみを与えるようになったんだと思うな」

なんというか、それってかなり夢見る少女的な……。

「あるある、そういうとこ。一人っ子だからいろんなこと考えちゃって、手紙とかすごい好きでこれ読んでるときはどういう状況だろうって想像しつつ書いたり、突拍子もないときに電話かけたりするの好き」

チャカは女子校育ちでありました。一人っ子で女子校とくればほとんど王道のパターンを行ってるわけで。

「高校のときは自分で『男嫌い』とか言ってたの。(笑)好きだったのはブライアン・メイとポール・スタンレーで、外人だからいい、みたいな。日本人て日本語話すからすごいリアルじゃない。なんか土足で入ってこられるみたいで、男の子はがさつで嫌!とか思ってたんだよね」

ありましたね、そういう気持ち。それはパチパチの読者の皆さんがアイドルを想う気持ちと同じようで、雑誌のグラビアに想いをはせるのと同じようで。

「あの頃ってみんな適当にいろんな人とつき合っては離れたりして、すごく簡単だったでしょ、でも今思うとあの頃の恋の方がホントだったような気もするの。だってタイプも何もないうちに好きになれるんだもんね。今だと男はやっぱりタラコ唇よ、とか言ってさ、ホントはそんなの関係ないはずなのに。いつの間にか好きになっちゃってたっていう昔の恋の方が純粋なような気もするな」

う―む。しかし恋も昔話しになっちゃマズいんじゃないかと。

「今はね、だから片想いしてるの、5人くらい(笑)」

5人―!?

「うん。ジェシー・ジョンソンでしょ、プリンスでしょ、双羽黒でしょ、萩原健太さんでしょ、高橋健太郎さんでしょ、岡村靖幸くん。いっぱいいるよ。」でもこういうのって、片想いって言うのかなー!? わかんないけど。ちなみに傾向としては「無口で素朴で何かに打ち込んでる人」。

浮世離れしてる人が好きなのかもしれないね、女子校のなごりで。

「ん―…男の人は基本的にみんな尊敬してるけどね。みんな純粋だもん、どっかで」

純粋じゃない男もいるんじゃないの? と言うと「そんなことないっ」とキッパリ返せるところもチャカのチャーミングなところかな。

チャカ情報▼FMFUJI(78・6MHZ)木曜24:00〜24:55〝鉄腕チャカのBig Kitchen〟でチャカのDJがきける。▼12月から、Non-Fictionツアースタート。

このあいだテープに

自分が歌っているのを録音して聞いてみたの。自分じゃけっこううまいと思ってたのに、聞いてみたらまあーへたくそ、へたくそ うう、お姉ちゃんはうまいのになんであたしは… 誰かっ! 歌おしえてぇ (東京都七日間戦争 12歳)

誰もが一度は、傷つき、通り過ぎていく失恋に似たせつない気持ちだよね。ぼくもオザキくんみたいに歌えたらなあ。

●きいて!! 学校の帰り、電車に友達と5人ぐらいで乗りました。外は雷がなって雨もドシャ降り… 降りた人も、ホームを駆け足… ある大学生みたいな人が、胸のポケットにサングラスをかけてて、走り出したとたん、そのサングラスが足もとへ落ちた。それを電車の中で見てた私は「落ちた!!」とでかい声を出した。何も知らない他のおじさん、おばさん、にーちゃん、ねーちゃんは、雷が落ちたのかと思い、「どこ? どこ?」頭をキョロ、キョロ… 自分の行動に気付いた私は赤面、友達は他人のふり… そのあと私は〜〜〜〜。(福岡県 北斗七星 15歳)

そうかあー。となりに受験生がいなかったのが、せめてのなぐさめ。

天井にウツのポスター

を貼った。今は毎日、ポスターの下にふとんを敷いている。早くウツが落ちてこないかな〜。なんて考えている今日の私。(兵庫県 はひふへほ 13歳)

ついにウツが落ちてくる…君は寝相が悪くソッポ…ウツは1人…窓から吹いて来た風に乗って…ウツは1人旅…。

●えっと私は今、〝米米クラブを富山によぼう〟という署名運動をしています。米米のみなさん、富山は、お米がとってもおいしいのでコンサートに来てください♡ (富山県 柳瀬明子 13歳)

担当編集のエリどんから伝えておきます。「富山にごはん食べに行って、泊まって帰ろう」って。

今さらになって大友

さんの左手を見ると悲しくなるのです。チ、チクショー! (東京都 やっぱのマサコ15歳)

数か月前、ぼくが失恋した女の子右手にも…。幸わせになってください。

●グラスバレーのライブに行ったんだけど、出口さんはなんと、自分のしていた腕時計を投げてしまった。大人は金持ちでいいわよねぇ。(福岡県 がぼる 18歳)

あれは後で係の人が取りにくるの。

BUCK-TICK

は千葉のマザース(ライブハウス)から出たみたいなんだけど、近くのダイエーにはよく通ったか、教えてほしいっっ! (千葉県 広石武子 17歳)

そういえば、ほうき売り場に立っていたら、危うく買われていかれれそうになったというのを聞いたことが…ナイナイ。

●「ふたりぼっち」の中で、福田健二(近藤敦)がコン○ームをおザブの下にかくしてあわてるシーンがありましたが、私の知人は弟と映画を見たため、その時「ねぇ、お姉ちゃん、あれは何? 何?」と聞かれ、周囲の人々の注目を浴びたそうーです……。悲しい。(愛知県 藤田佳子 21歳)

中学1年の時、何も知らないぼくらはあれをふくらませてバレーボールをした。あの時赤面した女の子。今思うと、とても早熟だったんですね。

私の小学2年になった

弟は、杏子さんのファンで、最近、浜田麻里のことを「この女きれいだな」と言っていた。さすが私の弟! 目が高い。と思いながら、将来が少し心配な今日この頃 (福島県 相馬恵 15歳)

ああいいな。「この女きれいだな」と言って素直な男の子。それだけで、女の子に感動できる感性はいつの間にか失せて…。さびしい。

●美里のUCCカンコーヒーのCMで、ビデオを録ろうと、いつも一時停止と録画ボタンを押して待ってるのに、一時停止ボタンを押すのが遅れて、最初の部分がどーしても映らないのです。CMが流れる前に一言「やるよ!」と言ってください。(新潟県 大沢のぶよ 14歳)

美里ちゃんなら、「やるよ!」って言ってやってくれるよ。プリティ。

●絶ッ対にいると思うのです。どーしても〝尾崎豊〟を「尾崎ゆかた」ってたとかごっちゃにする人…。(それは私です…) (千葉県 哲Chanの妻!? 14歳)

とよと思わなかっただけましです。

電車に乗っていたら

突然4人のおばさんのよっぱらいが乗車してきて、大声で話していて、ある1人のおばさんが「今何時?」ときくと、となりのおばさんは「10時48分」と答えた。でも本当は10時18分だったので、私はささやくように教えてあげた。(福岡県 CANDY 17歳)

おばさんのよっぱらいか……あの子もいつかはそうなるのかな…いや、そんなことないな…あの子は特別だよな…いつまでも、今のまま…。

BUHi² BUHi² NEW²

秋は恋をしよーぜ♡

●見ただけでわかるでしょ？　誰に似てるかなんて。体育祭の時の団長さんなんだけど、私断りもなしに出しちゃったから名前は書きません。でもねー、先輩吹奏楽部で〝ユーホニューム〟っていうのをふいてるんだ。今度冗談でSAXなんて持ってもらえると嬉しいんだけど……　顔だけじゃなくて、性格も似てるんでびっくりしちゃった。（新潟県　佐野くん　17歳）

😶うんうん、見ただけでわかる！　シーナマコトさんね、あのビールおいしそうに飲む人……　え、ちがう？　うーん、誰に似てんだろう？　わかんないなー、ぜんぜん、全く！……なんで、〝性格も似てる〟なんて不用意な発言すんのよっ！　てめーはナオちゃんの性格知ってるのかよっったくっっ！（ブリブリブリ…）でもま、今月は似てるということは認めよう。

で、突然の思いつきではあるが、ちかごろ巷で流行のナントカボーイズってやつをパチ▼パチでも募集しようかなっ、なっなどと……。しかしもちろん我らはパチ▼パチ、ただのカッコいい男のコを選ぶだけじゃつまらない。せっかくSUPER FRIENDSのコーナーもあることだし、アーティストそっくりさんかつかっこいい男のコンテスト。皆で投票しよーぜ。ハワイ旅行もクルマも当たらないけれど、きっときっとメリットはあるぜい。下の☆に続く

SUPER FRIENDS

●この写真を見て下さい！　どーです、誰かに似てると思いません？　私たちのクラスではもう評判です。BAKUFUの河合さんにそっくりだと…　学校で撮った写真だから、服装とか立派じゃないけど、顔は立派に河合さんでしょ！（千葉県　私が河合のマネージャー　15歳）

😶ちゃう！　これはちゃう！　河井さんのあの味を出すのは10年早い、10年。ま、けっこうイイ味をもってるコだとは思うが。がんばれ。

☆というわけで応募の仕方。あなたが、アーティストに似ててカッコイイ！　と思う男のコの写真、すいせん文を〒156-91　東京都世田谷区千歳郵便局　私書箱25号　CBSソニー出版パチ▼パチ編集部　BUHi♡BUHi　スーパーボーイズ係へ送ってください。締め切りは10末日。第1審査の発表は1月号誌上で行います。で、選ばれたスーパーボーイズと、そのすいせん者には賞品をお送りします。NEWパチ▼パチオリジナルTシャツ他、BUHi♡BUHiグッズと、お好きなアーティストのグッズをお送りします。

それ以外に、何らかのカタチでBUHi♡BUHi誌上に登場していただくこともあるかもしれないのでヨロシク♡（あ、見もしない人に♡とばしてしまった…（インランかしら♪♪）

というワケでヨロシク、盛り上げよーぜイ。

春を待つ。BY NABERINOFU。

『そうだなー。1年に1回ぐらいこういうことってあってもいいよね』

そう思うようなことって、ある。

PM11：20。最終の急行電車が、家路に何とかたどりついた、顔を赤らめた人々を乗せて駅を出る。

自分はといえば、アルコール分0%、あれこれ仕事のことが時々フッと思い出され、また消えといったさめきれない頭で、ガラス窓の向こうに広がる景色の闇をみつめてる。そして、ふと気がつくと、その闇の奥に一人の女の子のキュートな顔。

そう、なんのことはない。2〜3人の距離を置いた隣りに、同じように吊り皮に片手を置き、ガラス窓の外を流れる風景を見つめている。しっ黒の中で、たまたま目線が合ったというだけだ。

その時、ぼくは勝手な想像をする。〝きっと、ぼくと彼女は相性がいい〟〝話題も共通〟。〝今度、何かの偶然で、また車内で会って、何かのきっかけで話をする…〟。そんなあるはずのない前提のもとでのささいな遊戯。

車内アナウンスで、無理矢理の降車指定。ちょっとした幻想もジ・エンドで、駅に降り立つ。彼女は当然の如くおりはしない。最後の感情のダメ押し。駅を出ていく電車を見送る。

次々と人々が右から左へと流れてゆく。そして、その流れゆく人々の中に、彼女の微笑みをたたえて、左手をそっと振る姿を見る。

サヨナラ、もう2度会わないだろう君へ。

JAG TOY（ジャグトイ）のあげ足とらせて

●最近、海へ泊まりに行ったんですけど、ちょっと頭にきてます。〝なぜか!?〟というと声をかけてきた人全員、おじさんなのです！　15の女の子に20すぎのおじさん！　どうした！　20すぎてもカッコ良ければね…（東京都　福野まゆみ15歳）

カズ　20（ハタチ）すぎでおじさんかなー

シュンジ　15のコにおじさんって言われるの、ショックだナ。

ケンジ　28、29でも20すぎになるのかな。

アム　なるでしょ。

ホッチー　いや、50でも20すぎにはちがいないよ。

カズ　（笑）極論だね　ホッチーは

アム　ナンパされるだけ、いい方じゃないの？

カズ　オレの友だちに〝ナンパしてください〟ってお願いされたヤツがいるらしーよ。〝誰も声かけてくれないの〟って

ケンジ　ナンパかあ…　オレナンパしたことないからなー……

アム　自分で気が付いてないだけでやってるんだヨ。（笑）

カズ　酒が入るとイキナリキスしちゃったりってあるよな、ケンジは

ケンジ　（笑）よく平気でそんなコと言うねー、ホントにそんなヤツだと思われたらどーすんだヨ！

カズ　話がそれてるけど、10代の男のコに声かけられたければ、かわいい水着着れば？

アム　そーだよ、きっとこーんなの（ハイレグの振り）着て大人っぽいから20（ハタチ）すぎに声かけられたんだ

シュンジ　でも水着って高いよね。（ボソ）

アム　でもオレかわいーったってスカートの付いたヤツ嫌い

全員　あれぁーやだねーっ

ケンジ　やっぱワンピがいいよ

カズ　ツウだねー　ワンピだって！

アム　ハイレグすぎず、かと言ってスクール水着すぎずってのがいーね。

カズ　でもそれって、結局25、26のヘンなヤツのシュミになるんだヨ。でそのヘンから声かけられると。

JAG-TOYライブ情報▼10月20日　大阪アムホール　10月22日　名古屋ハートランド　10月27日　渋谷Egg-man　問 SOGO☎03(405)9999

LIVEに御招待♡

プレゼント

●資生堂から新発売された「シピ」は10代の女のコのための肌、ボディー、髪のトータルケア化粧品。10代の女のコの肌や髪の特性のコトがよく考えられて、10代本来の美しい状態が保たれる本格化粧品。植物成分配合で、香りはさわやかなシトラスフローラル。パッケージも写真のようにかわいい♡（定価・350円～800円）

この発売を記念して、なんと、ペッパーボーイズのライブが行われます。（10月8日、日清パワーステーション）

この〝「シピ」WELCOMES LIVE〟に読者を10組20名様御招待。希望者は官製ハガキに住所、氏名、年齢を明記して、次の宛先まで送ってください。

〒156-91 東京都世田谷区千歳郵便局私書箱25号 CBS・ソニー出版 パチ▼パチ編集部「シピ」WELCOMES LIVE係。

締め切りは9月20日。

このWELCOMES LIVE、11～12月にあと2回行われるそうで、とっても楽しみ。

音のマジシャン！

●キーボード大好き、鍵盤と遊ぶの大好き、もちろん音とリズム大好き、大好き、恋してる♡だからもっともっといろんな音知りたい、いろんな音に恋したい、いろんなコトして音と遊びたい♡♡ だけどだけど、いろんな音、自分で作って、音のマジシャンみたいになりたいけれど、私は若いの、お金がないの。とても買えない、いろんなフクザッセンシン機能付きのキーボード💧💧💧

と涙をのんでた人は、ヤマハのこのデジタルボイスサンプラー、VSS-200（定価・29,800円）が、すべて解決してくれます。

だって100音色のボイスバンクに、すばらしいサンプリング機能とボイスエディターetc。それでもってこの値段♡明日からもう、音のマジシャン。

小さくてもパワフル

●電車に乗ってても、道を歩いていても、いっぱいいる、ヘッドホン仲間。コードの色なんかで、何となくこの人はこんな人で、きいてる音楽はこんな音楽なんだろーか？ と想像してみたり。「ア、コイツはあんまりおしゃれじゃねーな」なんて心の中でつぶやいてみたり。

とにかくいい音を、小さなインナーイヤーヘッドホンからもききたい、重低音の響きも、デジタルサウンドの鋭さもバッチリ感じていたい、というのが音にウルサイ、音にはこだわる人種の願い、アタリマエの思い。

で、そーゆーラブコールに応えて登場したのがDENONのAH-C30。（定価・2,400円）ダイナミックトーン回路が迫力の重低音を再生、CCAWボイスコイルとサマリウムコバルトマグネットにシャープな音域はおまかせ。もちろん外見もおしゃれにカジュアルな3色です。

カンタン、管楽器

●管楽器といえば、音を出すだけでひと苦労、ふた苦労…ちゃんと音を出せるようになる前にイヤになってやめてしまう…なんてコトも、ありがち。とにかく、とっても難しい楽器っていうイメージが定着してる。だけどもちろん、気持ち良い音出してるコンタの姿なんか見ると、〝オーシ、私もひとつ！〟なんて挑戦したい気持ちはヤマヤマなんだけど……

で、なんと、登場しました、『カシオ〝デジタルホーン〟DH-100』（定価・33,000円）。「管楽器の持つ演奏技術の難しさを電子技術により解決した、誰にでも簡単に楽しめる電子管楽器」なのだそうで。

『デジタルホーン』なら、唇を振動させる、なんつー難しい技術なんて、ぜんぜんいらない。息を吹き込むだけで、簡単に発音できるし、息の強弱で音量、音質のコントロールもできるから、感情表現も思いどおり。

サキソフォン、トランペット、シンセリード、オーボエ、クラリネット、フルートの6種類のプリセット音が搭載されているから、6種類の管楽器が楽しめる。タテのフルートっつーのもなかなかユカイだね。

スピーカーを内蔵しているところもエライ。ヘッドホンだって接続できるという隣、近所への細やかな心使いもウレシイ。

で、指使いには「リコーダー類似型運指」が採用されている。タテブエ感覚で指を動かせばいいワケ。

この他にもキートランスポーズ機能で全体の音域を移動できたり、MIDI OUT端子を搭載していたり、最新の技術で、とにかく手軽に楽しめてしまう、遊べてしまう。

無料オーディション

●そろそろ学園祭、文化祭のシーズン。バンド活動にも力が入る季節。練習にも熱が込もっているころだろーね。

で、バンドのボーカルの調子は、どうだろうか？

UMCボーカルアカデミーでは、現在、無料適性オーディションという形で現在の状況を的確にアドバイスしてくれる。

もちろん、バンド活動はしていなくて、独自にボーカリストめざしている人たちだって、この無料適性オーディションが受けられる。

自分のボーカルに納得がいかない人も、逆に、「オレのボーカルは世界イチだ！」なんて自信があって困っている人も、客観的に自分のボーカルを判断してもらういい機会だね。

応募方法▼電話で受け付けます。

TEL 03（725）4121（AM10:00～PM7:00 日曜休）応募資格▼15歳～25歳

ジャンル▼なし

持参するもの▼履歴書、写真、カラオケテープ

なお、ボーカルをパワーアップしたい人は、ボーカルアカデミーでレッスン（有料）も受けられます。

部活動モニター募集

●久保田利伸くんがキャンペーンキャラクターになっている、マクセルの"力強い"New UDI。(30分 320円〜120分 900円) デジタルサウンドのパワーを余すところなく再現するカセットテープです。

このNew UDIの発売を記念して、特別モニターを募集しています。全国の中学、高校の公認されている音楽クラブ、放送部、その他の文化系クラブの中から抽選で100校にNew UDI-54を20巻モニタープレゼントするという企画です。

〈応募方法〉

ハガキ、もしくは封筒に、学校名、クラブ名、学校の住所、電話番号を記し、「僕らのクラブのこんなカセットテープの使い方」という内容で、あなたのクラブのカセットテープの使い方、ユニークなアイデアをレポートしてください。なお必ず、クラブの顧問の先生の署名、捺印をして下さい。▼宛て先〒102 東京都千代田区麹町4-5 KSビル1F マクセルNew UDIモニター係。締め切りは10月20日。(当日消印有効) 学校の住所、顧問の先生名をお忘れなく。

ニーズに応えて……

●シャープからCDステレオダブルカセット〈QT-53CD〉〈QT-55CD〉が発売されました。

今や大人気！のCDラジカセ、デジタルサウンドを迫力ある重低音で楽しみたいというニーズに、手軽さっつーのが加わって、おまけにどんどんおしゃれになってくデザインが、女心をくすぐっているそーで。

で、このシャープのツインカムWCDくんたちは、ご覧のとおりのおしゃれな姿に加え、①3D重低音再生 ②フェザータッチWカセット、③CDとWカセットが遠隔操作できる他機能リモコンという3大特長という強力なチャームポイント。しかもしかも、58、000円という手に入れ易い価格。コイツがさらに魅力に磨きをかけているというワケで。あっ、最後になりましたが、QT-53CDはVHF音声多重チューナー、QT-55CDはUHF／VHに音声チューナー付きだヨ。

自然に心地良くて

●見ただけで、何やら、知的なこの雰囲気。"アコースティックナチュラリティ"(自然な音場再現)という設計コンセプトのリバプールシリーズに、同じコンセプトで作られたチューナーアンプ、CDプレーヤー、デッキ、フロアー型ラックなどのコンポーネントが加わって新発売されました。ライムカラーの液晶ディスプレイとチタングレーのパネルのシンプルなデザイン、さりげなく手にやさしい操作感覚。で、"アコースティックナチュラリティ"だから、音はもちろん、素直で耳にここちよいのです。

チューナーアンプとCDプレーヤー、スピーカーシステムの3つのユニットが組み合わされ、Liverpool C5と、Liverpool C2という名称でシステム化されました。

Liverpool C5は組合わせ価格225、000円。Liverpool C2は組合わせ価格190、000円。いずれも8月中旬に発売されたばかりのNew Face。

生活空間に自然にとけ込んで、しかも知らず知らずのうちに快い空気を作りあげてくれる、そんな期待ができるLiverpool C5とC2だね。

SO WHAT!

●映画「SO WHAT」って知ってる？ あの「アキラ」の大友克洋さんが原作、「ビリィ・ザ・キッドの新しい夜明け」の山川直人さんが監督、脚本を手がけた映画。(制作 CCJ、配給 松竹株式会社)

この映画は、田舎に住む3人の高校生と、訳あって東京から転校してきた1人の高校生が、音楽(バンド活動)をとおして経験する青春の希望、挫折、恋愛、友情を軽妙なタッチでさわやかに描いたもの。主題歌の「SO WHAT」を始め、ラストに使われる渡辺美里の「MY Revolution」など、音楽もとても効果的に使われています。この映画の中で、主人公たちの組むバンドが登場しますが、このバンドが使っているシンセサイザーはカシオ計算機が提供しています。

このシンセサイザーは「CZシリーズ」、「FZシリーズ」など。様々なシーンで活躍しています。

だからこの映画、映画ファンだけでなく音楽ファンにも十分に楽しめる作品。自分が今やってるバンドになぞらえてみたり、演奏シーン見て、研究してみたり、そしてもちろん、映画の中の音楽、楽しんでみたり。

キャストには南渕一樹、矢野泰二、川岸喜也、東幹久 他。

ROXYオリジナル

●KENWOODから新発売されたミニコンポ、ROXY DG77(価格・247、000円)ROXY DG99(価格・265、000円)。光結合、本格デジタルAVアンプ、CCRSエディット・プロ、60Wアンプ内蔵スーパーウーハー(オプション)など、オーディオ性能を極めつつ、ビジュアル対応にも万全を期した高機能設計のスルドいコンポです。

このROXY DG77と、ROXY DG99の発売を記念して、KENWOODから、どこにも売ってないオリジナルTシャツが読者5名にプレゼントされます。

プレゼント

希望者は官製ハガキに住所、氏名、年齢を明記して、〒156-91東京都世田谷区千歳郵便局 私書箱25号 CBSソニー出版 パチ▼パチROXYオリジナルTシャツ係宛送ってね。締め切りは9月末日。

ビバの独走だ

ビバのセットはテキスト付のカセット教則が…

カタログあげます

オールカラーの特価カタログです。ハガキにカタログと書いてビバへ送るのだ。

★今月はピックケースだよ

千葉の直子　岡山の淳子　東京の邦裕

サックスはプレモナード！

●PS-85S　ソプラノ、ニッケルシルバー
特価68,000円　送料900円 ㋗申込金5,000円
月払1回目6,760円 月々5,800円×11回

●PS-95G　ソプラノ、ゴールドラッカー
特価76,000円　送料900円 ㋗申込金5,000円
月払1回目6,920円 月々6,600円×11回

●PA-880S　アルト、ニッケルシルバー
特価69,000円　送料1,200円 ㋗申込金5,000円
月払1回目6,780円 月々5,900円×11回

●PA-980G　アルト、ゴールドラッカー
特価79,000円　送料1,200円 ㋗申込金7,000円
月払1回目5,800円 月々5,500円×14回

●PT-108S　テナー、ニッケルシルバー
特価86,000円　送料1,200円 ㋗申込金8,000円
月払1回目7,100円 月々5,900円×14回

㋗はクレジットの事だよ

ハリーもみんなケース付！

●ハリーST-60 ケース付
カラー黒・白
ストラトモデル、トレモロアーム付
シールドコード付
特価19,800円　送料1,000円

■ギター入門8点セット
音の合せ方やアンプ・エフェクターの使い方、実際のサウンドを収録したギター入門カセット付だから、スグひけると思う。
特価29,800円　送料1,200円
クレジット申込金1,800円

〈セット内容〉①ギターST-60（2色）②ショルダーケース付 ③シールドコード ④アンプGA-5 ⑤ギター入門カセット（テキスト付）⑥ストラップ ⑦オンサ ⑧ピック×2

●ハリーSJ-70 ケース付　特価21,800円
黒・赤・白　送料1,000円
トレモロアーム
コード付

■ギターSJ-8点セット
（上と同じセット内容）特価30,800円　送料1,200円

●ハリーEG-80 ケース付　特価23,800円
送料1,000円
黒のレスポールモデル　コード付

■ギターEG-8点セット
（上と同じセット内容）特価32,800円　送料1,200円

ハリーベースもケース付！

●ハリーPB-70 ケース付
カラー黒・S（サンバースト）
プレシジョンベースモデル
シールドコード付
特価21,800円　送料1,000円

■ベース入門7点セット
音の合せ方やリズムのとり方、実際のサウンドなどを収録したベース入門カセット付、これで弾けなきゃヤマチマエー、てか！
特価32,000円　送料1,200円
クレジット申込金2,000円

〈セット内容〉①ベースPB-70（2色）②ショルダーケース ③シールドコード ④ベースアンプBX-II ⑤ベース入門カセット（テキスト付）⑥ストラップ ⑦オンサ

●ハリーBJ-75 ケース付　特価22,800円
送料1,000円
黒・白　シールドコード付

■ベースBJ-7点セット
（上と同じセット内容）特価33,000円　送料1,200円

●トムソンPB-DLX ケース付　特価25,000円
黒・YS　送料1,000円

■PB-DLX 7点セット
（上と同じセット内容）特価35,000円　送料1,200円

ザ・ブラッキー

●DD220-BB
深胴ツインタム、ブラックビート、メタルスネア、シンバル18"、ハイハット14"（イス別売3,500円）
特価50,000円
〈クレジット〉　送料1,500円
申込金4,000円

ザ・サイレント➡

●S-502PC
ドラム入門カセット付トレーニングドラム、イス付
コンパクトにたためる
特価30,800円
送料1,200円

ザ・ツインタム

●DD220-SS
バスドラム22インチ、シンバル18"、ハイハット14"×2、スティック付（イス別売3,500円）
特価40,000円
送料1,500円

純国産アンプだ！

送料900円
ぜーんぶヘッドホン出力付だから夜でも練習出来る、国産アンプはE一音でナル！

トムソンGA-5	FX-ID	BX-II（ベース）
最大5W（ギター）	最大10W（ギター）	最大10W
6,800円	8,900円	9,800円

トムソンMK-II
RMS10W（最大20W）2VR 3TC、ディストーションOK、特にHiトーンがスンバラシイ、マークIIなのだ。
特価10,000円
送料900円

★今や有名ブランドでも2万円位までのアンプはほとんど東南アジア製です。
でも、ヤッパシJAPANメイドは音質も良いしクオリティがちがう、そうだ・そうだ！

ステージを目指す君のために
TECNAS α（アルファ）4000

これがステージマスターだ
40W（最大80W）スタックタイプ
20cmスピーカー×4連発は100W級の音圧レベルで圧倒する
特価39,000円
送料1,500円
クレジット
申込金3,000円

掘り出しアンプ！

グヤのフィリップと言えばチューブサウンドの代名詞、真空管プリアンプの
●GA-50F
どこにもないから早い物勝！
送料900円
特価14,800円

掘り出しギター！

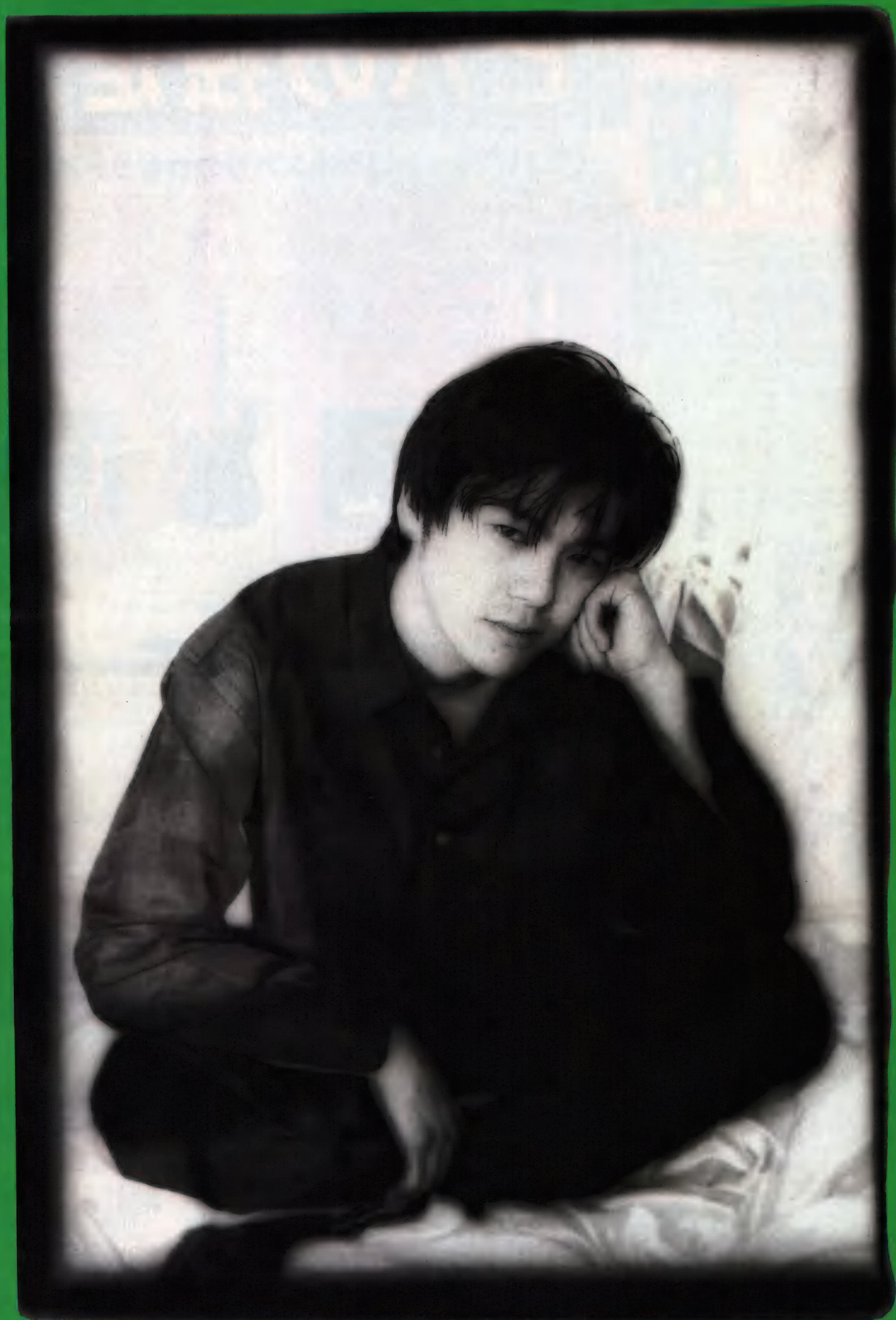
フロイトローズライセンス・トレモロシステム
SSH-PU、5点切換SWで抜群のサウンドバリエィション
●トーカイバース
FJ-553　黒・白
特価33,000円
送料1,200円

■ご注文は

●遠くの方は現金書留で注文して下さい。一括払は代金と送料、クレジットは申込金（初回金）と送料を品名（カラー）、数量、電話番号等を書いて近くのビバへ送って下さい。
●電話注文は代金引換です。
商品お届けの時に代金と送料に代引手数料1,000円を加えてお支払い下さい。
★札幌・大阪店はスタジオ完備・格安！

■近くの方は直接どうぞ

●ビバは全国に11店舗、広告以外にもお買得品がありますドンドン来て下さい。
●お店に来てクレジット（分割）する場合は申込金（初回金）とハンコ、身分証をもって来て下さい。

■営業時間　10時～7時
※秋葉原・名古屋・大阪店は木曜定休

PATi▸PATi & YUTAKA OZAKI PRESENTS▸写真集

YUTAKA OZAKI SPECIAL BOOK 12.1 ON SALE!!

➡1983年デビュー以来、日本のロックシーンに数々の衝撃を与え続けてきた尾崎豊。パチ▸パチ編集部は、この5年間、尾崎豊を追い続けてきたカメラマン山内順仁氏の秘蔵写真作品群を集大成し、さらにこれからの尾崎豊を示唆するスペシャルフォトセッションを行い、「今まで一度もなかった尾崎豊写真集」を総力を上げて制作することになりました。未公開写真を中心に、尾崎豊の過去〜現在〜未来が見える写真集です。
➡写真集に加え、尾崎豊とともに歩み続けてきた落合昇平氏書き下ろしによる『新・尾崎豊ストーリー』が掲載されます。きっとこれからの尾崎豊がこの中にいるはずです。
➡そして、最後にとってもうれしいお話。このスペシャルブックの為に尾崎豊自から、ペンをとってくれることになりました。果してどんな言葉達が連なるのか!? お楽しみに.!!!
もちろん、このスペシャルブックのタイトルも尾崎自身が考えてくれてますよ.!!!
➡というわけで、写真、文章ともにフルボリューム、フルスケールの中身がいっぱいの最高級写真集になります.!!!

尾崎豊写真集▶B4判のビッグなサイズ▶180ページ、オールカラー予定▶スペシャルケース入り▶ハードカバー上製本▶予価2,800円▶12月1日発売予定●撮影/山内順仁

予約特典➡予約者全員に尾崎豊メッセージ入りクリスマス・カード＆ステッカーをプレゼント!!

尾崎豊スペシャルブック発刊記念として、予約してくれた人全員に、予約特典として尾崎豊メッセージ入り特製クリスマス・カードとスペシャルステッカーをプレゼント。 応募方法▶下の注文伝票に必要事項を記入して、お近くの書店で予約してください。そして書店で予約する時に、注文伝票の右側についている〝尾崎豊写真集応募カード〟にも、必ず書店印を押してもらって、応募カードは受けとって下さい。▶さて具体的な応募方法は、①書店印を押してもらった〝尾崎豊写真集応募カード〟と特典返信用の60円切手1枚を②あなたの住所、氏名、年齢、電話番号を明記した封筒に入れ、下記の住所までお送りください。
応募あて先▶〒156-91東京都世田谷区千歳郵便局私書箱25号 CBS・ソニー出版「尾崎豊スペシャル・ブック」係。問い合わせ▶03-234-7906 パチ▸パチ編集部
予約応募しめ切り▶11月14日消印有効。発売後すぐ品切れが予想されます。確実にご予約を。▶特典は12月25日までに直接あなたのご自宅に届きます。

キリトリ線

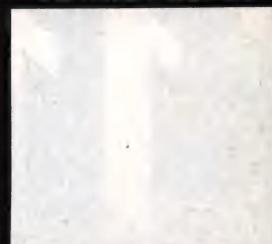
▶CBS・ソニー出版

●書店(番線)印	●注文伝票(注文は本屋さんで) 年 月 日		
	尾崎豊スペシャルブック写真集 12月1日発売予定 予価2,800円		
	●住所		●TEL
	●お名前	●年齢	●職業
書籍扱い	〒102 東京都千代田区五番町6-2 TEL.03-234-5811 CBS・ソニー出版		

※書店様へ:このカードがまいりましたら、台帳にお控えの上、お取引の販売会社へお早めにご注文ください。
※この注文伝票は、コピーしたものでも構いません。

YUTAKA OZAKI

尾崎豊写真集応募カード

●表紙・巻頭特集25ページ&PIN-UP

10 UNICORN 初の大特集

●サマー・ライブ・スペシャル3

氷室京介
RED WARRIORS
ストリート・スライダーズ

●特集

UP-BEAT
BUCK-TICK
バービーボーイズ
RCサクセション

●掲載予定アーティスト

桑田佳介／De-LAX／ラフィンノーズ／プライベイツ／シェイディ・ドールズ
TOYS／ZIGGY／THE MODS
エレファントカシマシ／レピッシュ／JUN SKY WALKER(S)／KENJI & THE TRIPS

UNICORN
PIN-UP CARD全員プレゼント

ロックンロール10月号
NOW ON SALE ▸580YEN
PATi▸PATi PRESENTS月刊化第6号▸B4WIDE

ROCK 'N' ROLL

ロックンロール11月号
9月27日(火)発売 ▸580YEN
PATi▸PATi PRESENTS月刊化第7号▸B4WIDE

●特集

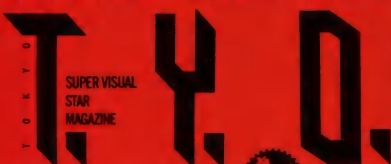
UP-BEAT
BUCK-TICK
KYOSUKE HIMURO
RED WARRIORS
THE STREETSLIDERS
UNICORN

●掲載予定アーティスト

JUN SKY WALKER(S)/LAUGHIN' NOSE / THE MODS/KENJI & THE TRIPS/SHADY DOLLS/PERSONZ
筋肉少女帯/BE MODERN/SUPER BAD/LA-PPISCH/ANGIE/DE-LAX
バービーボーイズ/LINE-UP/ZIGGY
THE TOPS/THE PRIVATES etc.

KIDS ARE ALLRIGHT
コンちゃんのプッツン解放区

●表紙・巻頭特集20ページ&PIN-UP

11 TOMOYASU HOTEI 初特集

PATi·PATi & YUTAKA OZAKI PRESENTS ▶写真集

YUTAKA OZAKI SPECIAL BOOK 12.1 ON SALE!!

◯1983年デビュー以来、日本のロックシーンに数々の衝激を与え続けてきた尾崎豊。パチ▶パチ編集部は、この5年間、尾崎豊を追い続けてきたカメラマン山内順仁氏の秘蔵写真作品群を集大成し、さらにこれからの尾崎豊を示唆するスペシャルフォトセッションを行い、「今まで一度もなかった尾崎豊写真集」を総力を上げて制作することになりました。未公開写真を中心に、尾崎豊の過去〜現在〜未来が見える写真集です。

◯写真集に加え、尾崎豊とともに歩み続けてきた落合昇平氏書き下ろしによる『新・尾崎豊ストーリー』が掲載されます。きっとこれからの尾崎豊がこの中にいるはずです。

◯そして、最後にとってもうれしいお話。このスペシャルブックの為に尾崎豊自から、ペンをとってくれることになりました。果してどんな言葉達が連なるのか!?お楽しみに!! もちろん、このスペシャルブックのタイトルも尾崎自身が考えてくれますよ！

◯というわけで、写真、文章ともにフルボリューム、フルスケールの中身がいっぱいの最高級写真集になります！

尾崎豊写真集▶B4判のビッグ・サイズ▶180ページ、オールカラー予定▶スペシャルケース入り▶ハードカバー上製本▶予価2800円

予約特典◯予約者全員に尾崎豊メッセージ入りクリスマス・カード&ステッカーをプレゼント！

●詳しくは236ページを!

予約受付開始!!

RED WARRIORS

STORY BOOK
「HAPPY」

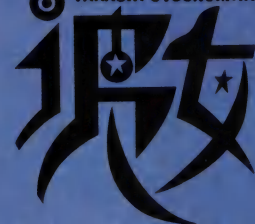
そう、まだだったのだ。まだ、なかった。アルバムが2位になり、3万人の前で演ってしまうKINGSに王家の書は伝わっていなかった。「王にはふさわしい王家の書を作るべきである」──はるか東の彼方の国の賢人が残した言葉である。だから今生まれるべくして生まれる本──ユカイ、シャケ、コンマ、キヨシ。4人のKINGSの生い立ち、ロックとの出会い。愛と感動、涙と笑いのレッズ・ストーリー。最高のROCK'N'ROLLと美姫をこよなく愛し時にはゴジラと戯れたりする王様たちの初の単行本です。

▶B6変型▶240ページ▶780円

予約受付中。詳しくは70Pを！

10月15日発売予定

TM NETWORK

TAKASHI UTSUNOMIYA
彼女
NY-LONDON-TOKYO

昨年の連載スタート時から大反響を巻き起こし、今年2回目の連載ストーリーが進行中の架空小説、『彼女』。実在するロック・スター"宇都宮隆"を主人公に仕立て、ストーリーは展開していきます。ニューヨーク、ロンドン、東京で撮りおろした数百枚の写真とともに、彼のラブ・ストーリーがこの本で完結します。小説＋写真集。一冊で二冊分楽しめる本格派高級単行本。全取材完了。10月25日、ウツの誕生日、発売を待て!!

▶A4変型・上製本▶160ページ▶1800円

予約受付中。詳しくは40Pを！

10月25日発売

BARBEE BOYS

バービーボーイズ
初のスペシャルブック
WELCOME, BARBEE BOYS

'87年12月発売以来、隠れたベストセラーとして順調に売りあげを伸ばして来た、バービー初のスペシャル・ブック『WELCOME, BARBEEBOYS』。でも品切れ状態が長く続いた日々ともお別れ、ド〜ンと大増刷。各地の書店で注文してくれると、今なら確実にお手もとまで届きます。まだの人はこの機会にぜひ。内容はこの1冊を読めばバービーボーイズのすべてがわかってしまうスグレ本。本邦初公開、杏子の絵日記ありetc。この本でしか見れないバービーとっておきの企画ばかりだよ。

▶パチ▶パチ・サイズ▶160P▶1300YEN

大増刷出来!!

NOW ON SALE

KOJI KIKKAWA

ZERO
1988/K2

吉川晃司22歳。デビュー以来、彼の行動や存在そのものが、ひとつの刺激という社会秩序を作りだしてきた。存在自体が多くを語り、多くを与えてきた。そんな彼が5月6日、9日の武道館でひとつの終止符を打った。それが彼の行く手に何を生み出すのだろう。4年間吉川晃司とともに歩んできた、パチ▶パチは、現在までの吉川晃司を一冊の本にまとめてみた。パチ▶パチでの連載「K2」をはじめ、撮りおろし、書きおろしをあらたに加え、ついに完成。ただいま好評発売中。大増刷出来!!

▶A5ハードカバー▶240P▶1500YEN

大増刷出来!!

NOW ON SALE

関口誠人

青春ちゃん

短編小説集第2弾『青春ちゃん』発売。あっという間の売り切れ、ありがとう。さっそく大増刷。『ホテル』よりおもしろいと話題集中!! 黄色いバナナの青春を読もう! 買おう!!

NOW ON SALE

●作家・関口誠人の名を世に知らしめたあの『ホテル』から10か月。再びペンをとった彼の次なるテーマは"青春"。誰もが一度は歩いたことのある、あの道小道、自転車に乗って夕陽を見たあの時、素直に頬をつたったあの涙……。そのひとつひとつが、卒業式の送辞のように、走馬燈のようによみがえる。しかし、彼の場合はフツーに事が運ばないからオモシロイ。そしてセツナイ。関口誠人の本、2冊目『青春ちゃん』。12編の青春ストーリーが、あなたに愛と涙のセレナーデを贈ります。『青春ちゃん』は黄色のバナナの表紙が目印です。

▶B6変形ソフトカバー
●220ページ■800円

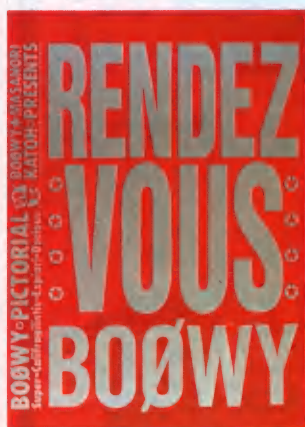
大増刷出来!!

ホテル。

●関口誠人短編小説集第1弾!!

▶B6変型●232ページ■800円

大増刷出来!
まだ読んでないの?

BOØWY

RENDEZ-VOUS BOØWY写真集

ジャンボ・ポスター2枚つき。究極の写真集──美麗箱入り、ハードカバー上製本&ビッグ・サイズ BOØWY FOREVER。

もう手に入れた?

●日本のロック・シーン、ビジュアルに革命を起こした、BOØWY。そしてカメラマン加藤正憲。この融合による作品たちは、PATi▸PATi、ROCK'N'ROLL、レコード・ジャケット、ポスター、パンフレットに次々と発表され、圧倒的な評価を得ました。パチ▸パチは、この作品たちの集大成を企画。BOØWYのメンバーより「見たことがないほどハイ・エナジーな写真集を」という指示のもと、制作に入りました。未公開写真&写真集のための撮りおろしフォト、プライベイト・フォト満載のフル・ボリュームで展開する、究極、唯一の写真集です。

▶A3変型●180ページ
オール・カラー■定価2,800円

大増刷出来!!

大きなビートの木の下で

●感動のBOØWYストーリー

▶四六判●280ページ■1300円

大増刷出来!
続が出る前に読め!

米米クラブ

車輪の上

米米クラブ大全集第2回配本
伝説のあいつが帰ってきた
(あ〜あ)大増ページ、
定価そのまま

好評発売中

●米米クラブという摩可不思議な人々を探る大全集。今回は「現在」にスポットをあてて製作が開始された。我々、取材班は、N.Y.証券取引所まで出向き、株価乱高くい止めに暗躍、更に株式市場制度改善のための特別調査委員会参加の意志を表明した。レーガン大統領は感涙にむせび、この本の成功を祈るとの声明を発表。ロン・コメの交友関係は全世界に知られるところになった。ナ〜ンテ。米米大全集第2回配本は、米米の現在に徹底的にメスを入れ大解剖。第1回配本、『罪と罪』より、カラーページも増えた大増ページ、そして定価すえおき1200円。そうもうアナタは手に入れるしかない。

▶A5判ハードカバー
●248ページ■1200円

どしどし増刷!!

罪と罪

●米米クラブ大全集第1回配本

▶A5変型●212ページ■1200円

大増刷出来!
あばかれた米米の過去

尾崎豊

20名

①アルバム告知ポスター（マザー&チルドレン提供）ほんとに、ほんとに待ちに待ったアルバム。9月1日、リリースされましたねー。うっDDD感無量、ククク泣ける。で、少しでもこの喜びを君に届けたい！　ということでポスター20枚をドーンとあげてしまう。さて尾崎君、いったい何を見つめているんでしょうね。

ユニコーン

5名

⑦ユニコーン・ピック（CSアーチスト提供）

プリンセス プリンセス

5名

③プリンセス・プリンセスポスター（シンコーミュージック）

大江千里

12名

⑧大江千里・パンフレット（EPICソニー提供）

THE HEART

④THE HEARTステッカー（マザー提供）

20名

ザ・チェッカーズ

10名

⑨ザ・チェッカーズ・Tシャツ（パチ・パチ提供）ツアー用のTシャツだけど、渋くてカッコエエよなー。

木嶋浩史

10名

⑤ステッカー（ポニーキャニオン提供）真っ赤なやつ！

グラスバレー

10名

⑥グラスバレー・アルバム告知ポスター（CBS・ソニー提供）

米米クラブ

6名

②いっつものTシャツシリーズ！　今月はコレだ！米米クラブTシャツ（シャリシャリズム提供）

8月号プレゼント当選者

風に吹かれて

●ザ・チェッカーズ・シングル・アルバム告知用ポスター／長野県　竹内伸江／神奈川県　入内島美江／兵庫県　榎本美海子／足立区　三浦優子　他1名

●ザ・チェッカーズ・GOツアー告知用ポスター／岡山県　川上陽子／宮城県　安藤利恵／茨城県　水沢広美／大阪府　山田ともみ　他6名

●永井真理子・プレスキッド／千葉県　頼山浩樹／愛媛県　永井一成／愛知県　毛利規将／神奈川県　長沢万亀子／福島県　吉田美和子／広島県　島田智子／京都府　川崎亜佐美／岡山県　森本美知子／三鷹市　大岡美由紀／栃木県　清水美由樹

●TV・ジージャン／荒川区　橋本織恵

●吉川晃司・ピック／千葉県　吹田康子／静岡県　田島妙子／茨城県　雨貝美香／福島県　百岩恵　他1名

●BUCK-TICK／サイン入りフラッグ／北海道　菊池順子／鹿児島県　山崎美穂／兵庫県　渡邊純

●KAN・バッチ／兵庫県　鳩田尚代／大阪府　葛西美穂／町田市　斉藤知美／栃木県　木村恵子　他1名

●バービーボーイズ・コンタ映画用Tシャツ／滋賀県　小菅麻由美／京都府　石田朋子　他3名

●TMネットワーク・レターセット／品川区　西村美穂／愛知県　尾崎純子／千葉県　大川敦子／神奈川県　森田香／神奈川県　宮原けいこ

●関口誠人・サイン入りポラロイド／清瀬市　鈴木直子／北海道　水上徳美／青森県　山本亜希子／大阪府　広橋幸子／岡山県　有川三貴／新潟県　桑原真紀／群馬県　鈴木顕仁／滋賀県　澤三恵子／大阪府　藤本恵

●UP-BEAT・Tシャツ／長崎県　平井知美／杉並区　須田奈美子

●尾崎豊・ポスター／神奈川県　村上忠／高知県　田中美知代／岐阜県　高橋洋子　他2名

●LOOK・旅行セット／町田市　久保好永／茨城県　小泉友子／新潟県　金子あすか／山梨県　佐々木晶子／群馬県　山岡美智子

●PIT・バッチ／愛知県　江上優子／茨城県　千葉友美／新潟県　菅原亜砂美／埼玉県　須藤勇一／兵庫県　福村朋子／茨城県　木村正幸／愛知県　石川陽子／静岡県　望月綾乃／新潟県　植木裕之／神奈川県　石井郁子／品川区　角田清美／岡山県　森桐世／秋田県　板倉千架子／三重県　松本洋子／大阪府　山崎佳代／兵庫県　棚橋智恵子／福島県　三浦はるか／福岡県　名本智美／福岡県　松尾多寿子／岐阜県　佐藤幸紀／熊本県　勘米良智美／愛知県　加藤敏子／福島県　山口美由紀／岩手県　三上薫　他6名

●松岡英明・ポスター／新潟県　橋立みぐみ／島根県　串崎ますみ／広島県　飛谷晶子／京都府　桐島利恵／宮城県　内海恵子／大阪府　宮入由美／京都府　松本裕紀子／埼玉県　三井祐子　他2名

●ザ・プライベーツ・ポスター／神奈川県　築川亜紀子／愛知県　安藤幸子／大阪府　小鷹美穂子／茨城県　大野明子／岩手県　沢口美由紀

●C-C-B・サイン入りポラロイド／埼玉県　福田美代子／富山県　井上裕子／愛媛県　高橋美樹／福島

PRESENT

BAKUFU-SLUMP

5名

⑱BAKUFU－SLUMPステッカー（代官山プロ提供）Bの字がどんどん迫ってくるなあ〜。

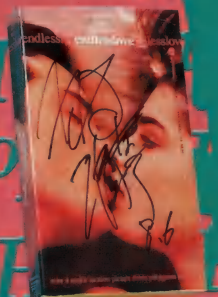
岡村靖幸

1名

⑮靖っちゃんサイン入り「エンドレスラブ」の本（パチ提供）

BUCK-TICK

7名

⑩BUCK－TICK・ポラロイド写真（パチ▼パチ提供）⑪スケジュール帳（パチ▼パチ提供）

フェンス オブ ディフェンス

3名

⑲フェンス オブ ディフェンスTシャツ（EPICソニー提供）グレーのおしゃれなTシャツ。

関口誠人

5名

⑳関口誠人・Tシャツ うすい青のワニがいる（スナフキンカンパニー提供）

LOOK

10名

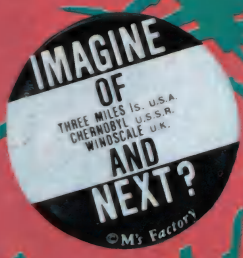
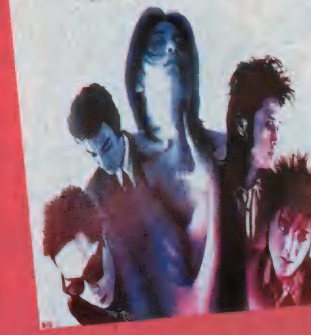
⑯LOOKパンフレット（ルックコネクション提供）まるでアルバムみたいに素敵なやつだよん。

佐野元春

5名

⑫佐野元春バッヂ（EPIC・ソニー提供）

UP-BEAT

15名

㉑UP－BEATパンフレット・5名（ハートランド提供）㉒シングル告知用ポスター・10名（インビテーション提供）

C-C-B

6名

⑰C－C－Bサイン入りポラロイド（パチ▼パチ提供）たぐちくんのは2枚1組。

SHOW-YA

3名

⑭SHOW－YA・Tシャツ（東芝EMI提供）

松岡英明

5名

⑬松岡英明・トイレット・ペーパー（EPICソニー提供）しかし、いろんな物作りますね。

●応募方法●

●今月、この原稿を書いている今日8月29日。朝会社に来る時、吹き抜ける風の香りが今までと変わっていた。今年は、変な夏だったけど、もう秋が、そこまでやって来ているんだなあー。さあーて、今月も244ページについている読者ハガキに希望する品の番号を明記し、10月8日必着で送って下さい。待ってまーす。

県　新井田千代／神奈川県　竹本縁里／北海道　三浦美穂

●大江千里・ソックス／三重県　松尾有華／神奈川県　米本純子／岩手県　高橋久美子／兵庫県　平田明子／新潟県　真島優子

●SUPER BAD・バッチ／広島県　川口りか／神奈川県　山田順子／京都府　小林裕子／茨城県　門田律子／神奈川県　高橋敦子／山形県　近藤ちか子／宮城県　遠田美保／豊島区　高橋悦子／秋川市　中村純子／千葉県　梅田綾子／江東区　宮田卓二／奈良県　姫野洋子／宮城県　三浦栄治／日野市　石崎央／神奈川県　池田真弓　他5名

●TOY'S FACTORY・長そでTシャツ／埼玉県　吉岡美雅／北区　静裕子／福島県　伊東まゆみ／岐阜県　松山裕美／香川県　小林久美子

●プリンセス・プリンセス・ポスター／神奈川県　桑田敦司／山口県　清水良子／中野区　木下可奈子／埼玉県　伊藤恭子／長崎県　霜田祐子　他5名

●江口洋介・そでなしTシャツ／神奈川県　桑江珠紀／山口県　大川康子

●岡村靖幸・バッチ／北海道　中野栄／島根県　田中仁美

●JUNSKYWALKER(S)・ポスター／新潟県　田村真紀子／大阪府　西山裕美子／大分県　泉川友美／石川県　三津野円／神奈川県　阿部貴史／愛媛県　大野陽子／愛知県　近藤光子／京都府　塚本美代／奈良県　谷木由美子／高知県　田中浩人

●米米クラブ・シャツ／神奈川県　高澤美由紀／岡山県　妹尾弘美／埼玉県　尾崎仁美／杉並区　木之下順子／鹿児島県　奥真紀子／神奈川県　坂脇伸子／兵庫県　金田桂子

●米米クラブ・Tリョージサイン入りハート型プレート／秋田県　山下真沙代

●爆風スランプ・サイン入りボール／北海道　工藤春美

●ストリートスライダーズ・ステッカー／静岡県　鈴木ちはる／茨城県　岡田淳子／愛知県　加藤豊美／北海道　八代ともみ／荒川区　中広美香子／愛媛県　上田知代美／奈良県　篠田早紀子／佐賀県　東島峰子／京都府　川村仁和子／石川県　宮村愛香

●ストリートスライダーズ・アルバム告知用ポスター／宮城県　門岡千賀／千葉県　布施江津子／静岡県　福澤陽子／鹿児島県　小野寺今日子／神奈川県　榎木田しのぶ／武蔵野市　大山純太／北海道　浜谷麻美子／神奈川県　木之下真由美／東村山市　中谷美由紀／秋田県　遠田亜津子

パチパチ11月号は10月8日(土)発売!!

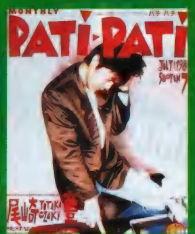
●「天高く馬肥ゆる秋」。でも「食欲の秋」ばかりじゃダメ！ たまには「芸術の秋」に挑戦しては？ で、上手に描けたら即『一流絵画教室』サ。あ、でも制作に没頭しすぎて、以下の地区の発売日を忘れないで。

10日発売→山形県・石川県
11日発売→岩手県・秋田県・新潟県・富山県・福井県・岡山県・広島県・福岡県・香川県
12日発売→北海道・青森県・鳥取県・島根県・愛媛県・高知県・九州全県
13日発売→沖縄県

BACK NUMBER ジョウホウ!!

◐4月号
〈'88年3月9日発売〉 表紙&巻頭特集●氷室京介(BOOWY) ポスター●氷室京介 ザ・チェッカーズ ピンナップ●TM NETWORK 松岡英明 他

◐5月号
〈'88年4月9日発売〉 表紙&巻頭特集●バービーボーイズ ポスター●バービーボーイズ ピンナップ●大江千里 特集●渡辺美里 ザ・チェッカーズ 他

◐6月号
〈'88年5月9日発売〉 表紙&巻頭特集●渡辺美里 ポスター●渡辺美里／TM NETWORK ピンナップ●米米クラブ 特集●米米クラブ 松岡英明 他

◐7月号
〈'88年6月9日発売〉 表紙&巻頭特集●尾崎豊 ポスター●尾崎豊／松岡英明 ピンナップ●米米クラブ 特集●松岡英明／ザ・チェッカーズ 他

◐8月号
〈'88年7月9日発売〉 表紙&巻頭特集●ザ・チェッカーズ ポスター●ザ・チェッカーズ FUMIYA ピンナップ●米米クラブ 特集●氷室京介 他

◐9月号
〈'88年8月9日発売〉 表紙&巻頭特集●松岡英明 ポスター●松岡英明／バービーボーイズ ピンナップ●TMネットワーク 特集●尾崎豊／渡辺美里 他

◐ロックンロール5月号
〈'88年3月26日発売〉 表紙&巻頭特集●レッド・ウォーリアーズ ピンナップ●レッド・ウォーリアーズ BUCK-TICK 特集●BOOWY 他

◐ロックンロール7月号
〈'88年5月27日発売〉 表紙&巻頭特集●BUCK－TICK ピンナップ●BUCK－TICK 特集●氷室京介／UP－BEAT／RCサクセション 他

◐ロックンロール8月号
〈'88年6月27日発売〉 表紙&巻頭特集●ザ・ストリート・スライダーズ ピンナップ●ザ・ストリート・スライダーズ 特集●レッド・ウォーリアーズ 他

◐ロックンロール9月号
〈'88年7月27日発売〉 表紙&巻頭特集●氷室京介 ピンナップ●氷室京介 特集●ザ・ブルーハーツ／レッド・ウォーリアーズ／UNICORN 他

▼おっと、久々の縦書きだゼ！ 緊張しちまうぜまったく。

ってな事はどーでもいいですネ。早速バックナンバーの購入方法です。

申し込み方法は2通り。

まずはお手軽、書店注文式。お近くの書店で、「CBS・ソニー出版のパチ▼パチ○月号を取り寄せて下さい。」と注文、あとは、約2週間でお店に届くのを楽しみに待つだけ。

もうひとつの方法は、郵便振替方式。お近くの郵便局へ行って、所定の郵便振替用紙をもらい、以下の必要事項を記入して下さい。

①口座番号▼東京1－165823
②加入者名▼(株)CBS・ソニー出版
③金額▼580円＋送料（パチ▼ロックも同じだヨ）
④自分の住所・氏名・電話番号
⑤注文する本の名称・月号・冊数（備考欄に忘れずにハッキリと）

気をつけて欲しいのが送料。
・パチ▼パチを1冊注文→100円
・パチ▼ロクを1冊注文→300円
・全てのものを複数注文→2冊＝350円、3冊＝400円…と、1冊毎に50円増。

書きマチガイがないかもう一度確認して、大丈夫だったらお支払い。あとは約3週間、郵送されてくるのを待っててネ。

▼在庫状況は変動が激しい（モチロン減る一方）から、注文到着時点で品切れの場合もあります。急いでっ！

▼男子読者諸君！ 嘆くことはないゾ。表紙写真が載ってないけど、TYOも在庫アリ。現在手に入るのは7月号（巻頭・浅香唯）、8月号（南野陽子）、9月号（渡辺満里奈）です。郵便振替の場合、送料は1冊300円。モチロン書店注文もOK。どう、安心した？

PATI・PATI 後記。

時々読者の人から電話をもらう。

「尾崎さんて、本当はどんな人ですか」

彼についての色々な質問があるけれど、多かれ少なかれ質問の主旨はこうだ。

多分、これは多くの誤解を前提とした問いだ。尾崎豊担当の編集者だからといっていつも彼と一緒にいるわけじゃない。いや、一緒にいるのは月に1〜2回、取材や打ち合わせにいる数時間、そのわずかな時間、同じ空気を吸っているだけだ。

ぼくは、むしろ尾崎豊と一緒にいると実感するのは、朝の（いや寝坊が多いから昼の、か）通勤時間だ。1時間30分あまり。ウォークマンを聞きながら、外の流れ去る風景を眺めている時だ。

「米軍キャンプ」「シェリー」「太陽の破片」…自分で編集したテープを聞いてゆく。彼の行き先を失くした魂の叫びのような歌が自分の魂と共鳴してゆく…。そして、いつの間にか、彼の声さえも遠のいてゆき…自分がある風景の中にいる。

屋外でのコンサートだ。夏の夜空に尾崎の歌声が広がってゆく…。何げなく客席の方に目を向けると彼女がいた。いや、正確には、とても彼女に似た人がいるな、と思った。確か彼女はショートのストレートな髪だったはず。でも、その人は、もう少しで肩にかかりそうな、ゆるめのウエーブのかかった髪に手をやりながら、ステージを見つめていた。

『久しぶりですね』

『ごぶさたです』

「I LOVE YOU」のイントロで、一言、二言そんなことを話した気がする。

お互いが、お互いを大切に思っていたとしても、何かが足りず…同じ道を歩いてゆけないことがある…そんなことを感じていたっけ。

しばらく会わない間にずい分と変わっていた。

そんな変わり様がとてもまぶしく、嬉しく、寂しかった。

半年後、笑顔の彼女と会った。彼女の右手には、指輪がつつましく輝いていた。

ぼくがいる。
彼女がいる。
そして、その間に尾崎豊がいる。

'88年8月11日、パチ▼パチ巻頭特集撮影で、尾崎豊と一緒にいた。午前7時から、午後10時30分まで、延々15時間以上、彼と一緒にいた。彼と話した。食事をした。仕事をした。カンジュースを買ってきてあげた。コームを借してあげた。一緒に雨にうたれた。

1日中、徹底的に一緒だった。だけど、そこにぼくはOZAKIを感じてはいなかった。一人の誠実に仕事をする青年を見ていた。

'88年9月12日。BIG EGG。ここに一人の青年が立つ時、ぼくはきっと〝彼〟をそこに感じることができるだろう。そして、彼を通して、彼の歌声を通して、あの人を見つめることになるのだろう。

早く〝尾崎豊〟に会いたい、そう思う。(W)

Fun House

ABSOLUTELY THEY'RE GONNA DO EVERYTHING OK.

OKS

ちょっと、血が変わり始めてきてるヨッ!

この夏おさわがせした〝ファインな生ビール〟のCM(ホラ、所ジョージさんがやってたヤツですよ)のバックに流れていた歌を覚えてますか?

「聖五月」という曲で、6月1日に堂々の発売をされたヤツ。あれを歌っていたのがOKS。で、このシングルあたりから、やんちゃなハード・ロック少年たち、というイメージだったOKSのメンメンが、ちょっとばかし、カッチョヨクなり始めてて、気になってた。

やんちゃな少年たちから、イカしたヤツらというニオイをプリプリさせて、この9月1日には、ミニLP『½BLOOD』を発売。

「いままでは全部、自分たちだけで音作りをしていたのが、前作のシングルで、自分たち以外の人たちと作品作りをすることによって、新しい刺激を受けたというか、新しい発見をしたところがあるんですよね」(越谷)

外から見たOKS、自分たちという、内側にいたら気付かなかった自分たち、というものを知った。

「ハード・ロックが好きで、ハード・ロックを中心に自分たちの音を作ってたけど、結局オレたちってさ、近所の悪仲間が集ってバンド組んで、もちろんハード・ロックもやったけど、それ以外のヤツもいろいろとやってたんだよね」(辻)

「だからハード・ロックっていうスタイルにこだわんないで、もっと自分たちらしい音や歌を作っていきたいって思ったんですよ。腕から先じゃなくて、もっと体の中から出てくるような、そんな音作りをしてきたいな、と思ってね」(越谷)

今回のミニLPでは、外部からの血(客観的に見たOKS)と内部からの血(OKSメンバーひとりひとりの現在)をミックスした、新しいOKSを描いた。だから〝½BLOOD〟。

「このミニLPは、ひとつの通過点というか、次のフルLPのためのひとつのトライなんです。これを布石にして、新しいOKSの血を作っていきたいな、と思ってます。次のLPは〝FULL BLOOD〟にしたいね」(辻)

ハード・ロックをベースに、自分たちのソウルをミックスした新しいサウンドを追求すべく、越谷浩成(G)、辻克仁(Vo)、大竹隆之(B)、富田康士(Dr)、岩瀬昇造(Key)、OKSの5人は、ライブし続けている。

そんな汗の中で、ホラホラ、5人の血と顔つきが変わり始めてきたの、わかったかな?

河合 美佳

キリン生ビールCFイメージソング「聖五月」収録・オーケーズ待望のセカンド・アルバム

"½ BLOOD"

(ハーフ・ブラッド)

NOW ON SALE

Be all right/聖五月〜光に恋して〜/Stardust Fantasy/Hold on/
サンパティック・ラブ/聖五月〜サンパティック・ラブバージョン〜 全6曲

SPECIAL PRICE

CD:25FD-7020 ¥2,500 TAPE:23FC-7020 ¥2,300

WAKE UP BOYS
オーケーズコンサートツアー'88

13(火) 山梨県民文化ホール(小)/マーマレード 03-496-7449
16(金) 府中グリーンプラザ(けやきホール)/マーマレード 03-496-7449
20(火) 茅ヶ崎市民文化会館(小)/マーマレード 03-496-7449
OPEN/18:00 START/18:30 全席指定 ¥2,500

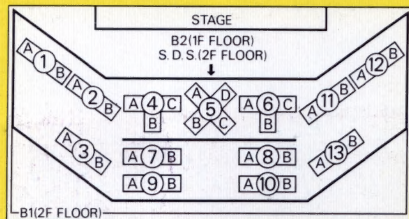
RELEASE NEWS
OKS NEW SINGLE 11・1 ON RELEASE
"シャレた嘘"
10FD-5042 ¥1,000 07FA-5042 ¥700

NISSIN
日清食品

「NISSIN POWER STATION」のシートは3種類

アーティスを選ぶように、ロックの楽しみ方だって選ぶのだ。

ロッキング・レストラン「NISSIN POWER STATION」を説明しよう。フロアはふたつ。ファースト・フード派の君たちのためのB2(ここはノリノリ)と、大人の愉しみB1(なんせ、ディナーだって楽しめる)。

STAGE
B2(1F FLOOR)
S.D.S.(2F FLOOR)
B1(2F FLOOR)

(A)S.D.S./B1〈FOR GURMET〉スペシャルディナーシート

「大人気分でロック」できる全席指定のグルメシート。コース料理に舌鼓しながらコンサートなんて、日本じゃここの30席だけだ。テーブルは2、3、4人用と3種類(上の図を参考にチケットを買うこと!)。食事は3,000円、5,000円とふたつの日替りオリジナル・コースから選べて、さらにドリンクはフリー。これは体験するしかない。ただし、ディナーのサービス時間は開演の30分前まで。余裕をもって来てほしい(20歳以上のみ。また、食事代はチケットとは別料金)。

(B)B1〈FOR ADULT〉

「お酒片手のロック」ができる。高い所からステージを眺めるフロアだ。はっきり言って、気分いい(20歳以上のみ)。

(C)B2〈FOR EVERYBODY〉

「とにかくロックはノリ」という、ステージ前かぶりつきスペース。開演前にスーパー・ファースト・フードで腹ごしらえというのもシブイ(ただし原則としてノンスモーク、ノンアルコール)。

※全チケットはワンドリンク付き。B1フロアはアルコール販売のため、身分証明書をご提示いただく場合があります。また、飲食物のお持ち込みはご遠慮下さい。

至池袋 NISSIN POWER STATION 八千代信用金庫 新宿文化センター 歌舞伎町 花園神社 東京厚生年金会館 至市ケ谷 地下鉄新宿3丁目駅 紀伊国屋 伊勢丹 至JR新宿駅 三越 丸井 新宿御苑

新宿区新宿6-28-1「FOODEUM」B1,B2 TEL.03-205-5270

チケットのお問い合せは

チケットぴあ 03-237-9999

■前売券は、P.S.1Fインフォメーションカウンターでも発売します。

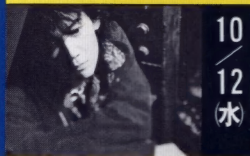
■当日券の発売に関しては、前日にお問い合わせください。

10/6(木) PASSENGERS
❶17:30❷19:00
❸¥3,500/¥2,500/¥2,500
❹SŌGŌ:03-405-9999

10/7(金) 谷村有美
❶17:30❷19:00
❸¥4,000/¥3,000/¥3,000
❹ディスクガレージ:03-239-9900

10/8(土) THE PEPPER BOYS
Chipie Welcome LIVE
❶17:00❷18:30
❸¥3,500/¥2,500/¥2,500
❹キョードー東京:03-237-9000

10/10(月) SMB3発表パーティ
※公演の詳細に関しては SŌGŌ:03-405-9999まで。

10/11(火) カーネーション
"GONG SHOW"発売記念
ゲスト/原 マスミ
❶17:30❷19:00
❸¥3,000/¥2,000/¥2,000
❹メトロトロン:03-582-4812

10/12(水) 木嶋浩史
PRESENTED BY SEE SAW
❶17:30❷19:00❸B2—¥2,000
❹イノセント:03-770-8471

P.S.メニュー情報—④
エキサイトすれば喉もカラカラ。生き返るには、さわやか「オレンジジュース」。400円

10/13(木) 河内淳一
ONE HEART TOUR '88
❶17:30❷19:00
❸¥4,000/¥3,000/¥3,000
❹フリップサイド:03-770-8899

10/14(金) 大橋純子
❶18:00❷19:30
❸¥4,500/¥3,500/¥3,500
❹ホットスタッフ:03-478-8888

10/15(土) ヒステリックス/真黒毛ぼっくす サワキカスミ 他
第7太陽祭
❶15:00❷16:00
❸¥3,000/¥2,000/¥2,000
❹ディスクガレージ:03-239-9900

10/17(月) 金山一彦=FISH
STAND BY ME LIVE vol.2
君が来てくれたから僕もいくよ
❶17:30❷19:00❸B2—¥2,500
❹SŌGŌ:03-405-9999

10/19(水) 千年COMETS
9/10土 発売
❶17:30❷19:00
❸¥4,000/¥3,000/¥3,000
❹ディスクガレージ:03-239-9900

10/20(木)・21(金) EPO
❶17:30❷19:00
❸¥4,800/¥3,800/¥3,800
❹キョードー東京:03-237-9000

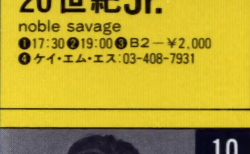
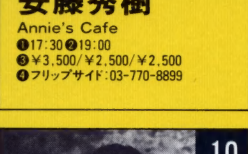
10/22(土) SUPER BAD
❶17:30❷19:00
❸¥3,500/¥2,500/¥2,500
❹ディスクガレージ:03-239-9900

P.S.メニュー情報—⑤
おいしいからマル。パワーステーションはホッペもよろこぶレストラン。パワーを充電できる、ゲンキ・メニューがずらり勢ぞろい。

10/25(火) 安藤秀樹
Annie's Cafe
❶17:30❷19:00
❸¥3,500/¥2,500/¥2,500
❹フリップサイド:03-770-8899

10/26(水) 20世紀Jr.
noble savage
❶17:30❷19:00❸B2—¥2,000
❹ケイ・エム・エス:03-408-7931

10/27(木) バブルガム・ブラザーズ
内黒SOUL大臣
❶18:00❷19:30
❸¥4,000/¥3,000/¥3,000
❹SŌGŌ:03-405-9999

10/28(金) De-LAX
❶17:30❷19:00
❸¥3,800/¥2,800/¥2,800
❹ディスクガレージ:03-239-9900

10/29(土) 須藤 薫
SHINING THE POP PARADISE
❶17:30❷19:00
❸¥4,500/¥3,500/¥3,500
❹キャピタルヴィレッジ:03-350-6245
❺9/4(日)

10/31(月) 鈴木雄大
❶17:30❷19:00
❸¥3,500/¥2,500/¥2,500
❹ホットスタッフ:03-478-8888

11月

11/1(火) T.V
❶17:30❷19:00
❸¥3,000/¥2,000/¥2,000
❹ホットスタッフ:03-478-8888

11/10(木) 竹本孝之 & HEART OF ROCKS
CO-ENERGY '88
❶17:30❷19:00❸¥3,800/¥2,800/¥2,800❹ディスクガレージ:03-239-9900

11/14(月) 夏木晴美
❶17:30❷19:00
❸¥3,800/¥2,800/¥2,800
❹ホットスタッフ:03-478-8888

11/28(月) テレンス・ブランチャード/ドナルド・ハリソンクインテッド
クインシー・ジョーンズも絶賛。JAZZ界期待の新星。
❶17:30❷19:00
❸¥5,000/¥4,000/¥4,000
❹TCP:03-208-1011~2

OCT.1988
10
VOL.46
PATi-PATi
第4巻第12号1988年10月9日発行1985年9月10日第三種郵便物認可
発行／株式会社CBS・ソニー出版
〒102 東京都千代田区五番町6-2
電話／03-234-5811(販売)03-234-7906(編集)03-234-5101(広告)
おもしろ元気ヤング・ミュージック・マガジン
PATi-PATi

雑誌07555-10 定価◉580円 印刷/凸版印刷株式会社